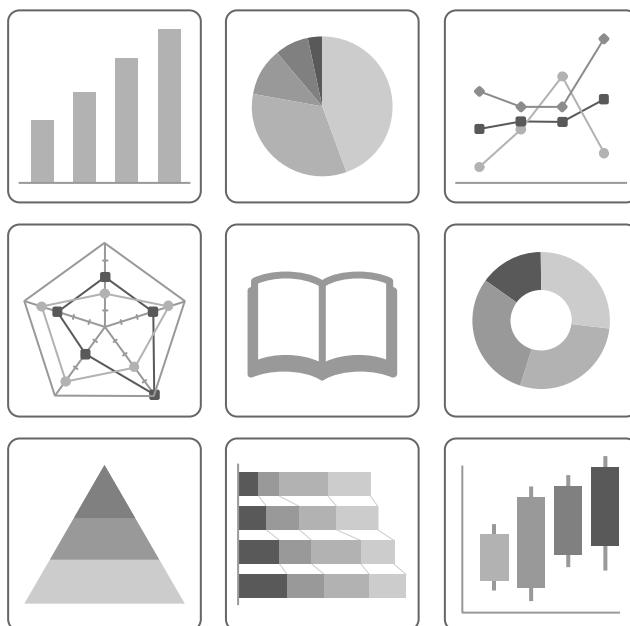


田原市
男女共同参画推進に関する
市民アンケート調査
調査結果報告書



令和4年3月

田原市

目 次

I 調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査対象	1
3 調査期間	1
4 調査方法	1
5 回収状況	1
6 調査結果の表示方法	1
7 標本誤差について	3
II 調査結果	4
1 回答者属性	4
2 男女平等について	8
3 結婚、家庭生活について	39
4 子育て、子どもの教育について	75
5 働くことについて	80
6 地域活動・社会活動について	100
7 介護について	119
8 人権について	124
9 男女共同参画の施策について	134
10 新型コロナウイルス感染症の影響について	138
11 自由回答	148
III 資料（調査票）	151

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、田原市が男女共同参画推進プランの進捗状況や市民意識を把握することにより、効果的な意識啓発をすることを目的とし、男女共同参画に関する市民意識を調査し、男女共同参画推進プラン改定の基礎資料とするために、実施したものです。

2 調査対象

市民 1,000 人（満 20 歳以上の市民を住民基本台帳から無作為抽出）

3 調査期間

令和 4 年 1 月 4 日から令和 4 年 1 月 31 日

4 調査方法

郵送による配布・回収

5 回収状況

	配 布 数	有効回答数	有効回答率
市 民	1,000 通	437 通	43.7%

6 調査結果の表示方法

- 回答は各質問の回答者数 (N) を基数とした百分率 (%) で示しております。また、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100.0% にならない場合があります。
- 複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が 100.0% を超える場合があります。
- クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことと、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- 調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを ■ で網かけをしています。（無回答を除く）
- 回答者数が 1 枝の場合、回答件数による表記としています。

- ・調査結果の分析においては、前回の田原市の調査と比較しています。各比較調査の詳細は以下の通りです。

調査主体	調査名	調査期間
国(内閣府)	男女共同参画社会に関する世論調査	令和元年9月
愛知県	男女共同参画意識に関する調査	令和元年7月
田原市	男女共同参画推進に関する 市民アンケート調査	平成 28 年7月
田原市	男女共同参画推進に関する 市民アンケート調査	平成 23 年9月
田原市	田原市男女共同参画推進プランに関する 市民アンケート調査	平成 20 年8月

7 標本誤差について

今回のように全体(母集団)から一部を抽出して行う標本調査では、全体を対象に行った調査に比べて調査結果に差が生じることがあります。抽出による結果の誤差は、以下の計算式によって算出されます。(信頼度 95%)

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

N = 母集団数 (20歳以上の田原市民 (令和3年12月31日現在))

n = 回答者数、P = 回答比率 (0 ≤ P ≤ 1)

標本数と回答の比率ごとに誤差を整理したものが以下の表となります。例えば、ある設問の回答者数 (n) が 437 人であり、その設問中の選択肢の回答比率 (P) が 30% であった場合、その回答比率の誤差は ±4.28% となり、25.72%～34.28% の範囲にあると考えられます。

回答比率(P) 回答者数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
437 人	±2.80%	±3.73%	±4.28%	±4.57%	±4.67%

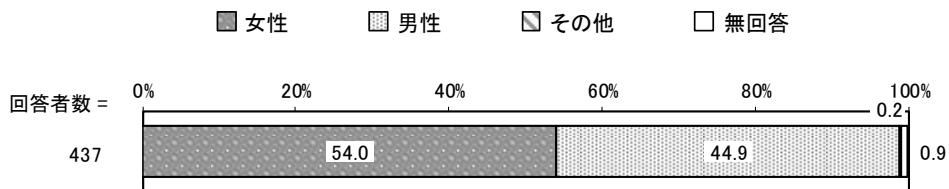
※母集団数：年齢別人口集計表データによる満20歳以上の人口 (令和3年12月31日現在)

II 調査結果

1 回答者属性

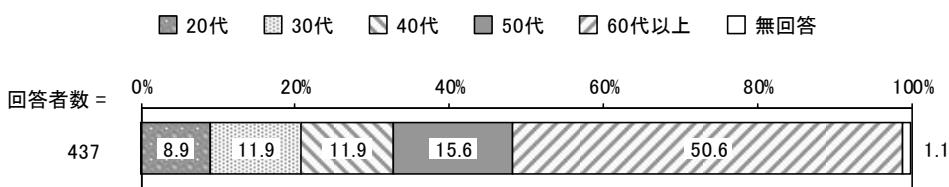
問1 あなたの性別についてお答えください。(1つに○)

「女性」の割合が 54.0%、「男性」の割合が 44.9%となってています。



問2 あなたの年齢についてお答えください。(1つに○)

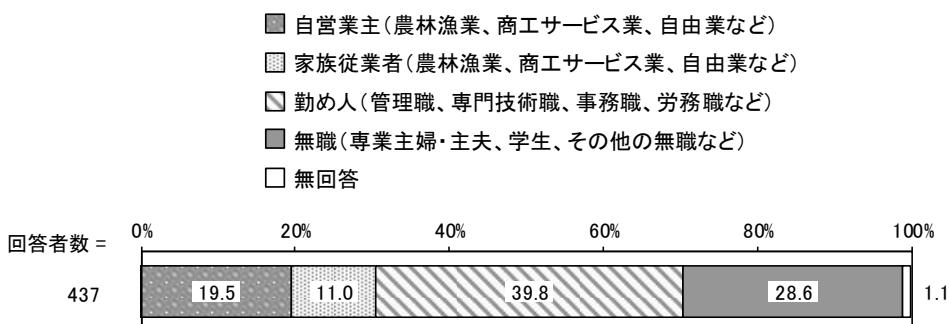
「60代以上」の割合が 50.6%と最も高く、次いで「50代」の割合が 15.6%、「30代」、「40代」の割合が 11.9%となってています。



問3 職業についてお答えください。(1つに○)

(仕事を2つ以上お持ちの方は、主なものを1つお答えください。ここで働いているとは、週に1時間以上働いていることとします。出産休暇、育児休業中の人は働いているものとみなします。)

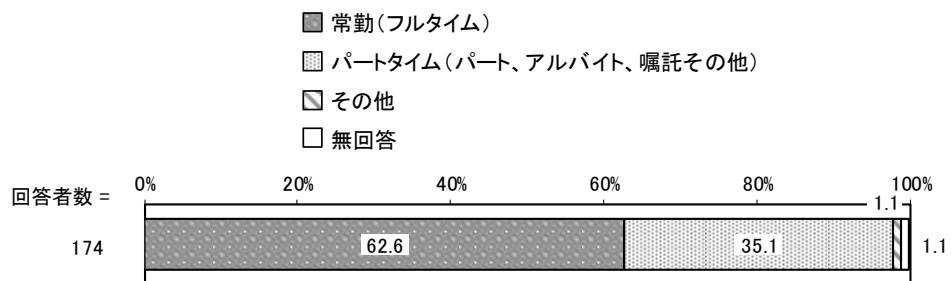
「勤め人（管理職、専門技術職、事務職、労務職など）」の割合が 39.8%と最も高く、次いで「無職（専業主婦・主夫、学生、その他の無職など）」の割合が 28.6%、「自営業主（農林漁業、商工サービス業、自由業など）」の割合が 19.5%となってています。



《問4は、問3で「勤め人」と答えた方のみにお聞きします》

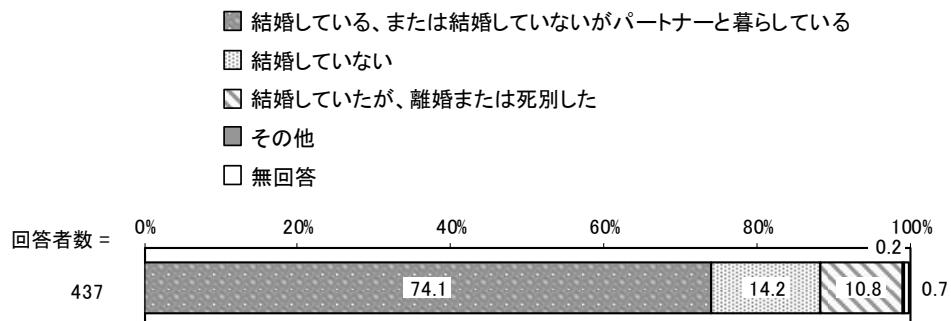
問4 その仕事は常勤（フルタイム）ですか、パートタイムですか。（1つに〇）

「常勤（フルタイム）」の割合が 62.6%、「パートタイム（パート、アルバイト、嘱託その他）」の割合が 35.1%となっています。



問5 あなたは現在結婚していますか。（1つに〇）

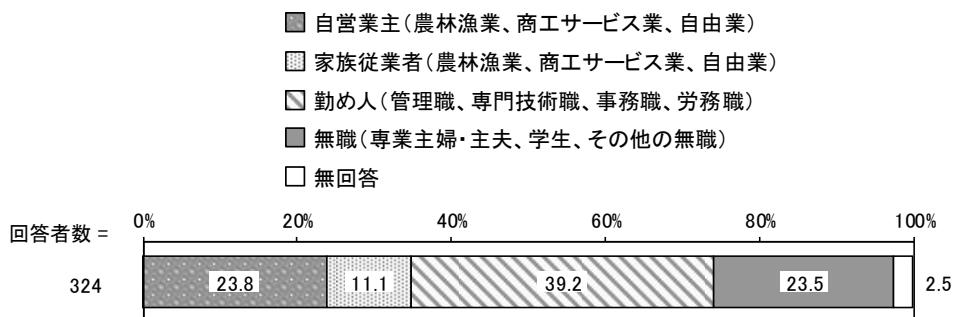
「結婚している、または結婚していないがパートナーと暮らしている」の割合が 74.1%と最も高く、次いで「結婚していない」の割合が 14.2%、「結婚していたが、離婚または死別した」の割合が 10.8%となっています。



《問6、問7は、問5で「結婚している、または結婚していないがパートナーと暮らしている」と答えた方のみにお聞きします》

**問6 あなたの配偶者またはパートナーの勤務形態についてお答えください。
(1つに○)**

「勤め人（管理職、専門技術職、事務職、労務職）」の割合が39.2%と最も高く、次いで「自営業主（農林漁業、商工サービス業、自由業）」の割合が23.8%、「無職（専業主婦・主夫、学生、その他の無職）」の割合が23.5%となっています。



問7 その仕事は常勤（フルタイム）ですか、パートタイムですか。（1つに○）

「常勤（フルタイム）」の割合が59.8%、「パートタイム（パート、アルバイト、嘱託その他）」の割合が37.0%となっています。

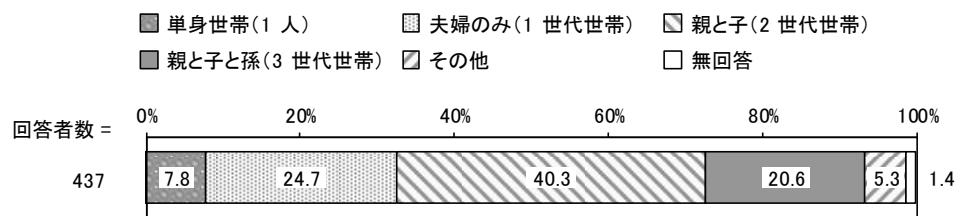
性別でみると、男性の配偶者に比べ、女性の配偶者で「常勤（フルタイム）」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	問7 配偶者が勤め人の場合の職業形態				
	全体	常勤	パートタイム	その他	無回答
全体	127	59.8	37.0	0.8	2.4
女性の配偶者	72	76.4	20.8	1.4	1.4
男性の配偶者	55	38.2	58.2	0.0	3.6

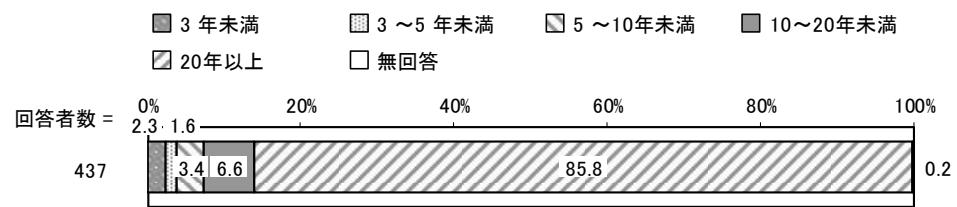
問8 あなたの家族構成についてお答えください。(1つに○)

「親と子(2世代世帯)」の割合が40.3%と最も高く、次いで「夫婦のみ(1世代世帯)」の割合が24.7%、「親と子と孫(3世代世帯)」の割合が20.6%となっています。



問9 田原市に住んでから何年になりますか。(1つに○)

「20年以上」の割合が85.8%と最も高くなっています。

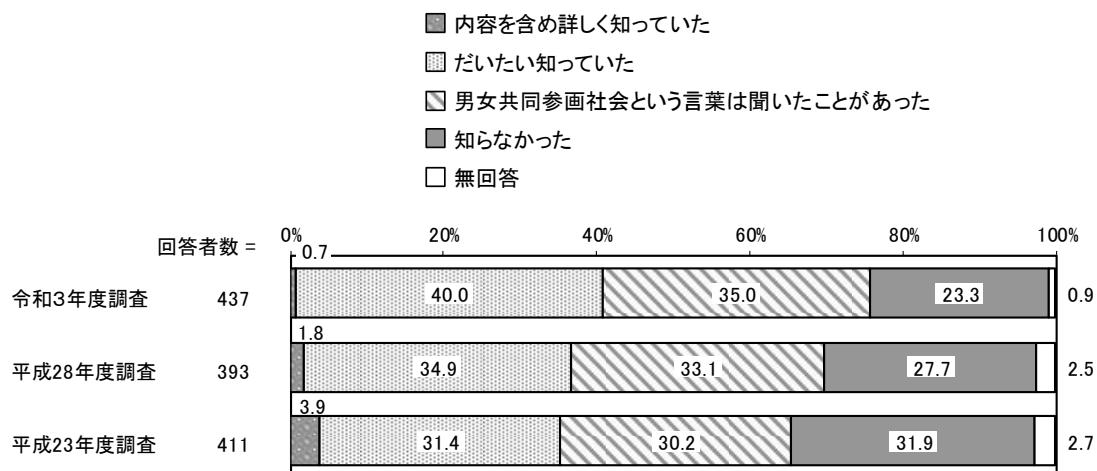


2 男女平等について

問10 政府は、男女共同参画推進本部を設置し、男女共同参画社会の実現を目指し、積極的に取組んでいることを以前からご存知でしたか。(1つに○)

「だいたい知っていた」の割合が40.0%と最も高く、次いで「男女共同参画社会という言葉は聞いたことがあった」の割合が35.0%、「知らなかった」の割合が23.3%となっています。

平成23年度調査、平成28年度調査と比較すると、「だいたい知っていた」の割合は増加傾向がみられます。



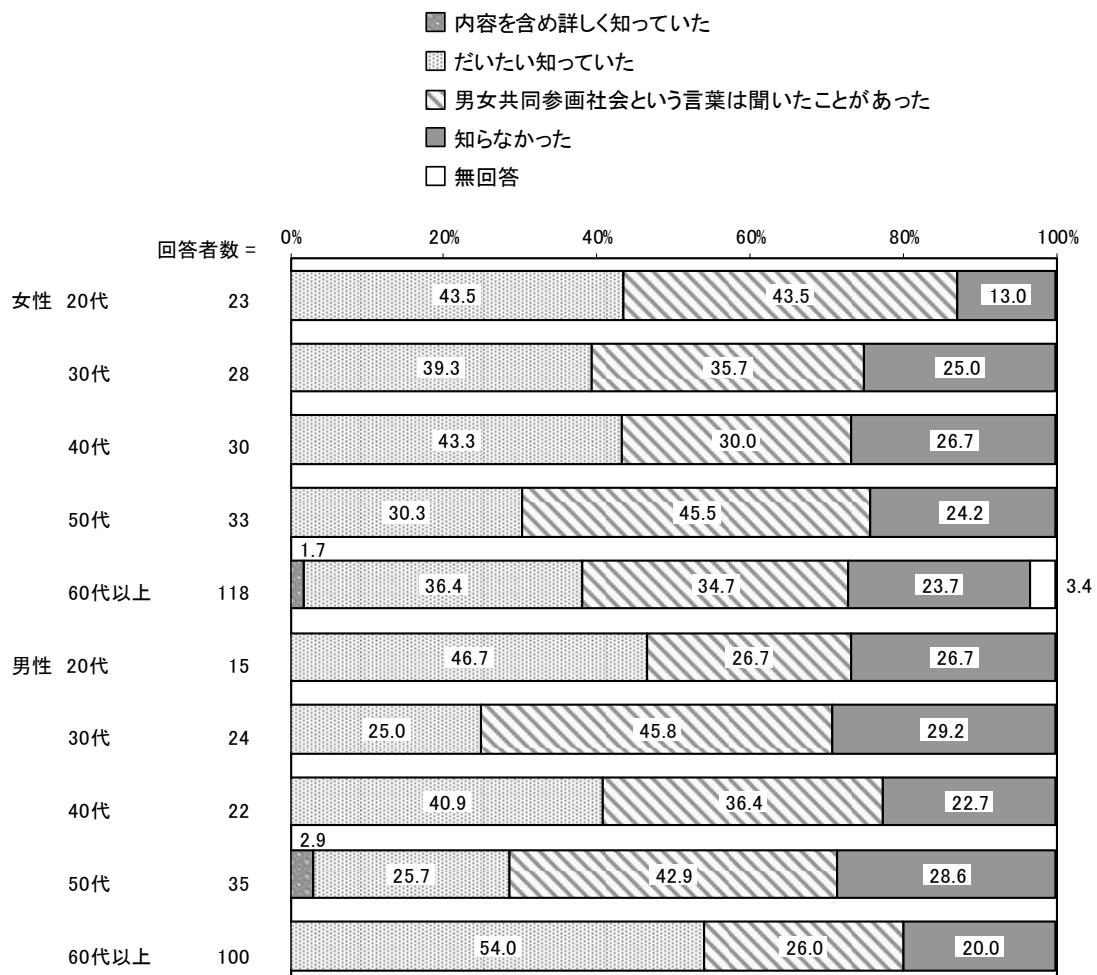
【性別】

性別でみると、女性よりも男性の方が「内容を含め詳しく知っていた」と「だいたい知っていた」をあわせた「知っていた」の割合が高くなっています。



【性・年代別】

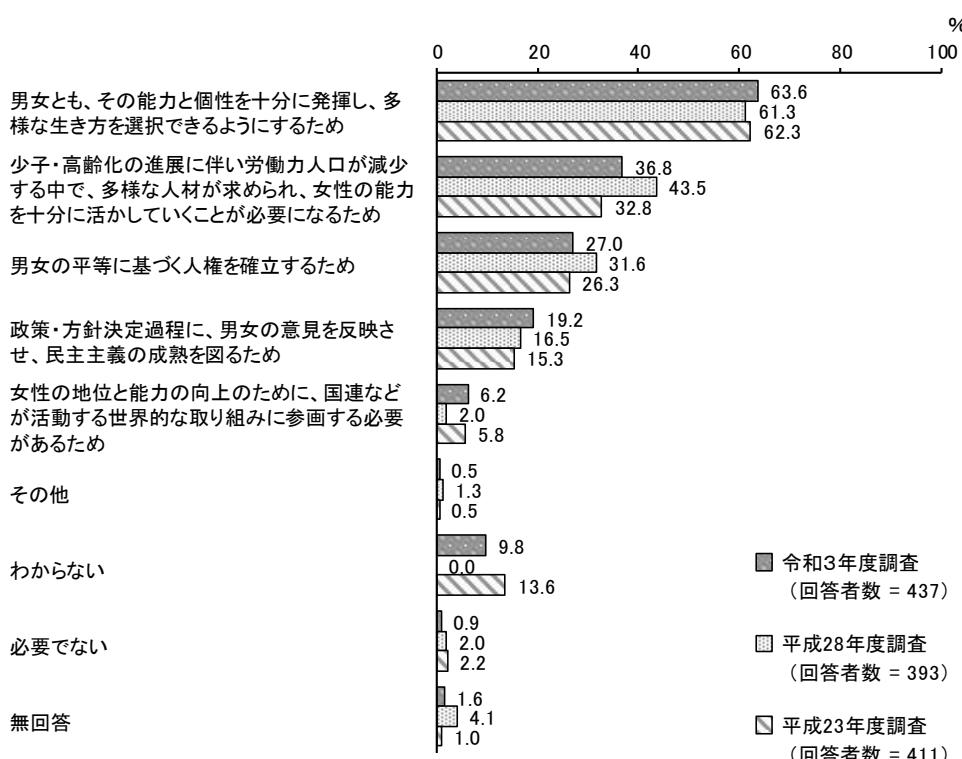
性・年代別でみると、他に比べ、男性の60代以上で「だいたい知っていた」の割合が高くなっています。



問11 あなたは、田原市において男女共同参画社会が必要な理由は何だと思いますか。
(2つまで〇)

「男女とも、その能力と個性を十分に發揮し、多様な生き方を選択できるようにするため」の割合が 63.6%と最も高く、次いで「少子・高齢化の進展に伴い労働力人口が減少する中で、多様な人材が求められ、女性の能力を十分に活かしていくことが必要になるため」の割合が 36.8%、「男女の平等に基づく人権を確立するため」の割合が 27.0%となっています。

平成 28 年度調査と比較すると、「少子・高齢化の進展に伴い労働力人口が減少する中で、多様な人材が求められ、女性の能力を十分に活かしていくことが必要になるため」の割合が減少しています。



※平成 28 年度調査では「わからない」の選択肢はありませんでした。

【性 別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「少子・高齢化の進展に伴い労働力人口が減少する中で、多様な人材が求められ、女性の能力を十分に活かしていくことが必要になるため」の割合が低くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	男女の平等に基づく人権を確立するため	政策・方針決定過程に、男女の意見を反映させ、民主主義の成熟を図るため	男女とも、その能力と個性を十分に發揮し、多様な生き方を選択できるようにするため	少子・高齢化の進展に伴い労働力人口が減少する中で、多様な人材が求められ、女性の能力を十分に活かしていくことが必要になるため	女性の地位と能力の向上のために、国連などが活動する世界的な取り組みに参画する必要があるため	その他	わからぬ	必要でない	無回答
女性	236	25.4	15.3	61.4	39.8	6.8	—	8.9	1.3	3.0
男性	196	28.1	24.0	65.8	34.2	5.6	1.0	11.2	0.5	—

【年代別】

年代別でみると、年齢が低くなるにつれて「男女とも、その能力と個性を十分に發揮し、多様な生き方を選択できるようにするため」の割合が高くなる傾向がみられます。

単位：%

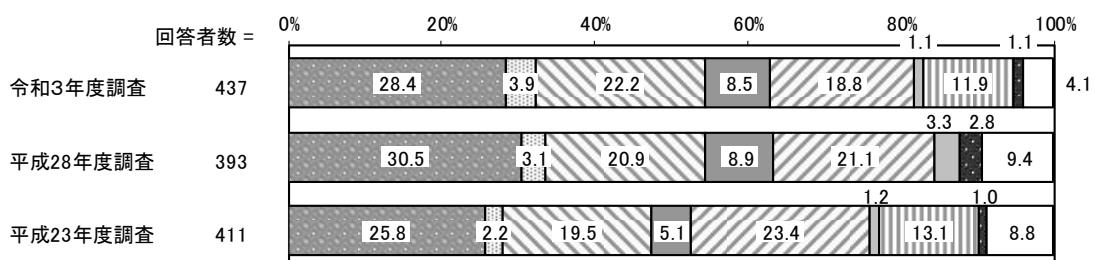
区分	回答者数 (件)	男女の平等に基づく人権を確立するため	政策・方針決定過程に、男女の意見を反映させ、民主主義の成熟を図るため	男女とも、その能力と個性を十分に発揮し、多様な生き方を選択できるようにするため	少子・高齢化の進展に伴い労働力人口が減少する中で、多様な人材が求められ、女性の能力を十分に活かしていくことが必要になるため	女性の地位と能力の向上のために、国連などが活動する世界的な取り組みに参画する必要があるため	その他	わからない	必要でない	無回答
20代	39	20.5	25.6	71.8	35.9	10.3	—	10.3	—	—
30代	52	26.9	17.3	69.2	38.5	3.8	—	7.7	—	—
40代	52	25.0	23.1	65.4	36.5	3.8	—	11.5	5.8	—
50代	68	30.9	20.6	66.2	32.4	7.4	—	10.3	—	—
60代以上	221	27.6	17.2	59.3	38.5	5.9	0.9	10.0	0.5	3.2

問12 現在、田原市において、男女共同参画社会の実現が十分達成されていない主な要因は何であるとお考えでしょうか。(1つに○)

「家庭において家事・育児・介護などを女性の役割とする意識があること」の割合が 28.4% と最も高く、次いで「社会全般に男性優位の考え方や慣行が根強いこと」の割合が 22.2%、「男女共同参画の考え方が市民に広く浸透していないこと」の割合が 18.8% となっています。

平成 28 年度調査、平成 23 年度調査と比較すると、平成 23 年度調査からみると「男女共同参画の考え方方が市民に広く浸透していないこと」の割合が減少する傾向がみられます。

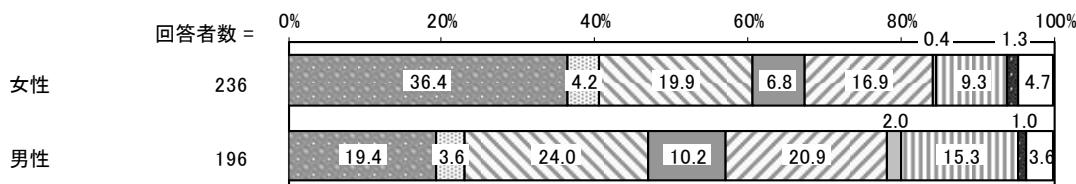
- 家庭において家事・育児・介護などを女性の役割とする意識があること
- 職場などにおいて、女性に不利な扱いがなされていること
- 社会全般に男性優位の考え方や慣行が根強いこと
- 家庭や地域社会より仕事を重視する意識が男性や女性にあること
- 男女共同参画の考え方方が市民に広く浸透していないこと
- その他
- わからない
- 十分達成されている
- 無回答



※平成 28 年度調査には「わからない」の選択肢はありませんでした。

【性 別】

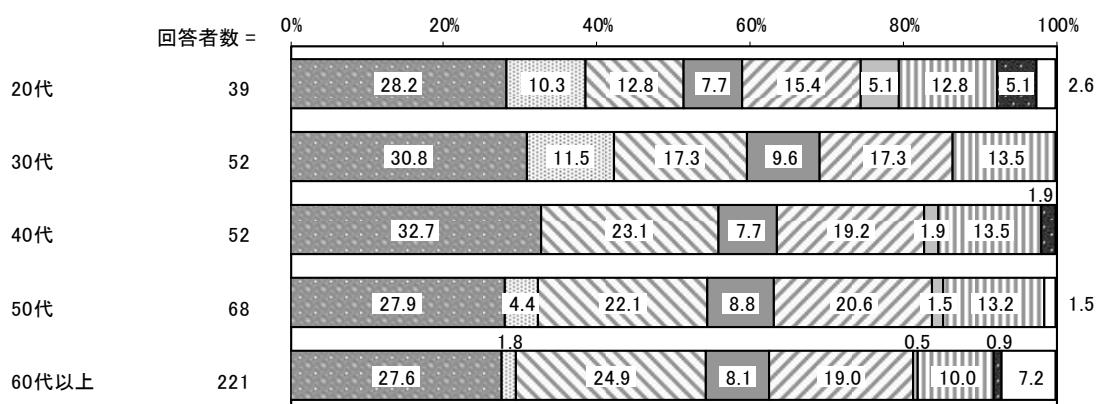
性別でみると、男性に比べ、女性で「家庭において家事・育児・介護などを女性の役割とする意識があること」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「わからない」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、20代、30代で「職場などにおいて、女性に不利な扱いがなされていること」の割合が高くなっています。また、年齢が高くなるにつれて「社会全般に男性優位の考え方や慣行が根強いこと」の割合が高くなる傾向がみられます。

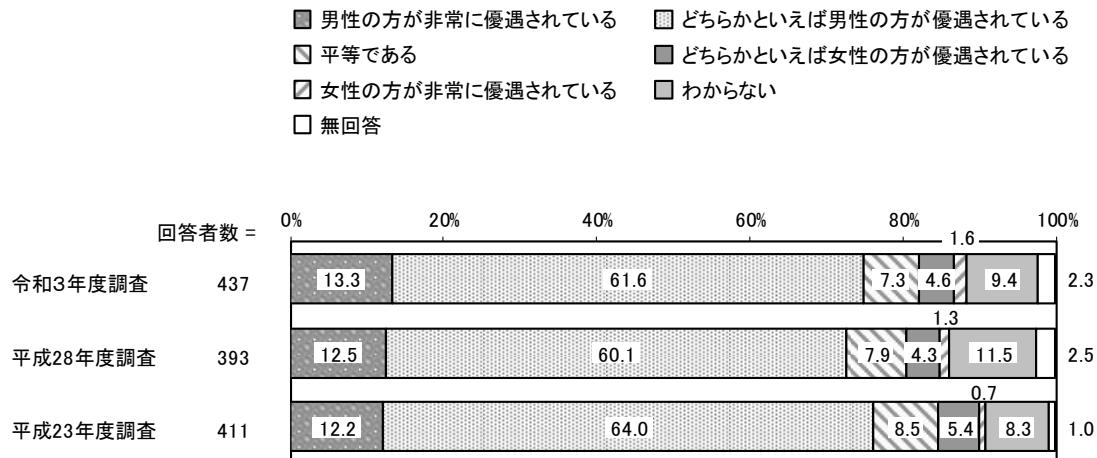
- 家庭において家事・育児・介護などを女性の役割とする意識があること
- 職場などにおいて、女性に不利な扱いがなされていること
- 社会全般に男性優位の考え方や慣行が根強いこと
- 家庭や地域社会より仕事を重視する意識が男性や女性にあること
- 男女共同参画の考え方が市民に広く浸透していないこと
- その他
- わからない
- 十分達成されている
- 無回答



問13 社会全体で見た場合は、男女の地位は平等になっていると思いますか。
(1つに○)

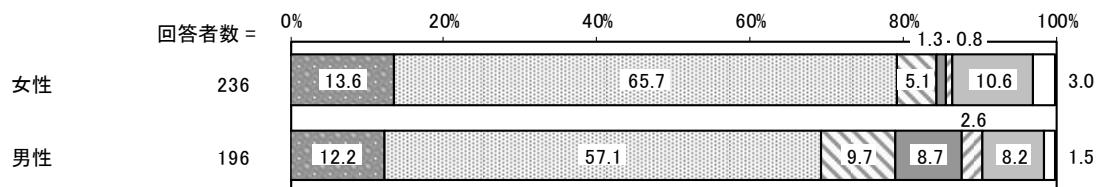
「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」をあわせた“男性の方が優遇されている”の割合が74.9%、「平等である」の割合が7.3%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」をあわせた“女性の方が優遇されている”の割合が6.2%となっています。

平成28年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



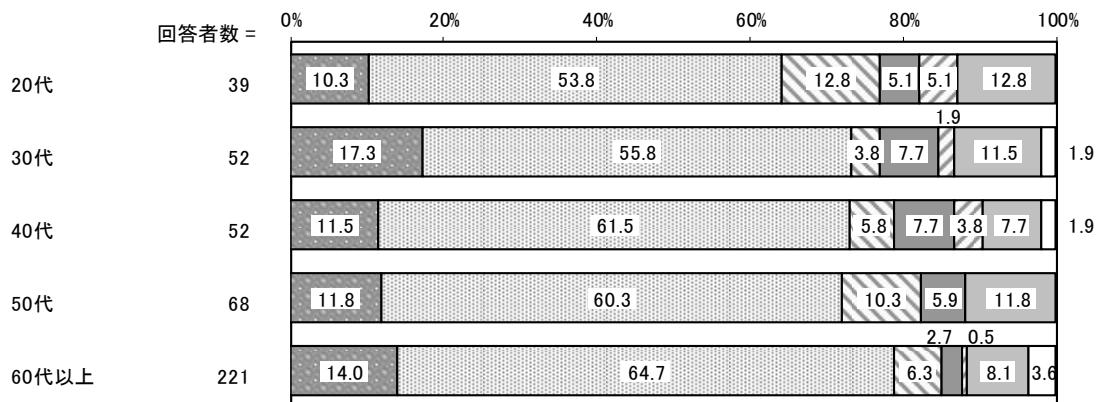
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で“女性の方が優遇されている”、「平等である」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、20代で「平等である」の割合が、60代以上で“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。



【国・県の調査の比較と経年比較】

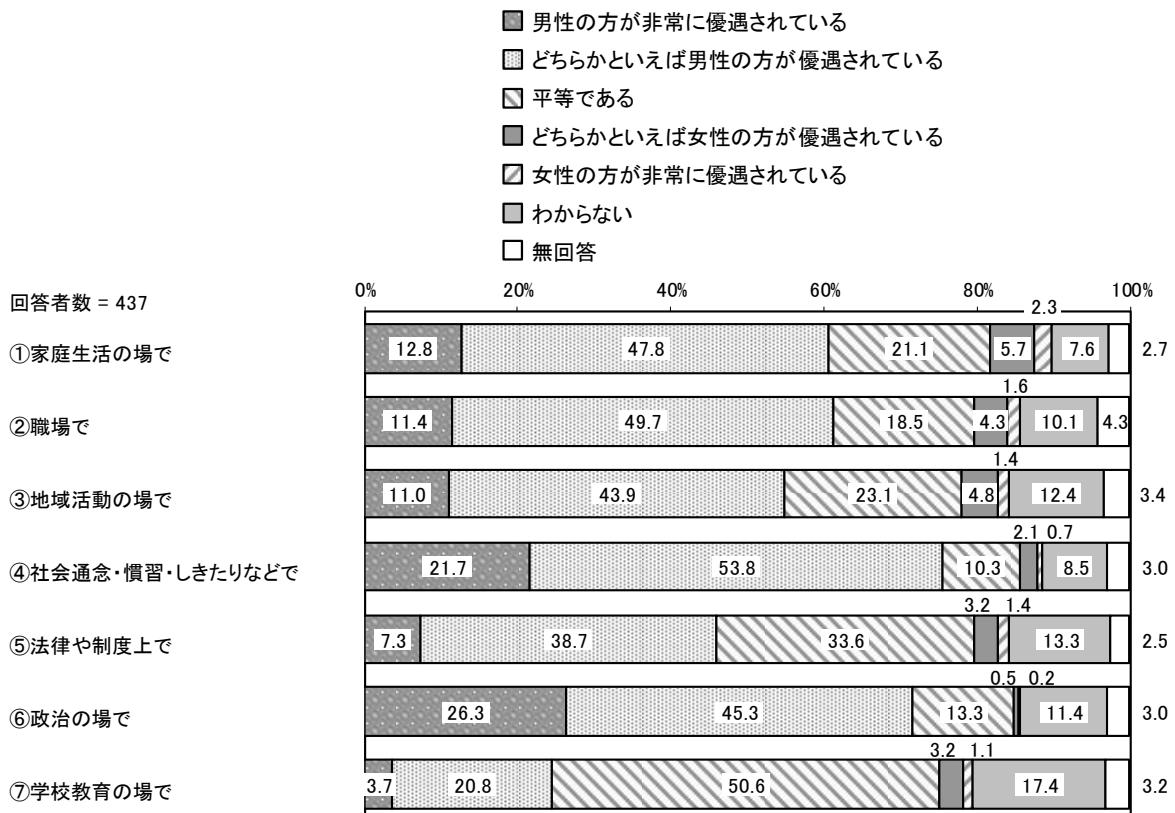
全国調査、愛知県調査と比較すると、「平等である」の割合が低くなっています。

単位：%

区分	優遇され ていて る男性 の方 が 非常 に	優遇さ れて いる男 性の方 か と 優 遇 え さ ば	平等 で あ る	優 遇 さ れ て い る 女性 の方 か と 優 遇 え さ ば	優 遇 さ れ て い る 女性 の方 が 非 常 に	わ か ら な い	無 回 答
国(R1.9)	11.3	62.8	21.2	2.8	0.3	1.6	—
女性	13.1	64.4	18.4	1.7	0.2	13.1	—
男性	9.2	61.0	24.5	4.0	0.3	9.2	—
愛知県(R1.7)	16.2	56.5	12.9	3.0	1.2	6.1	4.1
女性	22.8	56.6	9.4	1.6	0.3	5.9	3.4
男性	8.5	58.1	17.1	4.6	2.4	5.9	3.3
田原市(R4.1)	13.3	61.6	7.3	4.6	1.6	9.4	2.3
女性	13.6	65.7	5.1	1.3	0.8	10.6	3.0
男性	12.2	57.1	9.7	8.7	2.6	8.2	1.5
田原市(H28.7)	12.5	60.1	7.9	4.3	1.3	11.5	2.5
女性	12.4	62.9	5.7	1.4	0.5	15.2	1.9
男性	12.4	56.5	11.2	8.2	2.4	7.1	2.4
田原市(H23.9)	12.2	64.0	8.5	5.4	0.7	8.3	1.0
女性	13.5	65.5	6.3	2.7	—	10.8	1.3
男性	10.8	61.8	11.3	8.6	1.6	5.4	0.5
田原市(H20.8)	11.6	58.0	6.9	6.4	0.7	12.8	3.5
女性	10.1	63.6	4.1	3.2	—	14.7	4.1
男性	13.2	51.1	10.4	10.4	1.6	11.0	2.2

問14 次のような分野において、現在、男女は平等になっていると思いますか。
 (①から⑦までそれぞれ1つずつ〇)

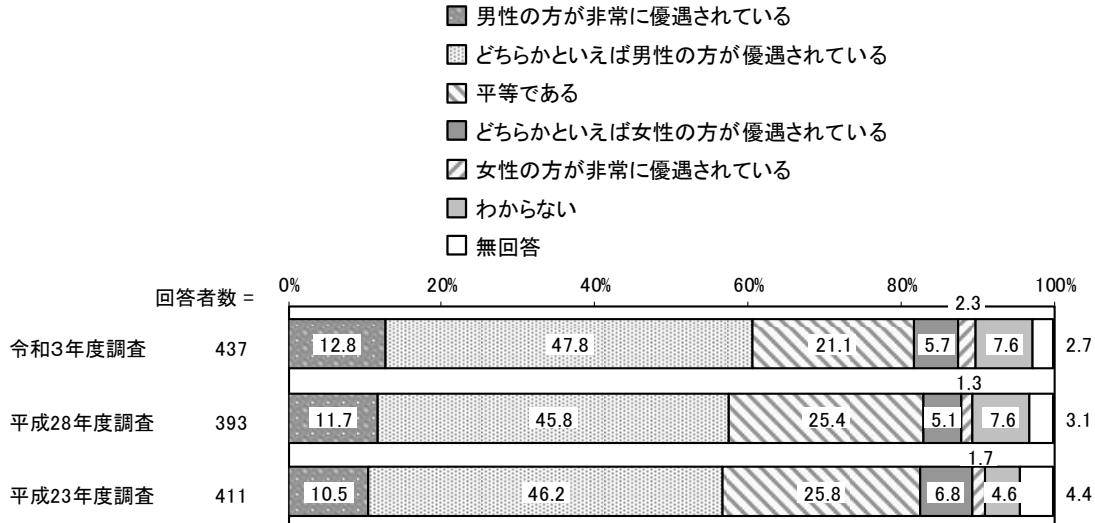
『④社会通念・慣習・しきたりなどで』で「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」をあわせた“男性の方が優遇されている”の割合が、『⑦学校教育の場で』で「平等である」の割合が、『⑦学校教育の場で』で「わからない」の割合が最も高くなっています。



①家庭生活の場で

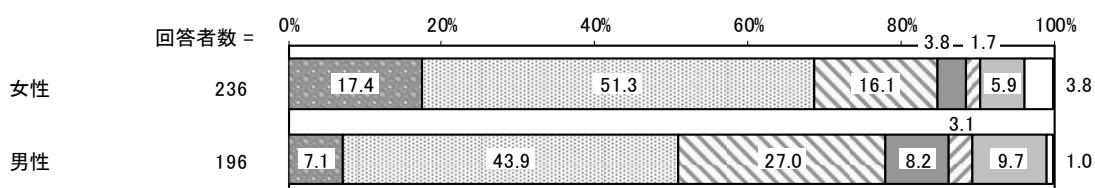
【経年比較】

平成 28 年度調査、平成 23 年度調査と比較すると、“男性の方が優遇されている”の割合が増加する傾向がみられます。



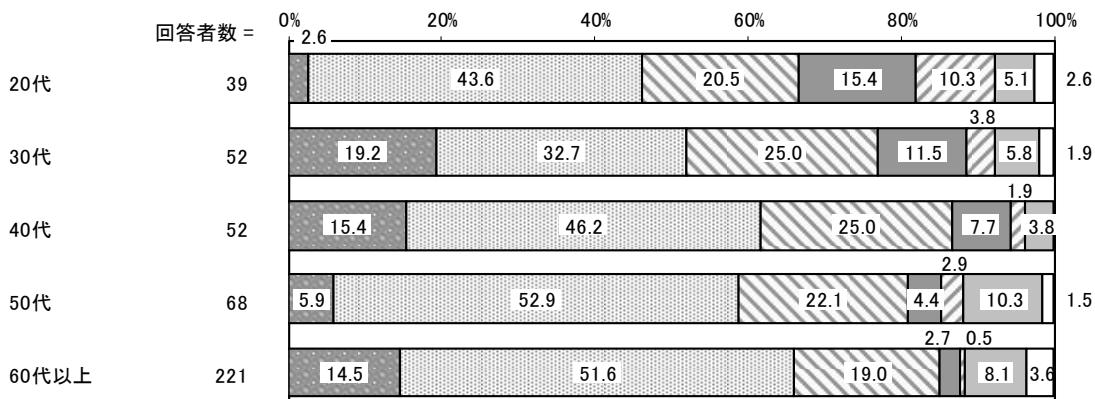
【性 別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「平等である」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、年齢が高くなるにつれて、“男性の方が優遇されている”の割合が高くなる傾向がみられます。



【国・県の調査の比較と経年比較】

全国調査と比較すると、“男性の方が優遇されている”の割合が高く、「平等である」の割合が低くなっています。

愛知県調査と比較すると、大きな差異はみられません。

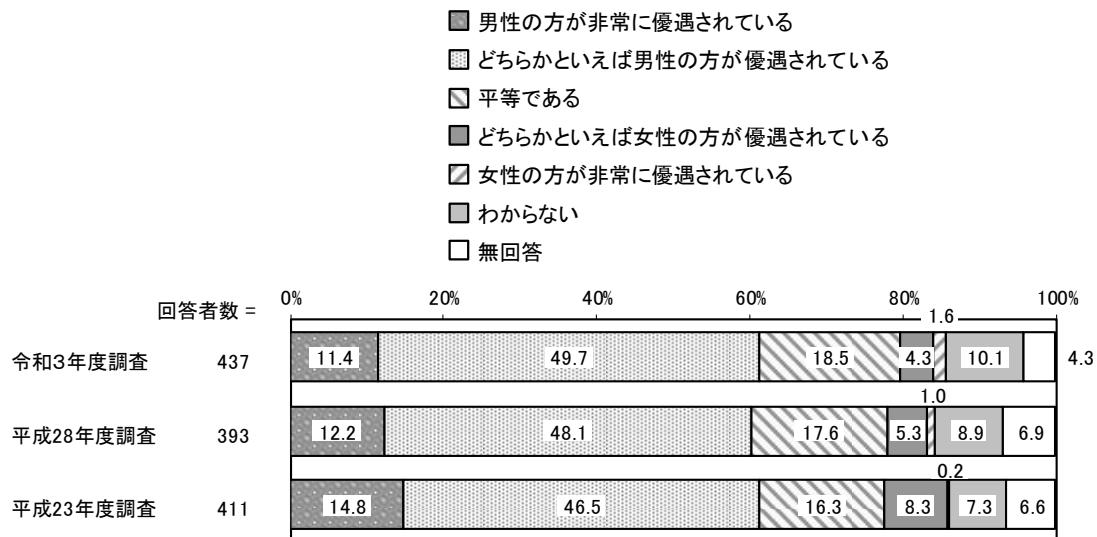
単位：%

区分	男性の方が非常に優遇されている	どちらかが優遇されれば	平等である	どちらかが優遇されれば	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
国(R1.9)	9.3	35.6	45.5	6.5	0.7	2.4	—
女性	11.7	39.9	39.1	5.8	0.7	2.8	—
男性	6.5	30.8	52.7	7.3	0.7	1.9	—
愛知県(R1.7)	16.0	40.1	25.3	7.5	1.9	5.5	3.8
女性	24.0	42.1	19.3	6.1	0.8	4.2	3.4
男性	6.9	37.7	33.2	9.3	3.3	7.1	2.6
田原市(R4.1)	12.8	47.8	21.1	5.7	2.3	7.6	2.7
女性	17.4	51.3	16.1	3.8	1.7	5.9	3.8
男性	7.1	43.9	27.0	8.2	3.1	9.7	1.0
田原市(H28.7)	11.7	45.8	25.4	5.1	1.3	7.6	3.1
女性	20.0	46.2	18.6	4.3	0.5	7.1	3.3
男性	1.2	45.3	34.7	6.5	2.4	7.6	2.4
田原市(H23.9)	10.5	46.2	25.8	6.8	1.7	4.6	4.4
女性	15.7	46.6	18.4	7.2	1.8	5.4	4.9
男性	4.3	45.2	34.9	6.5	1.6	3.8	3.8
田原市(H20.8)	15.3	51.4	17.3	6.4	0.5	6.7	2.5
女性	20.3	53.0	11.5	6.0	0.5	6.0	2.8
男性	9.9	49.5	24.2	6.6	0.5	7.7	1.6

②職場で

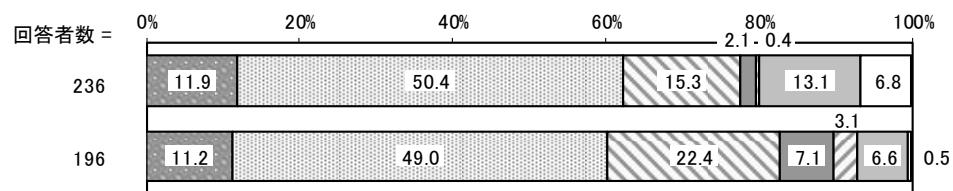
【経年比較】

平成 28 年度調査、平成 23 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



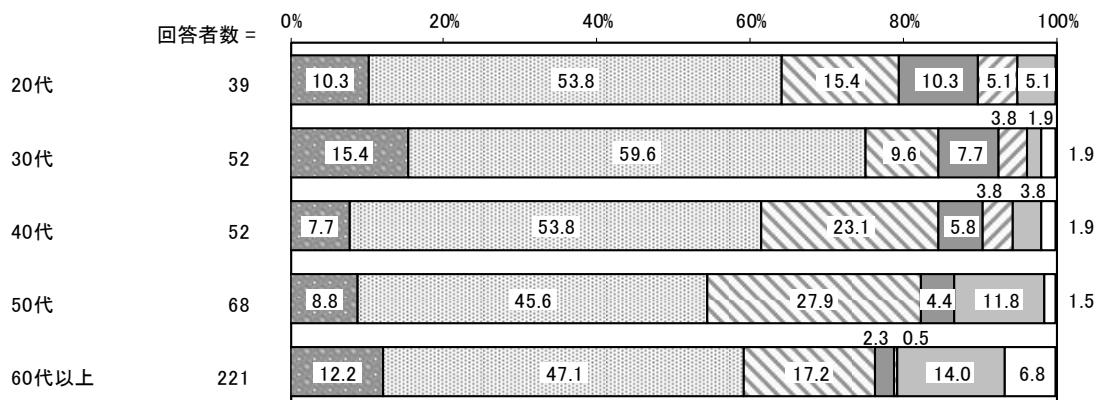
【性 別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「平等である」、「女性の方が優遇されている」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、30 代で「男性の方が優遇されている」の割合が高く、「平等である」の割合が低くなっています。また、年齢が低くなるにつれて、「女性の方が優遇されている」の割合が高くなる傾向がみられます。



【国・県の調査の比較と経年比較】

全国調査と比較すると、“男性の方が優遇されている”の割合が高く、「平等である」割合が低くなっています。

愛知県調査と比較すると、大きな差異はみられません。

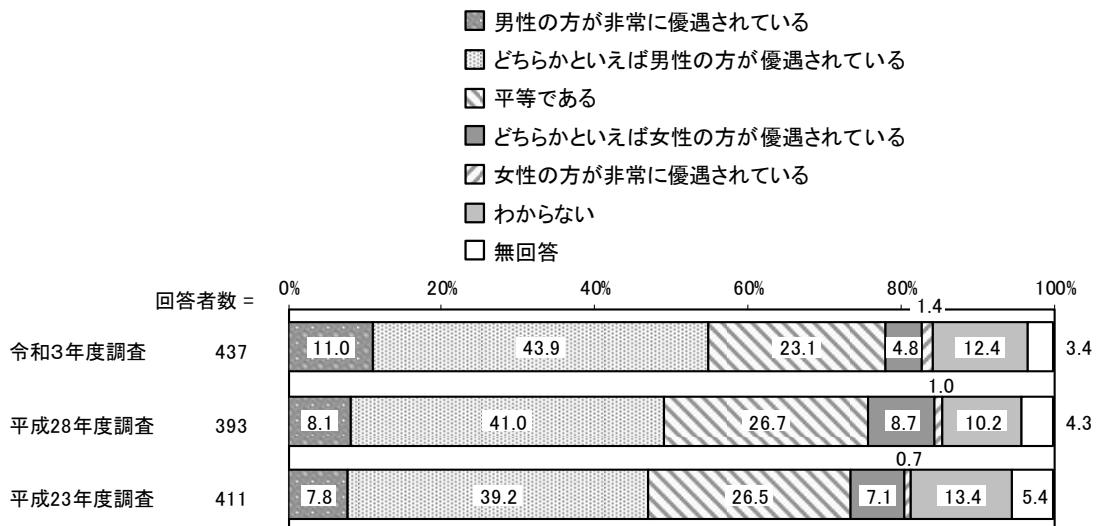
単位：%

区分	男性の方が非常に優遇されている	男性のどちらかが優遇されば	平等である	女性のどちらかが優遇されば	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
国(R1.9)	13.6	39.8	30.7	4.5	0.5	10.9	—
女性	14.4	39.7	28.4	4.3	0.4	12.8	—
男性	12.8	40.0	33.3	4.8	0.5	8.7	—
愛知県(R1.7)	22.4	42.9	15.2	5.6	2.1	7.0	4.9
女性	28.7	41.0	12.9	4.4	0.6	8.0	4.4
男性	15.0	45.8	18.6	7.2	4.1	5.4	3.9
田原市(R4.1)	11.4	49.7	18.5	4.3	1.6	10.1	4.3
女性	11.9	50.4	15.3	2.1	0.4	13.1	6.8
男性	11.2	49.0	22.4	7.1	3.1	6.6	0.5
田原市(H28.7)	12.2	48.1	17.6	5.3	1.0	8.9	6.9
女性	11.4	47.6	20.0	4.3	0.5	9.5	6.7
男性	12.9	48.8	15.9	5.9	1.8	8.2	6.5
田原市(H23.9)	14.8	46.5	16.3	8.3	0.2	7.3	6.6
女性	18.8	43.5	13.9	5.4	—	9.9	8.5
男性	9.7	50.0	19.4	11.8	0.5	4.3	4.3
田原市(H20.8)	16.3	45.2	16.5	5.2	1.2	10.1	5.4
女性	20.3	45.2	13.8	3.7	0.5	11.5	5.1
男性	12.1	45.1	19.2	7.1	2.2	8.8	5.5

③地域活動の場で

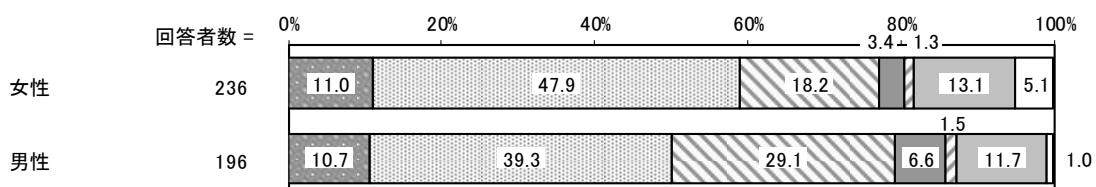
【経年比較】

平成 28 年度調査、平成 23 年度調査と比較すると、“男性の方が優遇されている”の割合が増加し、「平等である」の割合が減少する傾向がみられます。



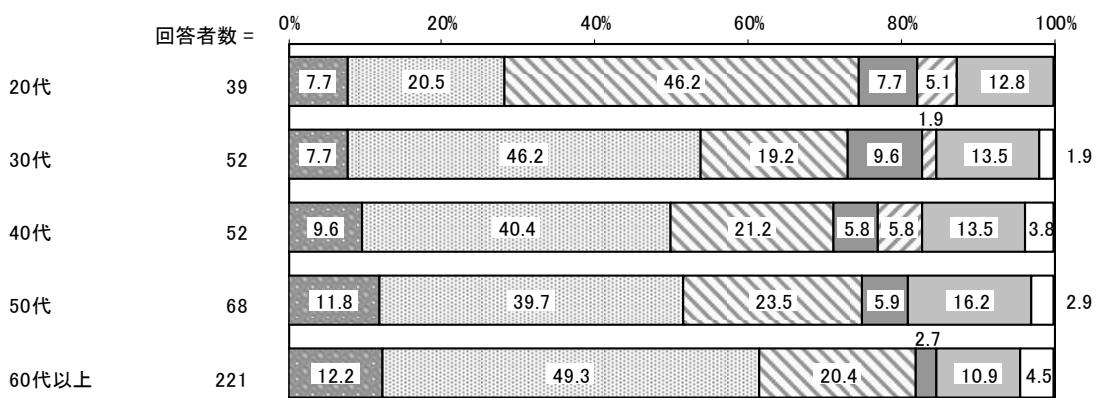
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「平等である」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、20 代で「平等である」の割合が、60 代以上で“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。また、20 代～40 代で“女性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。



【国・県の調査の比較と経年比較】

全国調査、愛知県調査と比較すると、“男性の方が優遇されている”の割合が高く、「平等である」割合が低くなっています。

単位：%

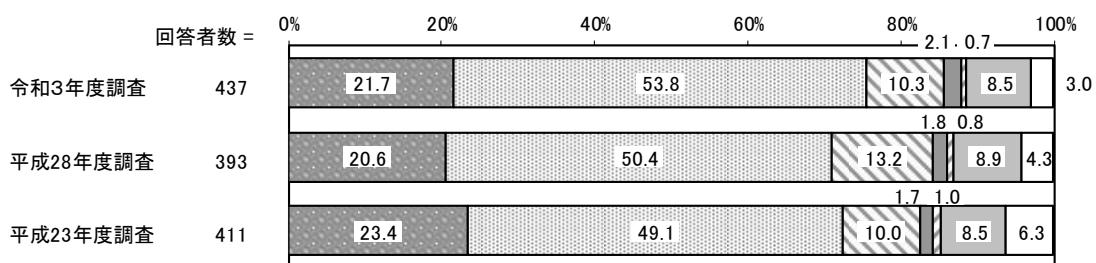
区分	優遇されている方が非常に多い	どちらかが優遇されれば	平等である	どちらかが優遇されている	優遇されている方が非常に多い	わからない	無回答
国(R1.9)	7.0	27.7	46.5	8.7	1.6	8.6	—
女性	7.7	30.3	45.7	7.0	1.1	8.1	—
男性	6.1	24.7	47.4	10.5	2.1	9.1	—
愛知県(R1.7)	9.6	32.0	33.4	6.6	1.0	12.4	5.2
女性	14.2	33.2	30.1	5.8	0.3	12.0	4.4
男性	4.5	30.6	39.5	7.6	1.9	11.9	4.1
田原市(R4.1)	11.0	43.9	23.1	4.8	1.4	12.4	3.4
女性	11.0	47.9	18.2	3.4	1.3	13.1	5.1
男性	10.7	39.3	29.1	6.6	1.5	11.7	1.0
田原市(H28.7)	8.1	41.0	26.7	8.7	1.0	10.2	4.3
女性	10.0	42.9	22.4	6.7	0.5	12.9	4.8
男性	5.9	39.4	31.8	11.2	1.2	7.1	3.5
田原市(H23.9)	7.8	39.2	26.5	7.1	0.7	13.4	5.4
女性	9.9	37.7	22.9	5.4	0.4	16.6	7.2
男性	4.8	41.4	30.6	9.1	1.1	9.7	3.2
田原市(H20.8)	8.1	39.8	27.7	6.9	0.7	12.3	4.4
女性	10.1	40.6	22.6	6.9	0.5	14.3	5.1
男性	6.0	39.6	33.0	6.6	1.1	10.4	3.3

④社会通念・慣習・しきたりなどで

【経年比較】

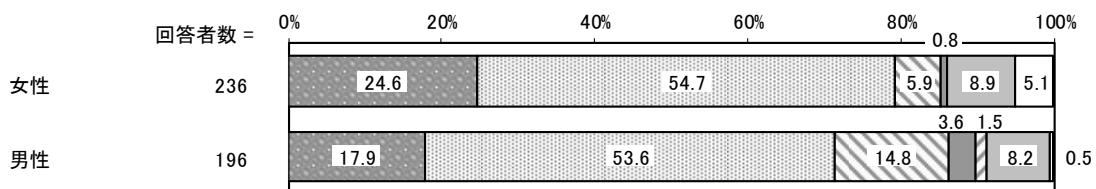
平成 28 年度調査、平成 23 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答



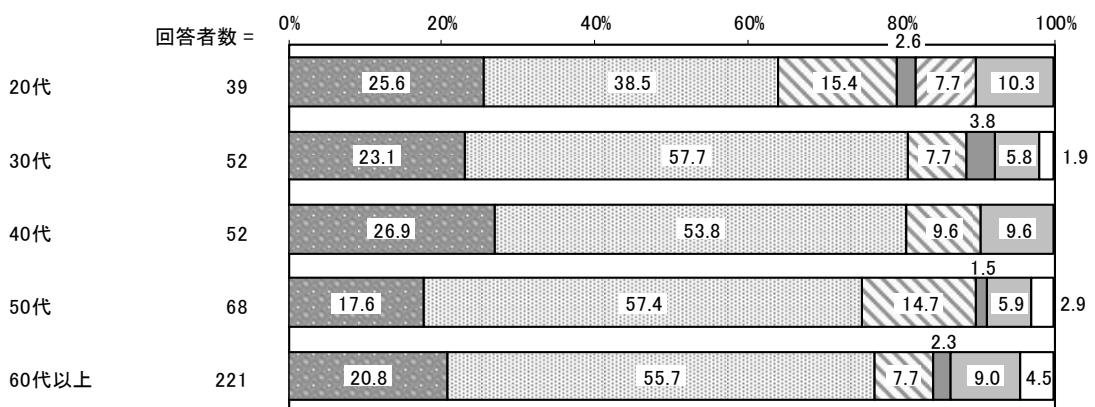
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「平等である」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、20 代で“女性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。また、30~40 代で“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。



【国・県の調査の比較と経年比較】

全国調査と比較すると、「平等である」割合が低くなっています。

愛知県調査と比較すると、大きな差異はみられません。

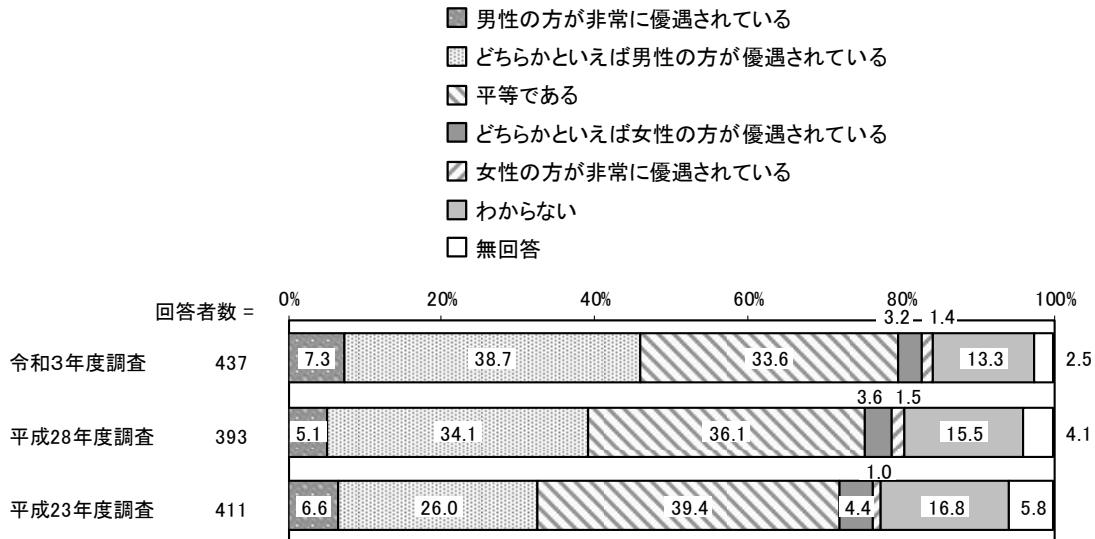
単位：%

区分	優遇されている男性の方が非常に優遇されると優遇されれば	優遇される女性の方からがと優遇されれば	平等である	優遇されている女性の方からがと優遇されれば	優遇される女性の方が非常に優遇されると優遇されれば	わからない	無回答
国(R1.9)	19.1	51.0	22.6	2.1	0.2	5.0	—
女性	20.3	51.2	20.5	1.9	0.1	6.0	—
男性	17.6	50.9	25.0	2.3	0.3	4.0	—
愛知県(R1.7)	29.0	49.1	9.5	2.5	0.3	5.5	4.1
女性	37.9	46.2	5.8	1.6	—	5.1	3.4
男性	19.1	53.6	14.3	3.7	0.7	5.6	3.0
田原市(R4.1)	21.7	53.8	10.3	2.1	0.7	8.5	3.0
女性	24.6	54.7	5.9	0.8	—	8.9	5.1
男性	17.9	53.6	14.8	3.6	1.5	8.2	0.5
田原市(H28.7)	20.6	50.4	13.2	1.8	0.8	8.9	4.3
女性	26.2	50.0	8.6	0.5	0.5	9.5	4.8
男性	13.5	51.8	19.4	3.5	1.2	7.1	3.5
田原市(H23.9)	23.4	49.1	10.0	1.7	1.0	8.5	6.3
女性	27.8	44.4	5.8	0.9	0.9	11.7	8.5
男性	17.7	54.8	15.1	2.7	1.1	4.8	3.8
田原市(H20.8)	20.5	50.1	10.1	3.0	0.7	11.1	4.4
女性	25.3	48.4	6.9	1.8	0.9	11.1	5.5
男性	14.8	52.7	14.3	3.3	0.5	11.5	2.7

⑤法律や制度上で

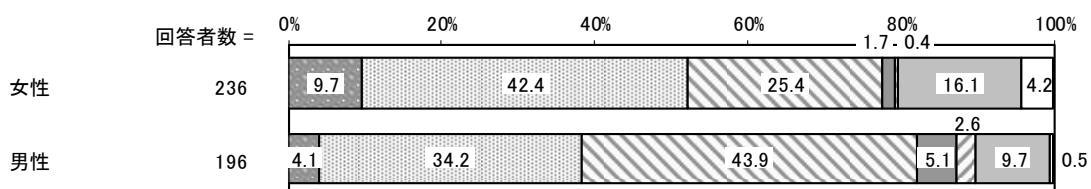
【経年比較】

平成 28 年度調査、平成 23 年度調査と比較すると、平成 23 年度調査以降、“男性の方が優遇されている”の割合が増加し、「平等である」の割合が減少する傾向がみられます。



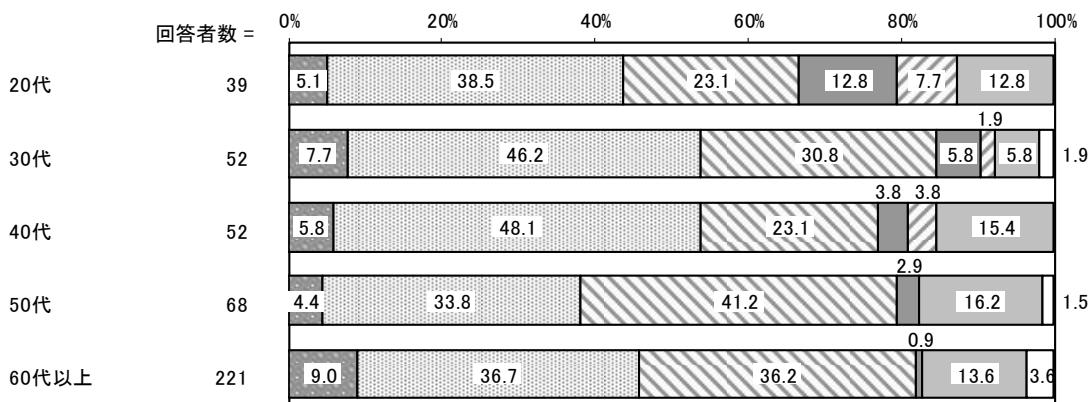
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「平等である」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、20 代で“女性の方が優遇されている”の割合が、30~40 代で“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。また、50 代で「平等である」の割合が高くなっています。



【国・県の調査の比較と経年比較】

全国調査、愛知県調査と比較すると、大きな差異はみられません。

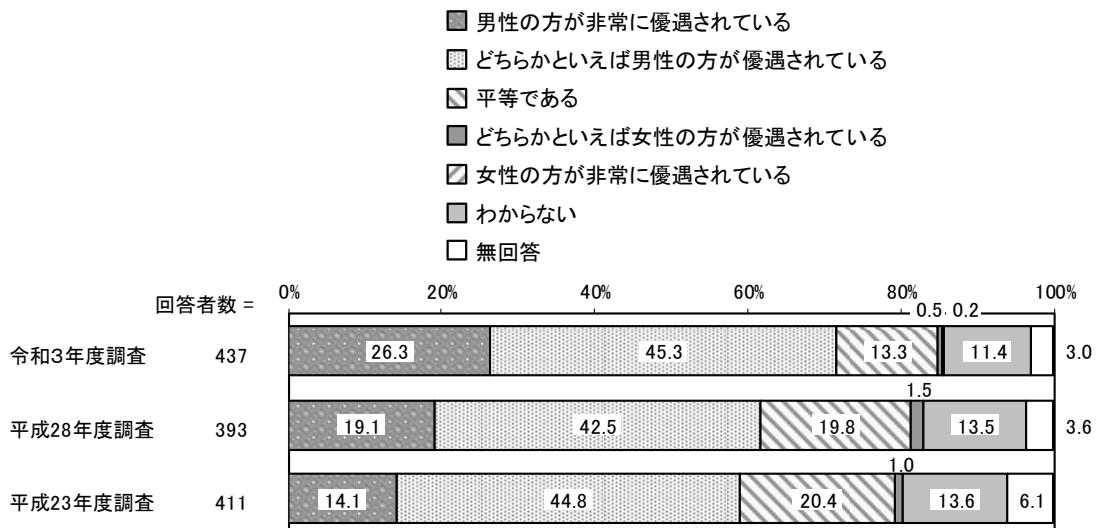
単位：%

区分	男性の方が非常に優遇されている	どちらかがと優遇されれば	平等である	女性の方が優遇されている	どちらかが優遇されれば	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
国(R1.9)	10.3	36.6	39.7	4.0	0.4	9.0	—	
女性	12.4	39.7	33.3	3.1	0.2	11.2	—	
男性	7.8	33.2	46.8	5.1	0.6	6.5	—	
愛知県(R1.7)	17.0	29.5	30.2	4.6	1.6	12.2	4.9	
女性	24.5	32.9	22.0	2.0	0.3	13.7	4.5	
男性	8.2	26.3	41.0	7.8	3.2	10.0	3.5	
田原市(R4.1)	7.3	38.7	33.6	3.2	1.4	13.3	2.5	
女性	9.7	42.4	25.4	1.7	0.4	16.1	4.2	
男性	4.1	34.2	43.9	5.1	2.6	9.7	0.5	
田原市(H28.7)	5.1	34.1	36.1	3.6	1.5	15.5	4.1	
女性	7.6	41.0	24.8	2.4	0.5	20.5	3.3	
男性	1.8	25.9	50.6	5.3	2.9	8.8	4.7	
田原市(H23.9)	6.6	26.0	39.4	4.4	1.0	16.8	5.8	
女性	8.5	31.4	24.2	2.7	0.9	24.7	7.6	
男性	4.3	19.4	57.5	6.5	1.1	7.5	3.8	
田原市(H20.8)	6.2	30.9	40.2	3.2	1.2	14.1	4.2	
女性	8.3	38.2	30.0	1.8	—	16.1	5.5	
男性	3.3	22.5	52.2	4.9	2.7	12.1	2.2	

⑥政治の場で

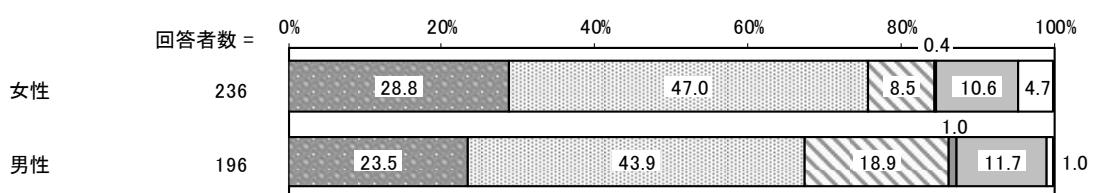
【経年比較】

平成 28 年度調査、平成 23 年度調査と比較すると、“男性の方が優遇されている”の割合が増加し、「平等である」の割合が減少する傾向がみられます。



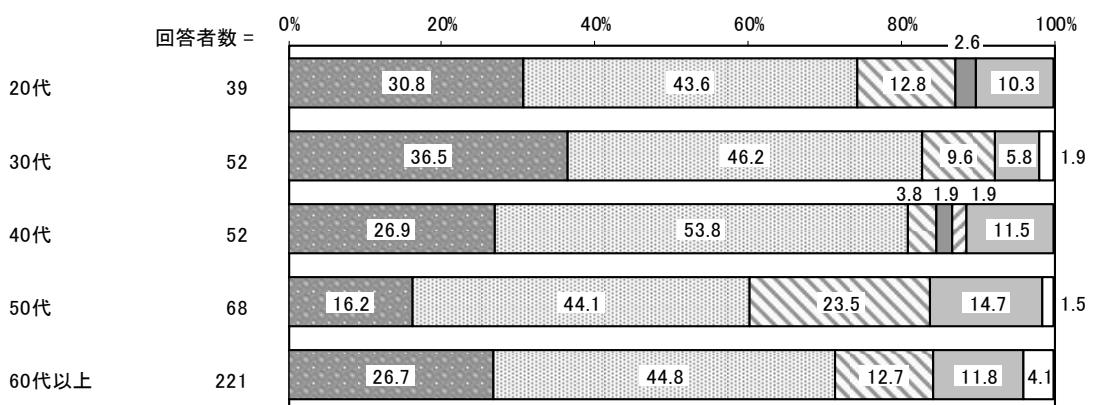
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「平等である」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、50 代で「平等である」の割合が、30~40 代で“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。



【国・県の調査の比較と経年比較】

全国調査、愛知県調査と比較すると、「男性の方が優遇されている」の割合が低くなっています。

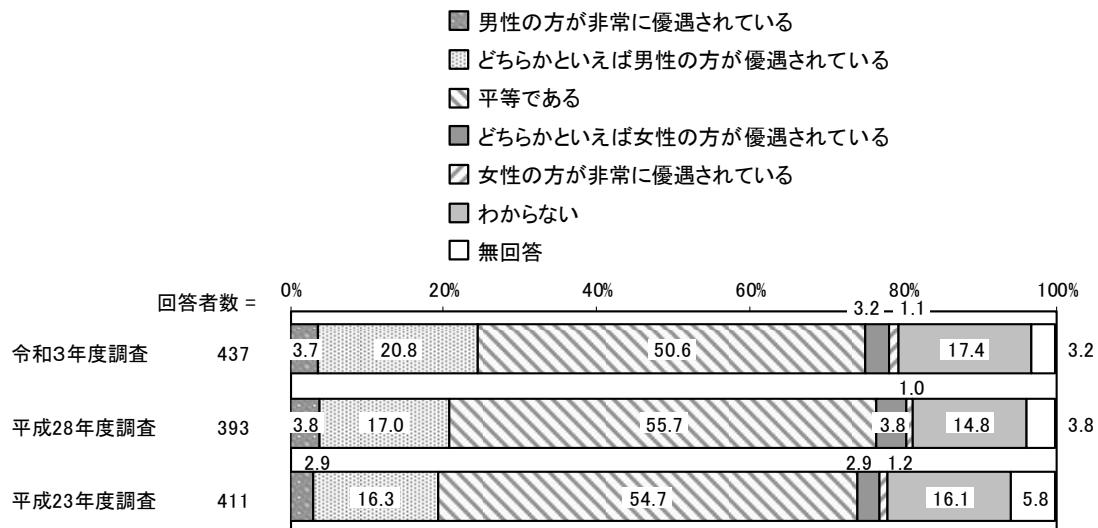
単位：%

区分	男性の方が非常に優遇されている	どちらかが優遇されればよい	平等である	女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
国(R1.9)	35.0	44.0	14.4	1.1	0.1	5.4	—
女性	37.9	44.5	11.0	0.8	0.1	5.8	—
男性	31.7	43.5	18.3	1.4	0.2	5.0	—
愛知県(R1.7)	38.7	38.9	9.4	1.2	0.2	7.2	4.3
女性	44.3	38.4	5.5	0.8	—	6.9	4.2
男性	32.5	41.2	14.5	1.9	0.6	6.9	2.6
田原市(R4.1)	26.3	45.3	13.3	0.5	0.2	11.4	3.0
女性	28.8	47.0	8.5	—	0.4	10.6	4.7
男性	23.5	43.9	18.9	1.0	—	11.7	1.0
田原市(H28.7)	19.1	42.5	19.8	1.5	—	13.5	3.6
女性	21.9	45.7	12.4	—	—	17.1	2.9
男性	15.9	39.4	28.8	2.9	—	8.8	4.1
田原市(H23.9)	14.1	44.8	20.4	1.0	—	13.6	6.1
女性	19.7	45.7	9.0	0.4	—	17.5	7.6
男性	7.5	43.5	33.9	1.6	—	9.1	4.3
田原市(H20.8)	20.2	39.3	22.2	—	0.2	14.1	4.0
女性	25.8	41.9	12.9	—	—	15.2	4.1
男性	12.6	37.4	33.0	—	0.5	13.2	3.3

⑦学校教育の場で

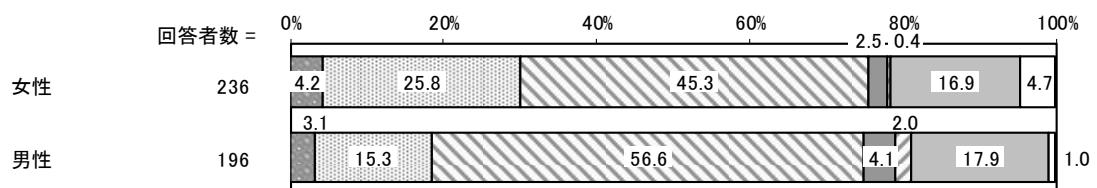
【経年比較】

平成 28 年度調査、平成 23 年度調査と比較すると、“男性の方が優遇されている”の割合が増加し、「平等である」の割合が減少する傾向がみられます。



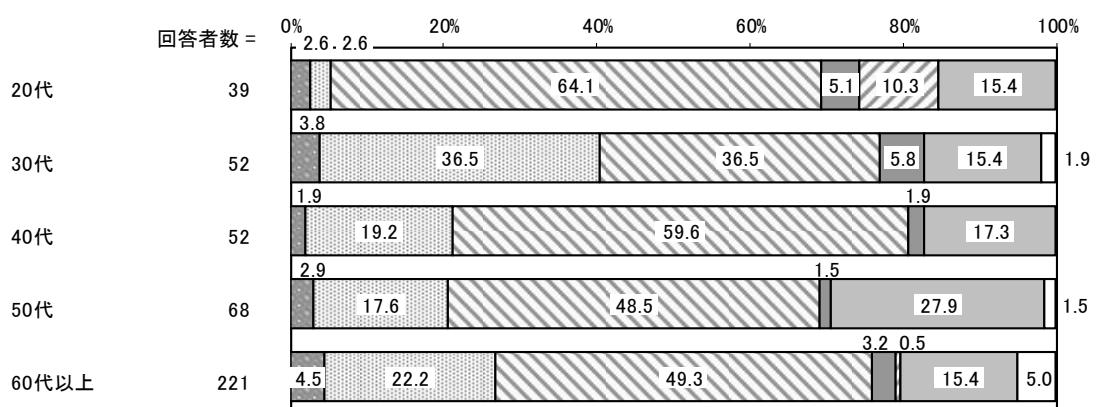
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「平等である」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、20 代で“女性の方が優遇されている”、「平等である」の割合が、30 代で“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。



【国・県の調査の比較と経年比較】

全国調査と比較すると、「平等である」の割合が低くなっています。

愛知県調査と比較すると、大きな差異はみられません。

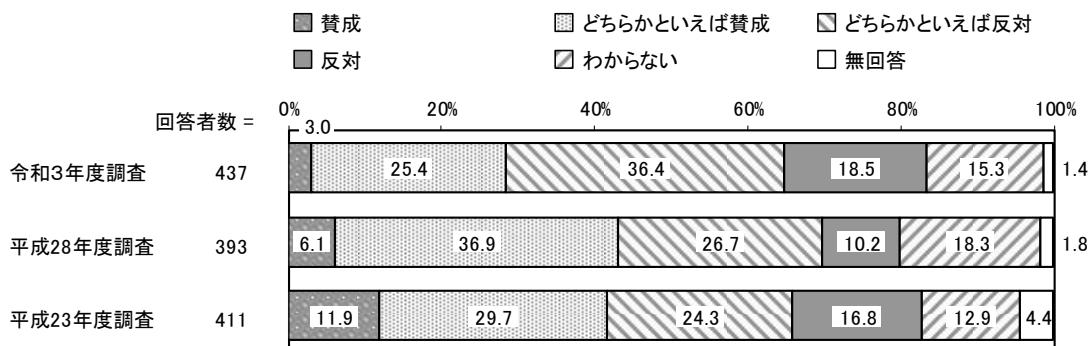
単位：%

区分	優遇されている方が非常に優遇されている	どちらかがと優遇えさば	平等である	どちらかがと優遇えさば	優遇されている	わからない	無回答
国(R1.9)	3.3	15.2	61.2	2.3	0.3	17.7	—
女性	3.8	16.0	59.8	2.0	0.4	18.1	—
男性	2.7	14.3	62.8	2.6	0.3	17.3	—
愛知県(R1.7)	5.2	15.2	52.8	4.3	0.5	16.3	5.7
女性	8.0	16.8	50.7	4.1	—	15.1	5.3
男性	2.0	13.4	57.3	4.8	1.1	17.1	4.3
田原市(R4.1)	3.7	20.8	50.6	3.2	1.1	17.4	3.2
女性	4.2	25.8	45.3	2.5	0.4	16.9	4.7
男性	3.1	15.3	56.6	4.1	2.0	17.9	1.0
田原市(H28.7)	3.8	17.0	55.7	3.8	1.0	14.8	3.8
女性	4.8	19.5	49.5	1.0	1.0	21.0	3.3
男性	2.4	13.5	64.7	7.1	1.2	7.1	4.1
田原市(H23.9)	2.9	16.3	54.7	2.9	1.2	16.1	5.8
女性	4.0	21.5	44.8	1.3	1.3	19.3	7.6
男性	1.6	9.7	66.7	4.8	1.1	12.4	3.8
田原市(H20.8)	4.0	20.0	52.1	3.7	0.2	16.3	3.7
女性	5.5	22.6	47.9	2.8	0.5	16.1	4.6
男性	2.2	17.6	56.0	4.9	—	17.0	2.2

問15 あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、どう思いますか。(1つに○)

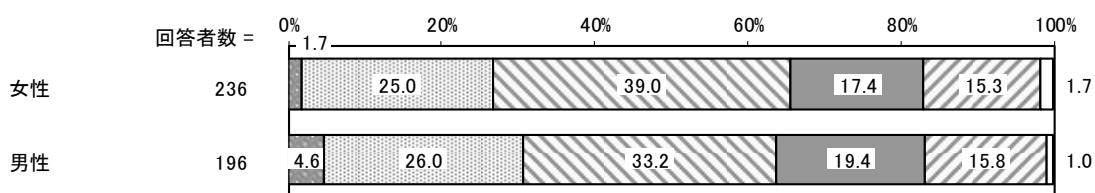
「賛成」と「どちらかといえば賛成」をあわせた“賛成”的割合が28.4%、「どちらかといえば反対」と「反対」をあわせた“反対”的割合が54.9%となっています。

平成28年度調査と比較すると、“反対”的割合が増加しています。



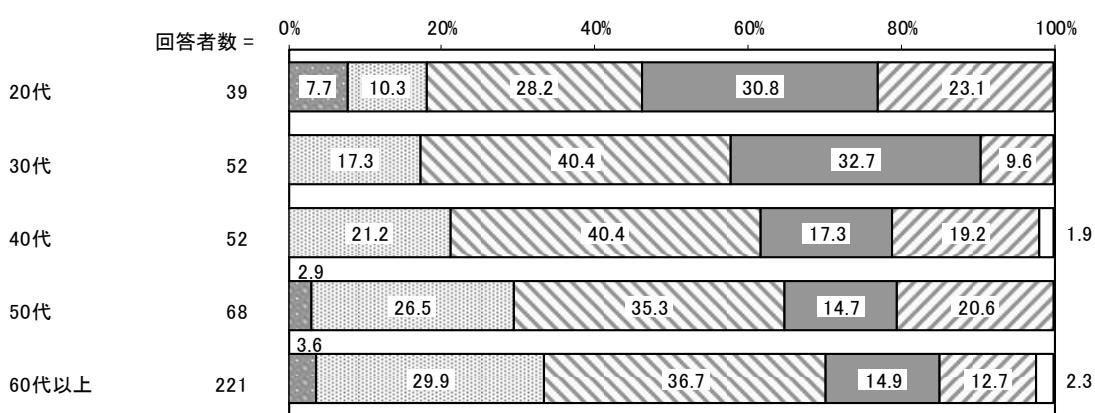
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、30代で“反対”的割合が高くなっています。



【国・県の調査の比較と経年比較】

全国調査、愛知県調査比較すると、“賛成”の割合が低くなっています。

単位：%

区分	賛成	賛成 どちらか といえば	反対 どちらか といえば	反対	わからない	無回答
国(R1.9)	7.5	27.5	36.6	23.2	5.2	5.2
女性	6.5	24.6	38.5	24.9	5.5	5.5
男性	8.6	30.8	34.4	21.2	4.9	4.9
愛知県(R1.7)	5.5	35.2	31.6	19.0	6.4	2.2
女性	3.7	32.9	35.4	20.7	5.3	1.9
男性	7.2	39.3	27.8	17.6	6.7	1.3
田原市(R4.1)	3.0	25.4	36.4	18.5	15.3	1.4
女性	1.7	25.0	39.0	17.4	15.3	1.7
男性	4.6	26.0	33.2	19.4	15.8	1.0
田原市(H28.7)	6.1	36.9	26.7	10.2	18.3	1.8
女性	5.7	35.2	28.1	10.5	17.6	2.9
男性	6.5	38.8	25.3	9.4	20.0	—
田原市(H23.9)	11.9	29.7	24.3	16.8	12.9	4.4
女性	11.2	24.7	24.2	20.2	13.5	6.3
男性	12.4	36.0	24.2	12.9	12.4	2.2
田原市(H20.8)	9.1	32.6	24.7	17.8	11.1	4.7
女性	7.4	30.0	25.3	21.2	9.7	6.5
男性	11.5	34.6	24.7	14.3	12.6	2.2

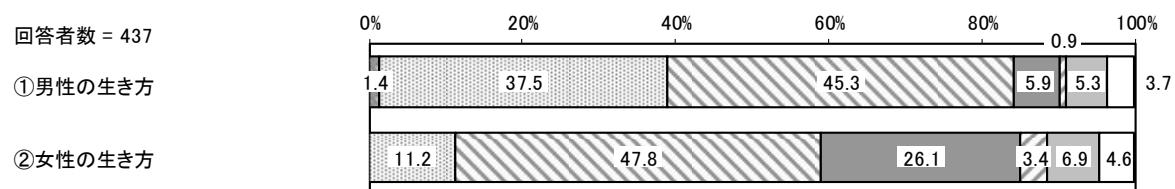
問16 仕事と、家庭生活または地域活動について、人の生き方として、あなたが望ましいと思うのは、どのような生き方でしょうか。

男性の生き方では、「家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる」の割合が45.3%と最も高く、次いで「家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」の割合が37.5%となっています。

女性の生き方では、「家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる」の割合が47.8%と最も高く、次いで「仕事にも携わるが、家庭生活または、地域活動を優先させる」の割合が26.1%、「家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」の割合が11.2%となっています。

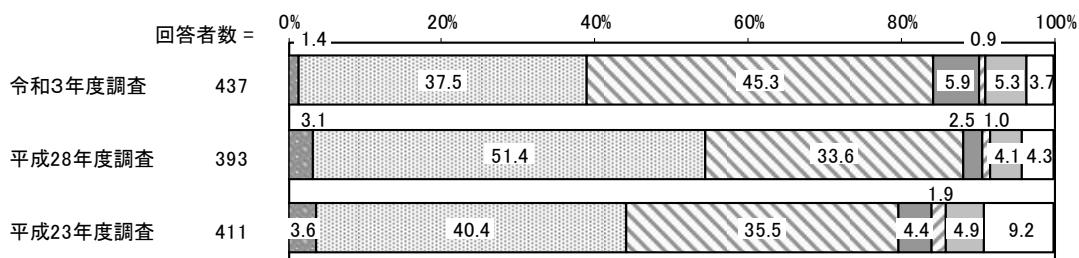
男性の生き方、女性の生き方を比較すると、男性の生き方で「家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」の割合が高く、女性の生き方で「仕事にも携わるが、家庭生活または、地域活動を優先させる」の割合が高くなっています。

- 家庭生活または地域活動よりも、仕事に専念する
- 家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる
- 家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる
- 仕事にも携わるが、家庭生活または、地域活動を優先させる
- 仕事よりも、家庭生活または地域活動に専念する
- わからない
- 無回答



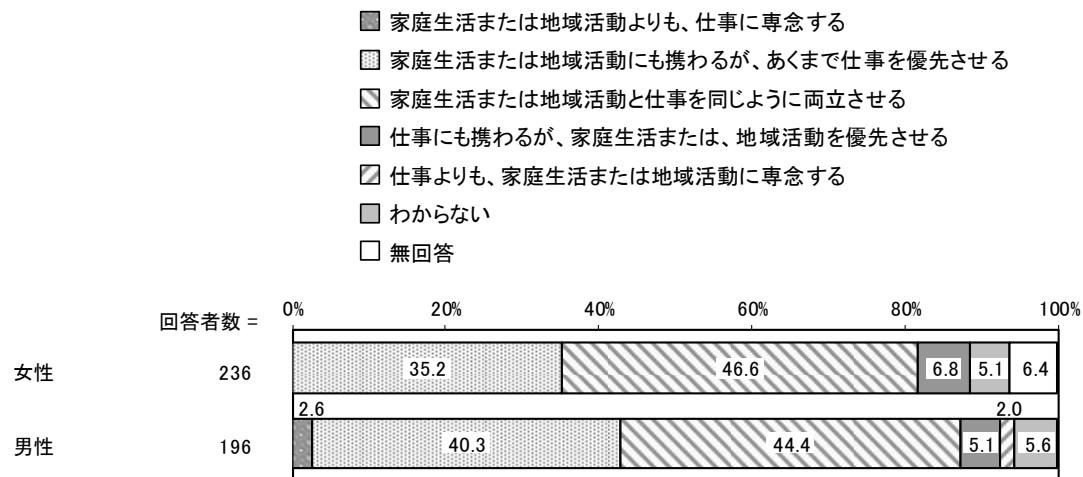
①男性の生き方

平成28年度調査と比較すると、「家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる」の割合が増加しています。



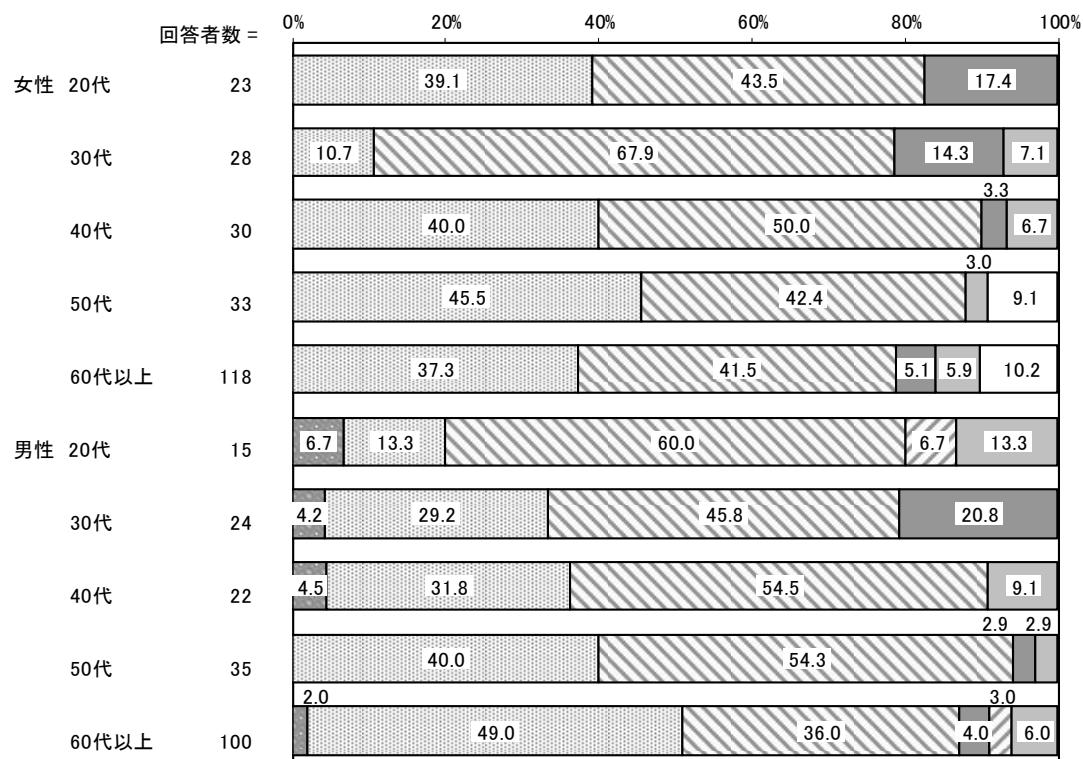
【性 別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」の割合が高くなっています。



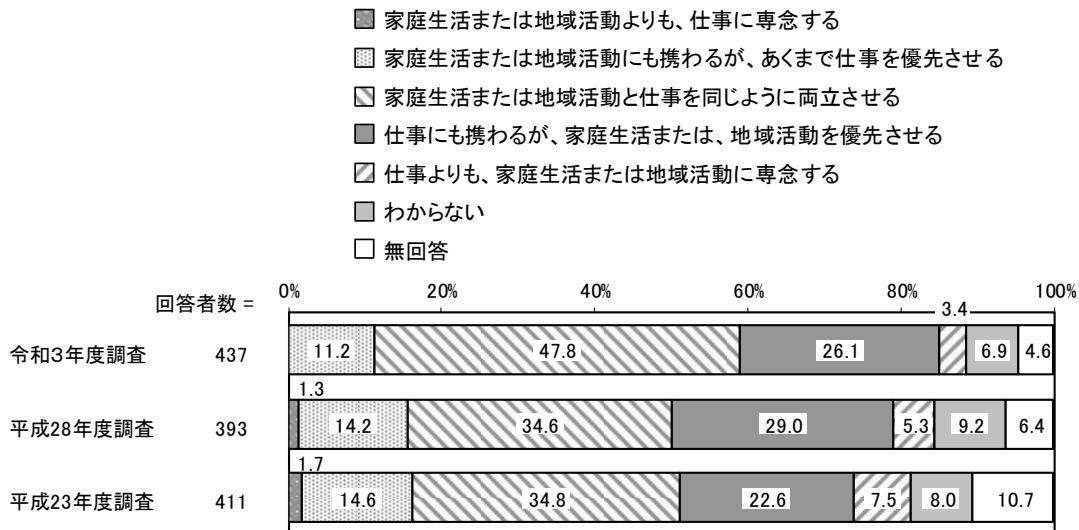
【性・年代別】

性・年代別でみると、他に比べ、女性の30代、男性の20代で「家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる」の割合が高くなっています。また、男性では年齢が高くなるにつれて「家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」の割合が高くなる傾向がみられます。



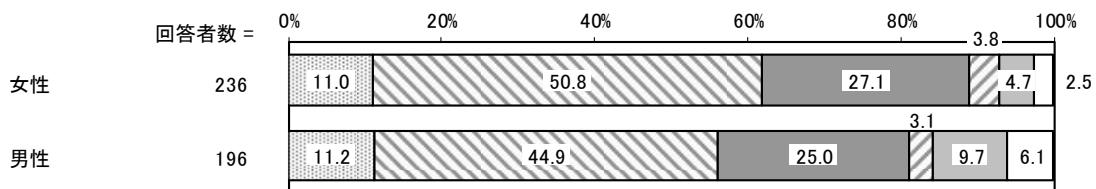
②女性の生き方

平成28年度調査と比較すると、「家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる」の割合が増加しています。



【性別】

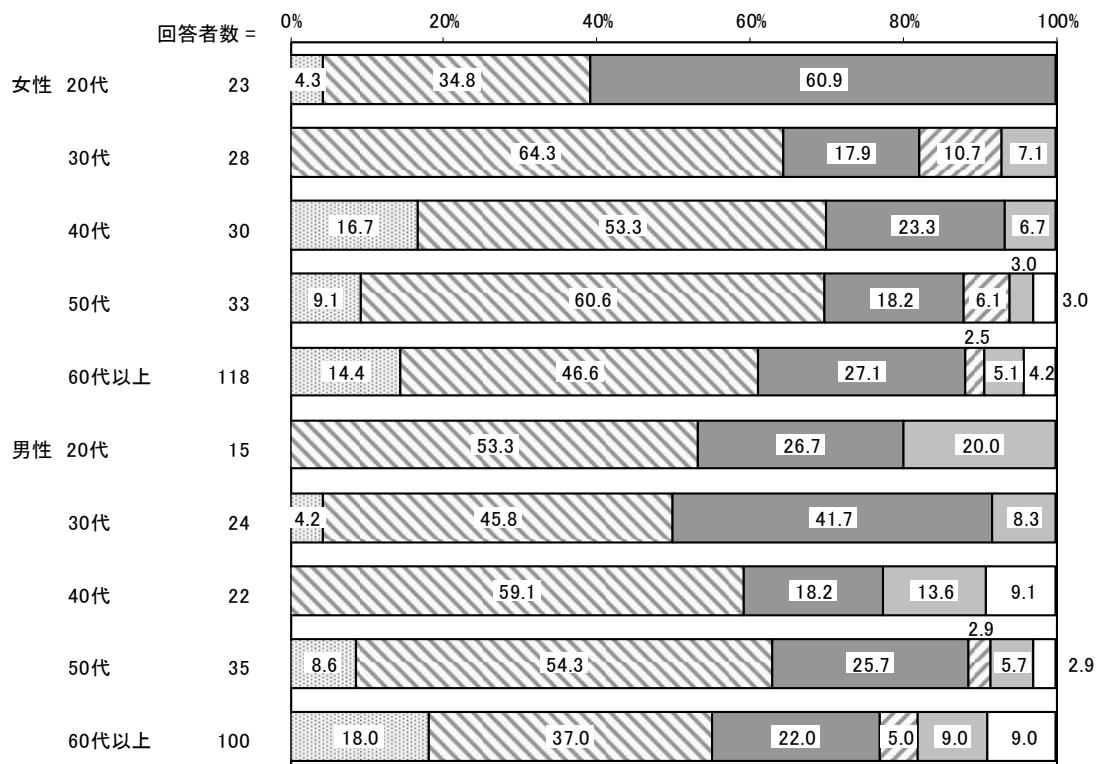
性別でみると、男性に比べ、女性で「家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる」の割合が高くなっています。



【性・年代別】

性・年代別でみると、他に比べ、女性の20代で「仕事にも携わるが、家庭生活または地域活動を優先させる」の割合が高くなっています。また、男性の20代で、「わからない」の割合が高くなっています。

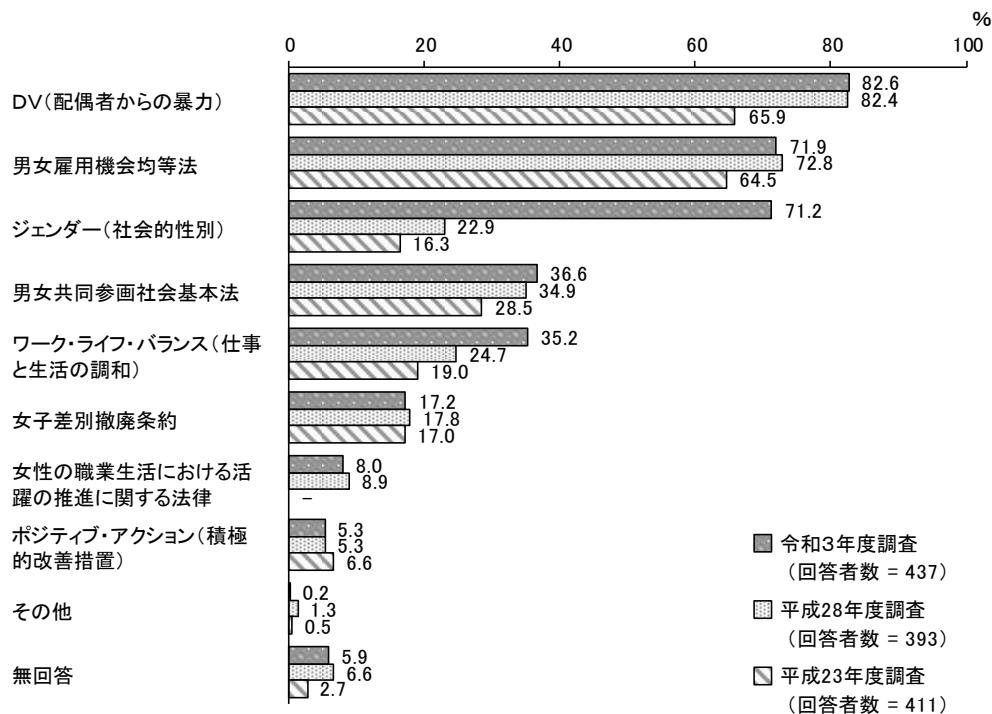
- 家庭生活または地域活動よりも、仕事に専念する
- 家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる
- 家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる
- 仕事にも携わるが、家庭生活または、地域活動を優先させる
- 仕事よりも、家庭生活または地域活動に専念する
- わからない
- 無回答



問17 あなたは、次にあげる男女共同参画社会に関する言葉を知っていますか。
(該当する項目すべてに○)

「DV（配偶者からの暴力）」の割合が82.6%と最も高く、次いで「男女雇用機会均等法」の割合が71.9%、「ジェンダー（社会的性別）」の割合が71.2%となっています。

平成23年度調査、平成28年度調査と比較すると、「ジェンダー（社会的性別）」、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」の割合は増加傾向がみられます。



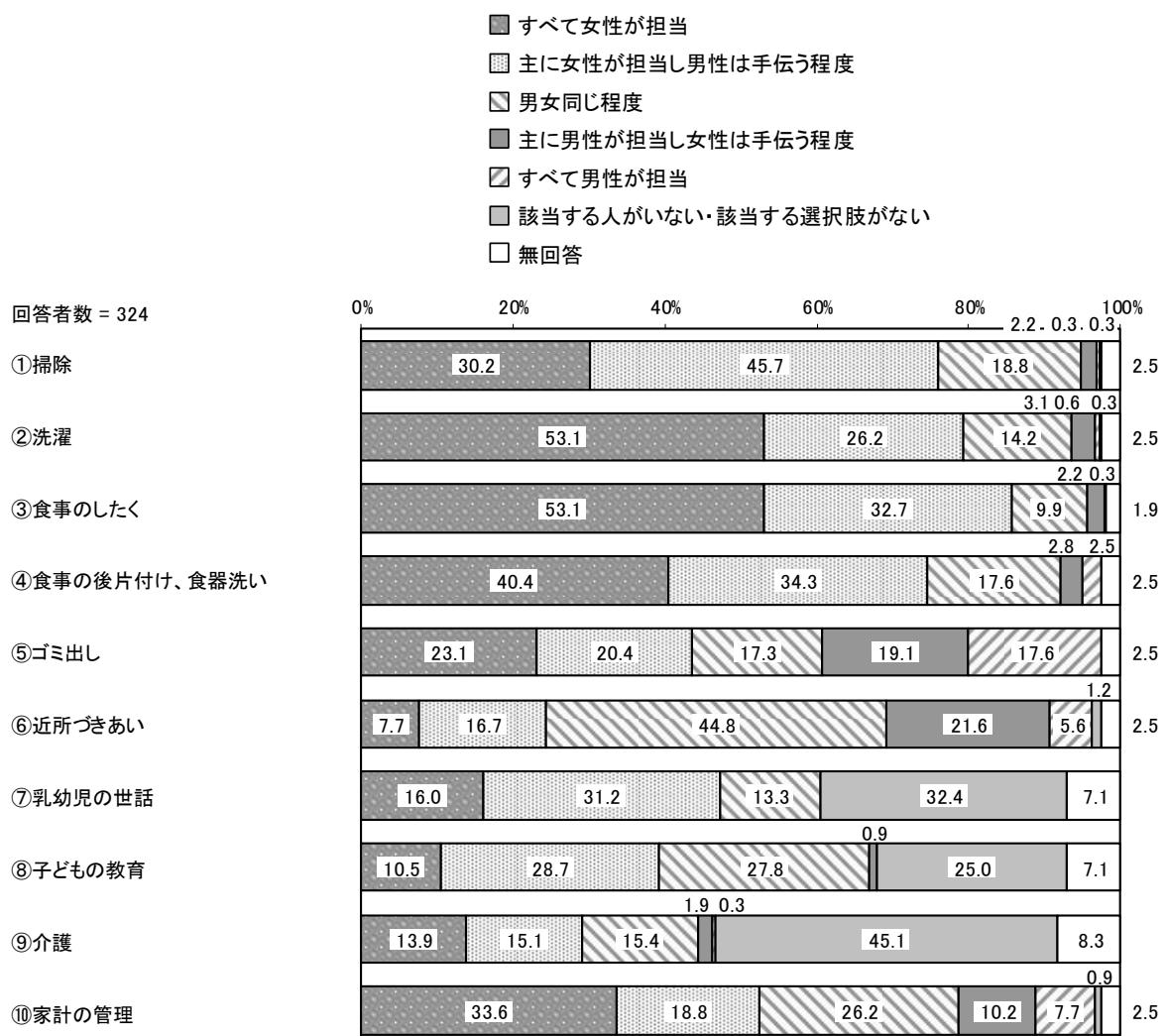
※平成23年度調査には「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」の選択肢はなく、「知らない」の選択肢がありました。

3 結婚、家庭生活について

《配偶者またはパートナーと暮らしている方にお聞きします》

問18 あなたのご家庭での役割について、現状をお答えください。 (①から⑩でそれぞれ1つずつ○)

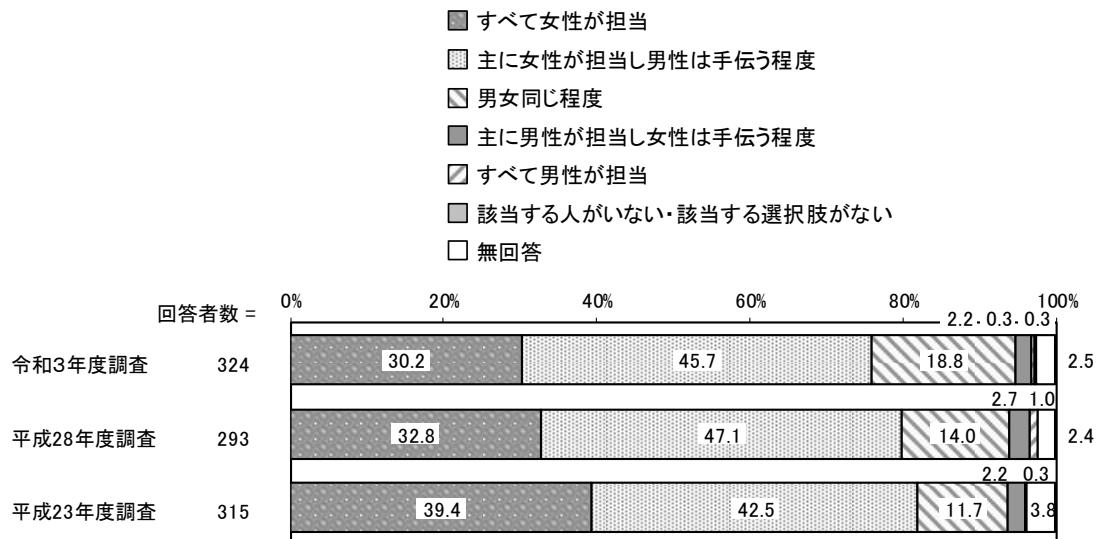
『②洗濯』『③食事のしたく』『④食事の後片付け、食器洗い』『⑩家計の管理』で「すべて女性が担当」の割合が、『①掃除』『⑧子どもの教育』で「主に女性が担当して男性は手伝う程度」の割合が、『⑥近所づきあい』で「男女同じ程度」の割合が、『⑦乳幼児の世話』、『⑨介護』で「該当する人がいない・該当する選択肢がない」の割合が高くなっています。



①掃除

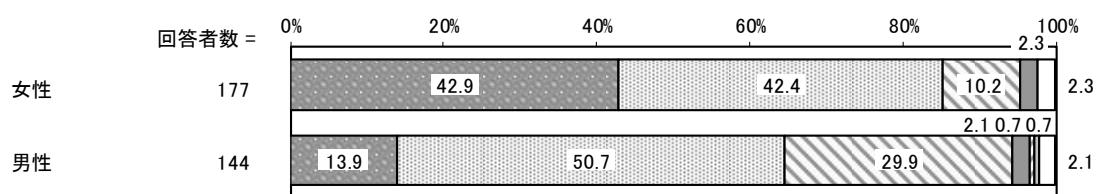
【経年比較】

平成 28 年度調査、平成 23 年度調査と比較すると、「すべて女性が担当」の割合が減少し、「男女同じ程度」の割合が増加する傾向がみられます。



【性 別】

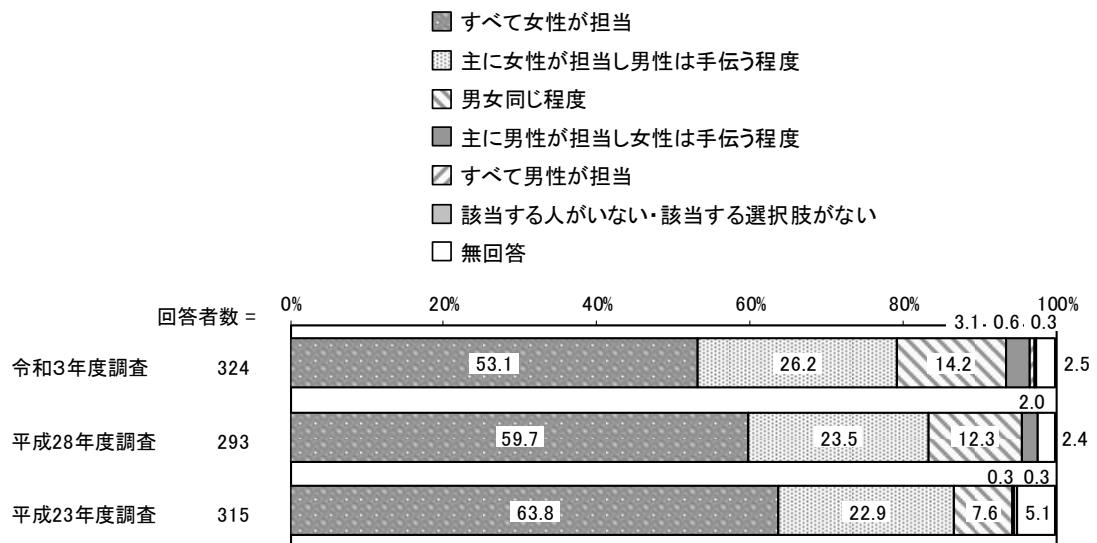
性別でみると、男性に比べ、女性で「すべて女性が担当」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「主に女性が担当して男性は手伝う程度」、「男女同じ程度」の割合が高くなっています。



②洗濯

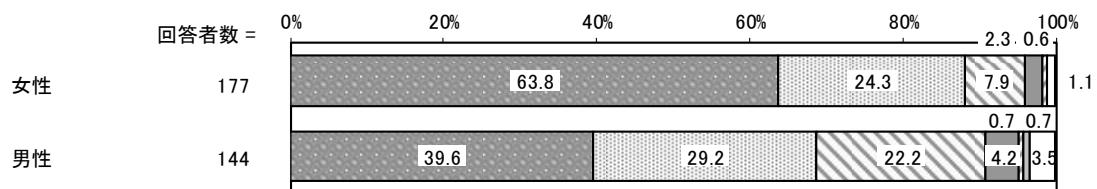
【経年比較】

平成 28 年度調査、平成 23 年度調査と比較すると、「すべて女性が担当」の割合が減少し、「主に女性が担当し男性は手伝う程度」、「男女同じ程度」の割合が増加する傾向がみられます。



【性別】

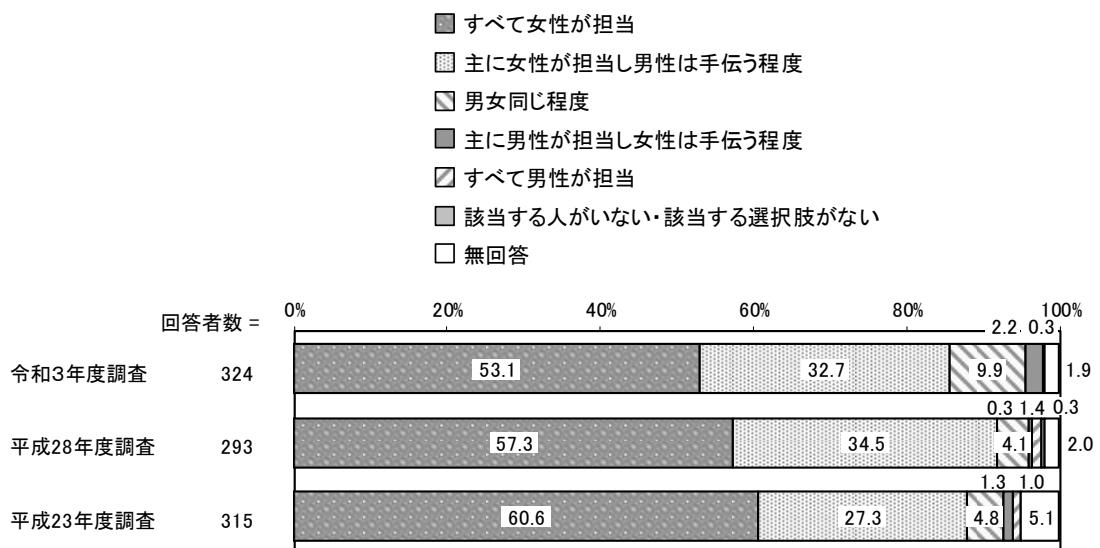
性別でみると、男性に比べ、女性で「すべて女性が担当」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「男女同じ程度」の割合が高くなっています。



③食事のしたく

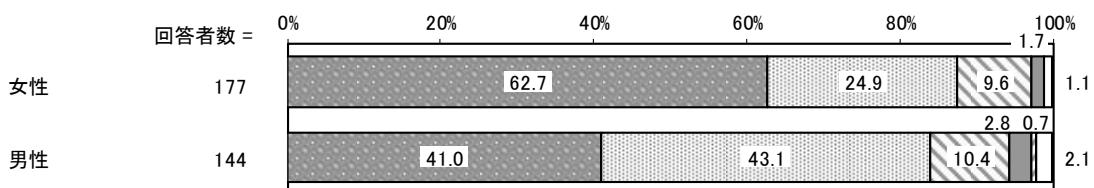
【経年比較】

平成 28 年度調査、平成 23 年度調査と比較すると、「すべて女性が担当」の割合が減少し、「男女同じ程度」の割合が増加する傾向がみられます。



【性 別】

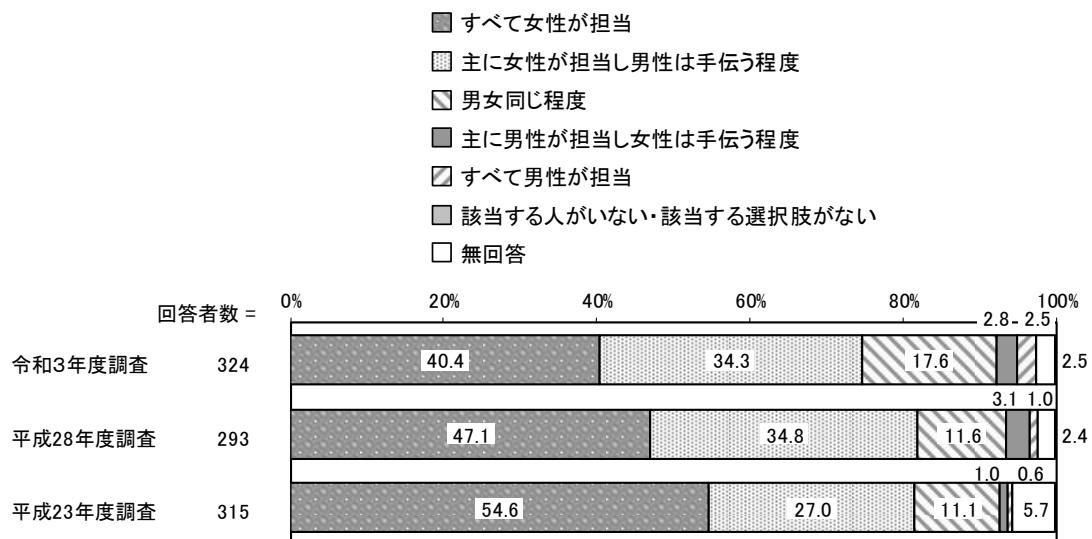
性別でみると、男性に比べ、女性で「すべて女性が担当」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「主に女性が担当して男性は手伝う程度」の割合が高くなっています。



④食事の後片付け、食器洗い

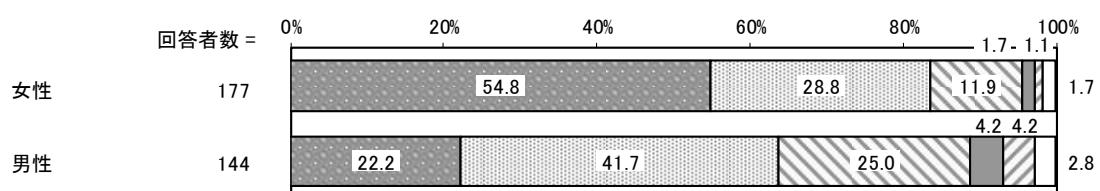
【経年比較】

平成 28 年度調査、平成 23 年度調査と比較すると、「すべて女性が担当」の割合が減少し、「男女同じ程度」の割合が増加する傾向がみられます。また、平成 23 年度調査に比べ、「主に女性が担当し男性は手伝う程度」の割合が増加しています。



【性 別】

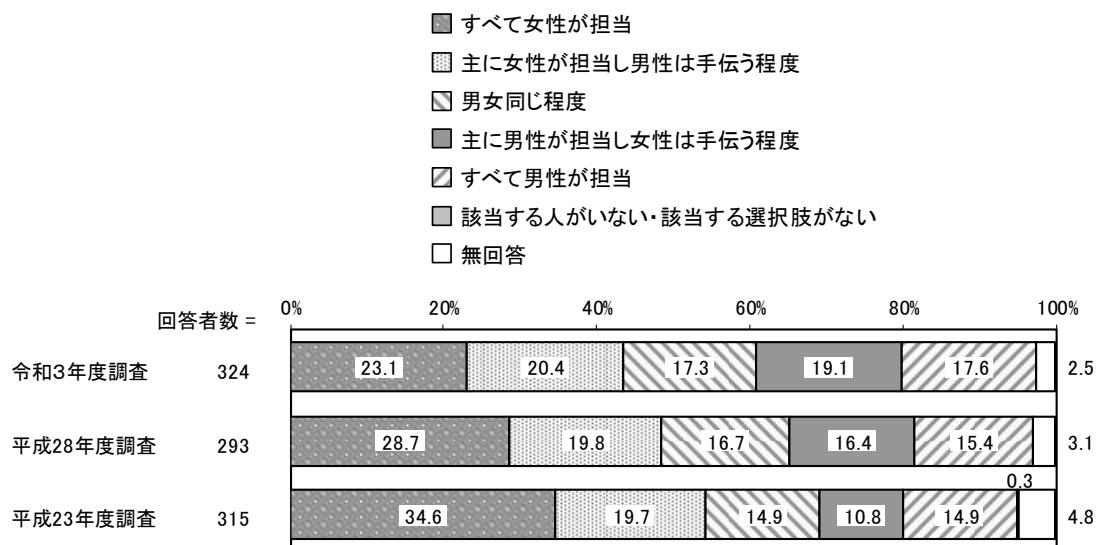
性別でみると、男性に比べ、女性で「すべて女性が担当」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「主に女性が担当して男性は手伝う程度」、「男女同じ程度」の割合が高くなっています。



⑤ゴミ出し

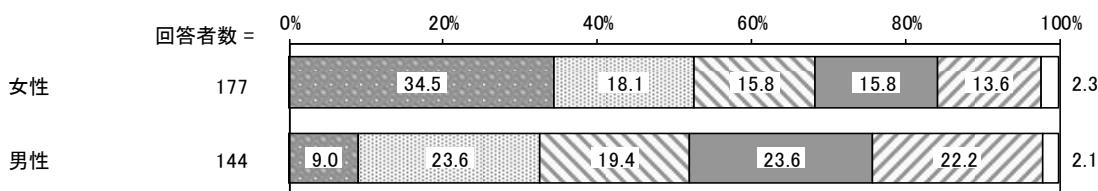
【経年比較】

平成 28 年度調査、平成 23 年度調査と比較すると、「すべて女性が担当」の割合が減少し、「主に男性が担当し女性は手伝う程度」の割合が増加する傾向がみられます。



【性 別】

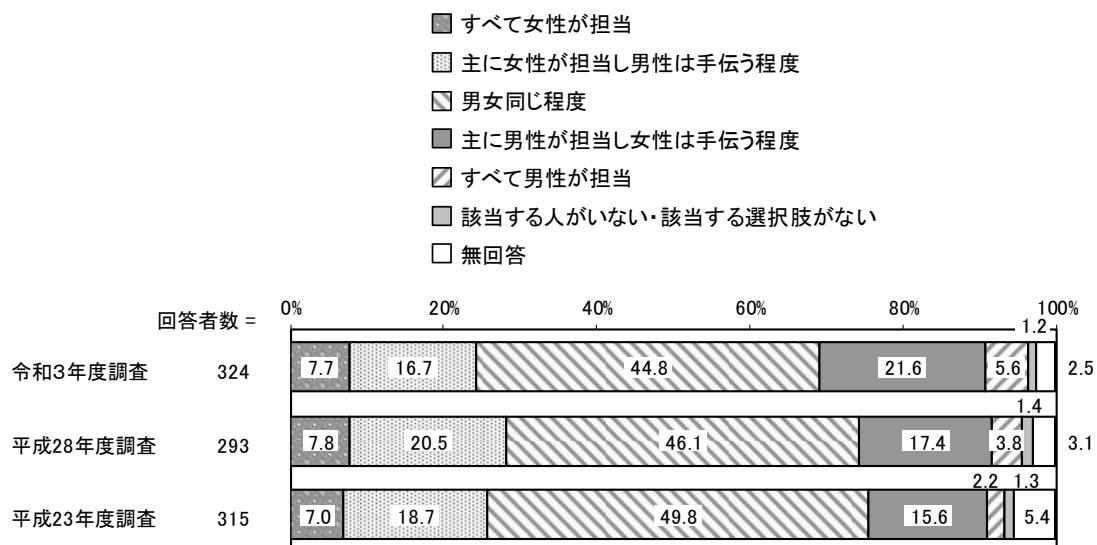
性別でみると、男性に比べ、女性で「すべて女性が担当」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「主に女性が担当して男性は手伝う程度」、「主に男性が担当して女性は手伝う程度」、「すべて男性が担当」の割合が高くなっています。



⑥近所づきあい

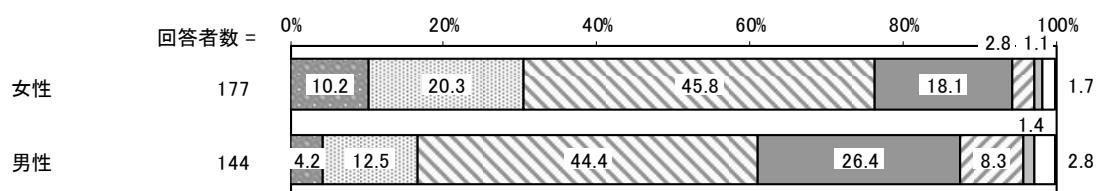
【経年比較】

平成 28 年度調査、平成 23 年度調査と比較すると、「男女同じ程度」の割合が減少し、「主に男性が担当し女性は手伝う程度」の割合が増加する傾向がみられます。



【性 別】

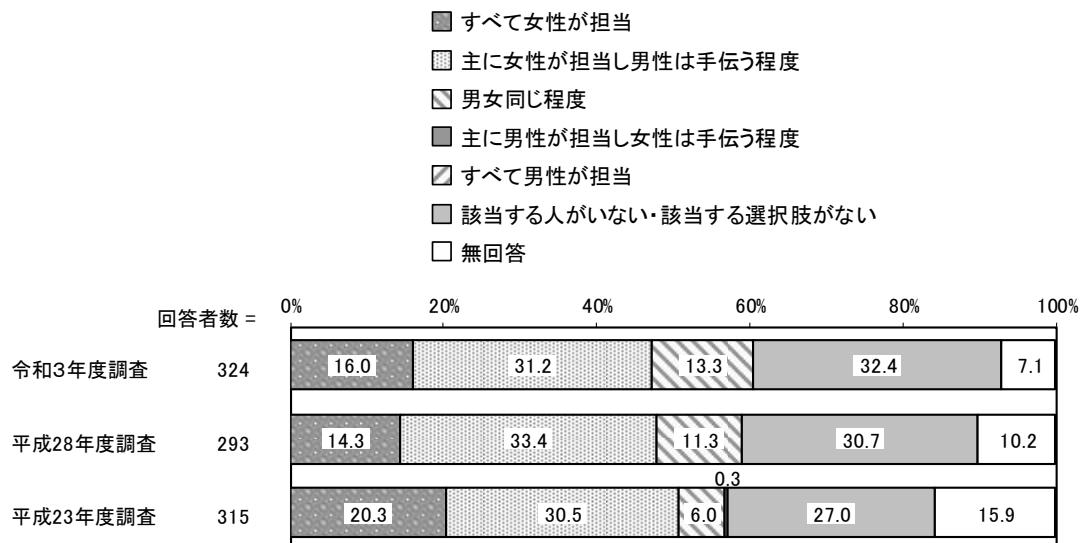
性別でみると、男女ともに「男女同じ程度」の割合が半数近くを占めています。また、男性に比べ、女性で「すべて女性が担当」、「主に女性が担当して男性は手伝う程度」の割合が高く、女性に比べ、男性で「主に男性が担当して女性は手伝う程度」、「すべて男性が担当」の割合が高くなっています。



⑦乳幼児の世話

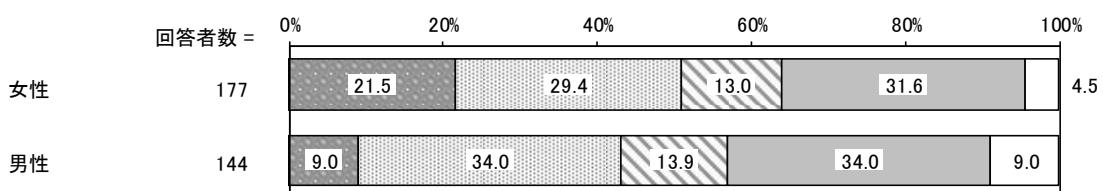
【経年比較】

平成 28 年度調査、平成 23 年度調査と比較すると、「男女同じ程度」の割合が増加する傾向がみられます。



【性 別】

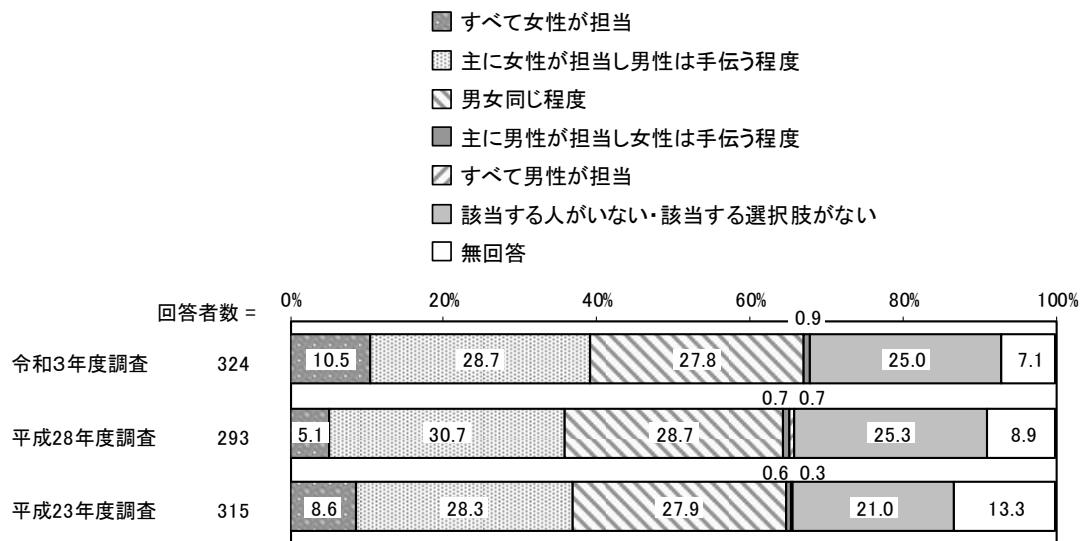
性別でみると、男性に比べ、女性で「すべて女性が担当」の割合が高くなっています。



⑧子どもの教育

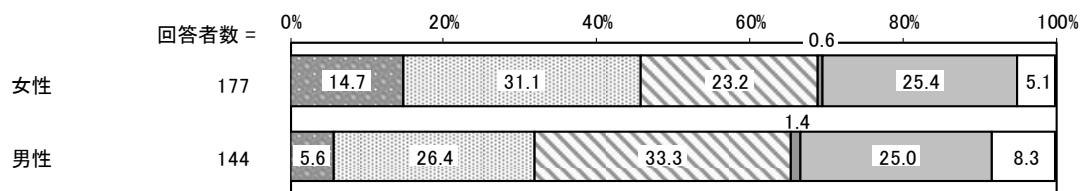
【経年比較】

平成 28 年度調査、平成 23 年度調査と比較すると、平成 28 年度調査に比べ、「すべて女性が担当」の割合が増加しています。



【性別】

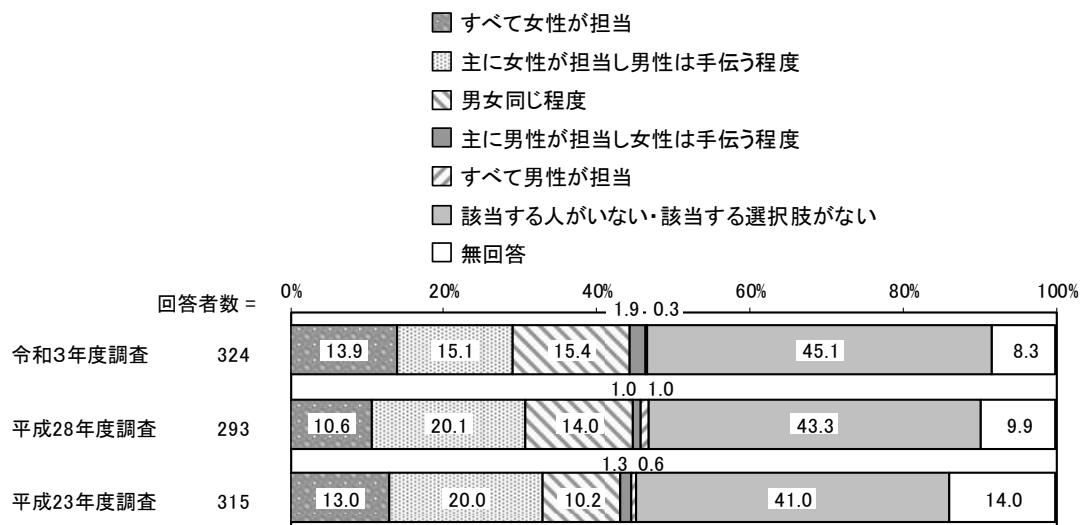
性別でみると、男性に比べ、女性で「すべて女性が担当」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「男女同じ程度」の割合が高くなっています。



⑨介護

【経年比較】

平成 28 年度調査、平成 23 年度調査と比較すると、「男女同じ程度」の割合が増加する傾向がみられます。また、平成 28 年度調査に比べ、「主に女性が担当し男性は手伝う程度」の割合が減少しています。



【性 別】

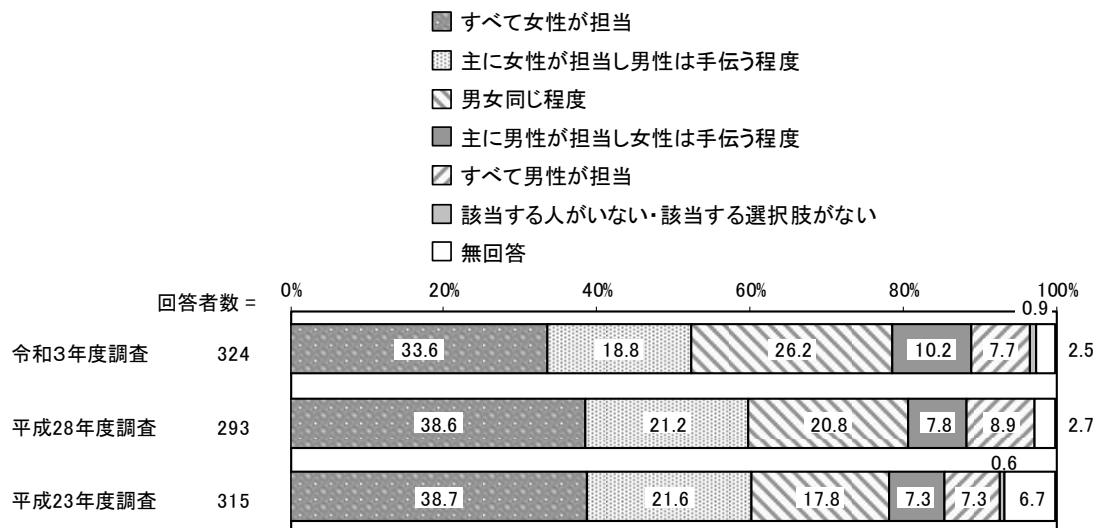
性別でみると、男性に比べ、女性で「すべて女性が担当」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「男女同じ程度」の割合が高くなっています。



⑩家計の管理

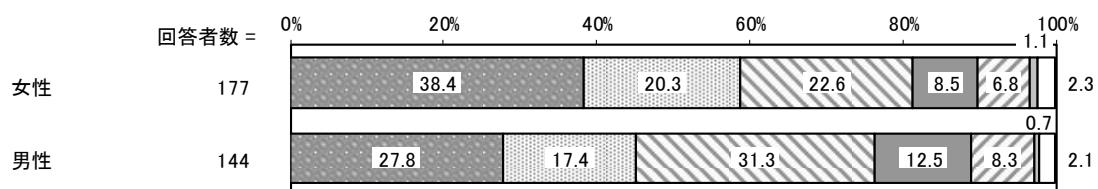
【経年比較】

平成 28 年度調査、平成 23 年度調査と比較すると、「すべて女性が担当」、「主に女性が担当し男性は手伝う程度」の割合が減少し、「男女同じ程度」の割合が増加する傾向がみられます。



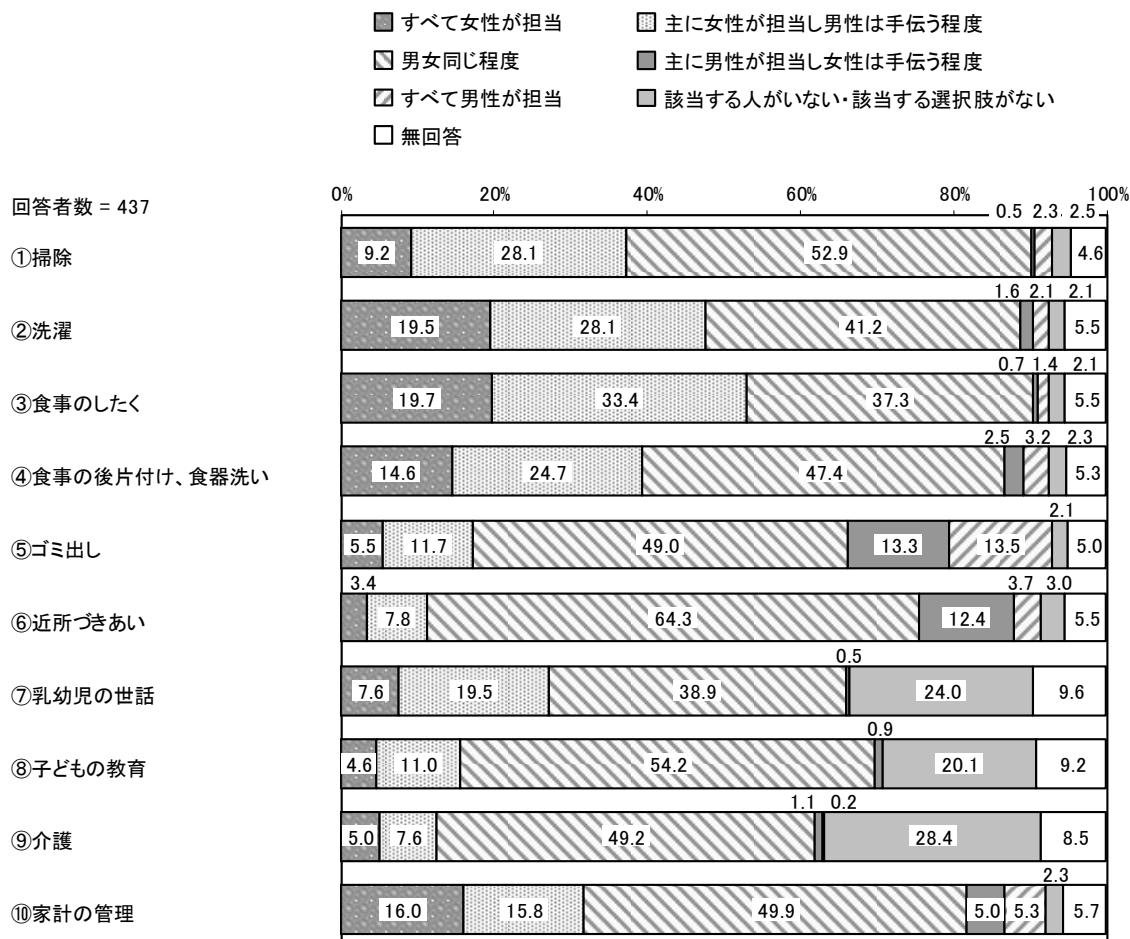
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「すべて女性が担当」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「男女同じ程度」の割合が高くなっています。



問19 あなたのご家庭での役割について、理想をお答えください。
(①から⑩でそれぞれ1つずつ〇)

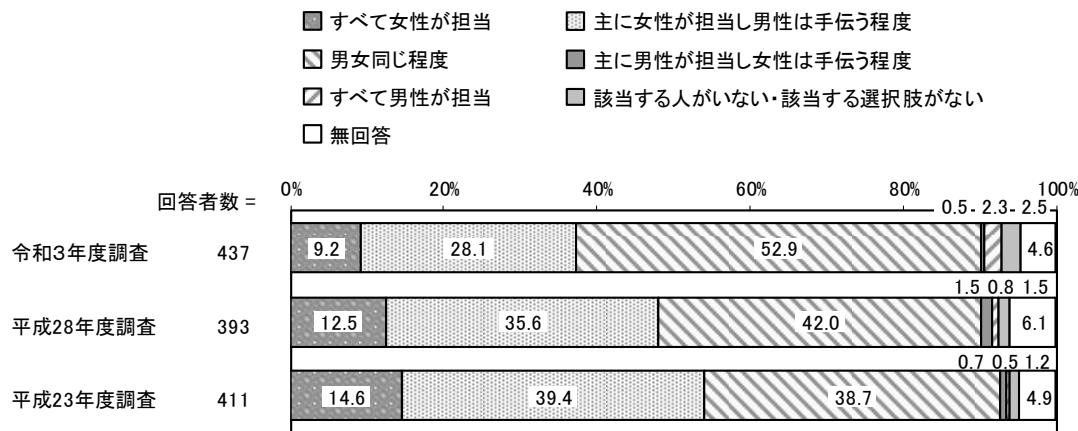
すべての項目で「男女同じ程度」の割合が高くなっています。



①掃除

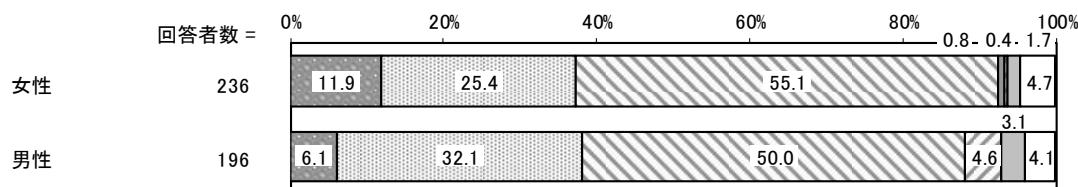
【経年比較】

平成 28 年度調査、平成 23 年度調査と比較すると、「すべて女性が担当」、「主に女性が担当し男性は手伝う程度」の割合が減少し、「男女同じ程度」の割合が増加する傾向がみられます。



【性 別】

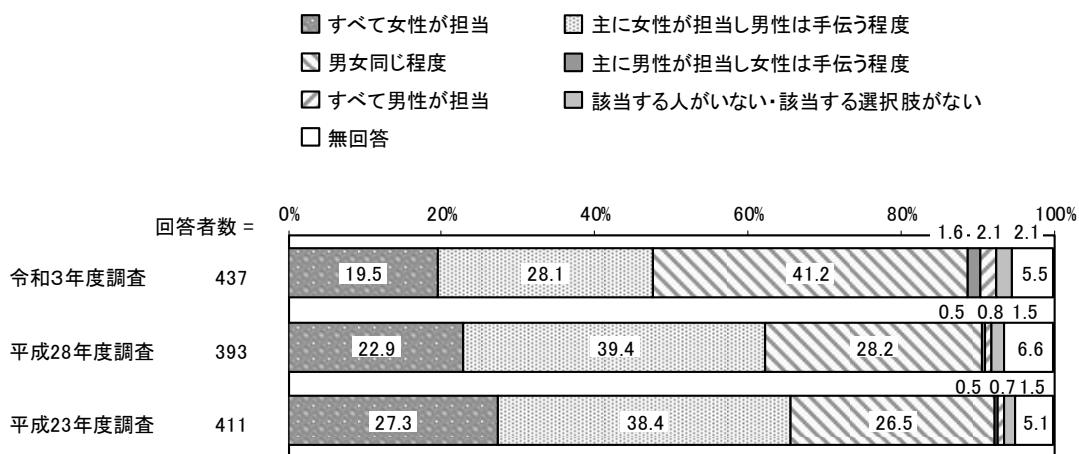
性別でみると、男性に比べ、女性で「すべて女性が担当」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「主に女性が担当し男性は手伝う程度」の割合が高くなっています。



②洗濯

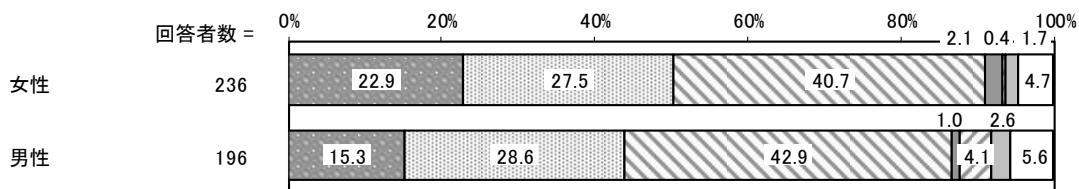
【経年比較】

平成 28 年度調査、平成 23 年度調査と比較すると、「すべて女性が担当」、「主に女性が担当し男性は手伝う程度」の割合が減少し、「男女同じ程度」の割合が増加する傾向がみられます。



【性 別】

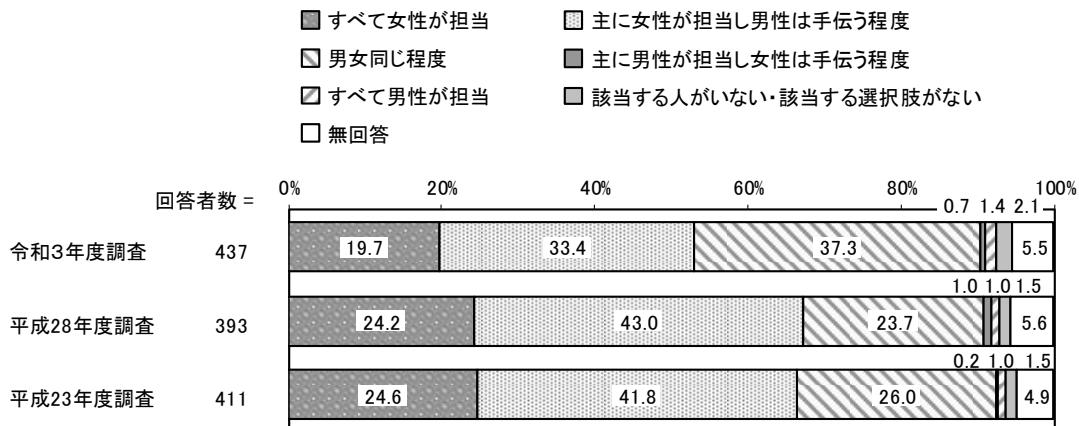
性別でみると、男性に比べ、女性で「すべて女性が担当」の割合が高くなっています。



③食事のしたく

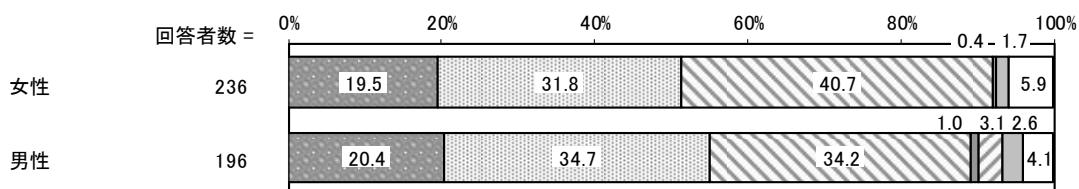
【経年比較】

平成 28 年度調査、平成 23 年度調査と比較すると、平成 28 年度調査に比べ、「すべて女性が担当」、「主に女性が担当し男性は手伝う程度」の割合が減少し、「男女同じ程度」の割合が増加しています。



【性 別】

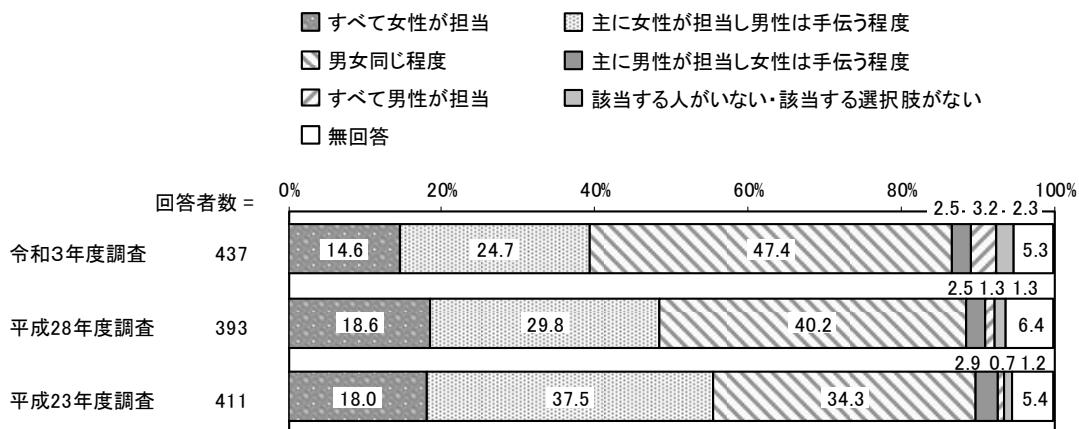
性別でみると、男性に比べ、女性で「男女同じ程度」の割合が高くなっています。



④食事の後片付け、食器洗い

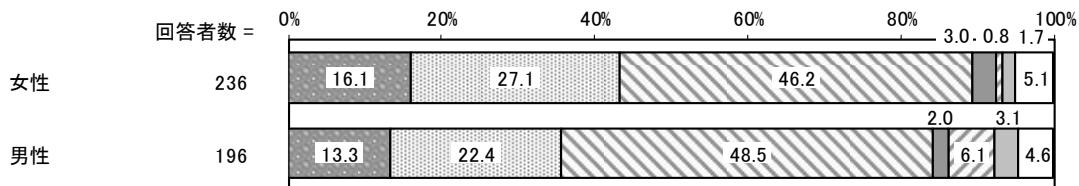
【経年比較】

平成 28 年度調査、平成 23 年度調査と比較すると、「主に女性が担当し男性は手伝う程度」の割合が減少し、「男女同じ程度」の割合が増加する傾向がみられます。



【性 別】

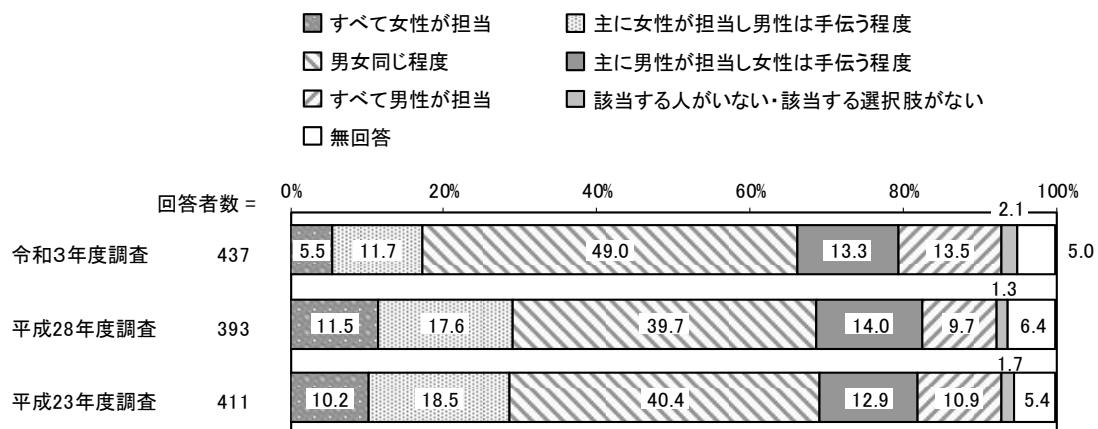
性別でみると、大きな差異はみられません。



⑤ゴミ出し

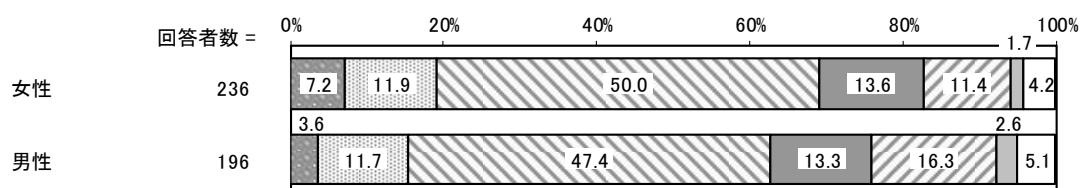
【経年比較】

平成 28 年度調査、平成 23 年度調査と比較すると、「主に女性が担当し男性は手伝う程度」の割合が減少する傾向がみられます。また、平成 28 年度調査に比べ、「男女同じ程度」の割合が増加し、「すべて女性が担当」の割合が減少しています。



【性 別】

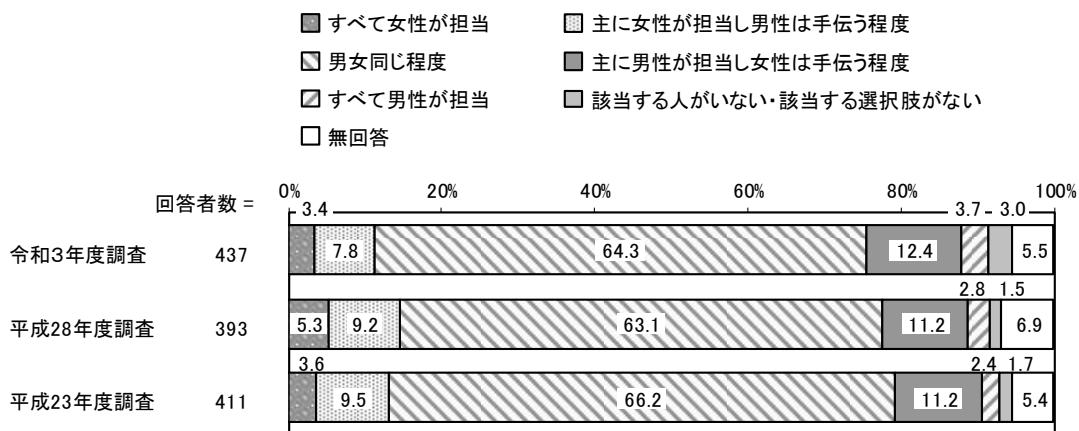
性別でみると、大きな差異はみられません。



⑥近所づきあい

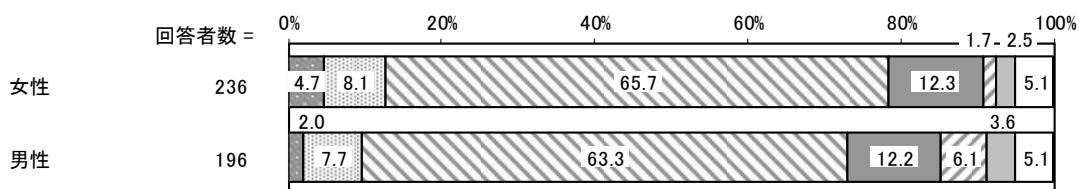
【経年比較】

平成 28 年度調査、平成 23 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性 別】

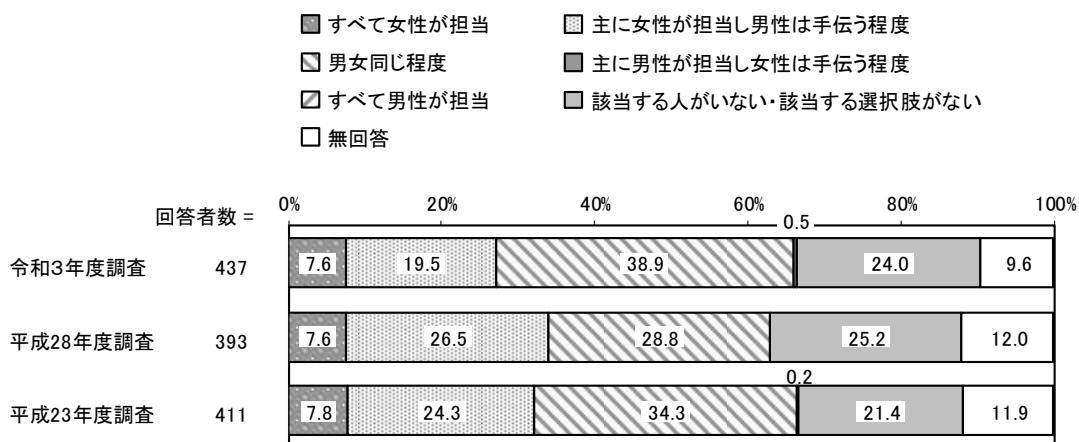
性別でみると、大きな差異はみられません。



⑦乳幼児の世話

【経年比較】

平成 28 年度調査、平成 23 年度調査と比較すると、平成 28 年度調査に比べ、「主に女性が担当し男性は手伝う程度」の割合が減少し、「男女同じ程度」の割合が増加しています。



【性 別】

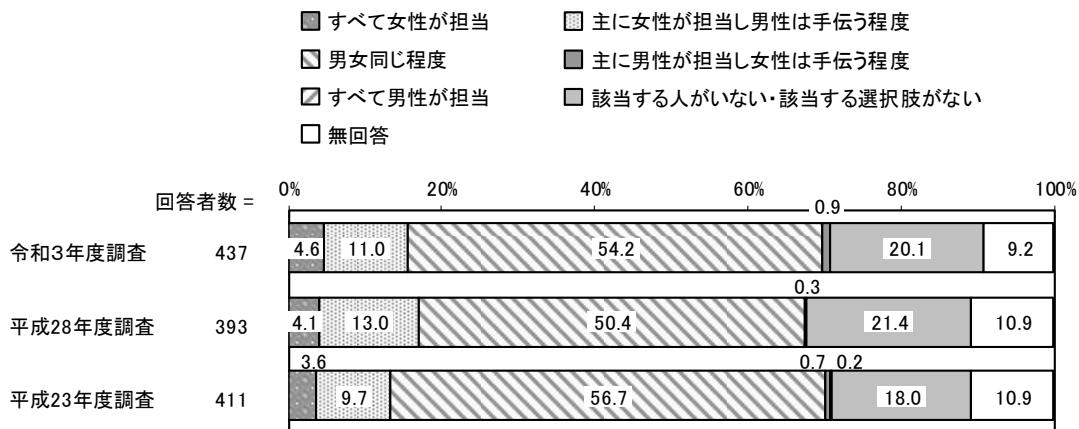
性別でみると、男性に比べ、女性で「男女同じ程度」の割合が高くなっています。



⑧子どもの教育

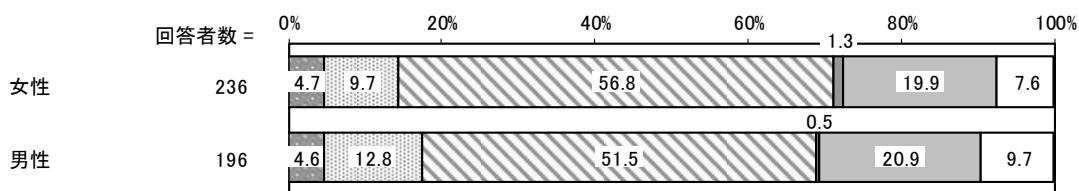
【経年比較】

平成 28 年度調査、平成 23 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性 別】

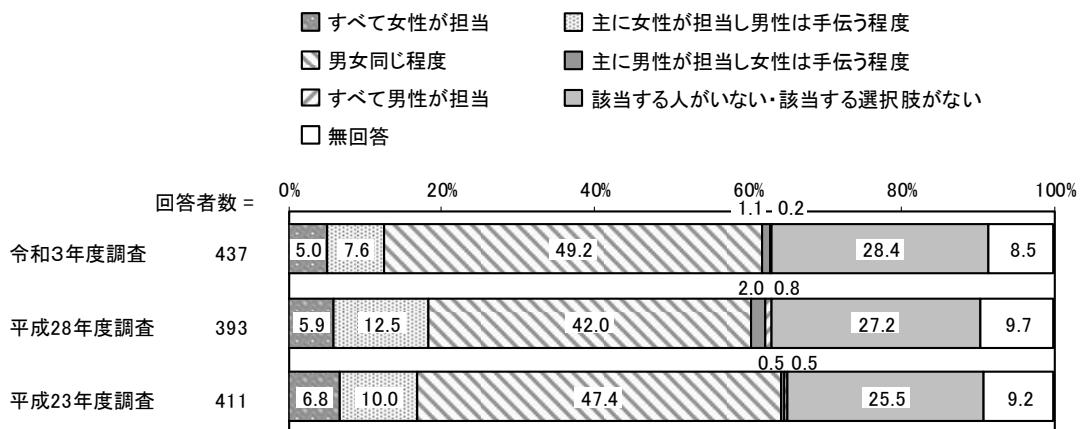
性別でみると、男性に比べ、女性で「男女同じ程度」の割合が高くなっています。



⑨介護

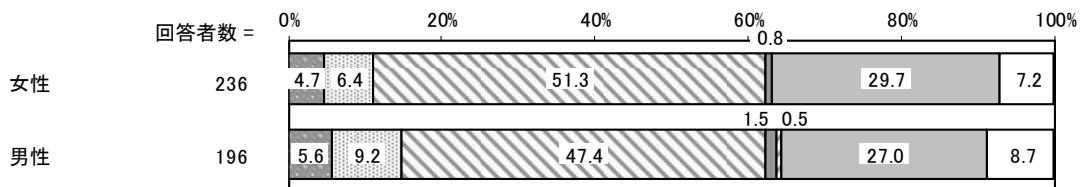
【経年比較】

平成 28 年度調査、平成 23 年度調査と比較すると、平成 28 年度調査に比べ、「男女同じ程度」の割合が増加しています。



【性 別】

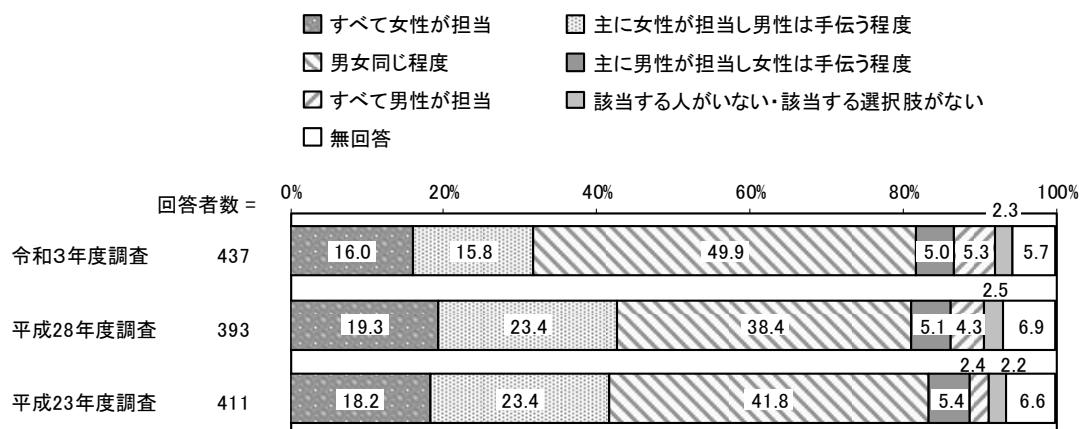
性別でみると、大きな差異はみられません。



⑩家計の管理

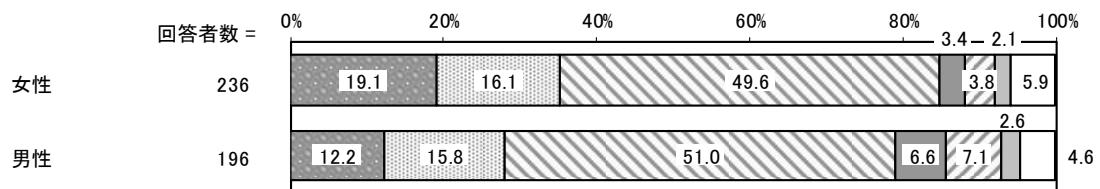
【経年比較】

平成 28 年度調査、平成 23 年度調査と比較すると、平成 28 年度調査に比べ、「主に女性が担当し男性は手伝う程度」の割合が減少し、「男女同じ程度」の割合が増加しています。



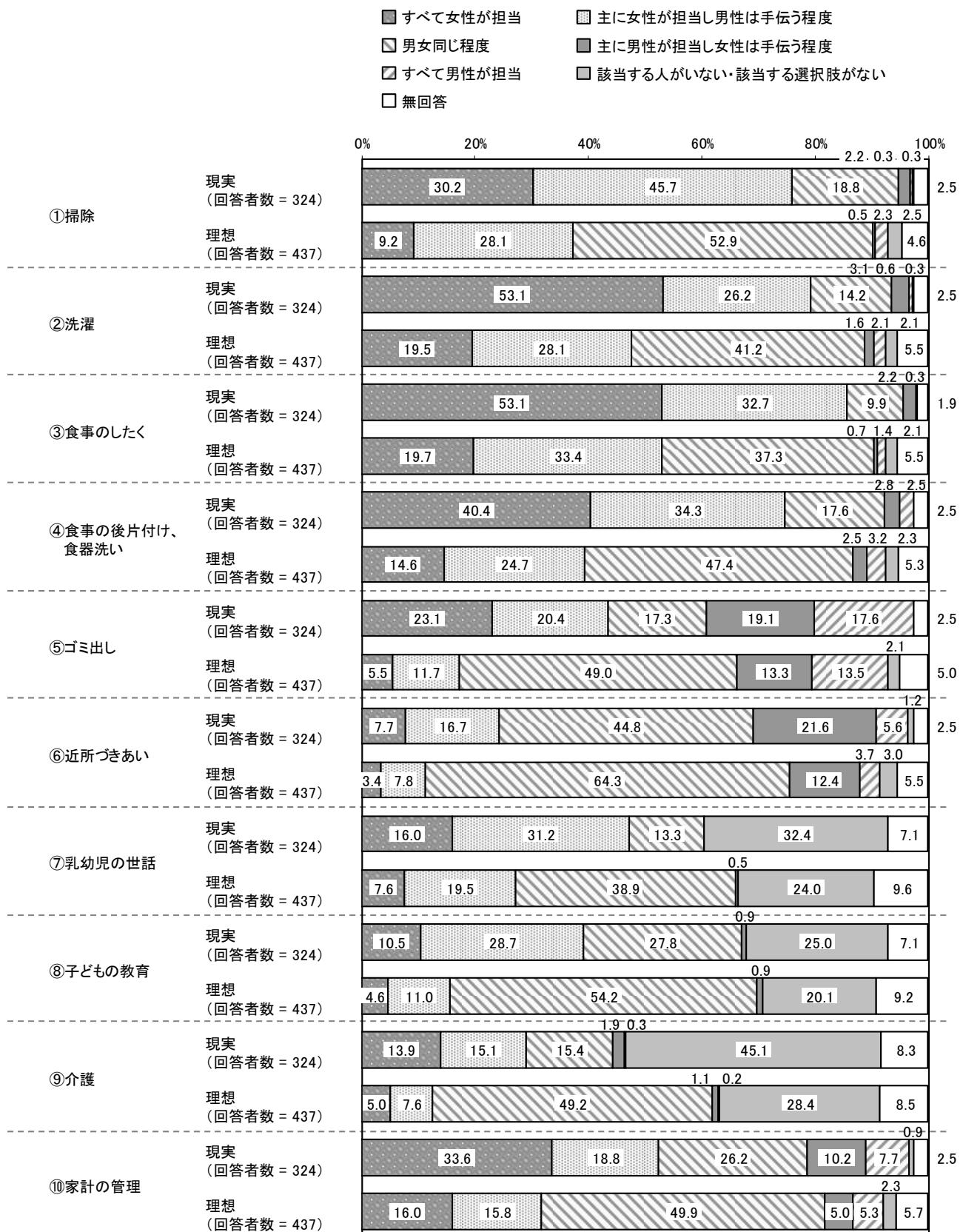
【性 別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「すべて女性が担当」の割合が高くなっています。



【家庭での役割について、現実と理想の比較】

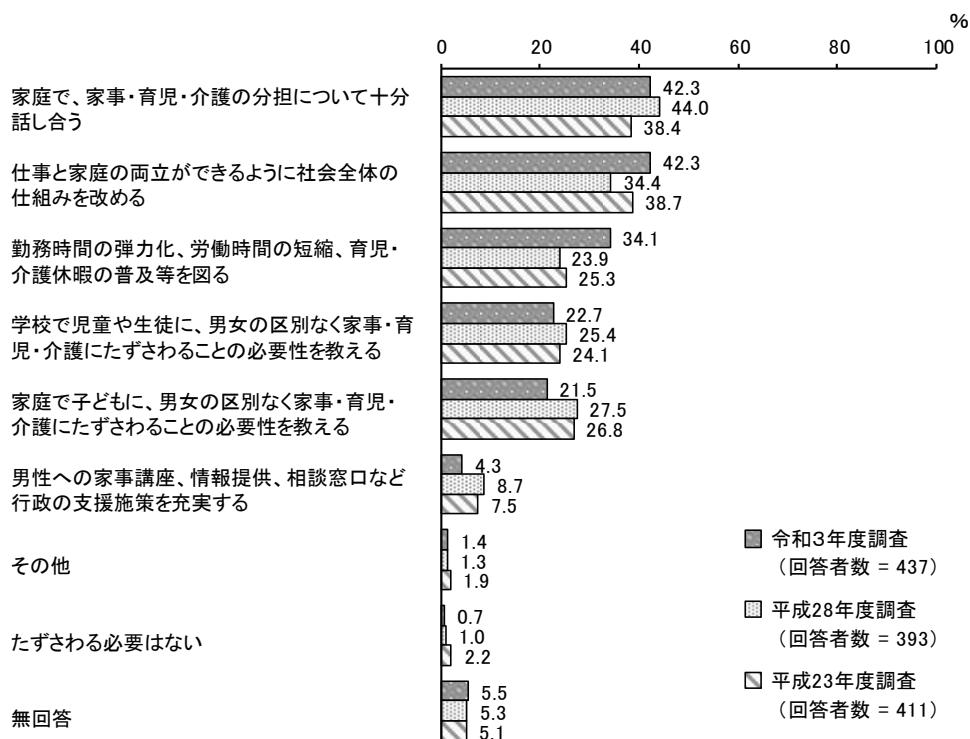
現実と理想を比べると、現実の全ての項目で「男女同じ程度」の割合が理想よりも低くなっています。



問20 男性が家事・育児・介護にたずさわるためには、どのようにしたらよいと思いま
すか。(2つまで○)

「家庭で、家事・育児・介護の分担について十分話し合う」、「仕事と家庭の両立ができるよう
に社会全体の仕組みを改める」の割合が42.3%と最も高く、次いで「勤務時間の弾力化、労働時
間の短縮、育児・介護休暇の普及等を図る」の割合が34.1%となっています。

平成28年度調査と比較すると、「勤務時間の弾力化、労働時間の短縮、育児・介護休暇の普及
等を図る」の割合が増加しています。一方、「家庭で子どもに、男女の区別なく家事・育児・介護
にたずさわることの必要性を教える」の割合が減少しています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「学校で児童や生徒に、男女の区別なく家事・育児・介護にたずさわることの必要性を教える」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「仕事と家庭の両立ができるように社会全体の仕組みを改める」、「勤務時間の弾力化、労働時間の短縮、育児・介護休暇の普及等を図る」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	家庭で、家事・育児・介護の分担について十分話し合う	仕事と家庭の両立ができるように社会全体の仕組みを改める	勤務時間の弾力化、労働時間の短縮、育児・介護休暇の普及等を図る	家庭で子どもに、男女の区別なく家事・育児・介護にたずさわることの必要性を教える	学校で児童や生徒に、男女の区別なく家事・育児・介護にたずさわることの必要性を教える	男性への家事講座、情報提供、相談窓口など行政の支援施策を充実する	その他	たずさわる必要はない	無回答
女性	236	42.4	39.8	30.1	22.5	26.3	3.8	0.4	0.8	5.5
男性	196	42.3	46.4	39.8	19.9	18.4	5.1	2.6	0.5	4.6

【年代別】

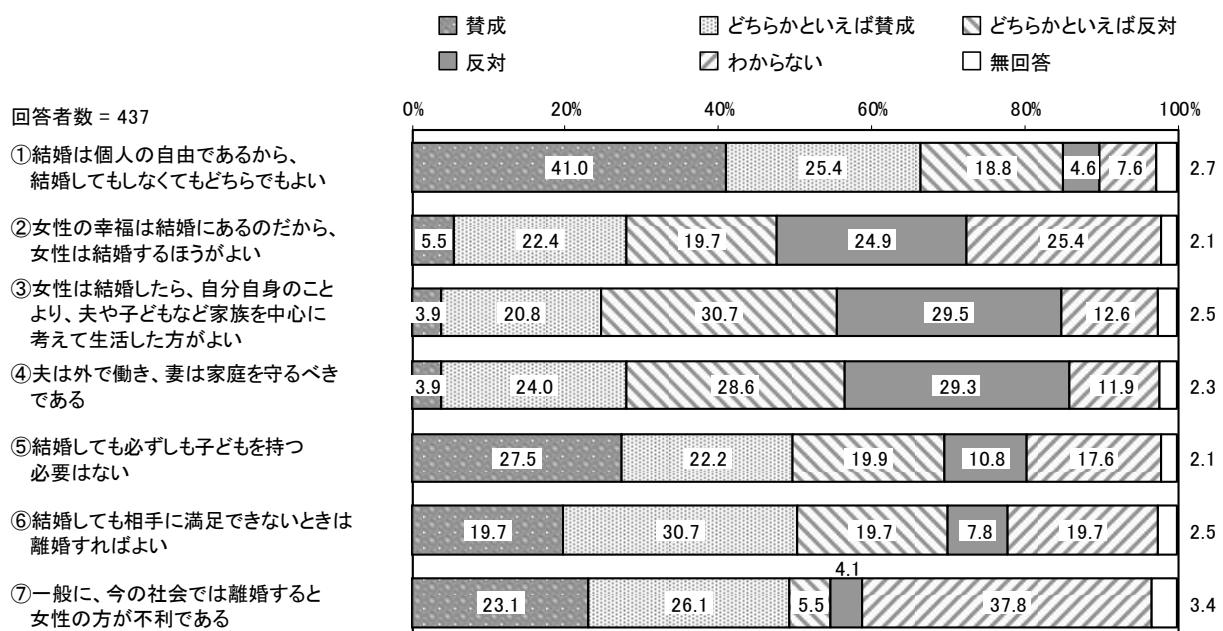
年代別でみると、他に比べ、20～40代で「仕事と家庭の両立ができるように社会全体の仕組みを改める」の割合が、60代以上で「家庭で子どもに、男女の区別なく家事・育児・介護に参加することの必要性を教える」の割合が高くなっています。また、20代、30代で「勤務時間の弾力化、労働時間の短縮、育児・介護休暇の普及等を図る」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	家庭で、家事・育児・介護の分担について十分話し合う	仕事と家庭の両立ができるように社会全体の仕組みを改める	勤務時間の弾力化、労働時間の短縮、育児・介護休暇の普及等を図る	家庭で子どもに、男女の区別なく家事・育児・介護にたずさわることの必要性を教える	学校で児童や生徒に、男女の区別なく家事・育児・介護にたずさわることの必要性を教える	男性への家事講座、情報提供、相談窓口など行政の支援施策を充実する	その他	たずさわる必要はない	無回答
20代	39	28.2	64.1	48.7	7.7	15.4	7.7	—	—	2.6
30代	52	32.7	53.8	48.1	15.4	25.0	1.9	1.9	—	—
40代	52	40.4	53.8	38.5	17.3	28.8	—	1.9	—	1.9
50代	68	45.6	36.8	41.2	19.1	20.6	5.9	4.4	1.5	1.5
60代以上	221	46.2	35.3	25.8	26.7	22.2	4.5	0.5	0.9	9.5

問21 結婚、家庭、離婚について、あなたのご意見に最も近いものをお答え下さい。
(①から⑥でそれぞれ1つずつ〇)

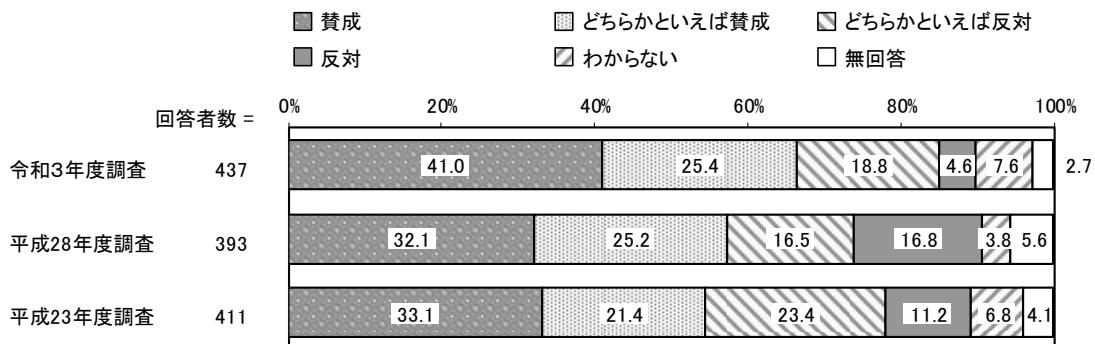
『①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくともどちらでもよい』『⑤結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない』『⑥結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい』『⑦一般に、今の社会では離婚すると女性の方が不利である』で「賛成」と「どちらかといえば賛成」をあわせた“賛成”的割合が、『②女性の幸福は結婚にあるのだから、女性は結婚するほうがよい』『③女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい』『④夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』で「どちらかといえば反対」と「反対」をあわせた“反対”的割合が高くなっています。



①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくともどちらでもよい

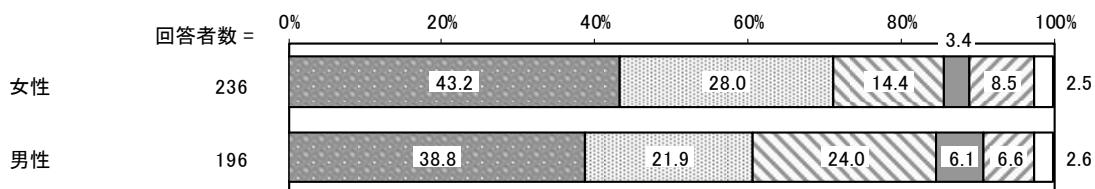
【経年比較】

平成 28 年度調査、平成 23 年度調査と比較すると、“賛成” の割合が増加する傾向がみられます。



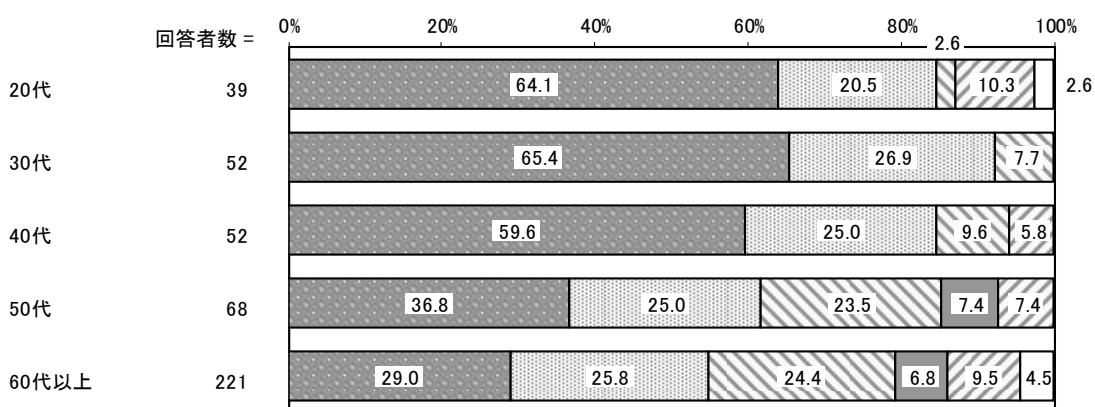
【性 別】

性別でみると、男性に比べ、女性で “賛成” の割合が高くなっています。



【年代別】

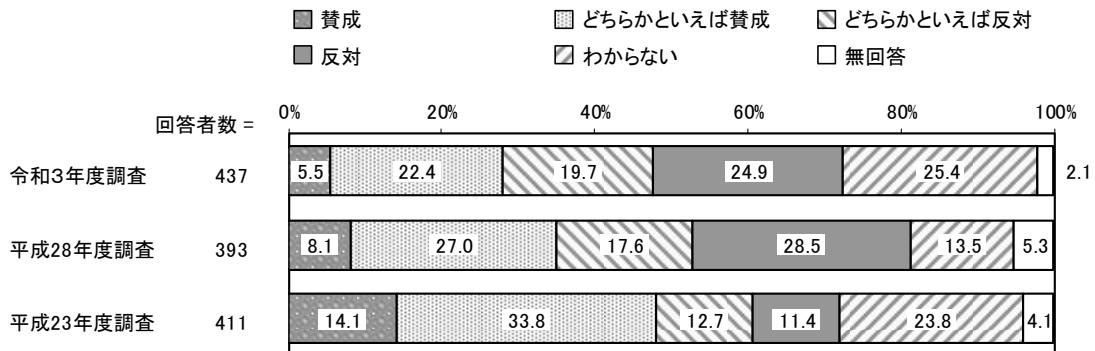
年代別でみると、他に比べ、20～40 代で “賛成” の割合が高く、特に 30 代で 9 割を超えていきます。また、50 代以上で “反対” の割合が高くなっています。



②女性の幸福は結婚にあるのだから、女性は結婚するほうがよい

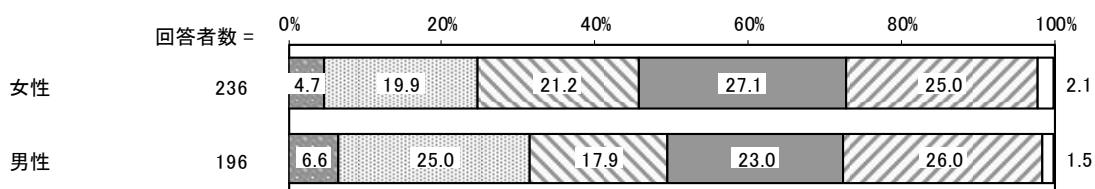
【経年比較】

平成 28 年度調査、平成 23 年度調査と比較すると、“賛成”の割合が減少する傾向がみられます。



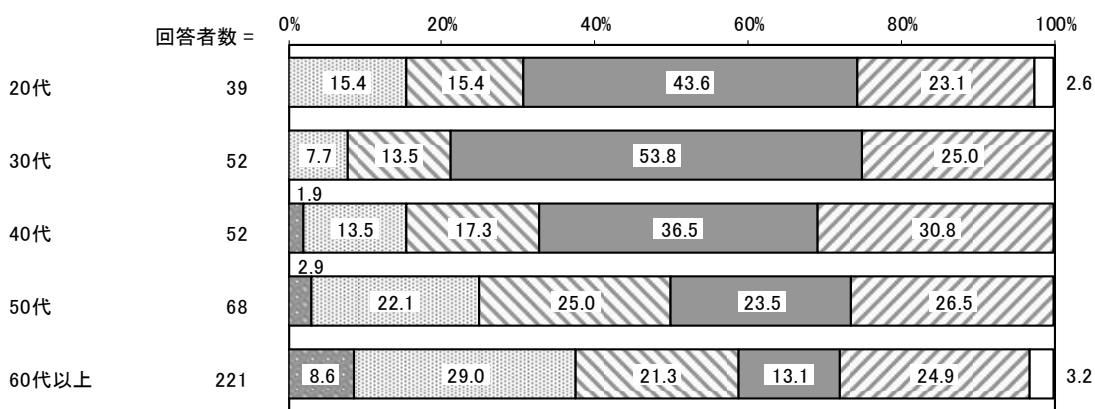
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“反対”的割合が高くなっています。



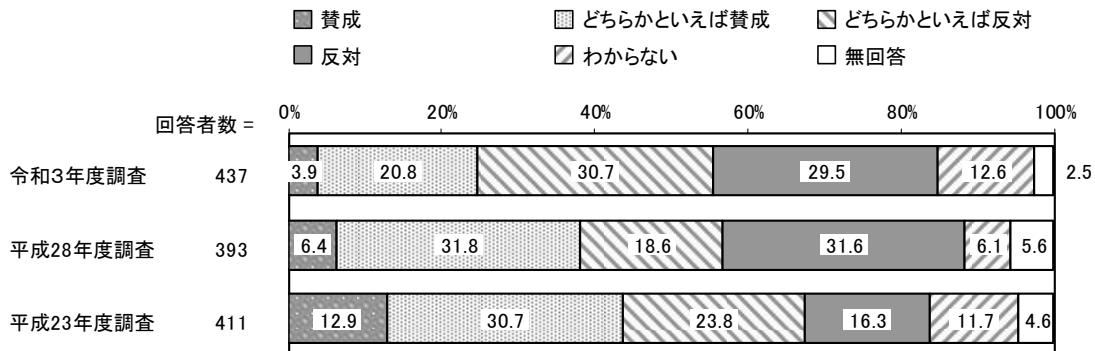
【年代別】

年代別でみると、他に比べ、60 代以上で“賛成”的割合が高くなっています。また、30 代では“反対”的割合が高くなっています。



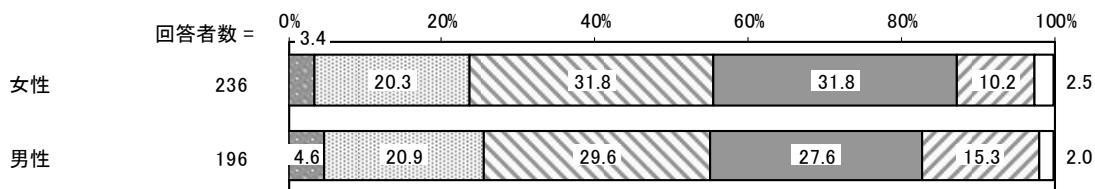
③女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい
【経年比較】

平成 28 年度調査、平成 23 年度調査と比較すると、“賛成”の割合が減少し、“反対”的割合が増加する傾向がみられます。



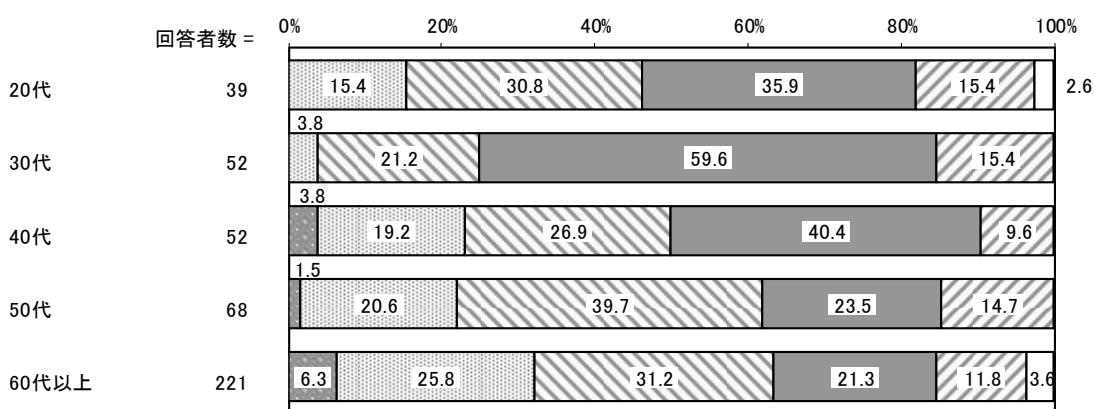
【性 別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“反対”的割合が高くなっています。



【年代別】

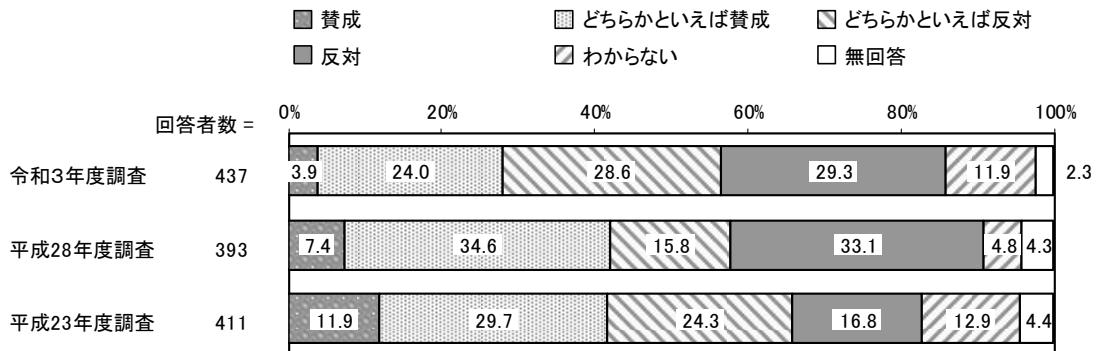
年代別でみると、他に比べ、60 代以上で“賛成”的割合が高くなっています。また、30 代では“反対”的割合が高くなっています。



④夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

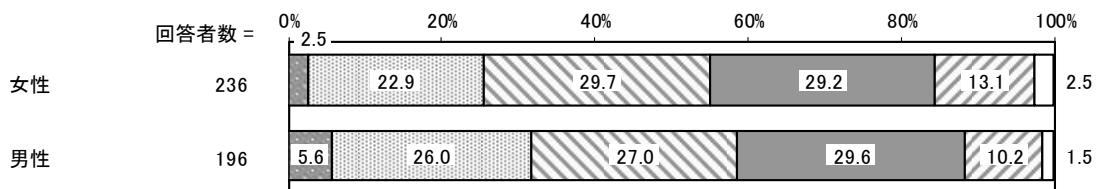
【経年比較】

平成 28 年度調査、平成 23 年度調査と比較すると、“反対”の割合が増加し、“賛成”の割合が減少する傾向がみられます。



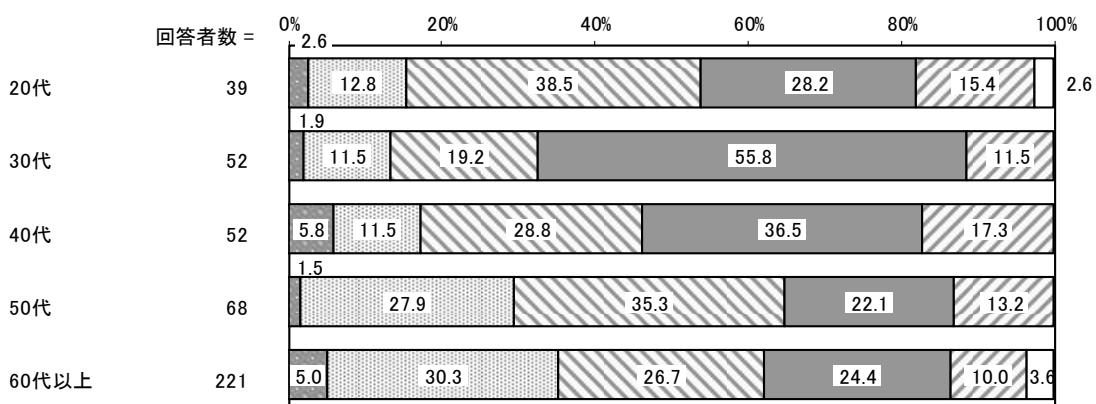
【性 別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“賛成”的割合が高くなっています。



【年代別】

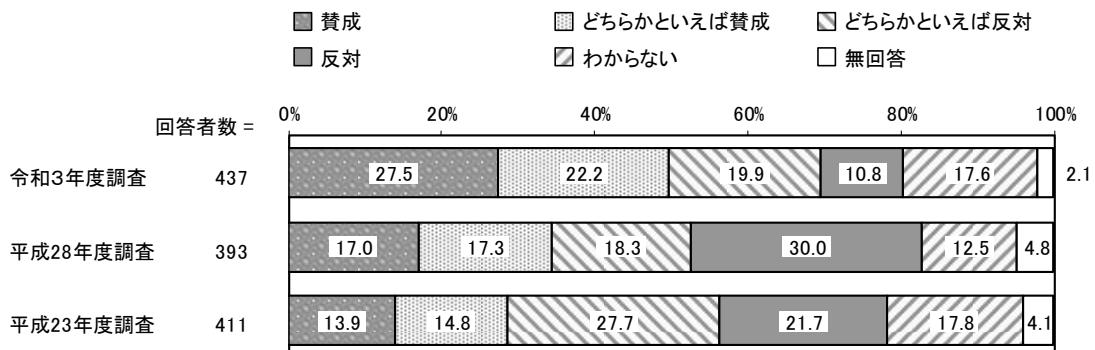
年代別でみると、他に比べ、60 代以上で“賛成”的割合が高くなっています。また、30 代では“反対”的割合が高くなっています。



⑤結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない

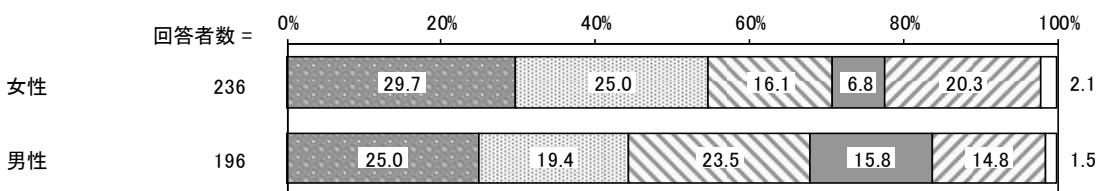
【経年比較】

平成 28 年度調査、平成 23 年度調査と比較すると、“賛成”の割合が増加し、“反対”の割合が減少する傾向がみられます。



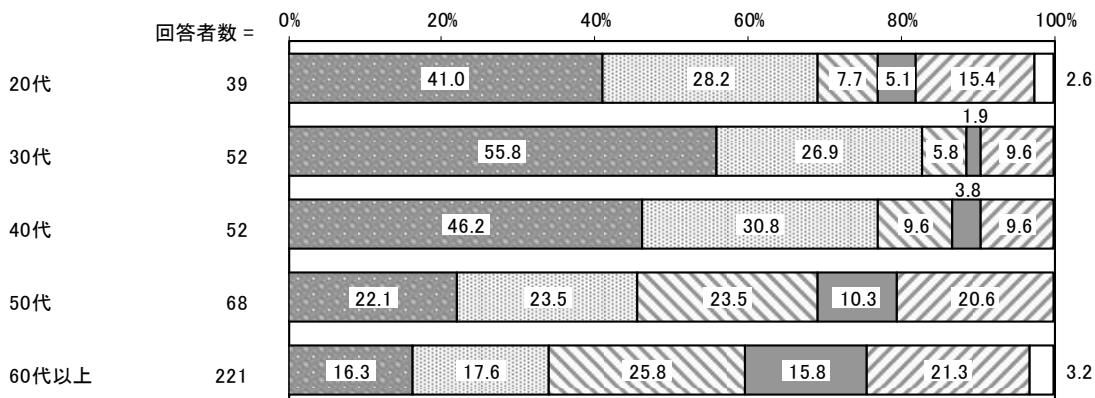
【性 別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“賛成”的割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で“反対”的割合が高くなっています。



【年代別】

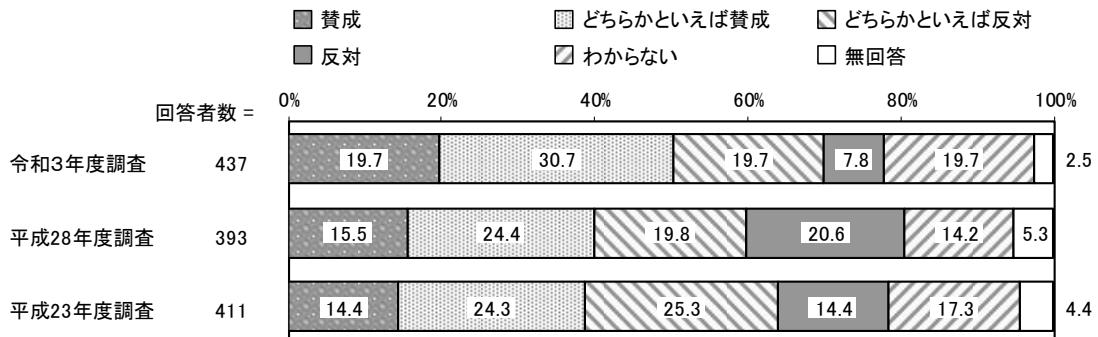
年代別でみると、他に比べ、20~40代で“賛成”的割合が高くなっています。また、60代以上で“反対”的割合が高くなっています。



⑥結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい

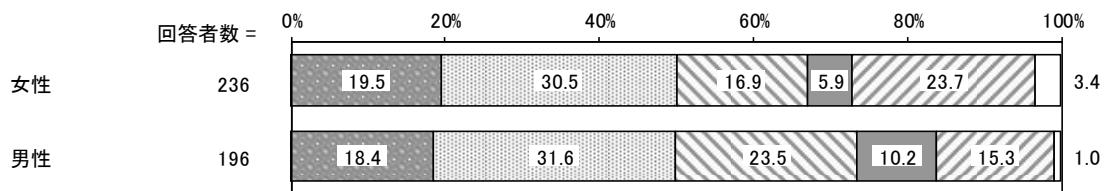
【経年比較】

平成 28 年度調査、平成 23 年度調査と比較すると、“賛成”の割合が増加する傾向がみられます。また、平成 28 年度調査に比べ、“反対”の割合が減少しています。



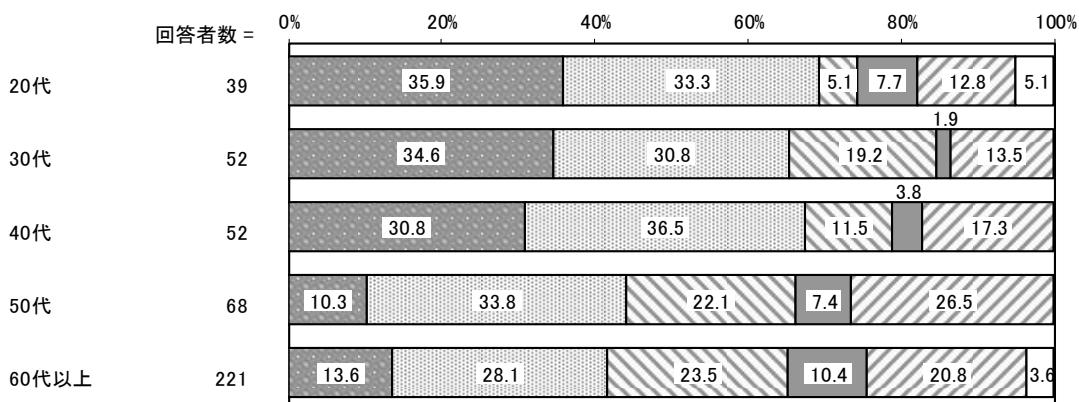
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“反対”的割合が高くなっています。



【年代別】

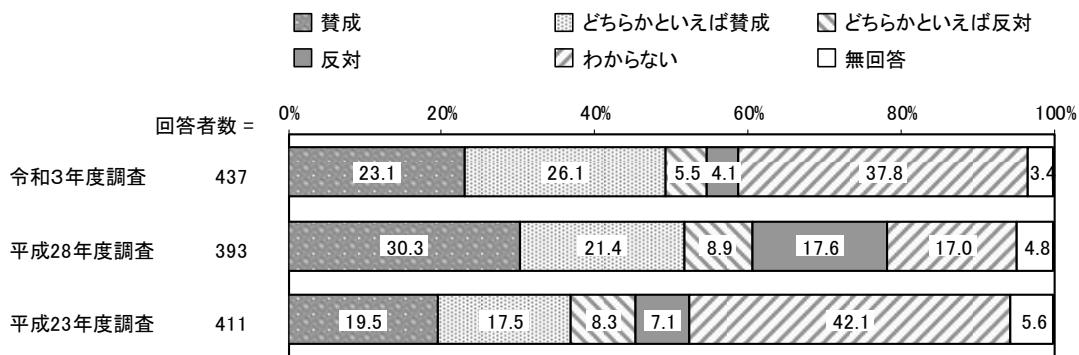
年代別でみると、他に比べ、20~40 代で“賛成”的割合が高くなっています。



⑦一般に、今の社会では離婚すると女性の方が不利である

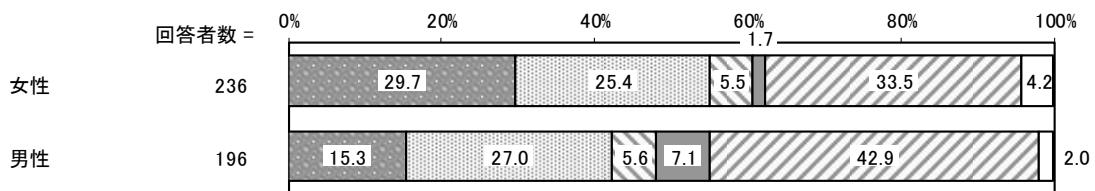
【経年比較】

平成 28 年度調査、平成 23 年度調査と比較すると、平成 23 年度調査に比べ、“賛成”の割合が増加しています。また、平成 28 年度調査に比べ、“反対”の割合が減少し、「わからない」の割合が増加しています。



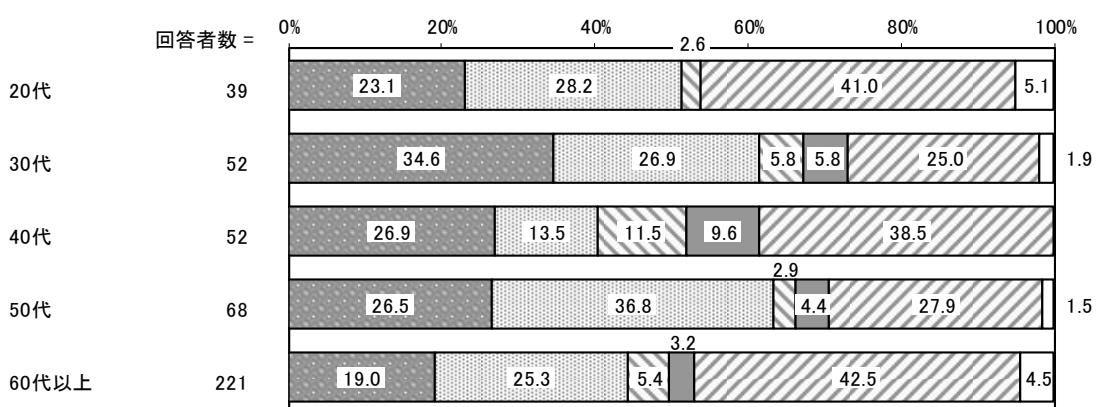
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“賛成”的割合が高くなっています。



【年代別】

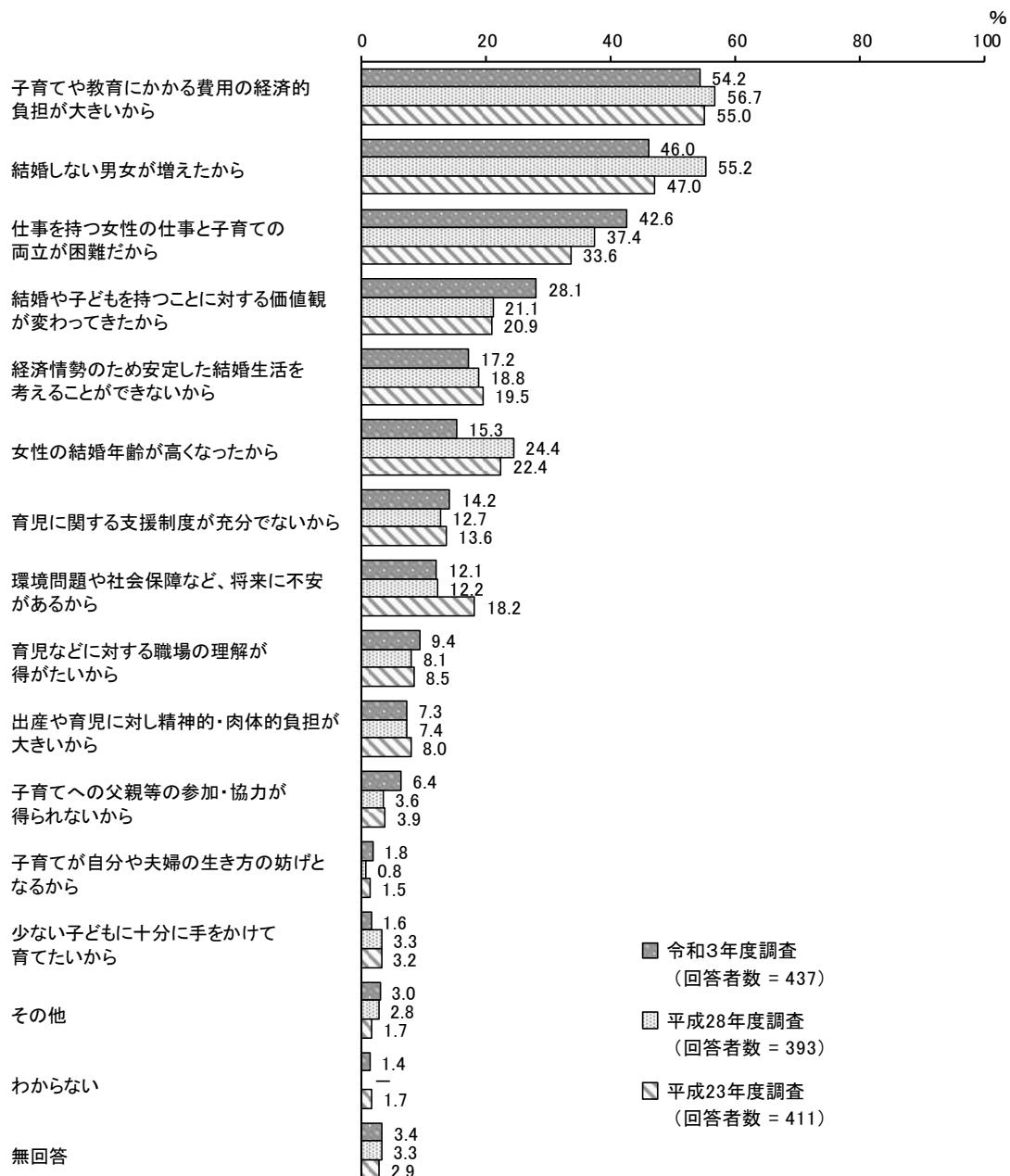
年代別でみると、他に比べ、30 代、50 代で“賛成”的割合が、40 代で“反対”的割合が高くなっています。また、すべての年代で「わからない」の割合が高くなっています。



問22 少子化が社会問題となっています。あなたが特に大きな要因と思うのはどれですか。(3つまで○)

「子育てや教育にかかる費用の経済的負担が大きいから」の割合が 54.2% と最も高く、次いで「結婚しない男女が増えたから」の割合が 46.0%、「仕事を持つ女性の仕事と子育ての両立が困難だから」の割合が 42.6% となっています。

平成 23 年度調査、平成 28 年度調査と比較すると、「仕事を持つ女性の仕事と子育ての両立が困難だから」、「結婚や子どもを持つことに対する価値観が変わってきたから」の割合は増加傾向がみられます。一方、平成 28 年度と比較すると、「結婚しない男女が増えたから」、「女性の結婚年齢が高くなつたから」の割合が減少しています。



※平成 28 年度調査では「わからない」の選択肢はありませんでした。

【性 別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「仕事を持つ女性の仕事と子育ての両立が困難だから」、「女性の結婚年齢が高くなつたから」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「経済情勢のため安定した結婚生活を考えることができないから」、「育児などに対する職場の理解が得がたいから」、「育児に関する支援制度が充分でないから」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	子育てや教育にかかる費用の経済的負担が大きいから	経済情勢のため安定した結婚生活を考えことができないから	子育てへの父親等の参加・協力が得られないから	仕事を持つ女性の仕事と子育ての両立が困難だから	育児などに対する職場の理解が得がたいから	育児に関する支援制度が充分でないから	結婚しない男女が増えたから	女性の結婚年齢が高くなつたから
女性	236	52.5	11.0	7.6	48.3	7.2	10.2	43.2	19.9
男性	196	57.7	25.0	5.1	35.2	12.2	19.4	49.0	9.7

区分	出産や育児に対し精神的・肉体的負担が大きいから	結婚や子どもを持つことに対する価値観が変わってきたから	少ない子どもに十分に手をかけて育てたいから	子育てが自分や夫婦の生き方の妨げとなるから	環境問題や社会保障など、将来に不安があるから	その他	わからない	無回答
女性	8.5	28.0	2.5	0.4	10.2	3.0	1.7	4.2
男性	6.1	28.6	0.5	3.6	14.8	3.1	1.0	1.5

【年代別】

年代別でみると、他に比べ、20代、40代で「子育てや教育にかかる費用の経済的負担が大きいから」の割合が、30代で「仕事を持つ女性の仕事と子育ての両立が困難だから」、「育児などに対する職場の理解が得がたいから」の割合が、50代で「経済情勢のため安定した結婚生活を考えることができないから」の割合が高くなっています。また、30代を除く各世代で「結婚しない男女が増えたから」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	子育てや教育にかかる費用の経済的負担が大きいから	経済情勢のため安定した結婚生活を考えことができないから	子育てへの父親等の参加・協力が得られないから	仕事を持つ女性の仕事と子育ての両立が困難だから	育児などに対する職場の理解が得がたいから	育児に関する支援制度が充分でないから	結婚しない男女が増えたから	女性の結婚年齢が高くなつたから
20代	39	74.4	15.4	7.7	46.2	12.8	10.3	41.0	10.3
30代	52	59.6	17.3	9.6	53.8	19.2	11.5	28.8	19.2
40代	52	73.1	13.5	7.7	34.6	7.7	13.5	40.4	13.5
50代	68	39.7	25.0	5.9	38.2	10.3	16.2	45.6	19.1
60代以上	221	50.2	15.8	5.4	42.5	6.8	15.4	52.0	14.5

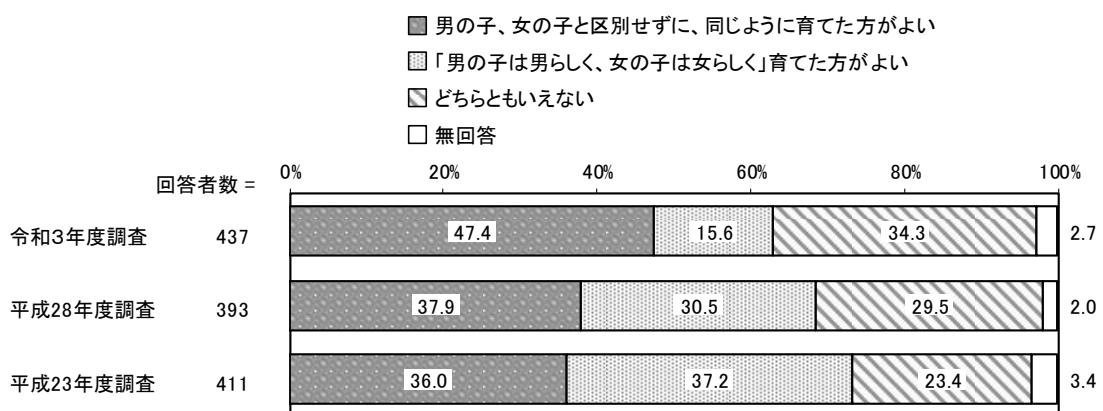
区分	出産や育児に対し精神的・肉体的負担が大きいから	結婚や子どもを持つことに対する価値観が変わってきたから	少ない子どもに十分に手をかけて育てたいから	子育てが自分や夫婦の生き方の妨げとなるから	環境問題や社会保障など、将来に不安があるから	その他	わからない	無回答
20代	10.3	23.1	2.6	7.7	10.3	—	2.6	2.6
30代	7.7	32.7	—	1.9	9.6	5.8	—	—
40代	7.7	26.9	—	—	17.3	5.8	1.9	—
50代	7.4	36.8	—	1.5	5.9	2.9	1.5	1.5
60代以上	6.3	25.8	2.7	1.4	14.0	1.8	0.9	5.9

4 子育て、子どもの教育について

問23 「男の子は男らしく、女の子は女らしく子どもを育てる」という考え方について、どのように思いますか。(1つに○)

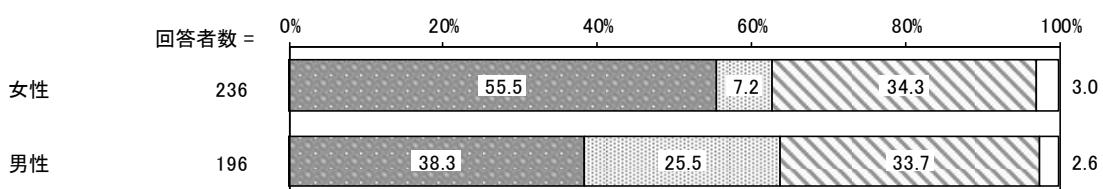
「男の子、女の子と区別せずに、同じように育てた方がよい」の割合が47.4%と最も高く、次いで「どちらともいえない」の割合が34.3%、「男の子は男らしく、女の子は女らしく」育てた方がよい」の割合が15.6%となっています。

平成23年度調査、平成28年度調査と比較すると、「男の子、女の子と区別せずに、同じように育てた方がよい」、「どちらともいえない」の割合は増加傾向がみられます。一方、「男の子は男らしく、女の子は女らしく」育てた方がよい」の割合は減少傾向がみられます。



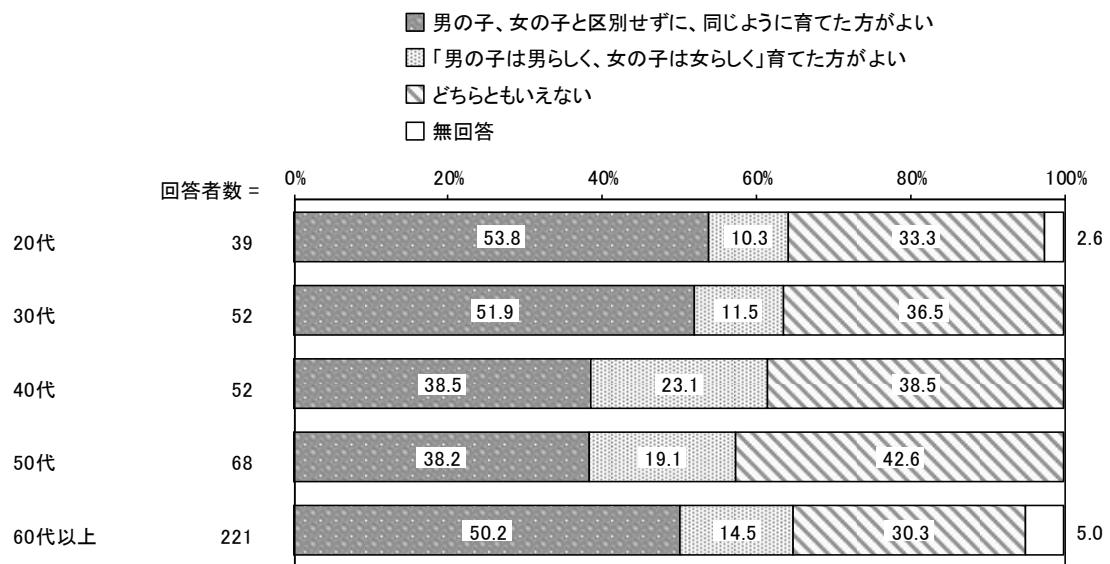
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「男の子、女の子と区別せずに、同じように育てた方がよい」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「男の子は男らしく、女の子は女らしく」育てた方がよい」の割合が高くなっています。



【年代別】

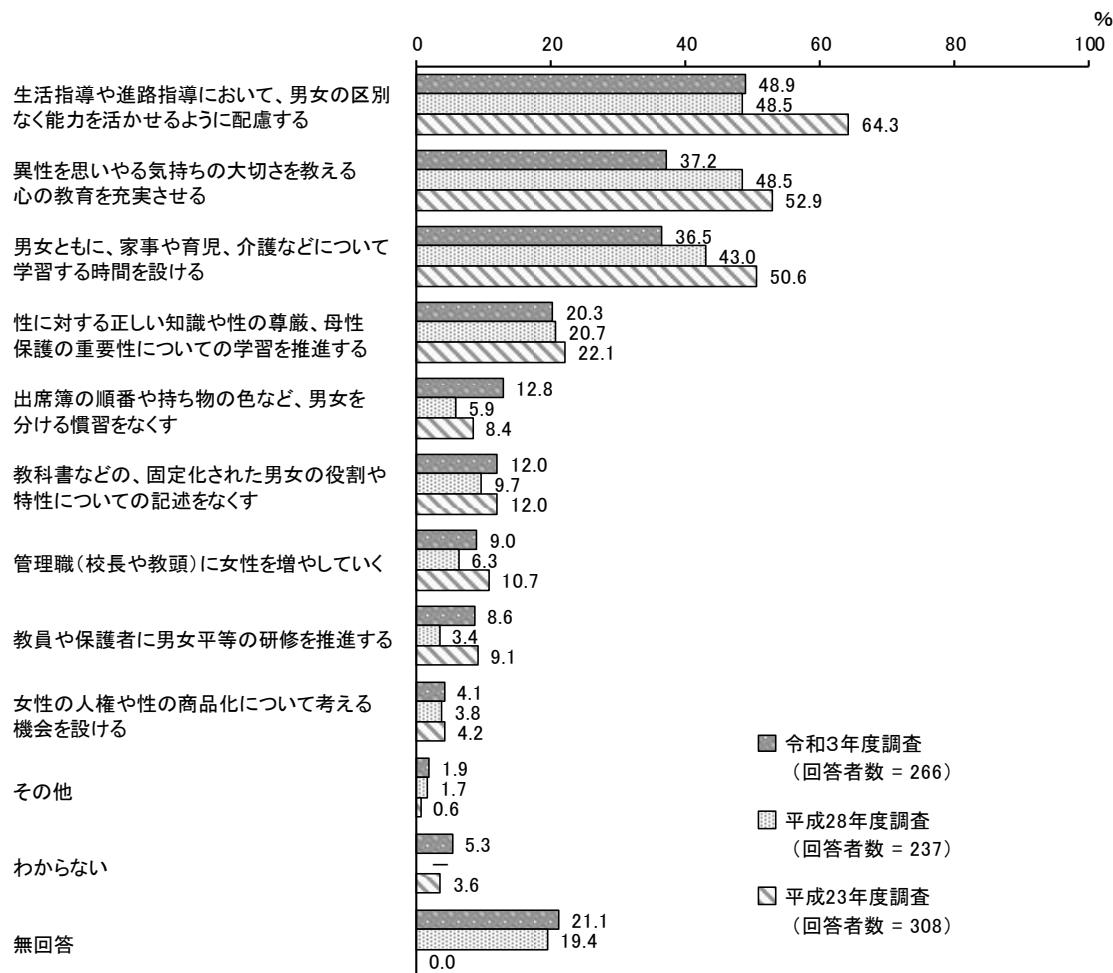
年代別でみると、他に比べ、20代、30代、60代以上で「男の子、女の子と区別せずに、同じように育てた方がよい」との割合が高く、5割以上を占めています。



問24 男女平等の意識を育てるために、学校教育ではどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(3つまで○)

「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を活かせるように配慮する」の割合が48.9%と最も高く、次いで「異性を思いやる気持ちの大切さを教える心の教育を充実させる」の割合が37.2%、「男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける」の割合が36.5%となっています。

平成23年度調査、平成28年度調査と比較すると、「教科書などの、固定化された男女の役割や特性についての記述をなくす」、「異性を思いやる気持ちの大切さを教える心の教育を充実させる」の割合は減少傾向がみられます。



※平成28年度調査では「わからない」の選択肢はありませんでした。

【性 別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を活かせるように配慮する」、「教科書などの、固定化された男女の役割や特性についての記述をなくす」、「異性を思いやる気持ちの大切さを教える心の教育を充実させる」、「男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける」、「性に対する正しい知識や性の尊厳、母性保護の重要性についての学習を推進する」、「出席簿の順番や持ち物の色など、男女を分ける慣習をなくす」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	教科書などの、固定化された男女の役割や特性についての記述をなくす	生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を活かせるように配慮する	異性を思いやる気持ちの大切さを教える心の教育を充実させる	男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける	性に対する正しい知識や性の尊厳、母性保護の重要性についての学習を推進する	女性の個人権や性の商品化について考える機会を設ける	教員や保護者に男女平等の研修を推進する	管理職（校長や教頭）に女性を増やしていく	出席簿の順番や持ち物の色など、男女を分ける慣習をなくす	その他	わからない	無回答
女性	145	51.7	14.5	42.1	46.2	23.4	4.1	7.6	7.6	15.2	0.7	4.8	13.8
男性	119	45.4	9.2	31.9	24.4	16.8	4.2	10.1	10.1	10.1	3.4	5.9	29.4

【年代別】

年代別でみると、他に比べ、20代で「性に対する正しい知識や性の尊厳、母性保護の重要性についての学習を推進する」の割合が、30代で「教科書などの、固定化された男女の役割や特性についての記述をなくす」の割合が高くなっています。また、30~50代で「男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける」の割合が、30~40代では「出席簿の順番や持ち物の色など、男女を分ける慣習をなくす」の割合が高くなっています。

年齢が高くなるにつれて「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を活かせるように配慮する」、「異性を思いやる気持ちの大切さを教える心の教育を充実させる」の割合が高くなる傾向がみられます。

単位：%

区分	回答者数 (件)	教科書などの、固定化された男女の役割や特性についての記述をなくす	生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を活かせるように配慮する	性に対する正しい知識や性の尊厳、母性保護の重要性についての学習を推進する	男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける	異性を思いやる気持ちの大切さを教える心の教育を充実させる	女性の人権や性の商品化について考える機会を設ける	教員や保護者に男女平等の研修を推進する	管理職（校長や教頭）に女性を増やしていく	その他	わからない	無回答	
20代	27	22.2	—	18.5	18.5	25.9	—	7.4	7.4	11.1	—	—	59.3
30代	41	34.1	26.8	22.0	43.9	19.5	4.9	9.8	9.8	22.0	—	2.4	22.0
40代	47	55.3	10.6	36.2	40.4	17.0	6.4	4.3	10.6	21.3	4.3	6.4	12.8
50代	49	53.1	6.1	46.9	42.9	20.4	4.1	8.2	6.1	8.2	2.0	6.1	16.3
60代以上	99	56.6	13.1	45.5	33.3	20.2	4.0	11.1	9.1	8.1	2.0	6.1	17.2

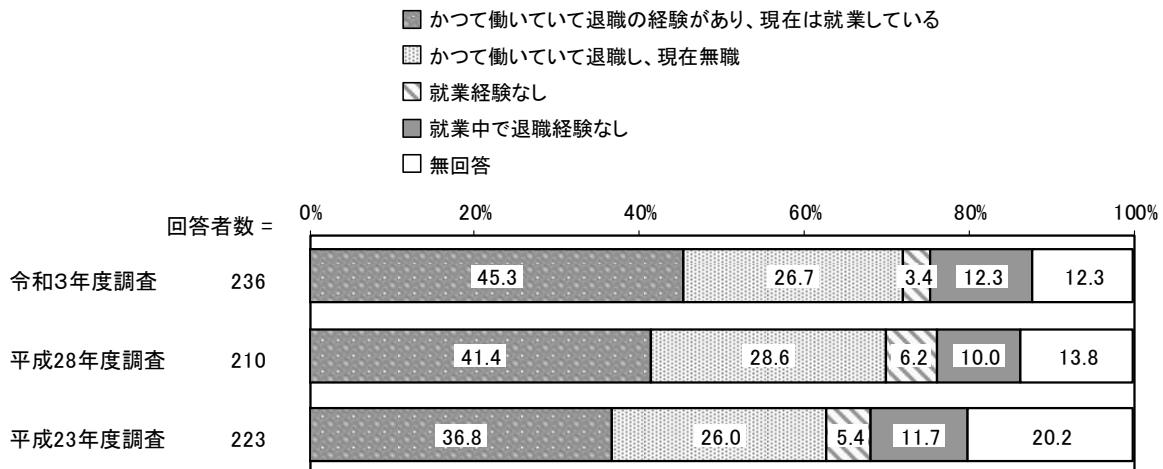
5 働くことについて

《問25～27は女性の方にお聞きします》

問25 あなたの退職経験についてお答えください。(1つに○)

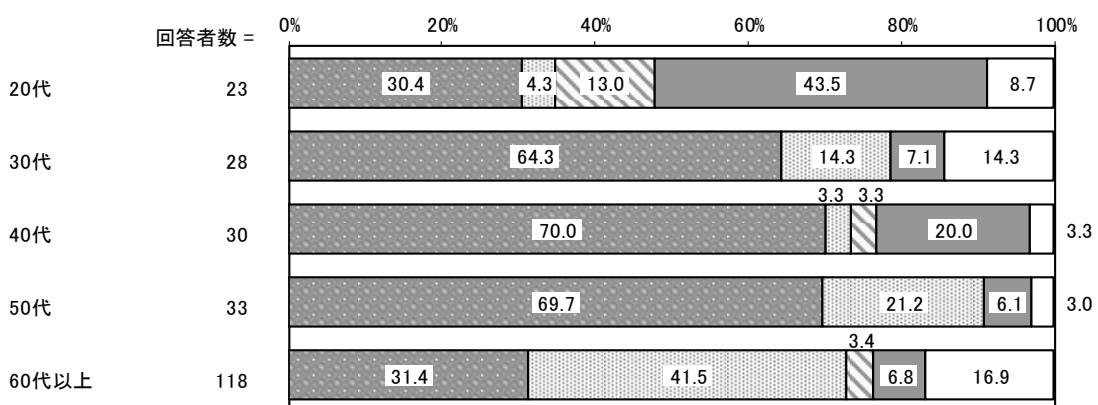
「かつて働いていて退職の経験があり、現在は就業している」の割合が45.3%と最も高く、次いで「かつて働いていて退職し、現在無職」の割合が26.7%、「就業中で退職経験なし」の割合が12.3%となっています。

平成28年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、20代で「就業経験なし」、「就業中で退職経験なし」の割合が、60代以上で「かつて働いていて退職し、現在無職」の割合が高くなっています。また、30～50代で「かつて働いていて退職の経験があり、現在は就業している」の割合が高くなっています。

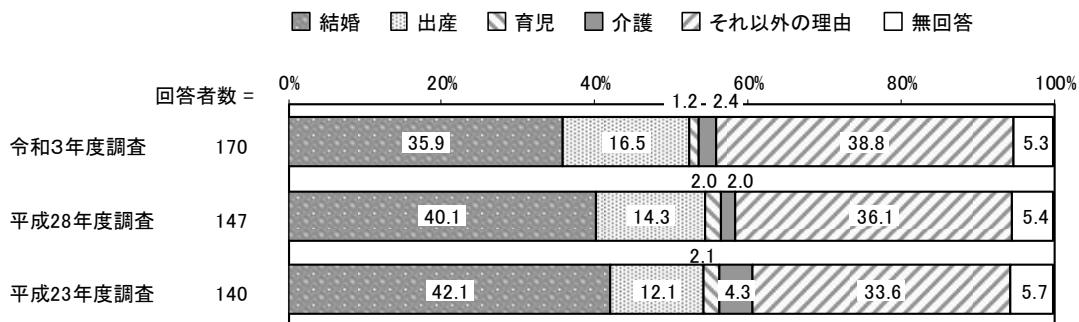


《【問 25】で「かつて働いていて退職の経験があり、現在は就業している」、「かつて働いていて退職し、現在無職」と答えた方のみにお聞きします》

問 26 かつて退職した理由をお聞かせください。(1つに○)

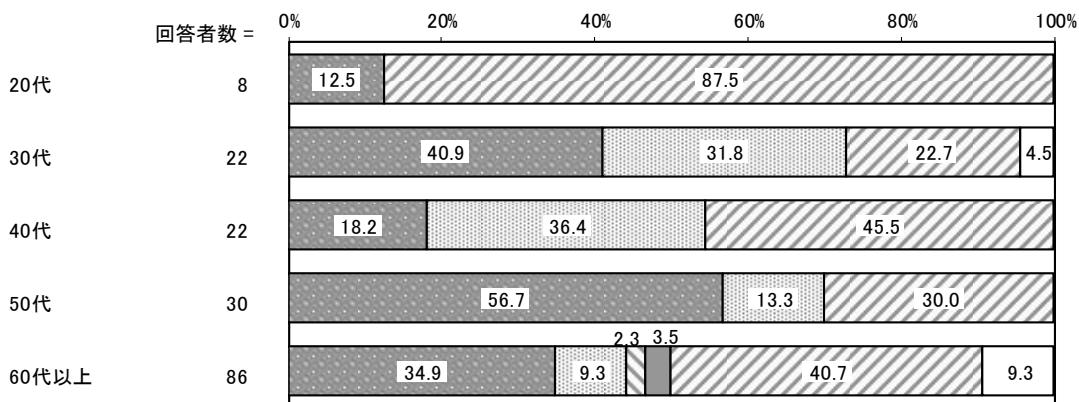
「それ以外の理由」の割合が 38.8% と最も高く、次いで「結婚」の割合が 35.9%、「出産」の割合が 16.5% となっています。

平成 23 年度調査、平成 28 年度調査と比較すると、「結婚」の割合は減少傾向がみられます。



【年代別】

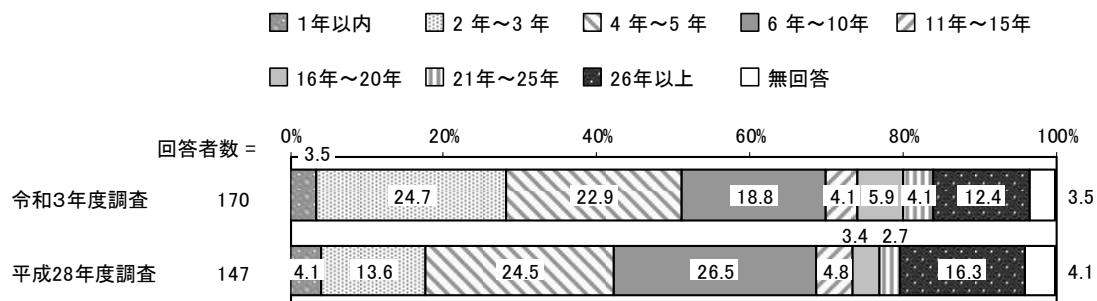
年代別でみると、他に比べ、50 代で「結婚」の割合が高くなっています。



問27 退職までの勤務年数をお聞かせください。(1つに○)

「2年～3年」の割合が24.7%と最も高く、次いで「4年～5年」の割合が22.9%、「6年～10年」の割合が18.8%となっています。

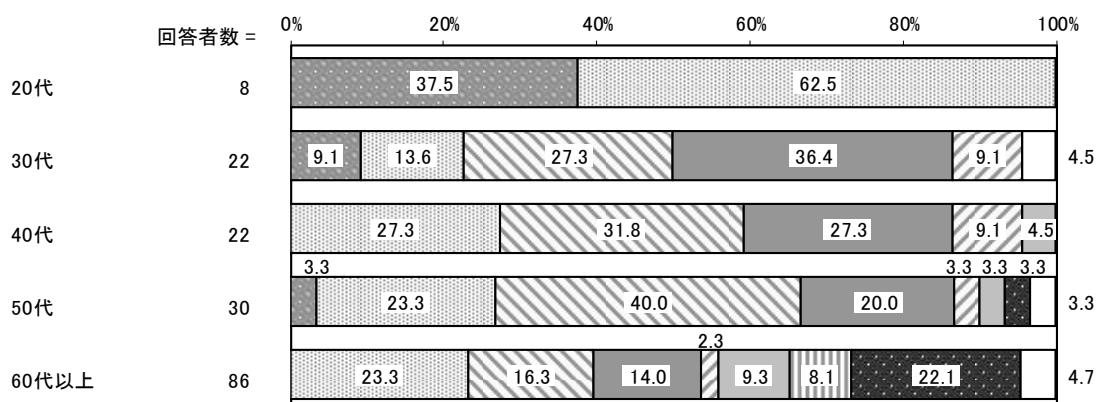
平成28年度調査と比較すると、「2年～3年」の割合が増加しています。一方、「6年～10年」の割合が減少しています。



※平成23年度調査では本設問はありませんでした。

【年代別】

年代別でみると、他に比べ、30代で「6年～10年」の割合が、50代で「4年～5年」の割合が高くなっています。また、60代以上で「26年以上」の割合が高くなっています。

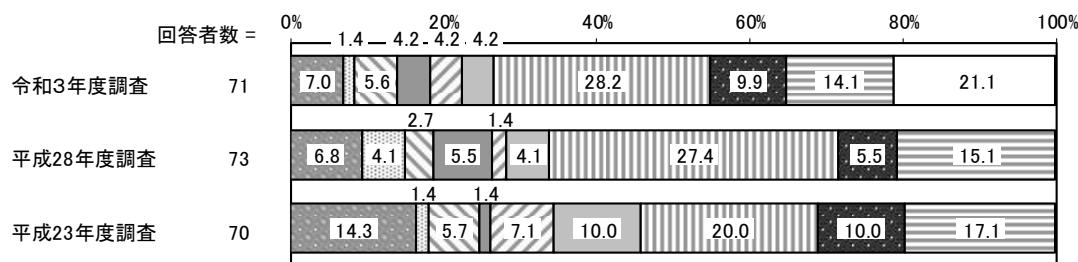


問28 現在無職、または就業経験のない理由をお聞かせください。(1つに○)

「働く意思はあるが、それ以外の理由」の割合が 28.2% と最も高く、次いで「働く意思はなく、それ以外の理由」の割合が 14.1% となっています。

平成28年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。

- (働く意志はあるが、)育児により働けない
- (働く意志はあるが、)家事により働けない
- (働く意志はあるが、)介護により働けない
- (働く意志はあるが、)配偶者もしくはパートナー、
家族が女性は家にいて家事をすることが良いと思っているから
- (働く意志はあるが、)働きたい職種での雇用がない
- (働く意志はあるが、)職種を問わず雇用がない
- (働く意志はあるが、)それ以外の理由
- (働く意志がなく、)その理由として女性は家にいて家事をすることが良いと思っている
- (働く意志がなく、)それ以外の理由
- 無回答

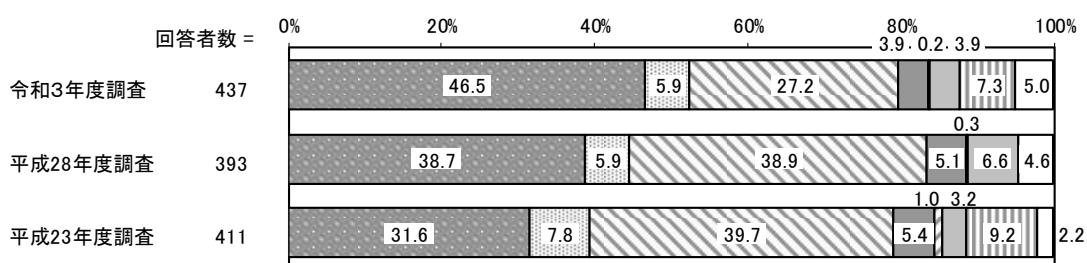


問29 女性が職業(農業・商業など家業を含む)を持つことについて、あなたはどうお考えですか。(1つに○)

「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」の割合が46.5%と最も高く、次いで「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」の割合が27.2%となっています。

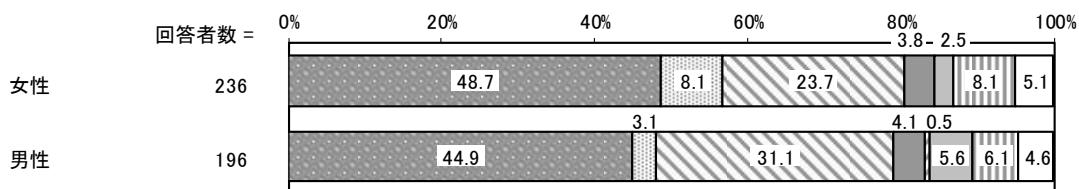
平成23年度調査、平成28年度調査と比較すると、「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」の割合は増加傾向がみられます。一方、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」の割合は減少傾向がみられます。

- 子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい
- 子どもができるまでは、職業を持つ方がよい
- 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい
- 結婚するまでは職業を持つ方がよい
- 女性は職業を持たない方がよい
- その他
- わからない
- 無回答



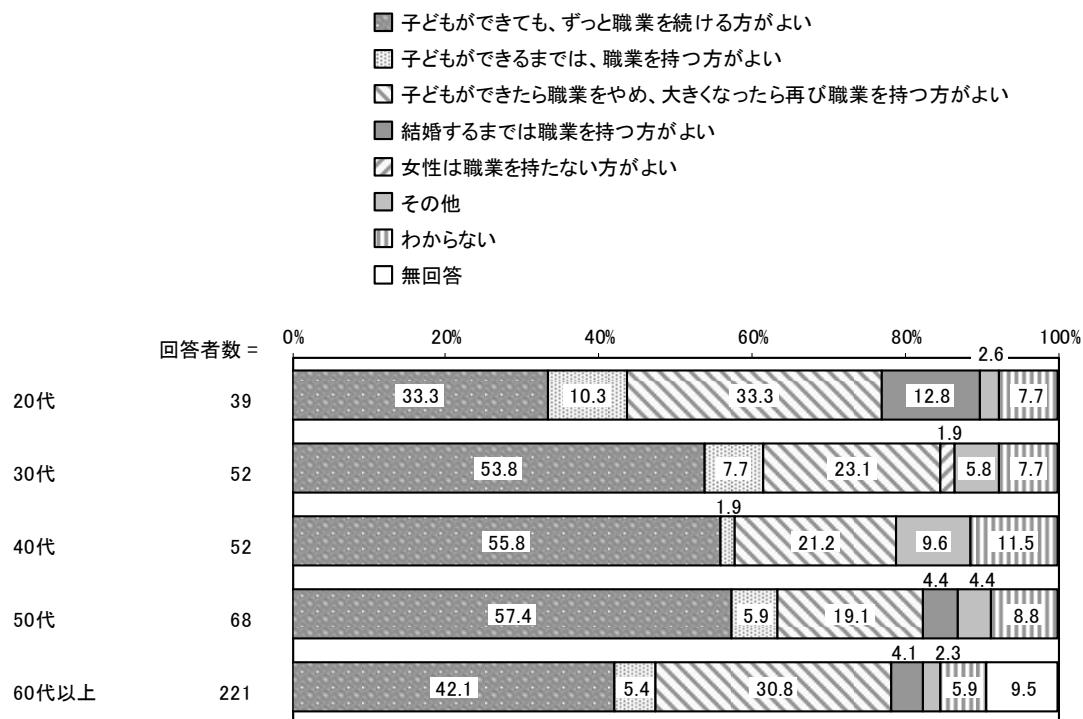
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「子どもができるまでは、職業を持つ方がよい」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、20代で「結婚するまでは職業を持つ方がよい」の割合が、20代、60代以上で「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」の割合が高くなっています。また、30～50代で「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」の割合が高くなっています。



【国・県の調査の比較と経年比較】

全国調査と比較すると、「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」の割合が低くなっています。

愛知県調査と比較すると、大きな差異はみられません。

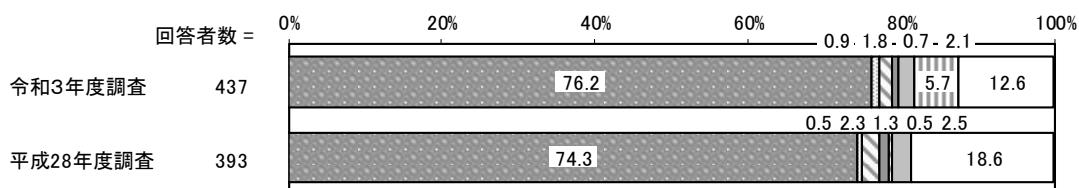
単位：%

区分	子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい	子どもが職業を持つ方ができるまでは、職業を持つ方がよい	子どもができたら職業をやめ、大きくなつたら職業を持つ方がよい	結婚するまでは職業を持つ方がよい	が女性は職業を持たない方	その他	わからない	無回答
国(R1.9)	61.0	6.5	20.3	4.8	3.9	1.7	1.7	—
女性	63.7	6.3	19.7	3.8	3.5	1.6	1.4	—
男性	58.0	6.7	21.1	5.9	4.4	1.8	2.1	—
愛知県(R1.7)	43.5	7.6	32.0	3.9	0.4	4.4	3.9	4.3
女性	45.2	5.3	34.0	3.4	0.5	4.5	3.4	3.6
男性	41.9	10.4	31.2	4.6	0.4	4.1	3.9	3.5
田原市(R4.1)	46.5	5.9	27.2	3.9	0.2	3.9	7.3	5.0
女性	48.7	8.1	23.7	3.8	—	2.5	8.1	5.1
男性	44.9	3.1	31.1	4.1	0.5	5.6	6.1	4.6
田原市(H28.7)	38.7	5.9	38.9	5.1	0.3	6.6	—	4.6
女性	41.9	5.7	36.2	4.3	0.5	7.6	—	3.8
男性	34.1	6.5	42.9	5.3	—	5.9	—	5.3
田原市(H23.9)	31.6	7.8	39.7	5.4	1.0	3.2	9.2	2.2
女性	34.5	6.7	36.8	5.4	0.4	3.1	10.8	2.2
男性	28.0	9.1	43.0	5.4	1.6	3.2	7.5	2.2
田原市(H20.8)	25.4	5.2	41.7	6.4	1.0	7.2	8.4	4.7
女性	21.7	3.2	42.4	6.5	0.9	9.7	10.6	5.1
男性	30.8	7.7	39.6	6.0	1.1	4.4	6.0	4.4

問30 同じ質問を、男性の場合についてもお伺いします。男性が職業（農業・商業など家業を含む）をもつことについて、あなたはどうお考えですか。（1つに○）

「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」の割合が76.2%と最も高くなっています。平成28年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。

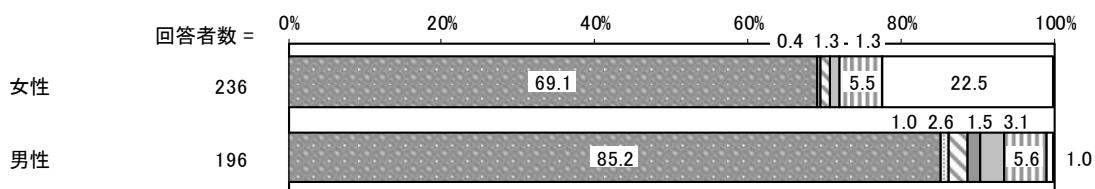
- 子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい
- 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
- 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- 結婚するまでは職業をもつ方がよい
- 女性は職業をもたない方がよい
- その他
- わからない
- 無回答



※平成28年度調査では「わからない」の選択肢はありませんでした。

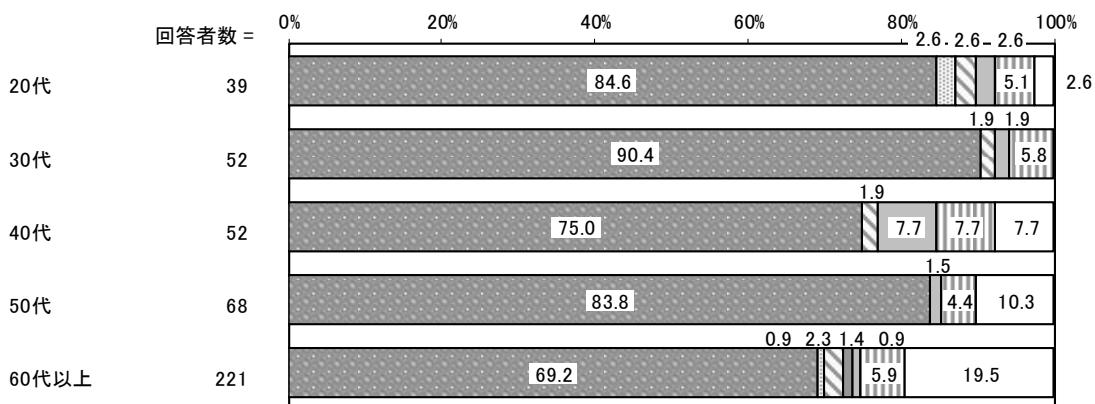
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、30代で「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」の割合が高く、約9割を占めています。

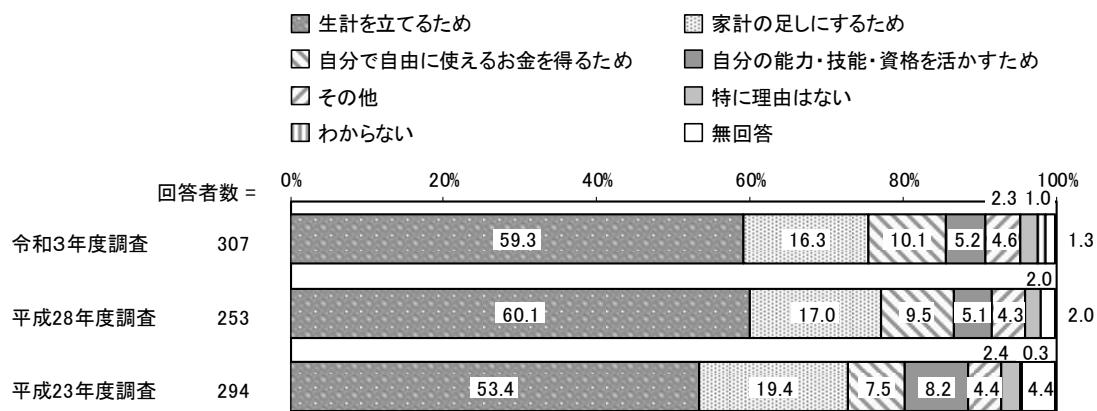


《仕事をしている方全員にお聞きします》

問31 あなたが現在働いているのは、どのような理由からでしょうか。 (主なもの1つに○)

「生計を立てるため」の割合が59.3%と最も高く、次いで「家計の足しにするため」の割合が16.3%、「自分で自由に使えるお金を得るため」の割合が10.1%となっています。

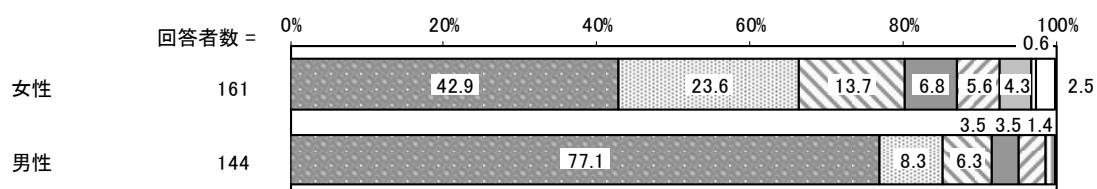
平成28年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



※平成28年度調査では「わからない」の選択肢はありませんでした。

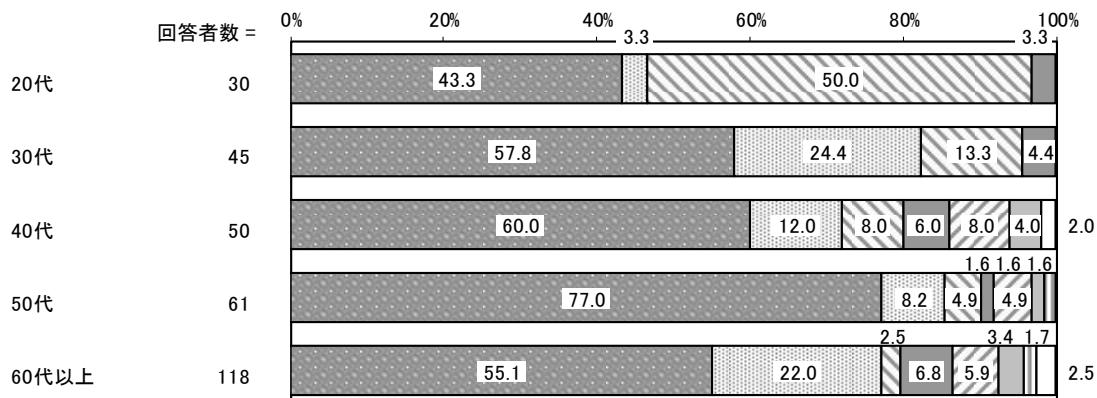
【性 別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「家計の足しにするため」、「自分で自由に使えるお金を得るため」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「生計を立てるため」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、20代で「自分で自由に使えるお金を得るため」の割合が、50代で「生計を立てるため」の割合が高くなっています。30代、60代以上で「家計の足しにするため」の割合が高くなっています。

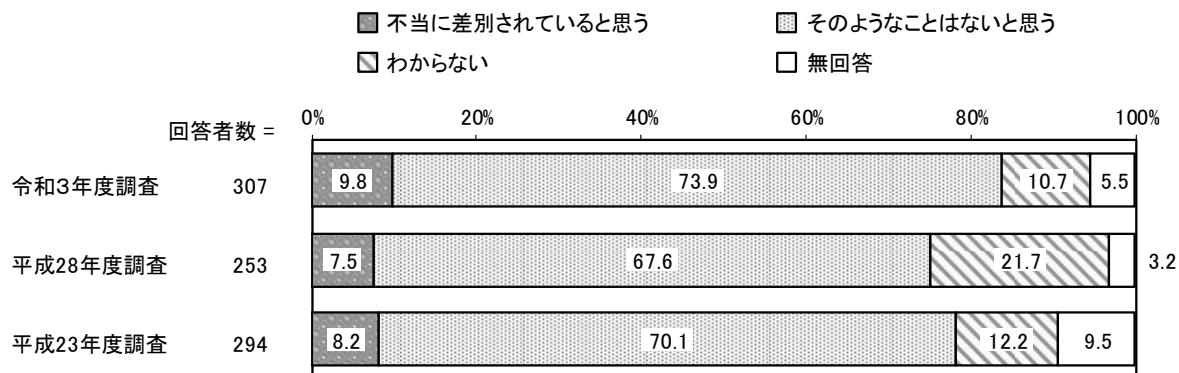


《仕事をしている方全員にお聞きします》

問32 あなたの今の職場では、仕事の内容や待遇面で、女性は男性に比べ不适当に差別されていると思いますか。別にそのようなことはないと思いますか。(1つに○)

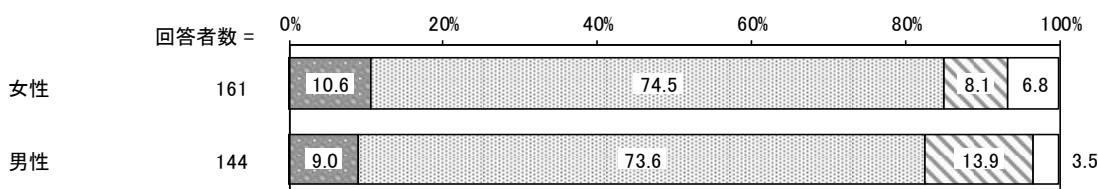
「そのようなことはないと思う」の割合が73.9%と最も高く、次いで「わからない」の割合が10.7%となっています。

平成28年度調査と比較すると、「そのようなことはないと思う」の割合が増加しています。



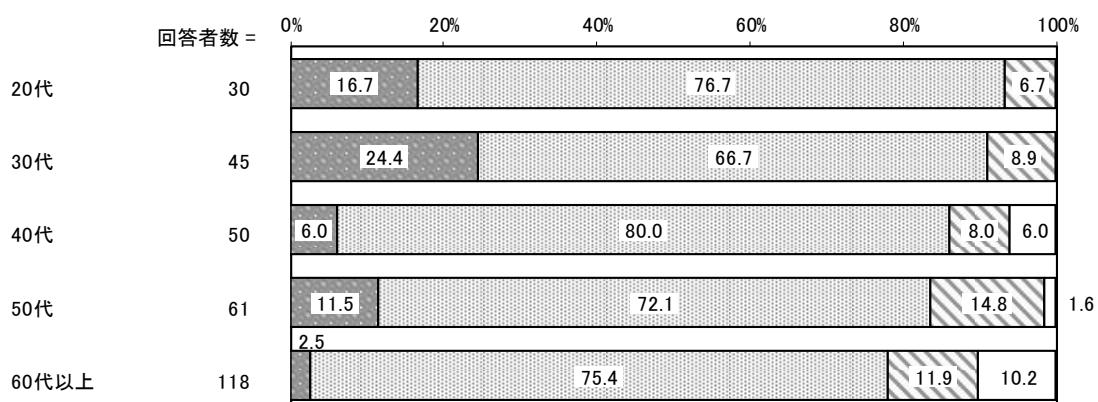
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「わからない」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、30代で「不适当に差別されていると思う」の割合が高く、40代、60代で低くなっています。

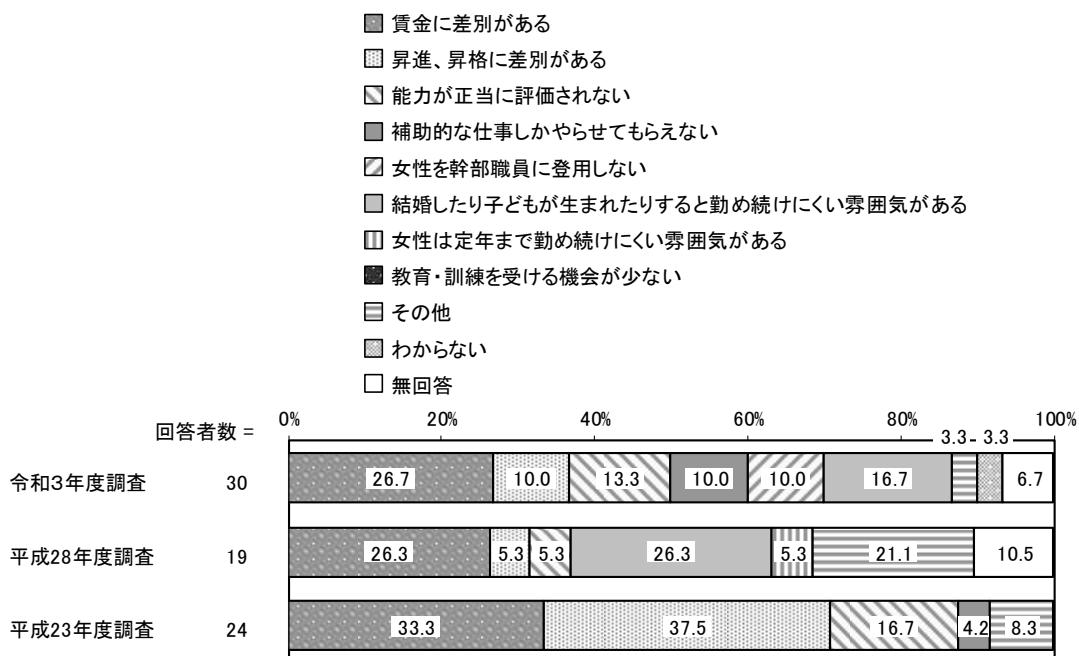


《問32で「不当に差別されていると思う」と答えた方にお聞きします》

問33 それは具体的にどのようなことですか。(1つに○)

「賃金に差別がある」の割合が26.7%と最も高く、次いで「結婚したり子どもが生まれたりすると勤め続けにくい雰囲気がある」の割合が16.7%、「能力が正当に評価されない」の割合が13.3%となっています。

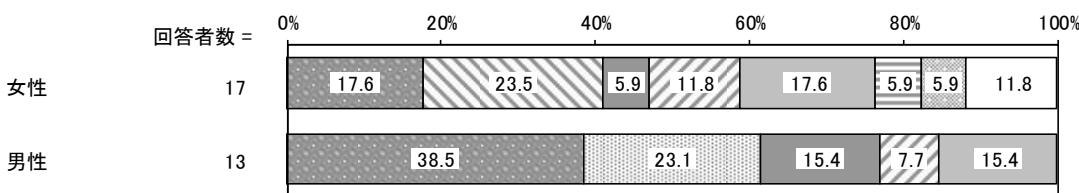
平成28年度調査と比較すると、「能力が正当に評価されない」、「女性を幹部職員に登用しない」の割合が増加しています。一方、「結婚したり子どもが生まれたりすると勤め続けにくい雰囲気がある」、「女性は定年まで勤め続けにくい雰囲気がある」の割合が減少しています。



※平成28年度調査では「わからない」の選択肢はありませんでした。

【性別】

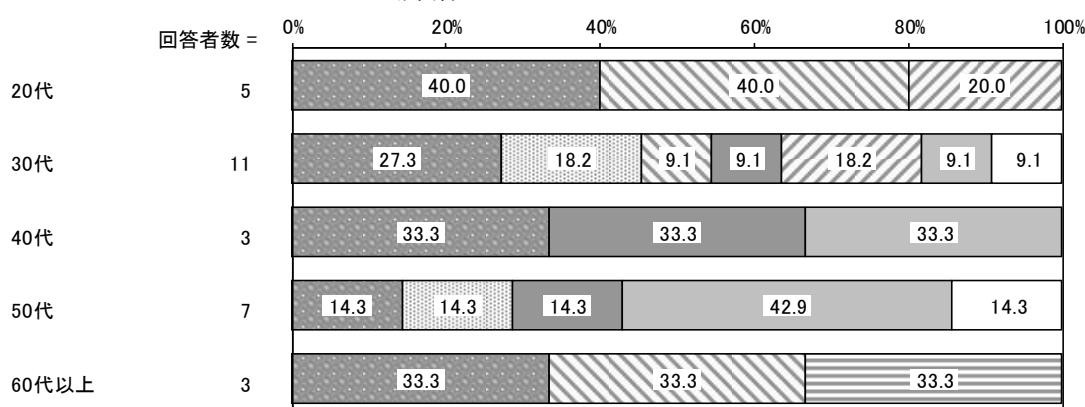
性別でみると、男性に比べ、女性で「能力が正当に評価されない」、「女性を幹部職員に登用しない」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「賃金に差別がある」、「昇進、昇格に差別がある」、「補助的な仕事しかやらせてもらえない」の割合が高くなっています。



【年代別】

回答者数が少ないため、参考にとどめます。

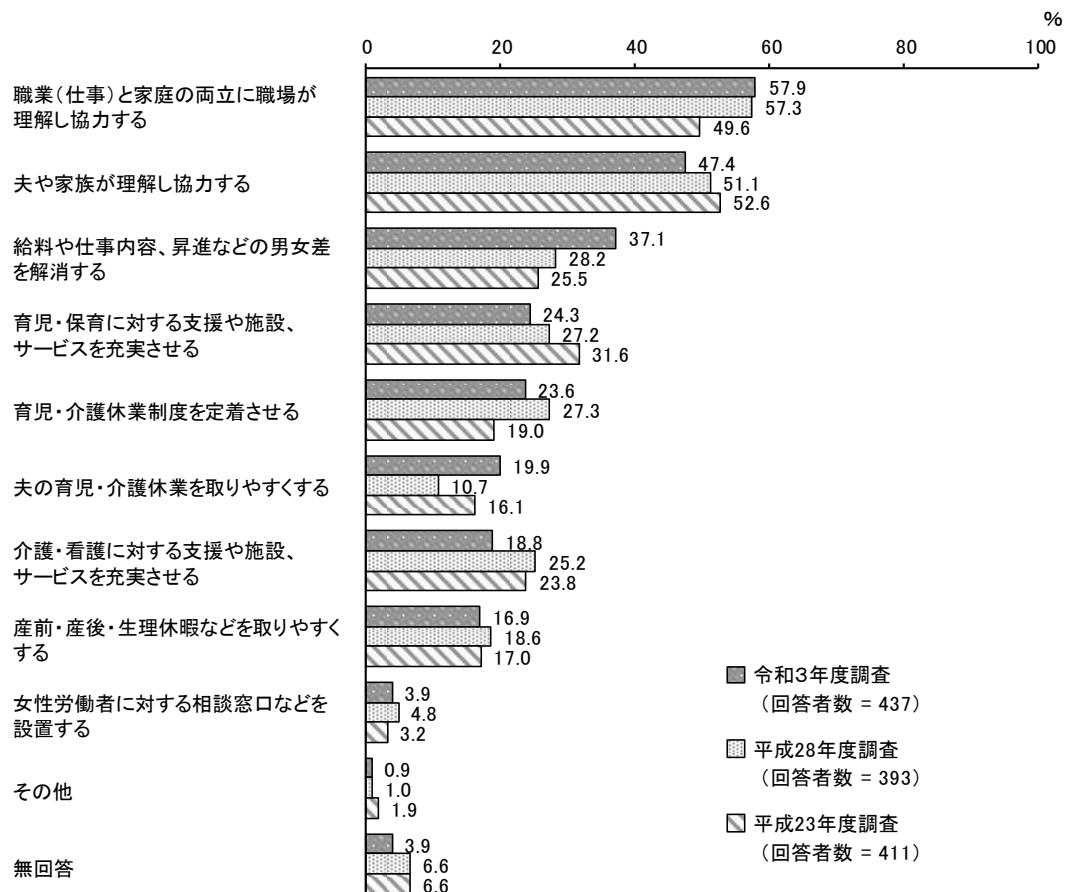
- 賃金に差別がある
- 昇進、昇格に差別がある
- 能力が正当に評価されない
- 補助的な仕事しかやらせてもらえない
- 女性を幹部職員に登用しない
- 結婚したり子どもが生まれたりすると勤め続けにくい雰囲気がある
- 女性は定年まで勤め続けにくい雰囲気がある
- 教育・訓練を受ける機会が少ない
- その他
- わからない
- 無回答



問34 女性が安心して働く環境をつくるために、どのようなことが必要だと思いますか。(3つまで○)

「職業(仕事)と家庭の両立に職場が理解し協力する」の割合が57.9%と最も高く、次いで「夫や家族が理解し協力する」の割合が47.4%、「給料や仕事内容、昇進などの男女差を解消する」の割合が37.1%となっています。

平成23年度調査、平成28年度調査と比較すると、「給料や仕事内容、昇進などの男女差を解消する」の割合は増加傾向がみられます。平成28年度調査と比較すると、「夫の育児・介護休業を取りやすくする」の割合が増加しています。一方、「介護・看護に対する支援や施設、サービスを充実させる」の割合が減少しています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「職業（仕事）と家庭の両立に職場が理解し協力する」、「夫や家族が理解し協力する」、「介護・看護に対する支援や施設、サービスを充実させる」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「給料や仕事内容、昇進などの男女差を解消する」、「育児・介護休業制度を定着させる」、「産前・産後・生理休暇などを取りやすくする」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	男女差を解消する 給料や仕事内容、昇進などの 職業（仕事）と家庭の両立に 職場が理解し協力する	夫や家族が理解し協力する 育児・介護休業制度を定着さ せる	夫の育児・介護休業を取りや すくする	産前・産後・生理休暇などを 取りやすくする	育児・保育に対する支援や施 設、サービスを充実させる	介護・看護に対する支援や施 設、サービスを充実させる	女性労働者に対する相談窓口 などを設置する	その他	無回答		
女性	236	28.4	60.6	53.0	21.2	19.9	13.1	24.2	23.3	3.0	1.3	4.7
男性	196	48.5	54.6	40.8	27.0	20.4	21.4	24.0	12.8	4.6	0.5	3.1

【年代別】

年代別でみると、他に比べ、20代で「夫の育児・介護休業を取りやすくする」、「産前・産後・生理休暇などを取りやすくする」の割合が、30代で「給料や仕事内容、昇進などの男女差を解消する」の割合が、50代で「夫や家族が理解し協力する」の割合が、60代以上で「介護・看護に対する支援や施設、サービスを充実させる」の割合が高くなっています。また、すべての年代で「職業（仕事）と家庭の両立に職場が理解し協力する」の割合が高くなっています。

単位：%

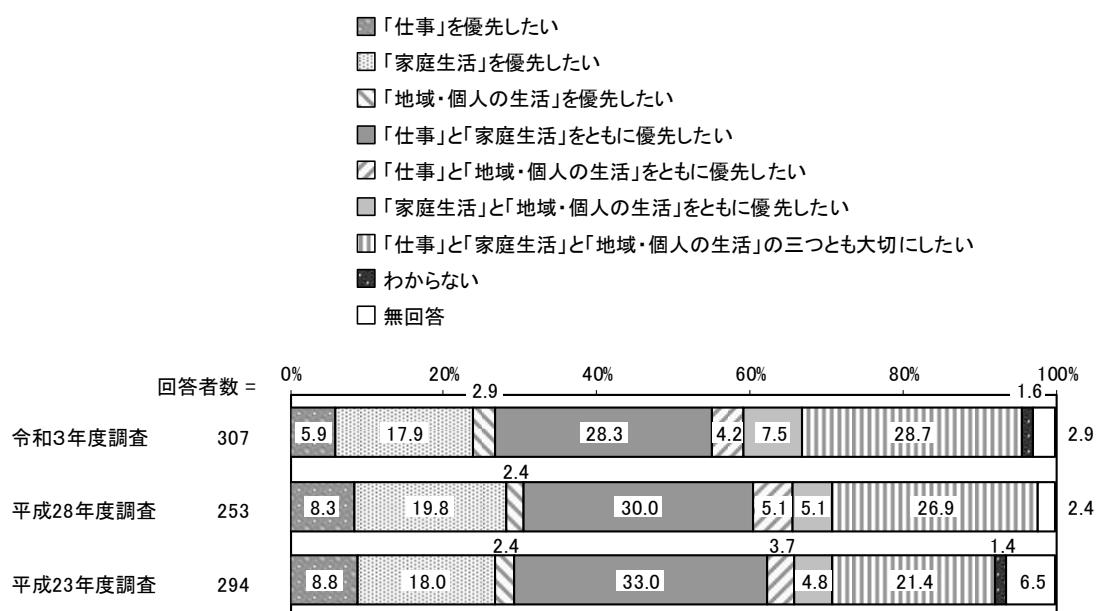
区分	回答者数 (件)	男女差を解消する 給料や仕事内容、昇進などの 職業（仕事）と家庭の両立に 職場が理解し協力する	夫や家族が理解し協力する 育児・介護休業制度を定着さ せる	夫の育児・介護休業を取りや すくする	産前・産後・生理休暇などを 取りやすくする	育児・保育に対する支援や施 設、サービスを充実させる	介護・看護に対する支援や施 設、サービスを充実させる	女性労働者に対する相談窓口 などを設置する	その他	無回答		
20代	39	41.0	56.4	33.3	23.1	48.7	38.5	33.3	10.3	2.6	—	—
30代	52	46.2	57.7	38.5	28.8	28.8	25.0	30.8	3.8	—	1.9	—
40代	52	40.4	65.4	48.1	19.2	28.8	13.5	21.2	15.4	7.7	1.9	1.9
50代	68	38.2	67.6	60.3	26.5	16.2	16.2	10.3	10.3	5.9	1.5	—
60代以上	221	33.5	53.4	48.9	22.2	12.2	12.2	26.7	27.1	3.2	0.5	6.8

《仕事をしている方にお聞きします》

問35 生活の中で仕事、家庭生活、地域・個人の生活で何を優先しますか。 (あなたの希望に該当するもの1つに○)

「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしたい」の割合が28.7%と最も高く、次いで「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」の割合が28.3%、「「家庭生活」を優先したい」の割合が17.9%となっています。

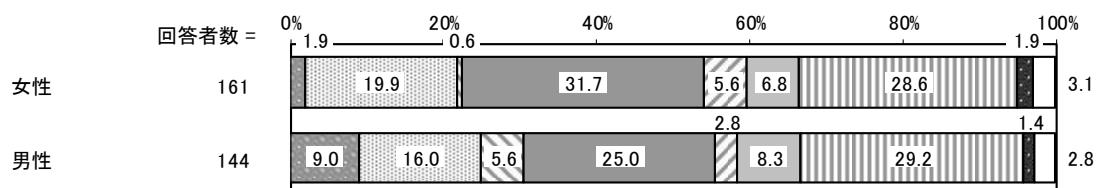
平成28年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



※平成28年度調査では「わからない」の選択肢はありませんでした。

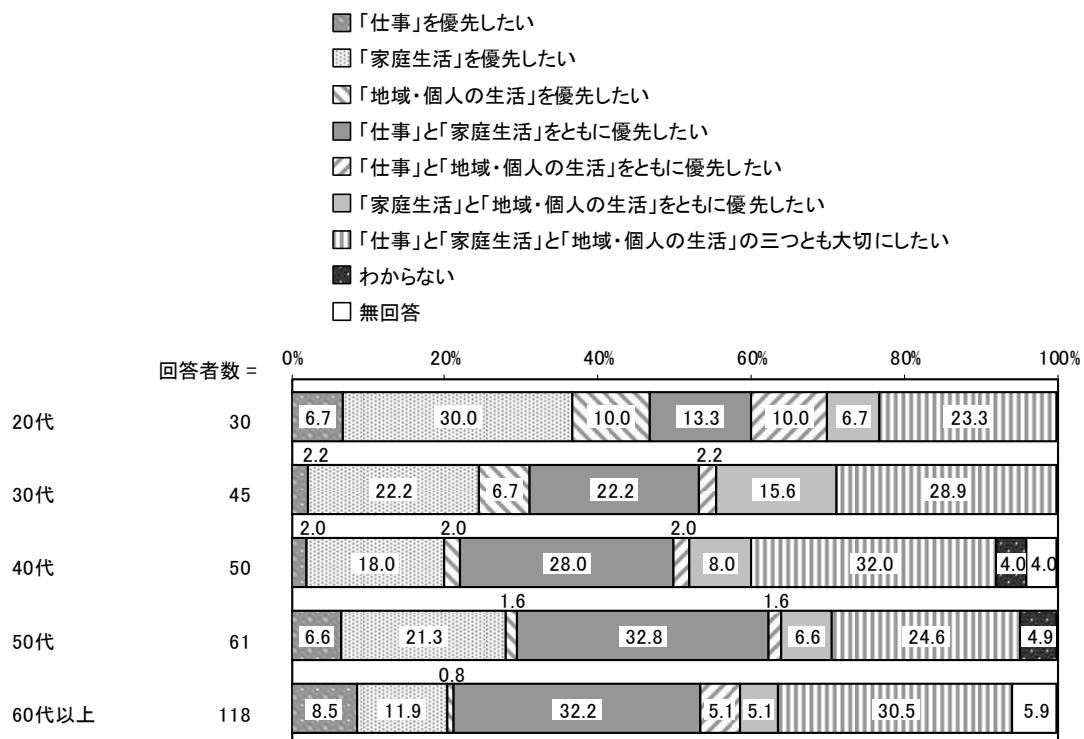
【性別】

性別でみると、女性に比べ、女性で「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「「仕事」を優先したい」、「「地域・個人の生活」を優先したい」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、20代で「家庭生活」を優先したい」の割合が、30代で「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」の割合が高くなっています。



【国・県の調査の比較と経年比較】

全国調査、愛知県調査と比較すると、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしたい」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「地域・個人の生活」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「仕事」と「家庭生活」の三つとも大切にしたい	その他	わからない	無回答
国(R1.9)	9.9	28.4	4.7	28.7	3.3	10.1	13.1	—	1.9	—
女性	5.0	35.1	3.6	27.2	2.3	10.9	14.4	—	1.5	—
男性	15.5	20.7	5.8	30.4	4.4	9.3	11.6	—	2.3	—
愛知県(R1.8)	5.3	22.1	1.8	35.2	3.9	6.1	18.9	0.7	2.1	3.6
女性	0.8	27.6	1.4	33.4	3.1	7.6	20.3	0.6	2.0	3.1
男性	10.4	16.5	2.4	38.8	4.8	4.8	17.6	0.9	1.3	2.4
田原市(R4.1)	5.9	17.9	2.9	28.3	4.2	7.5	28.7	—	1.6	2.9
女性	1.9	19.9	0.6	31.7	5.6	6.8	28.6	—	1.9	3.1
男性	9.0	16.0	5.6	25.0	2.8	8.3	29.2	—	1.4	2.8
田原市(H28.7)	8.3	19.8	2.4	30.0	5.1	5.1	26.9	—	—	2.4
女性	4.0	23.8	3.2	31.7	2.4	4.8	27.0	—	—	3.2
男性	12.7	15.9	1.6	28.6	7.9	5.6	26.2	—	—	1.6
田原市(H23.9)	8.8	18.0	2.4	33.0	3.7	4.8	21.4	—	1.4	6.5
女性	4.9	21.1	2.8	31.0	3.5	4.2	21.8	—	2.1	8.5
男性	12.7	15.3	2.0	34.7	4.0	5.3	21.3	—	0.7	4.0
田原市(H20.8)	4.8	21.9	2.6	27.8	1.7	9.0	27.8	4.8		3.5
女性	2.1	25.6	2.4	23.4	1.6	11.1	29.6	2.1		3.5
男性	8.0	17.5	2.9	33.1	2.0	6.6	25.6	8.0		3.6

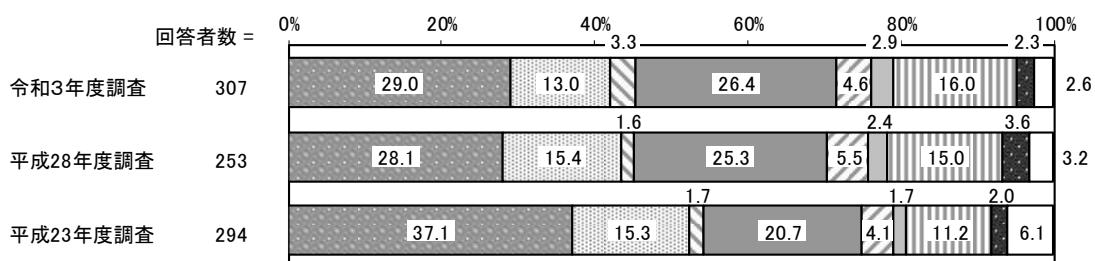
《仕事をしている方にお聞きします》

問36 生活の中で仕事、家庭生活、地域・個人の生活で何を優先しますか。 (あなたの現在の状況に該当するもの1つに○)

「「仕事」を優先している」の割合が 29.0% と最も高く、次いで「「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」の割合が 26.4%、「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしている」の割合が 16.0% となっています。

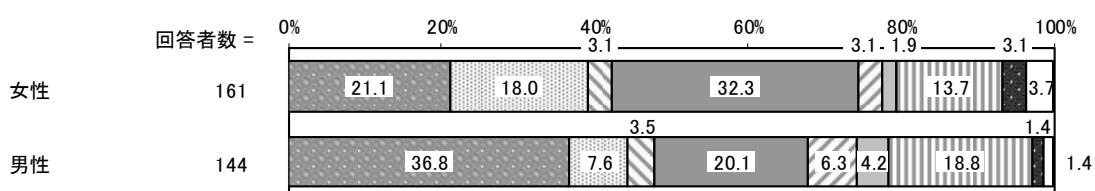
平成 28 年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。

- 「仕事」を優先している
- 「家庭生活」を優先している
- 「地域・個人の生活」を優先している
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしている
- わからない
- 無回答



【性別】

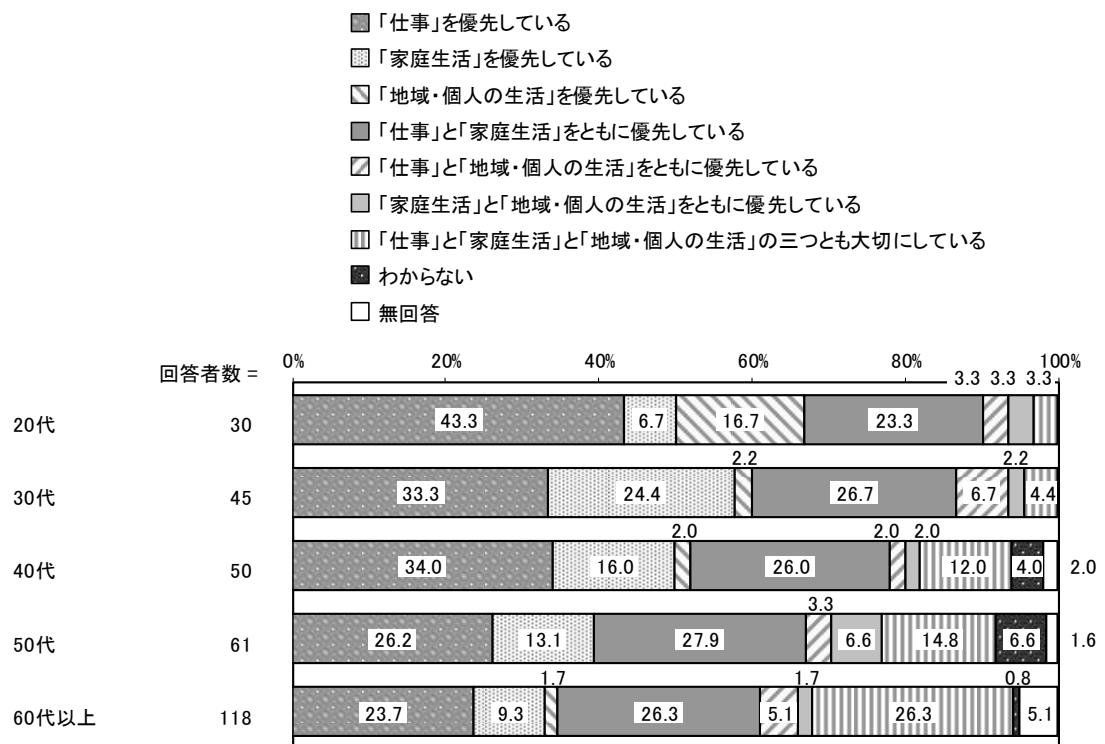
性別でみると、男性に比べ、女性で「「家庭生活」を優先している」、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「「仕事」を優先している」、「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしている」の割合が高くなっています。



【年代別】

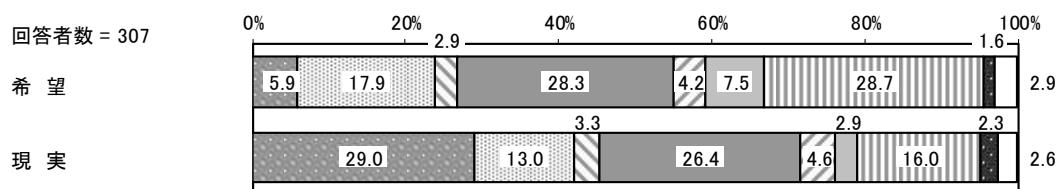
年代別でみると、他に比べ、20代で「「仕事」を優先している」、「「地域・個人の生活」を優先している」の割合が、30代で「「家庭生活」を優先している」の割合が、60代以上で「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしている」の割合が高くなっています。

また、年齢が高くなるにつれて、「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしている」の割合が高くなる傾向がみられます。



【希望と現実との比較】

希望と現実別でみると、現実に比べ、希望では「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしたい」の割合が高くなっています。一方、希望に比べ、現実では「「仕事」を優先にしている」の割合が高くなっています。



【国・県の調査の比較と経年比較】

全国調査、愛知県調査と比較すると、「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしている」の割合が高く、「「家庭生活」を優先している」の割合が低くなっています。

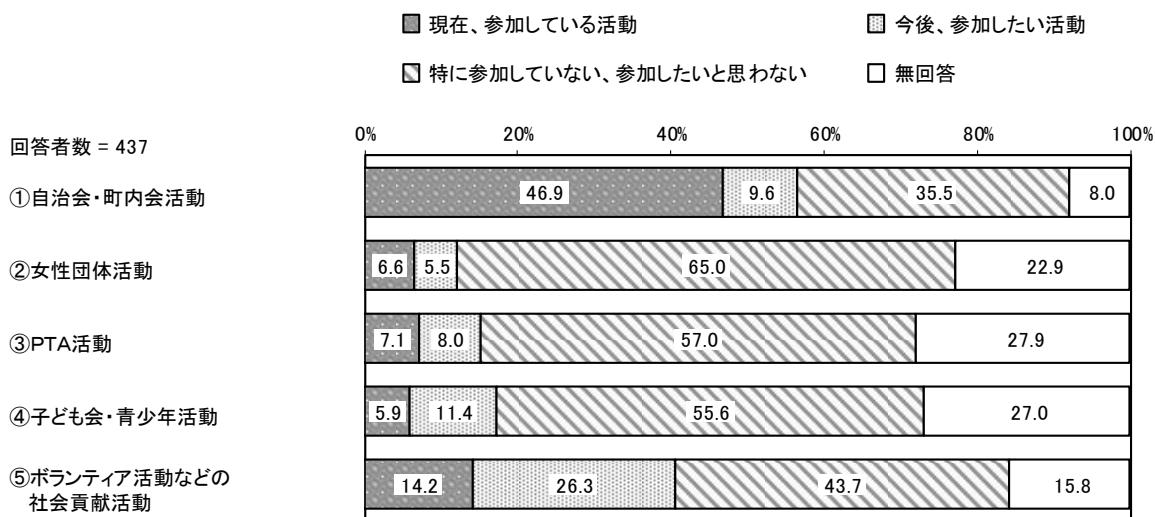
単位：%

区分	「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人の生活」を優先している	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「生活」をともに「地域・個人の生活」をともに優先している	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「地域・個人の生活」と「家庭生活」をともに優先している	その他	「わからない」	無回答
国(R1.9)	25.9	30.3	4.5	21	3.1	8.1	5.1	—	1.9	—	
女性	16.6	39.9	3.7	21	2.1	9.6	5.3	—	1.6	—	
男性	36.5	19.4	5.5	21	4.2	6.4	4.8	—	2.3	—	
愛知県(R1.8)	33.0	23.5	1.7	21.1	2.4	3.9	4.4	1.8	4.5	3.8	
女性	19.7	35.7	1.2	18.4	1.6	5.6	5.8	2.3	5.8	3.9	
男性	49.9	9.8	2.4	24.1	3.0	2.0	3.2	1.3	2.2	2.0	
田原市(R4.1)	29.0	13.0	3.3	26.4	4.6	2.9	16.0	—	2.3	2.6	
女性	21.1	18.0	3.1	32.3	3.1	1.9	13.7	—	3.1	3.7	
男性	36.8	7.6	3.5	20.1	6.3	4.2	18.8	—	1.4	1.4	
田原市(H28.7)	28.1	15.4	1.6	25.3	5.5	2.4	15.0	—	3.6	3.2	
女性	20.6	23.0	0.8	29.4	3.2	3.2	12.7	—	2.4	4.8	
男性	34.9	7.9	2.4	21.4	7.9	1.6	17.5	—	4.8	1.6	
田原市(H23.9)	37.1	15.3	1.7	20.7	4.1	1.7	11.2	—	2.0	6.1	
女性	26.8	21.1	2.1	23.2	0.7	2.1	14.1	—	2.8	7.0	
男性	46.7	10.0	1.3	18.7	7.3	1.3	8.7	—	1.3	4.7	
田原市(H20.8)	30.2	23.4	2.5	20.2	3.2	5.8	8.4	1.0		5.1	
女性	16.2	36.0	2.1	19.9	2.2	8.0	9.5	1.0		5.2	
男性	46.9	8.5	3.0	20.6	4.4	3.3	7.2	0.9		5.2	

6 地域活動・社会活動について

問37 あなたは、どのような地域活動に参加していますか。また、今後参加したいと思う地域活動は何ですか。(①から⑤の項目についてそれぞれ1つずつ○、⑥の項目については、該当する場合に、活動内容を記入のうえ1つに○)

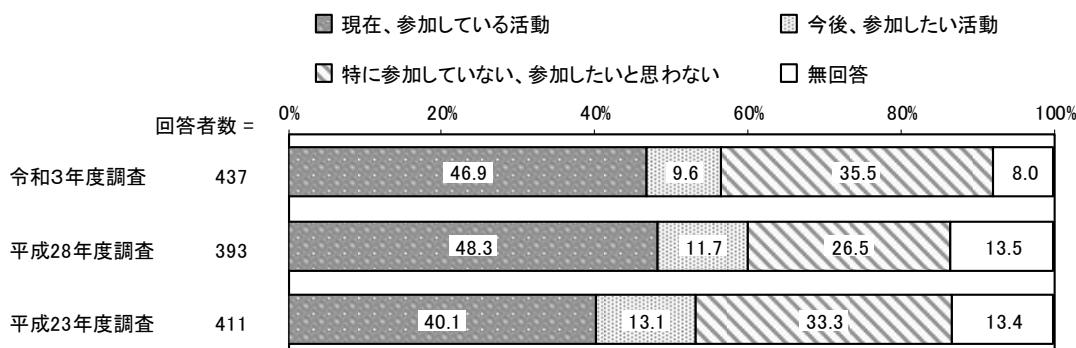
『①自治会・町内会活動』で「現在、参加している活動」の割合が、『⑤ボランティア活動などの社会貢献活動』で「今後、参加したい活動」の割合が、『②女性団体活動』『③PTA活動』『④子ども会・青少年活動』で「特に参加していない、参加したいと思わない」の割合が高くなっています。



①自治会・町内会活動

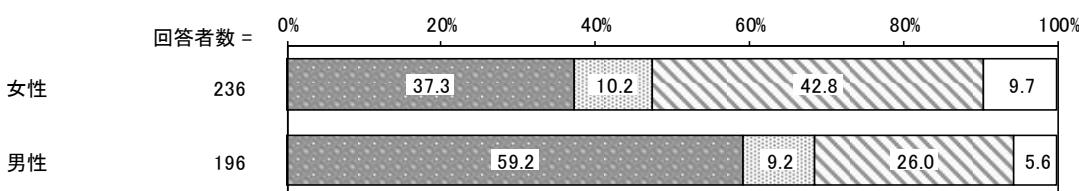
【経年比較】

平成 28 年度調査、平成 23 年度調査と比較すると、平成 23 年度調査に比べ、「現在、参加している活動」の割合が増加しています。また、平成 28 年度調査に比べ、「特に参加していない、参加したいと思わない」の割合が増加しています。



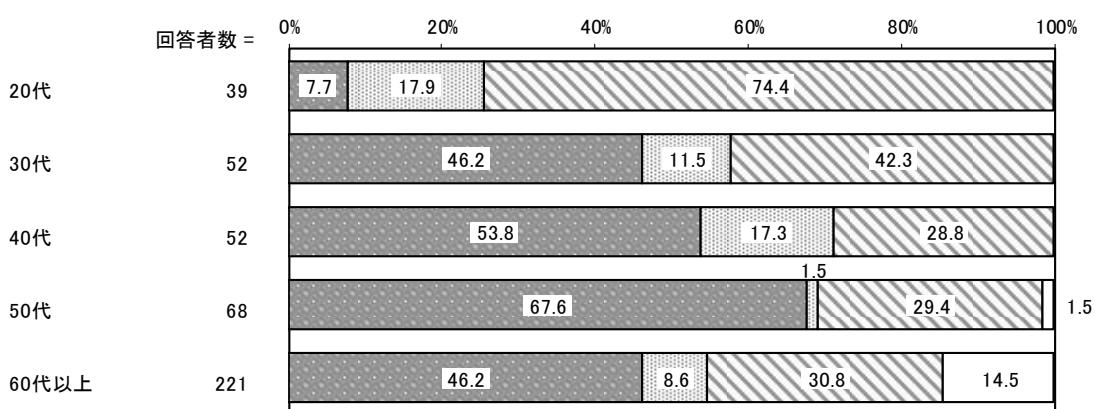
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「特に参加していない、参加したいと思わない」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「現在、参加している活動」の割合が高くなっています。



【年代別】

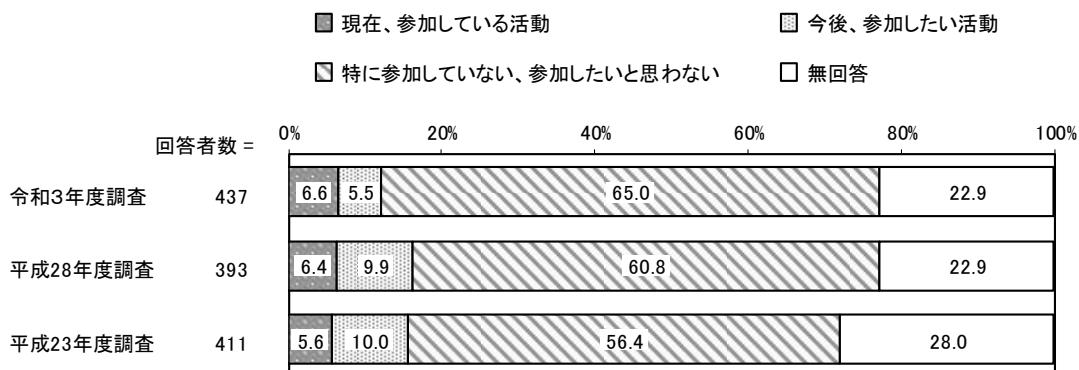
年代別でみると、他に比べ、50 代で「現在、参加している活動」の割合が高くなっています。また、20 代で「特に参加していない、参加したいと思わない」の割合が高くなっています。



②女性団体活動

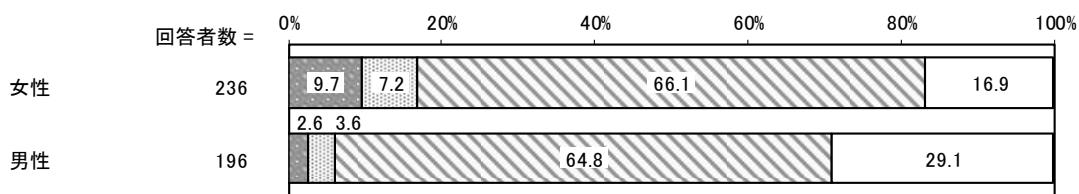
【経年比較】

平成 28 年度調査、平成 23 年度調査と比較すると、「今後、参加したい活動」の割合が減少し、「特に参加していない、参加したいと思わない」の割合が増加する傾向がみられます。



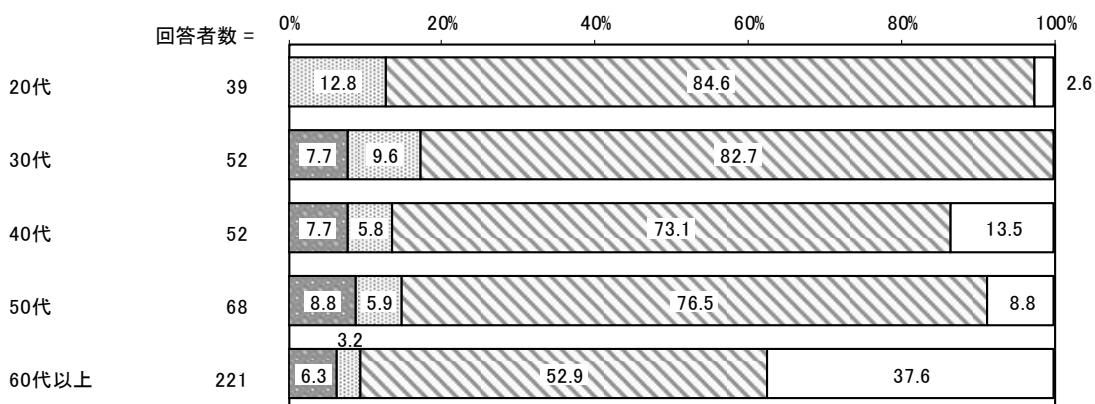
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「現在、参加している活動」の割合が高くなっています。



【年代別】

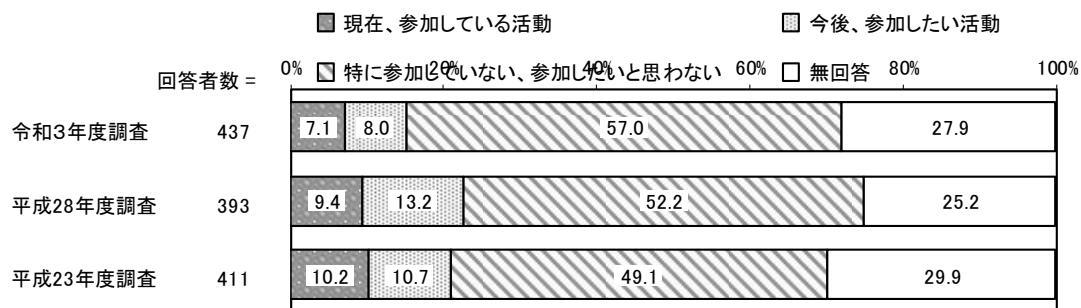
年代別でみると、他に比べ、20~30代で「特に参加していない、参加したいと思わない」の割合が高くなっています。



③ P T A 活動

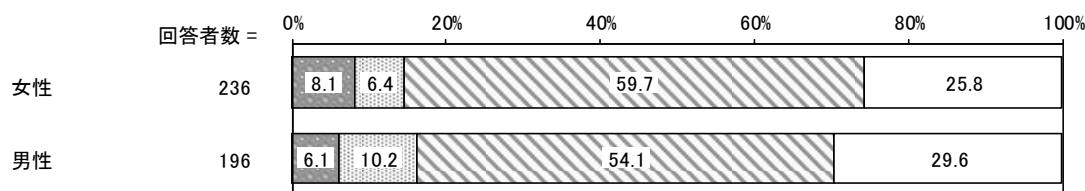
【経年比較】

平成 28 年度調査、平成 23 年度調査と比較すると、「現在、参加している活動」の割合が減少し、「特に参加していない、参加したいと思わない」の割合が増加する傾向がみられます。また、平成 28 年度調査に比べ、「今後、参加したい活動」の割合が減少しています。



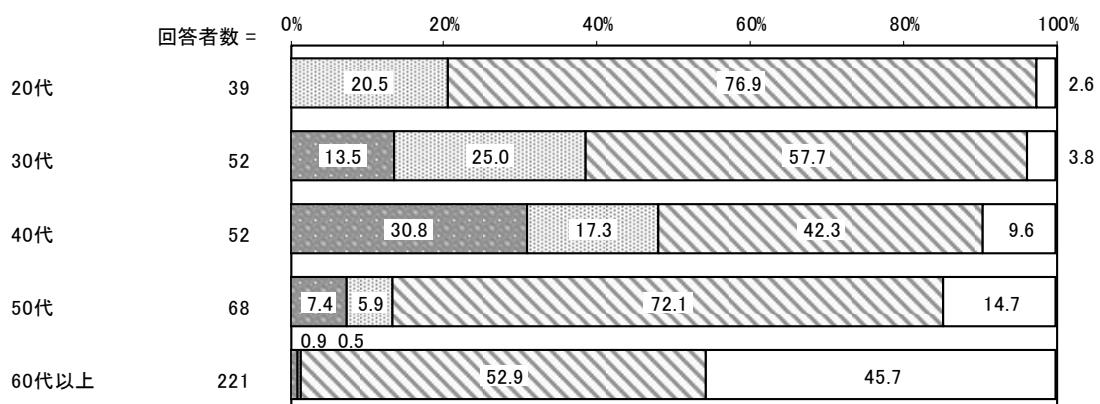
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【年代別】

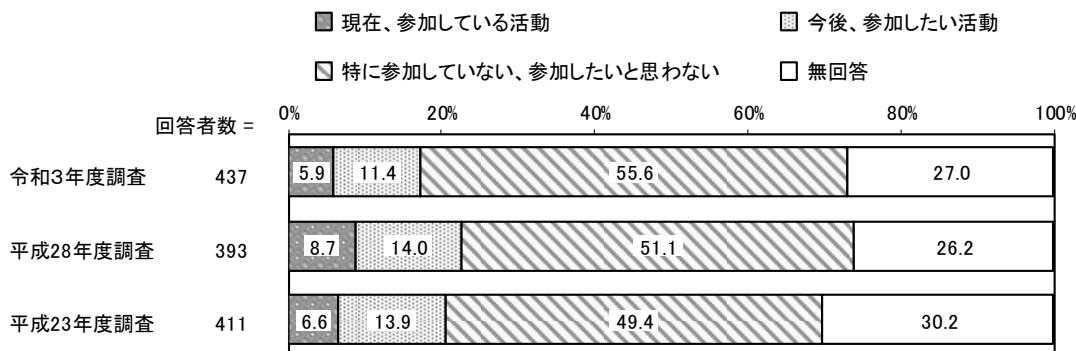
年代別でみると、他に比べ、40 代で「現在、参加している活動」の割合が高くなっています。また、20 代、50 代で「特に参加していない、参加したいと思わない」の割合が高くなっています。



④子ども会・青少年活動

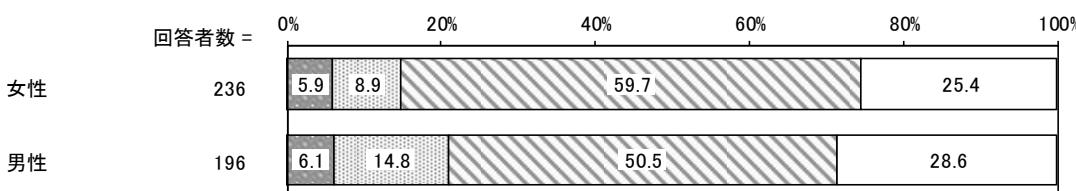
【経年比較】

平成 28 年度調査、平成 23 年度調査と比較すると、「特に参加していない、参加したいと思わない」の割合が増加する傾向がみられます。



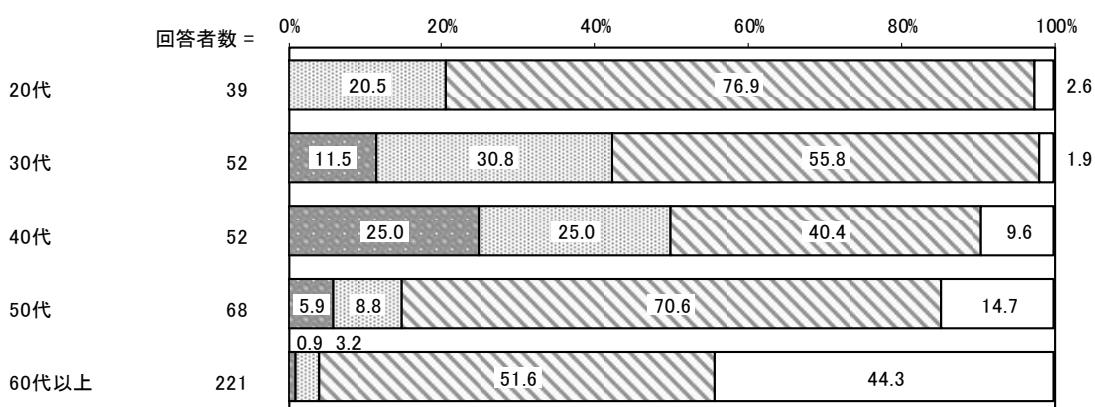
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「特に参加していない、参加したいと思わない」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「今後、参加したい活動」の割合が高くなっています。



【年代別】

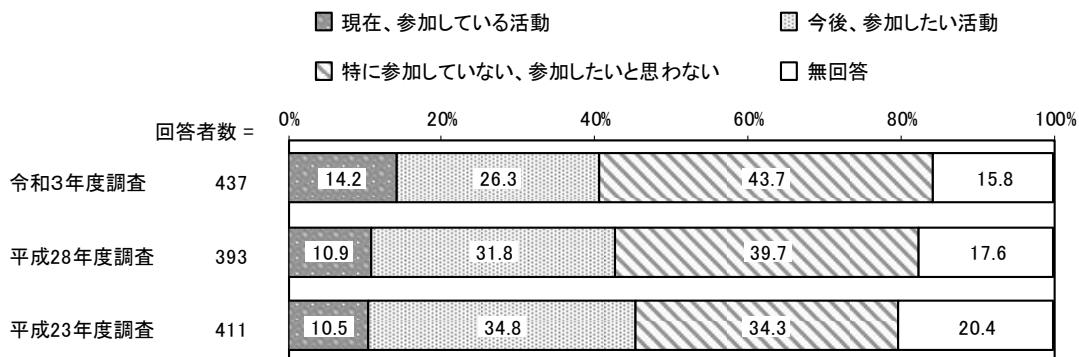
年代別でみると、他に比べ、40 代で「現在、参加している活動」の割合が高くなっています。また、20 代、50 代で「特に参加していない、参加したいと思わない」の割合が高くなっています。



⑤ボランティア活動などの社会貢献活動

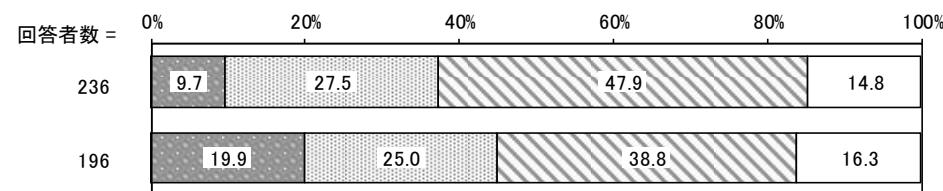
【経年比較】

平成 28 年度調査、平成 23 年度調査と比較すると、「今後、参加したい活動」の割合が減少し、「特に参加していない、参加したいと思わない」の割合が増加する傾向がみられます。



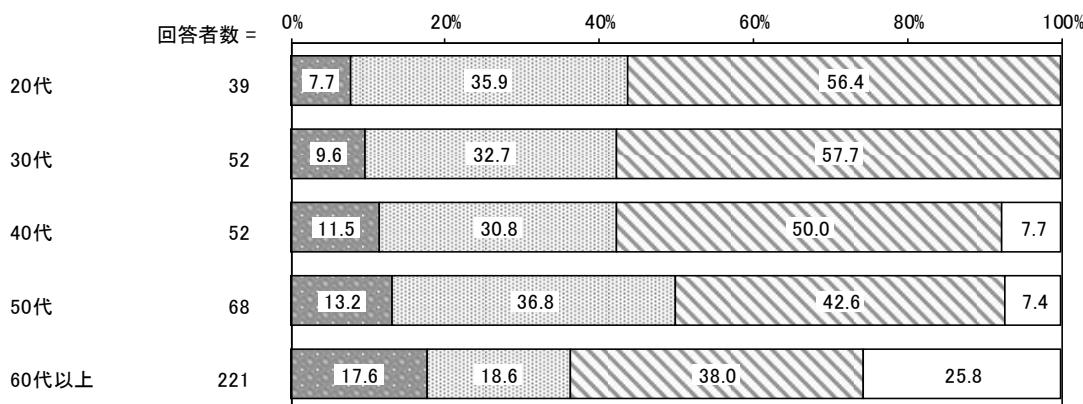
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「特に参加していない、参加したいと思わない」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「現在、参加している活動」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、20~30 代で「特に参加していない、参加したいと思わない」の割合が高くなっています。また、年齢が高くなるにつれて「現在、参加している活動」の割合が高くなる傾向がみられます。



⑥その他

【現在、参加している活動】

- ・ フリースクールの運営
- ・ 老人会

【今後、参加したい活動】

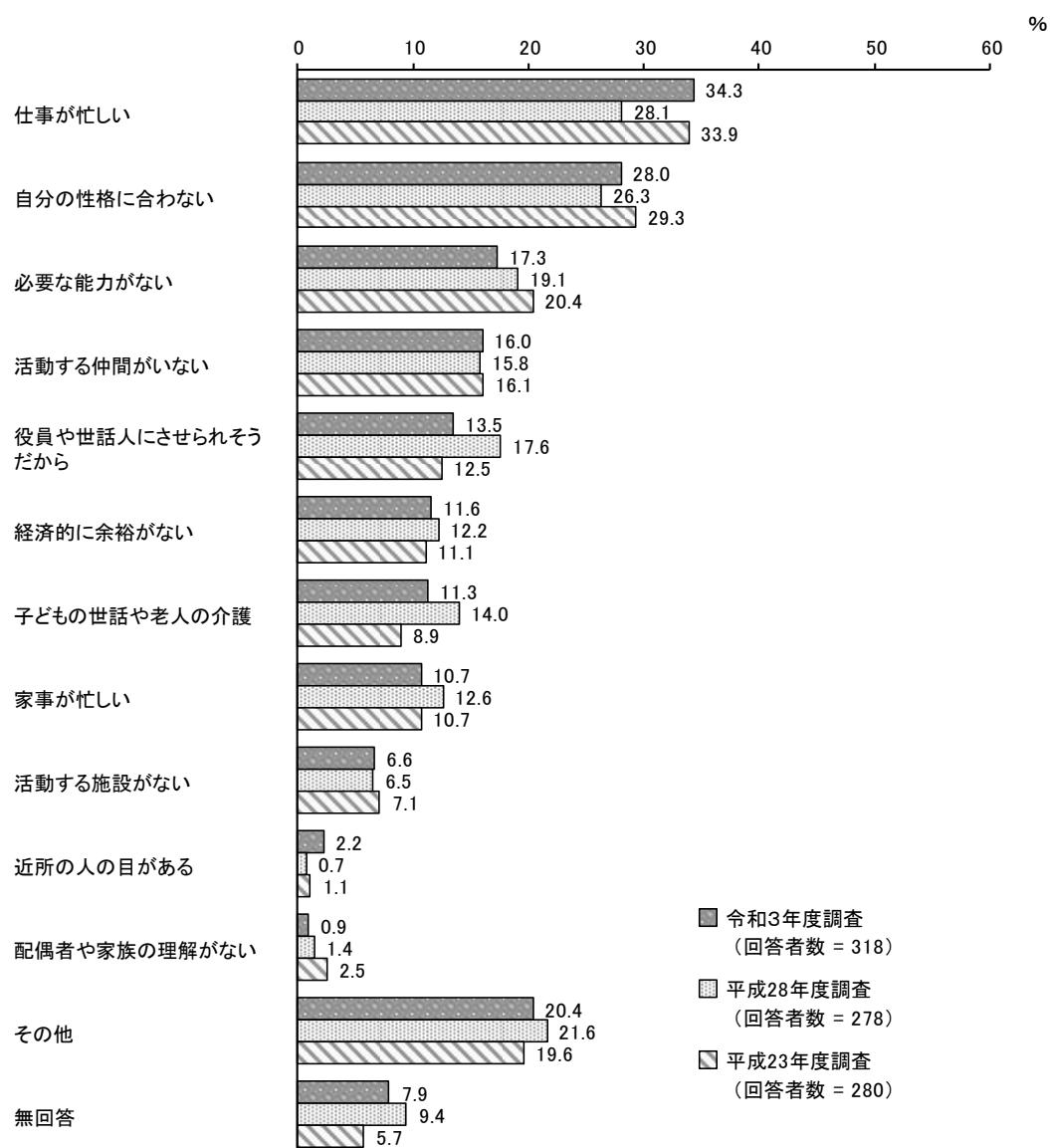
- ・ 街づくり活動
- ・ 婚活

《問37で「特に参加していない、参加したいと思わない」をひとつでも選んだ方にお聞きします》

問38 地域活動に参加していない主な理由は何ですか。(3つまで○)

「仕事が忙しい」の割合が34.3%と最も高く、次いで「自分の性格に合わない」の割合が28.0%、「必要な能力がない」の割合が17.3%となっています。

平成28年度調査と比較すると、「仕事が忙しい」の割合が増加しています。一方、「役員や世話人にさせられそうだから」の割合が減少しています。



【性 別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「子どもの世話や老人の介護」、「家事が忙しい」、「必要な能力がない」の割合が高くなっています。また、男女ともに「仕事が忙しい」の割合が高くなっています。

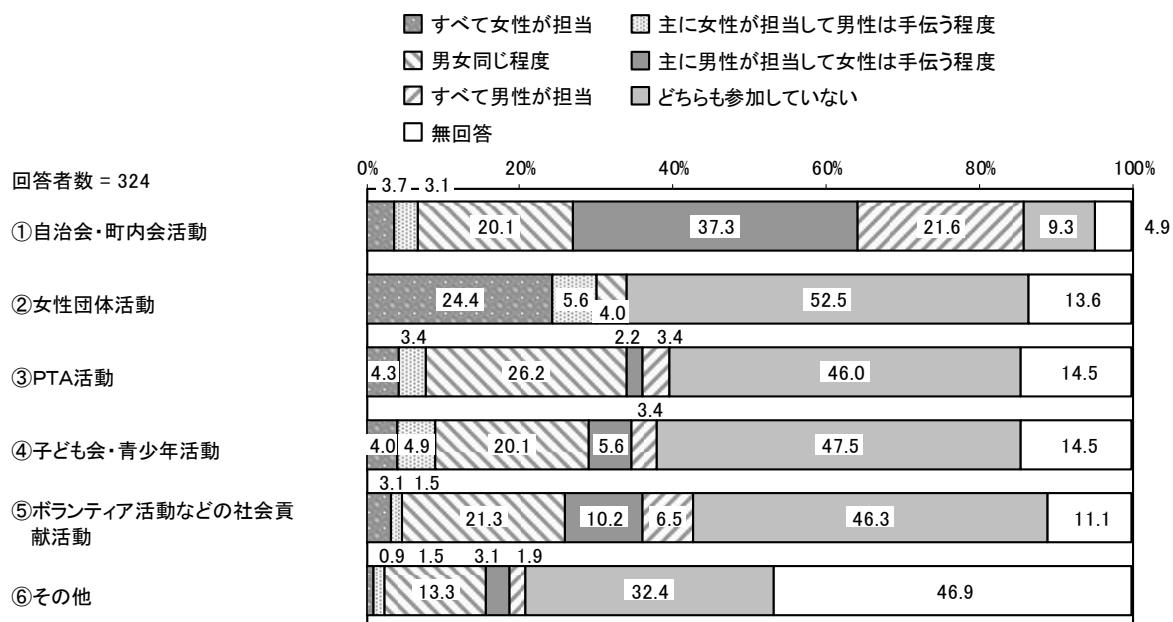
単位：%

区分	回答者数 (件)	子どもの世話や老人の介護	仕事が忙しい	家事が忙しい	経済的に余裕がない	配偶者や家族の理解がない	必要な能力がない	近所の人の目がある	自分の性格に合わない	活動する仲間がない	活動する施設がない	役員や世話人にさせられそ うだから	その他	無回答
女性	179	15.1	32.4	16.8	10.6	1.1	20.7	1.7	28.5	16.2	6.7	13.4	16.8	6.1
男性	135	6.7	36.3	3.0	12.6	0.7	13.3	3.0	27.4	15.6	5.9	14.1	25.2	9.6

《配偶者またはパートナーと暮らしている方にお聞きします》

問39 地域活動の中で、あなたのご家庭での男女の役割分担について、現状をお答えください。(①から⑥の項目についてそれぞれ1つずつ〇)

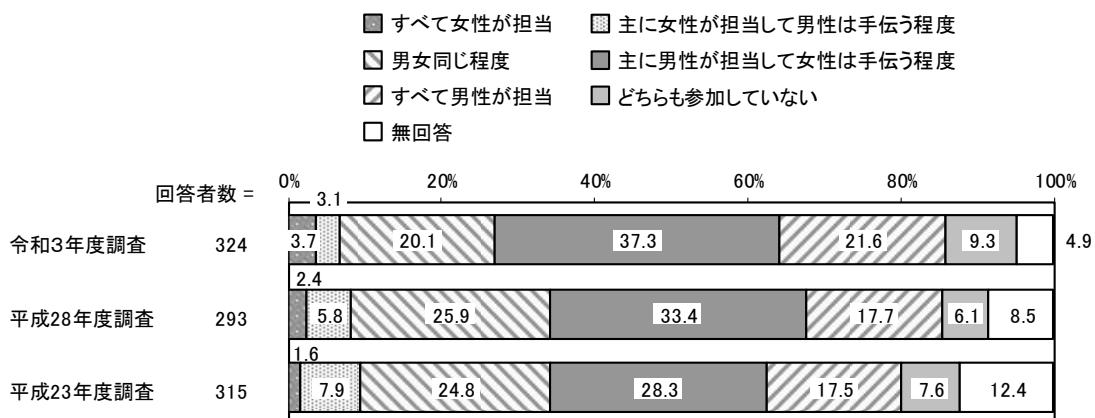
『②女性団体活動』で「すべて女性が担当」の割合が、『①自治会・町内会活動』『③PTA活動』『④子ども会・青少年活動』『⑤ボランティア活動などの社会貢献活動』で「男女同じ程度」の割合が、『①自治会・町内会活動』で「主に男性が担当して女性は手伝う程度」、「すべて男性が担当」の割合が高くなっています。



①自治会・町内会活動

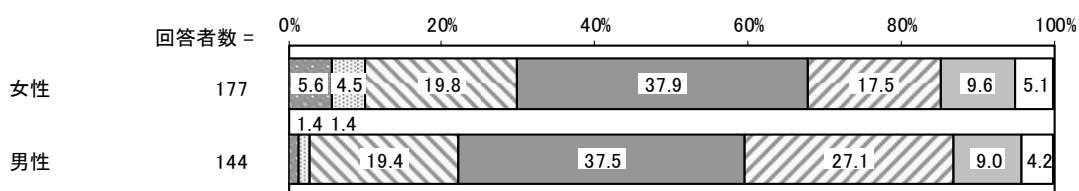
【経年比較】

平成 28 年度調査、平成 23 年度調査と比較すると、「主に男性が担当して女性は手伝う程度」の割合が増加する傾向がみられます。また、平成 28 年度調査に比べ、「男女同じ程度」の割合が減少しています。



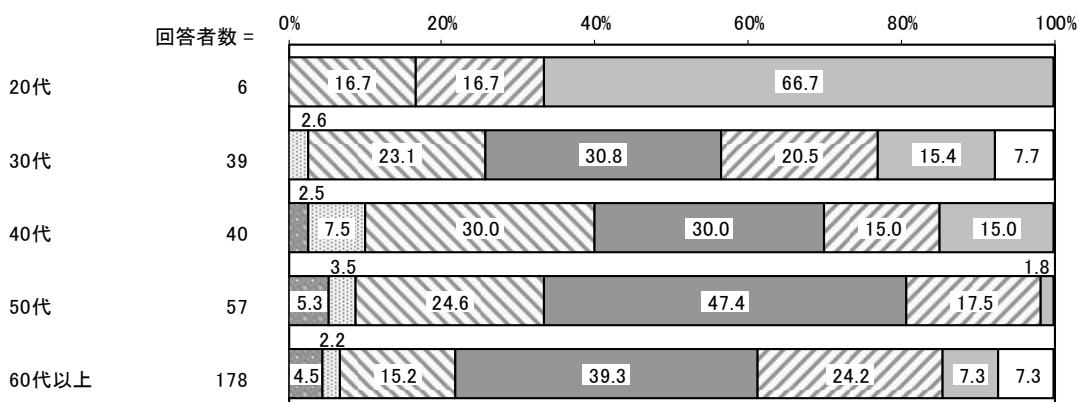
【性 別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「すべて男性が担当」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、回答数の少ない 20 代を除き、他に比べ、50 代で「主に男性が担当して女性は手伝う程度」の割合が高くなっています。

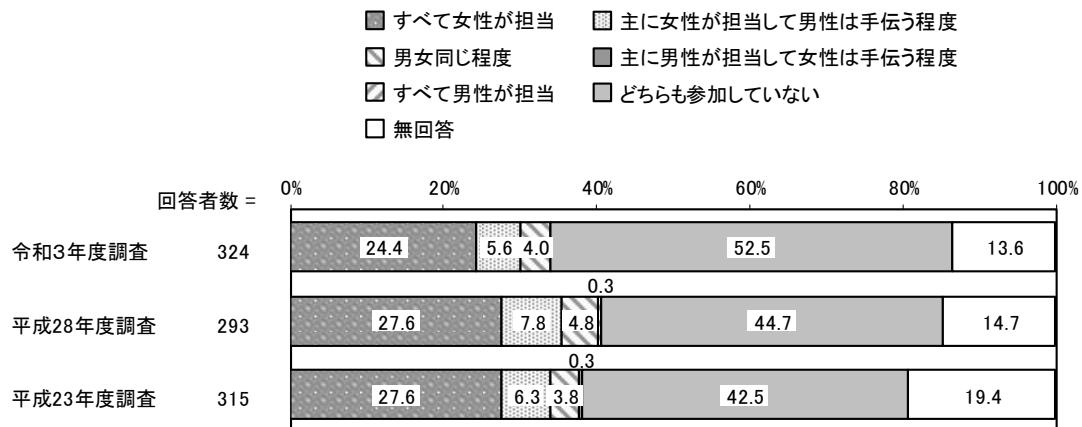


※①～⑤の年代別集計について、20 代は回答数が少ないと比較の対象としていません。

②女性団体活動

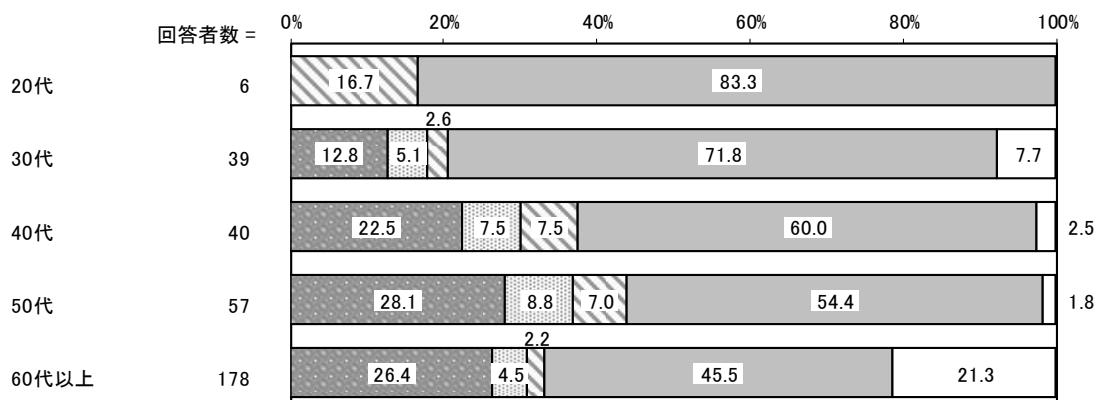
【経年比較】

平成 28 年度調査、平成 23 年度調査と比較すると、「どちらも参加していない」の割合が増加する傾向がみられます。



【年代別】

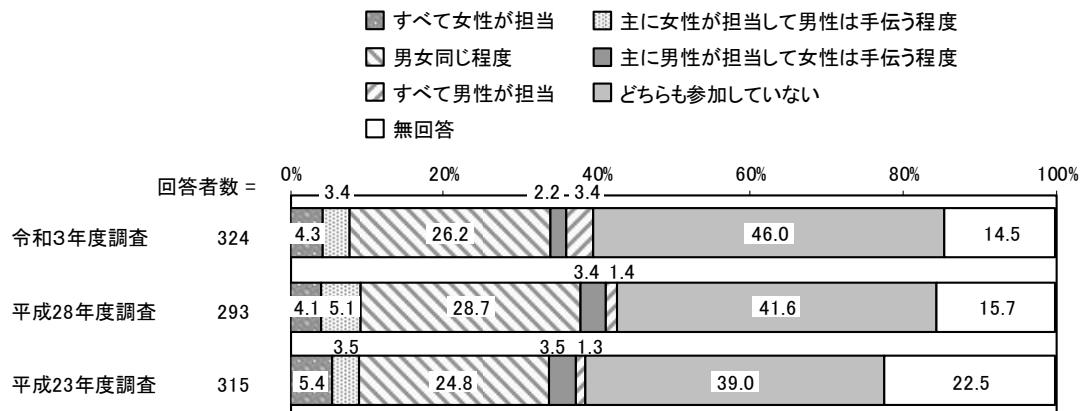
年代別でみると、回答数の少ない 20 代を除き、他に比べ、40 代以上で「すべて女性が担当」の割合が高くなっています。



③ P T A 活動

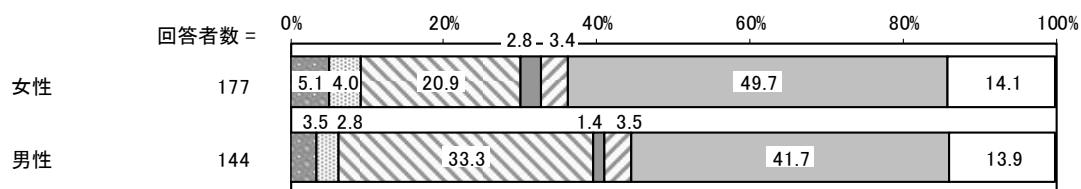
【経年比較】

平成 28 年度調査、平成 23 年度調査と比較すると、「どちらも参加していない」の割合が増加する傾向がみられます。



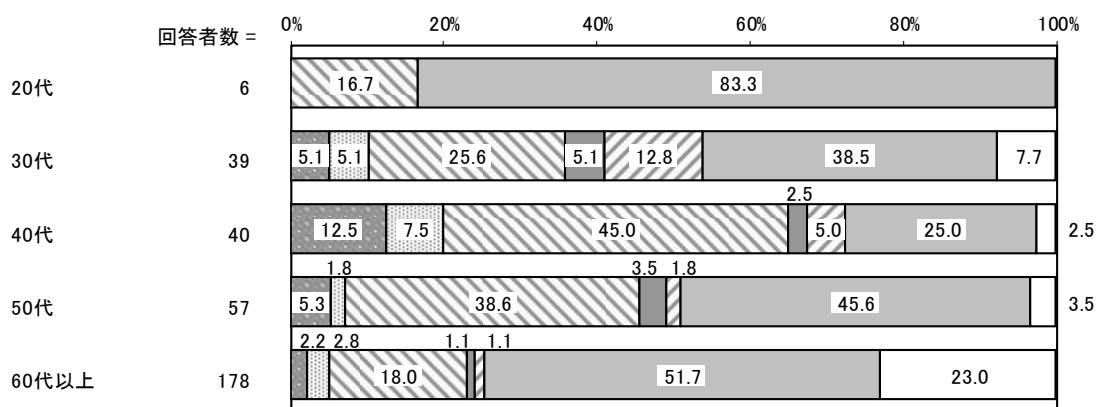
【性 別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「どちらも参加していない」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「男女同じ程度」の割合が高くなっています。



【年代別】

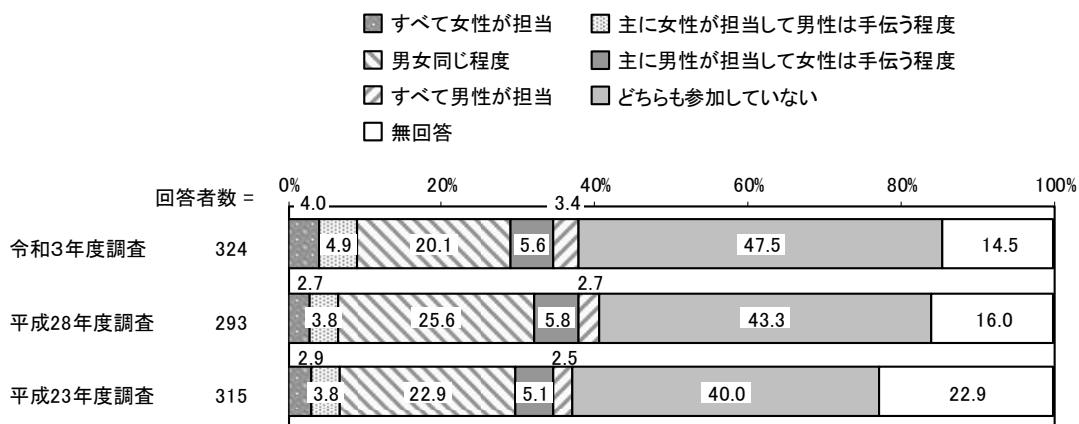
年代別でみると、回答数の少ない 20 代を除き、他に比べ、30 代で「すべて男性が担当」の割合が、40 代で「すべて女性が担当」、「男女同じ程度」の割合が高くなっています。また、60 代以上で「どちらも参加していない」の割合が高くなっています。



④子ども会・青少年活動

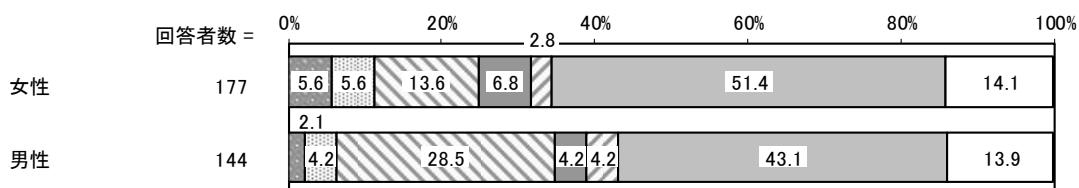
【経年比較】

平成 28 年度調査、平成 23 年度調査と比較すると、「どちらも参加していない」の割合が増加する傾向がみられます。また、平成 28 年度調査に比べ、「男女同じ程度」の割合が減少しています。



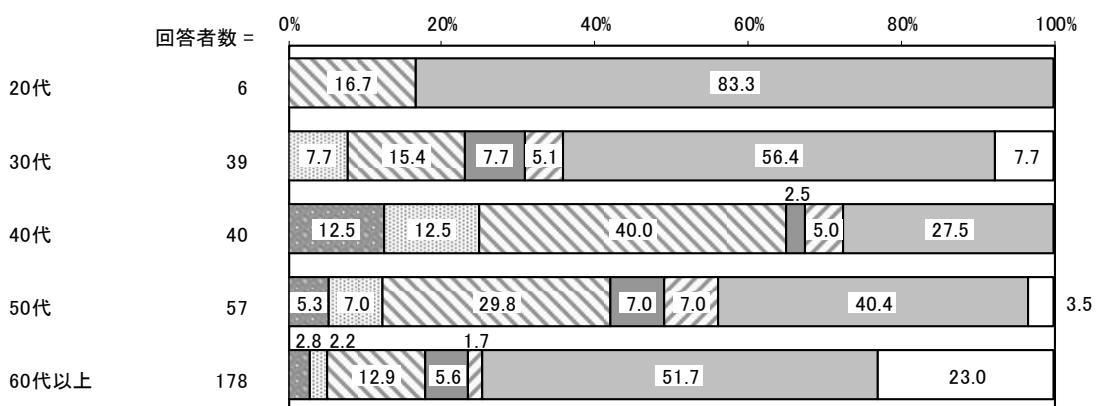
【性 別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「どちらも参加していない」の割合が高くなっています。女性に比べ、男性で「男女同じ程度」の割合が高くなっています。



【年代別】

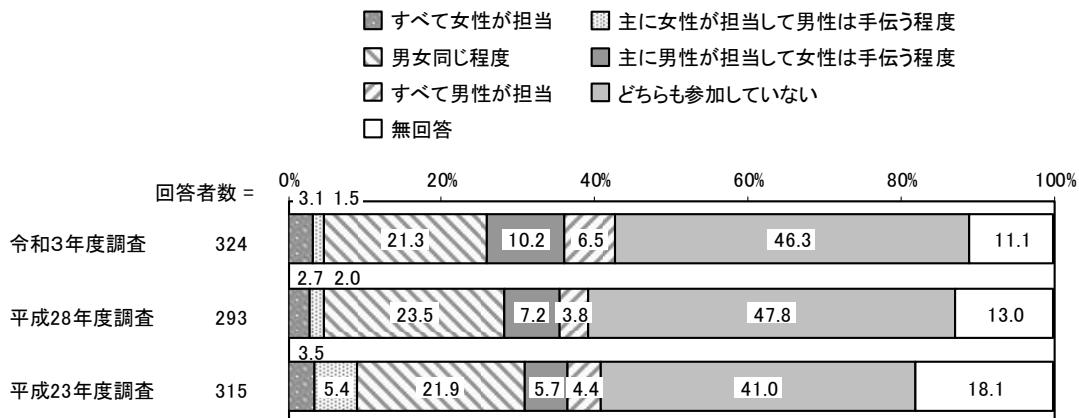
年代別でみると、回答数の少ない 20 代を除き、他に比べ、30 代、60 代以上で「どちらも参加していない」の割合が高くなっています。また、40 代で「男女同じ程度」の割合が高くなっています。



⑤ボランティア活動などの社会貢献活動

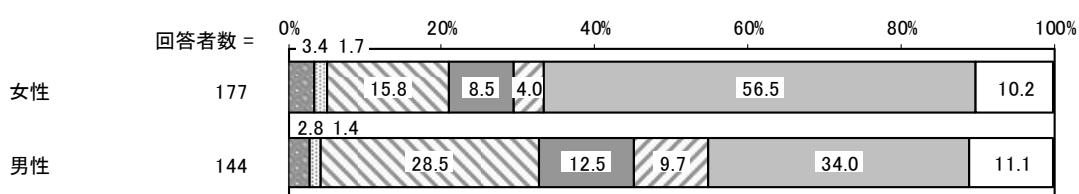
【経年比較】

平成 28 年度調査、平成 23 年度調査と比較すると、平成 23 年度調査に比べ、「どちらも参加していない」の割合が増加しています。



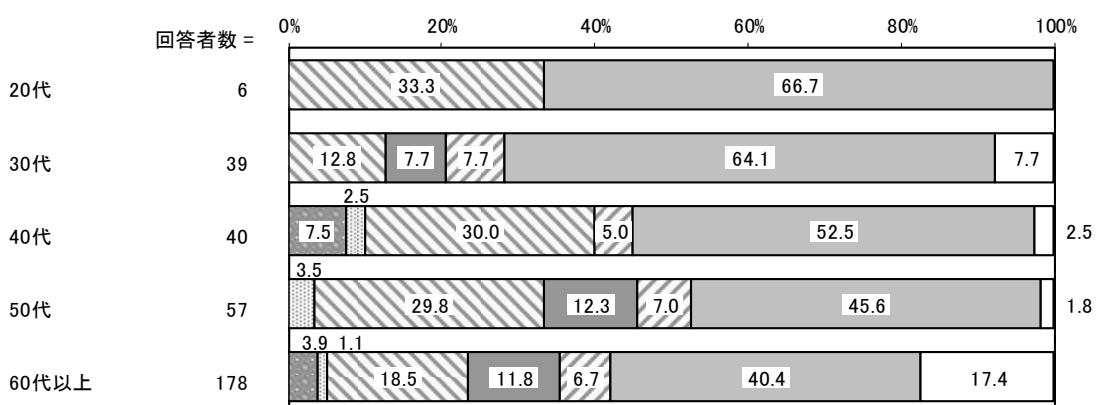
【性 別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「どちらも参加していない」の割合が高くなっています。女性に比べ、男性で「男女同じ程度」の割合が高くなっています。



【年代別】

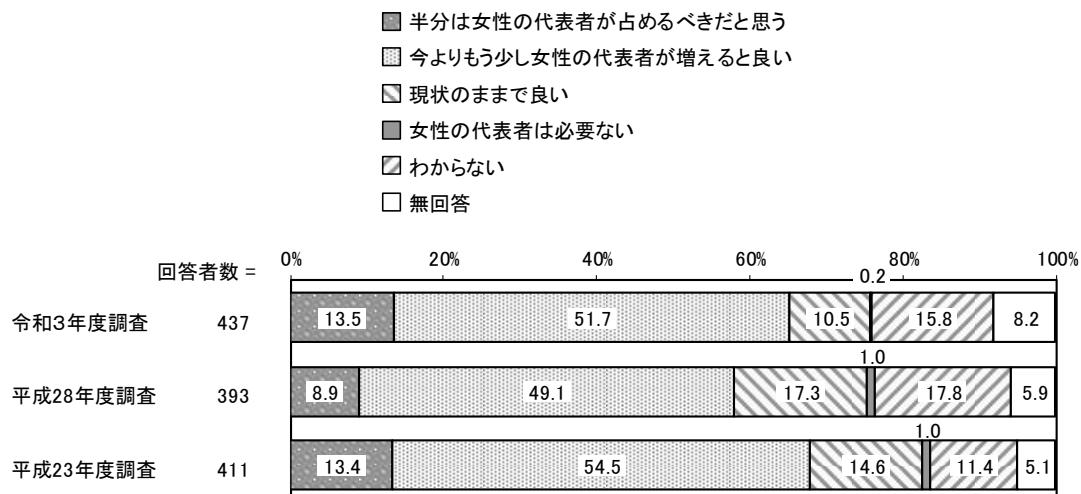
年代別でみると、回答数の少ない 20 代を除き、他に比べ、30 代で「どちらも参加していない」の割合が高くなっています。また、40 代、50 代で「男女同じ程度」の割合が高くなっています。



問40 女性が地域社会を代表する立場として、施策づくりに参画する場合、その割合についてどう思いますか。(地域社会を代表する立場の例としては、市議会議員、行政の委員、地域団体の代表者・役員等です。) (1つに○)

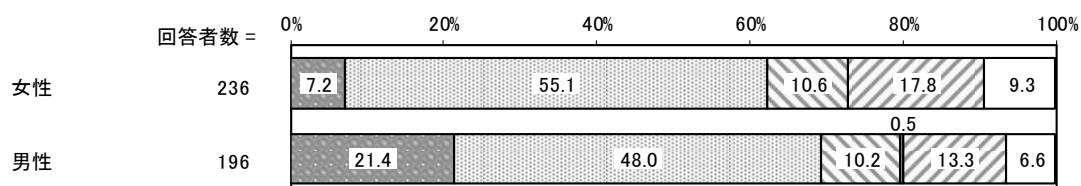
「今よりもう少し女性の代表者が増えると良い」の割合が51.7%と最も高く、次いで「わからない」の割合が15.8%、「半分は女性の代表者が占めるべきだと思う」の割合が13.5%となっています。

平成28年度調査と比較すると、「現状のままで良い」の割合が減少しています。



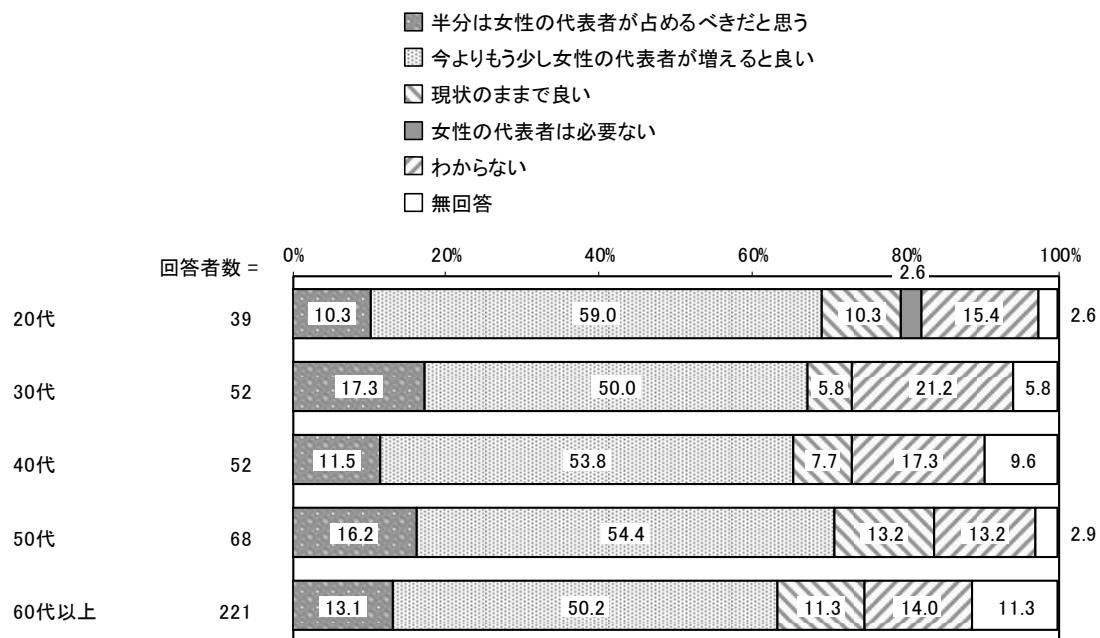
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「今よりもう少し女性の代表者が増えると良い」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「半分は女性の代表者が占めるべきだと思う」の割合が高くなっています。



【年代別】

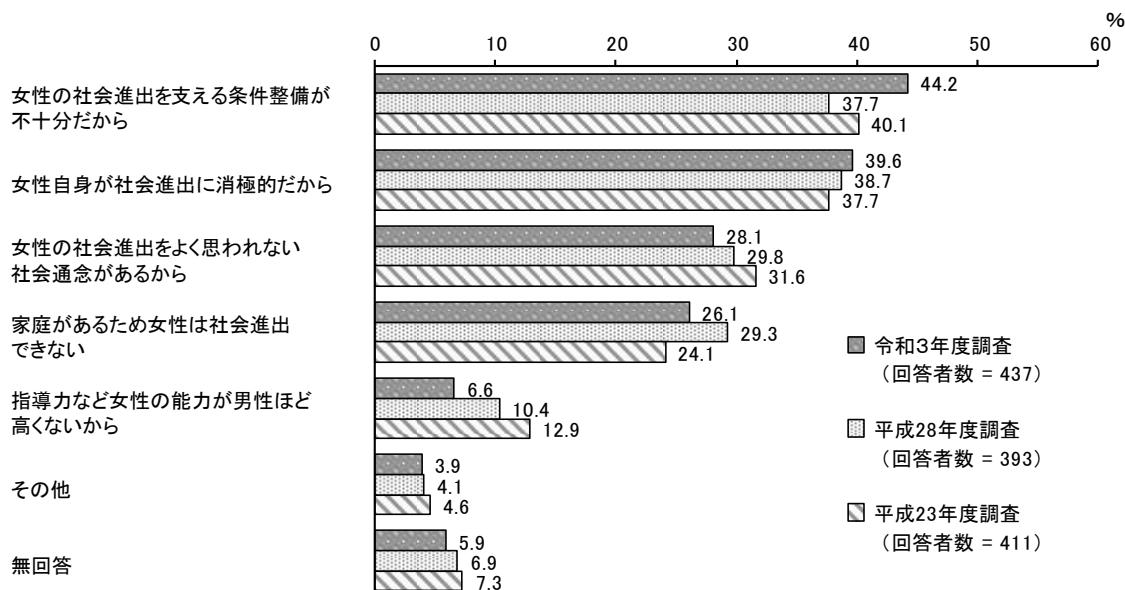
年代別でみると、他に比べ、20代で「今よりもう少し女性の代表者が増えると良い」の割合が高くなっています。一方、20代でのみ「女性の代表者は必要ない」の回答がありました。



問41 田原市では、法令・条例設置委員への女性の登用率が約25%と低いですが、それはどのような理由からだと思いますか。(2つまで○)

「女性の社会進出を支える条件整備が不十分だから」の割合が44.2%と最も高く、次いで「女性自身が社会進出に消極的だから」の割合が39.6%、「女性の社会進出をよく思われない社会通念があるから」の割合が28.1%となっています。

平成28年度調査と比較すると、「女性の社会進出を支える条件整備が不十分だから」の割合が増加しています。一方、平成23年度調査、平成28年度調査と比較すると、「女性の社会進出をよく思われない社会通念があるから」の割合は減少傾向がみられます。



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「女性の社会進出をよく思われない社会通念があるから」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「女性の社会進出を支える条件整備が不十分だから」の割合が高くなっています。

区分	回答者数 (件)	単位: %							
		女性自身が社会進出に消極的だから	女性の社会進出をよく思われる社会通念があるから	女性の社会進出をされない社会を	不十分だから	支える条件整備が社会進出を	な性家庭があるため女性	く能力が男など性の	その他
女性	236	38.1	30.9	39.0	27.5	8.1	3.8	5.9	
男性	196	41.3	25.5	50.0	24.5	5.1	3.6	5.6	

【年代別】

年代別でみると、他に比べ、40～50代で「女性の社会進出をよく思われない社会通念があるから」の割合が高くなっています。また、40代を除く各世代で「女性の社会進出を支える条件整備が不十分だから」の割合が高く、20代、30代で「家庭があるため女性は社会進出できない」の割合が、40代、60代以上で「女性自身が社会進出に消極的だから」の割合が高くなっています。

単位：%

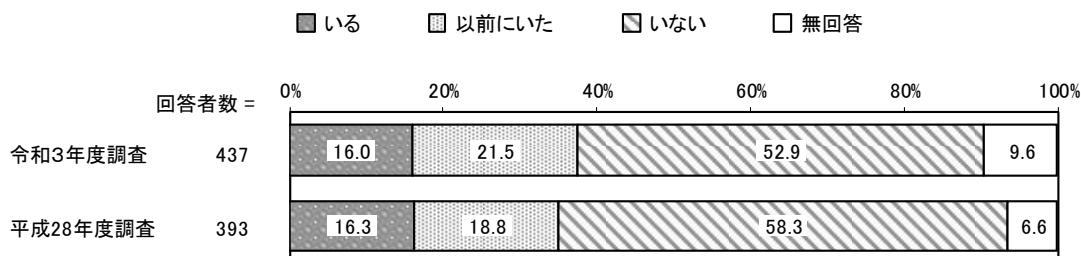
区分	回答者数 (件)	女性自身が社会進出に消極的だから	女性の社会進会通念があるから	女性の社会進出を支える条件整備が不十分だから	女性の社会進出ができない	家庭は社会進出ため女性	く能力が男なら性ほど女性の	指導力など女性の	その他	無回答
20代	39	30.8	23.1	53.8	41.0	5.1	2.6	—		
30代	52	26.9	23.1	48.1	38.5	3.8	7.7	—		
40代	52	44.2	32.7	30.8	25.0	5.8	3.8	5.8		
50代	68	35.3	33.8	35.3	27.9	4.4	4.4	5.9		
60代以上	221	44.8	28.1	48.0	19.9	7.2	3.2	8.1		

7 介護について

問42 あなたのご家族には、介護を要する方がいますか。若しくはいましたか。

「いない」の割合が52.9%と最も高く、次いで「以前にいた」の割合が21.5%、「いる」の割合が16.0%となっています。

平成28年度調査と比較すると、「いない」の割合が減少しています。



※平成23年度調査では本設問はありませんでした。

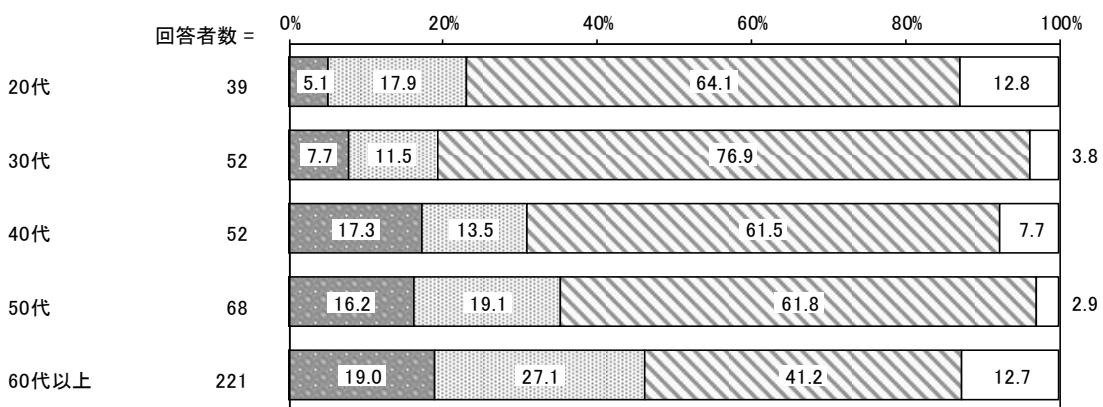
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「以前にいた」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「いない」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、40～60代で「いる」の割合が、60代以上で「以前にいた」の割合が高くなっています。また、30代で「いない」の割合が高く、60代で低くなっています。



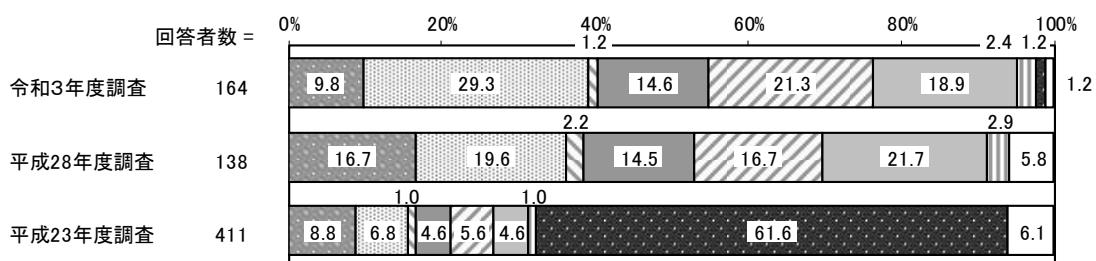
《問42で「いる」、「以前はいた」と答えた方にお聞きします》

問43 介護は主にどのような形で行っていますか。(1つに○)

「娘や嫁などの家族の女性が世話をしている」の割合が29.3%と最も高く、次いで「介護保険制度などのサービスを利用している」の割合が21.3%、「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）を利用している」の割合が18.9%となっています。

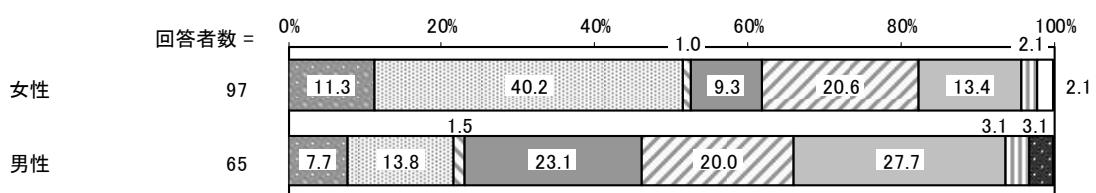
平成23年度調査、平成28年度調査と比較すると、「娘や嫁などの家族の女性が世話をしている」の割合は増加傾向がみられます。

- 配偶者が世話をしている
- 娘や嫁などの家族の女性が世話をしている
- 息子が世話をしている
- 家族全員で世話をしている
- 介護保険制度などのサービスを利用している
- 介護保険施設（特別養護老人ホームなど）を利用している
- その他
- 該当する人がいない
- 無回答



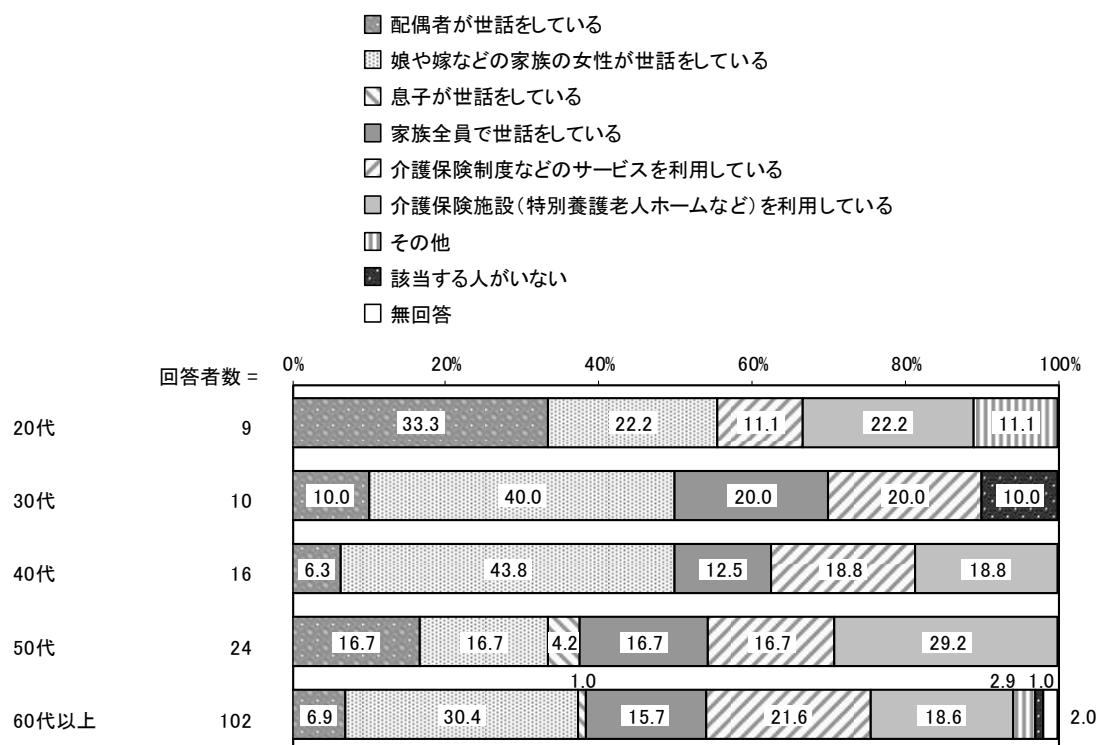
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「娘や嫁などの家族の女性が世話をしている」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「家族全員で世話をする」、「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）を利用している」の割合が高くなっています。



【年代別】

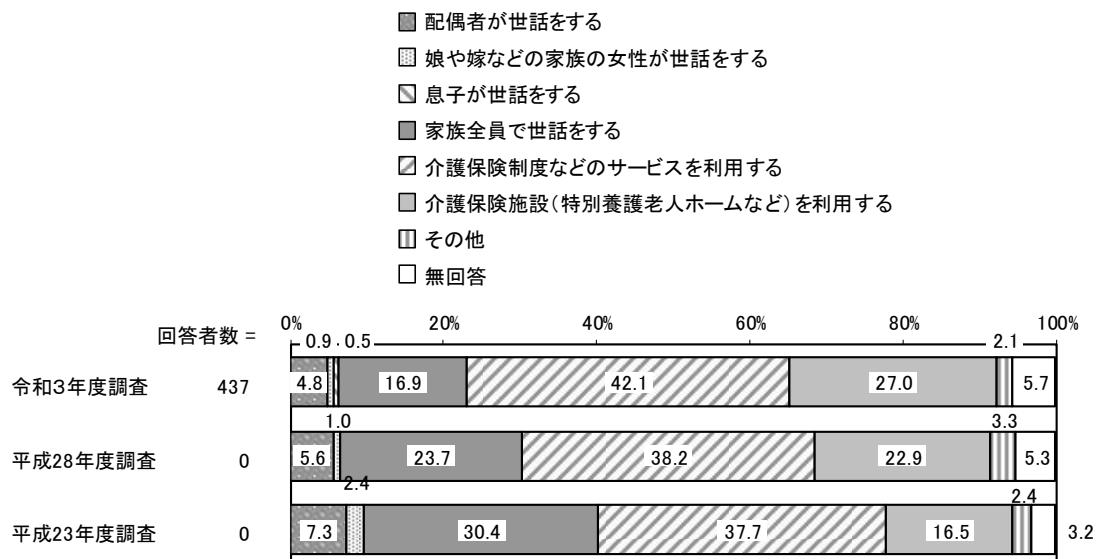
年代別でみると、回答数の少ない20代を除き、他に比べ、30代、40代、60代以上で「娘や嫁などの家族の女性が世話をしている」の割合が、50代で「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）を利用している」の割合が高くなっています。



問44 あなたは、将来、要介護者などの身のまわりの世話を、どのような形をとるのが最も望ましいと考えますか。(1つに○)

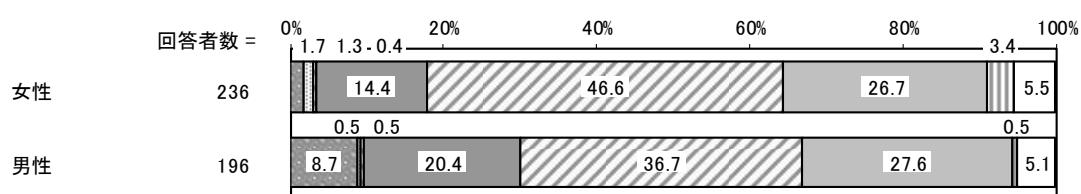
「介護保険制度などのサービスを利用する」の割合が42.1%と最も高く、次いで「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）を利用する」の割合が27.0%、「家族全員で世話をする」の割合が16.9%となっています。

平成23年度調査、平成28年度調査と比較すると、「介護保険制度などのサービスを利用する」、「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）を利用する」の割合が増加しています。一方、「家族全員で世話をする」の割合は減少傾向がみられます。



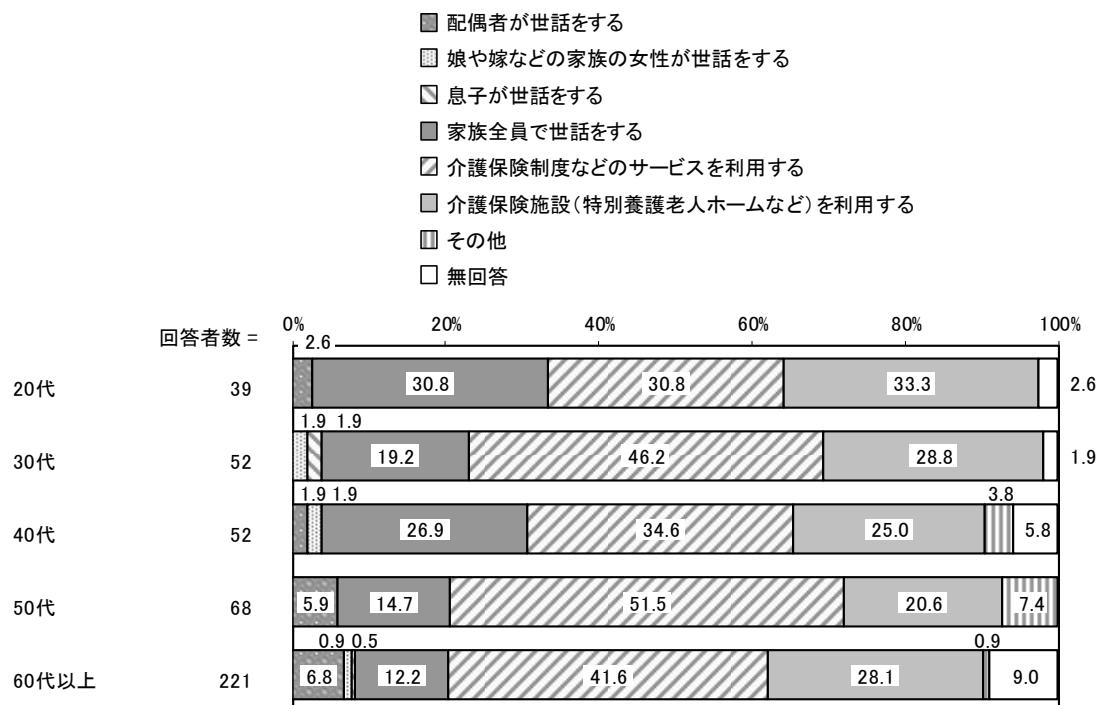
【性 別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「介護保険制度などのサービスを利用する」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「配偶者が世話をする」、「家族全員で世話をする」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、20代で「介護保険施設（特別養護老人ホームなど）を利用する」の割合が、20代、40代で「家族全員で世話をする」の割合が高くなっています。また、30代、50代以上で「介護保険制度などのサービスを利用する」の割合が高くなっています。



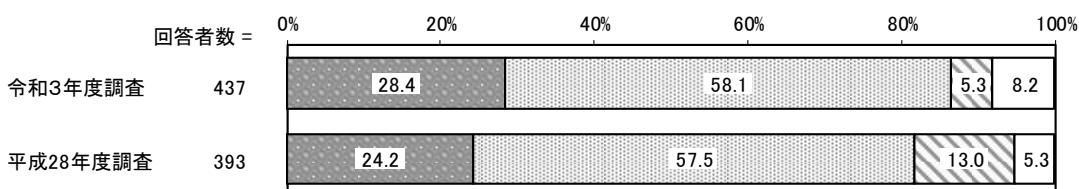
8 人権について

問45 あなたは、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）」を知っていますか。（あてはまるもの1つに○）

「法律があることは知っているが、内容はよく知らない」の割合が58.1%と最も高く、次いで「法律があることもその内容も知っている」の割合が28.4%となっています。

平成28年度調査と比較すると、「法律があることもその内容も知らなかつた」の割合が減少しています。

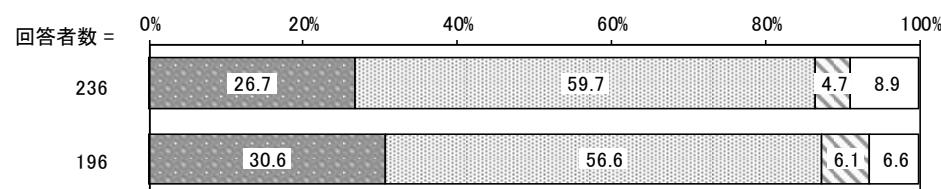
- 法律があることもその内容も知っている
- 法律があることは知っているが、内容はよく知らない
- 法律があることもその内容も知らなかつた
- 無回答



※平成23年度調査では本設問はありませんでした。

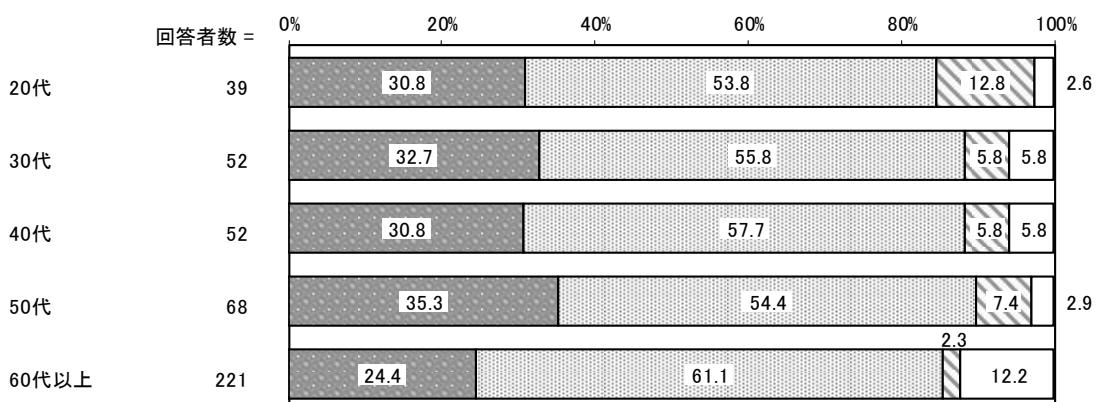
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【年代別】

年代別でみると、大きな差異はみられません。

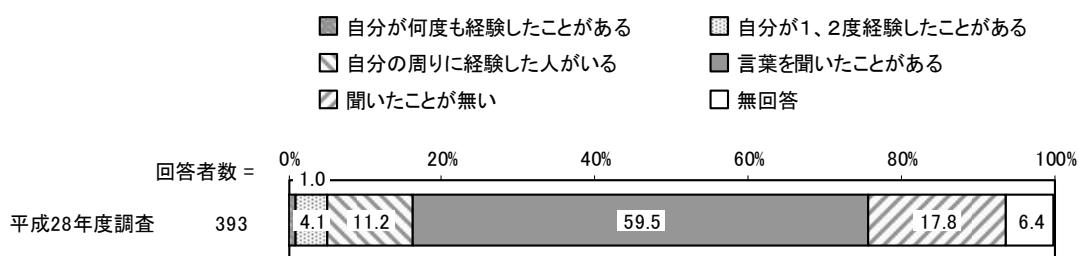
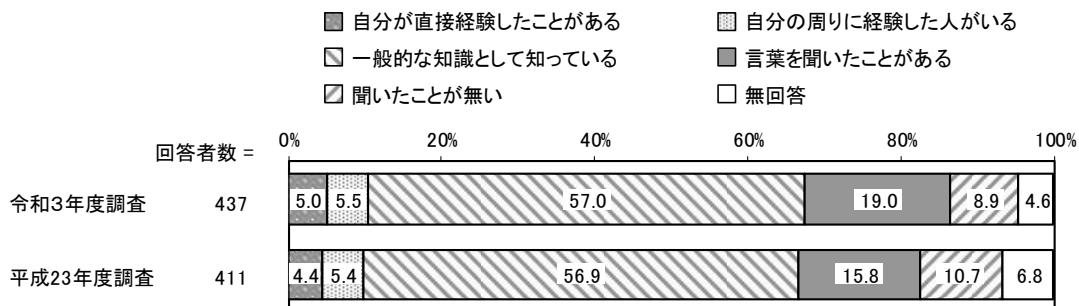


問46 セクシュアル・ハラスメントやドメスティック・バイオレンスについて、いずれか1つでも自分が経験したり、そのような話を聞いたことがありますか。
(それぞれ1つずつ〇)

セクシュアル・ハラスメント

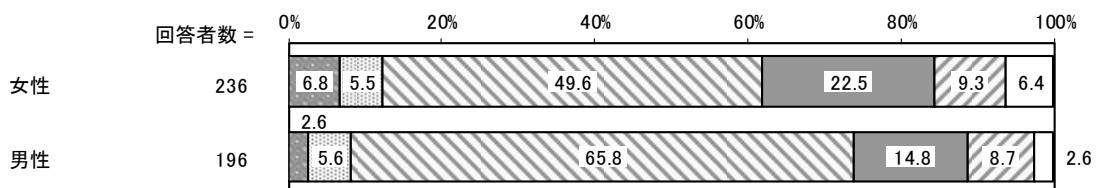
「一般的な知識として知っている」の割合が57.0%と最も高く、次いで「言葉を聞いたことがある」の割合が19.0%となっています。

平成23年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。なお、平成28年度調査とは選択肢が異なるため、参考にとどめます。



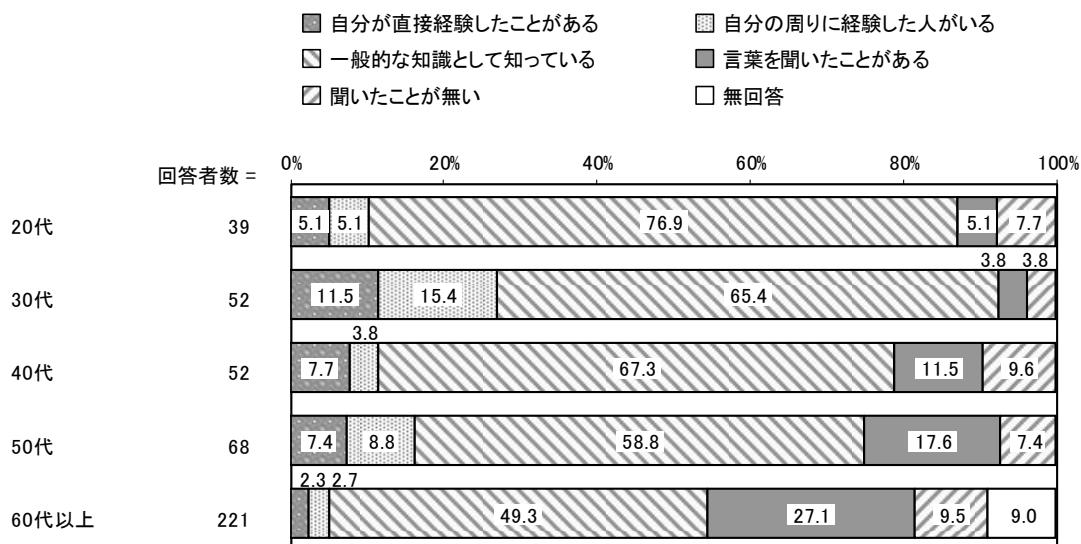
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「言葉を聞いたことがある」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「一般的な知識として知っている」の割合が高くなっています。



【年代別】

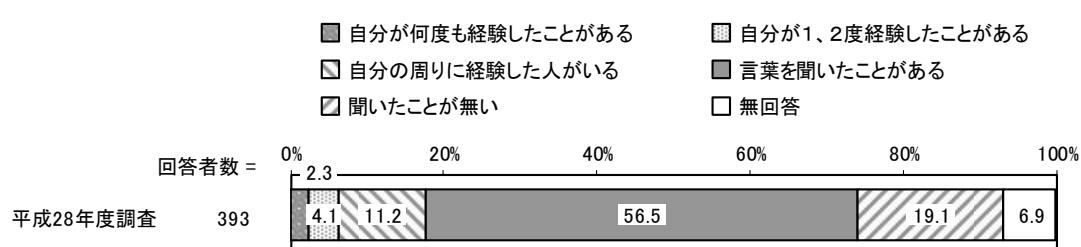
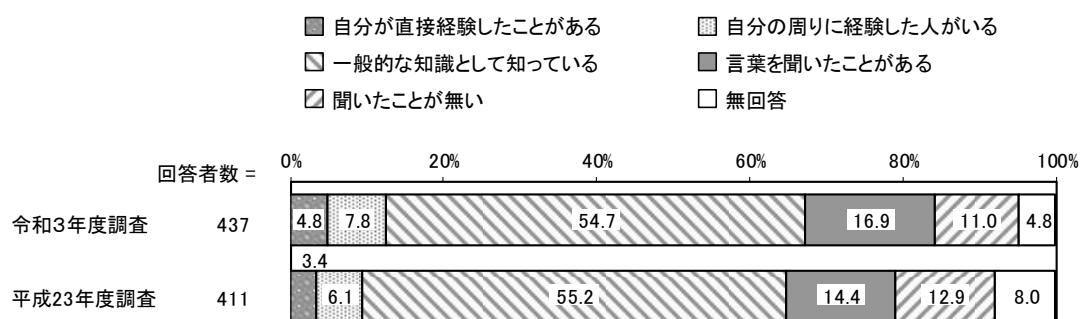
年代別でみると、他に比べ、20代で「一般的な知識として知っている」の割合が、30代で「自分の周りに経験した人がいる」の割合が、60代以上で「言葉を聞いたことがある」の割合が高くなっています。また、年齢が低くなるにつれて「一般的な知識として知っている」の割合が高くなる傾向がみられます。



ドメスティック・バイオレンス

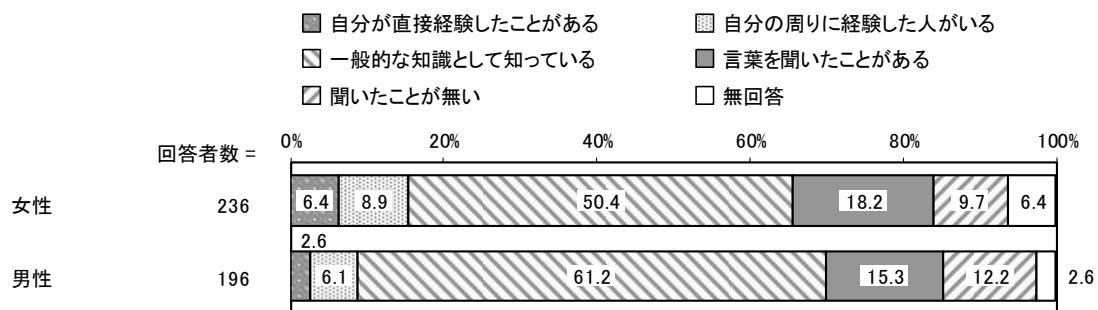
「一般的な知識として知っている」の割合が54.7%と最も高く、次いで「言葉を聞いたことがある」の割合が16.9%、「聞いたことが無い」の割合が11.0%となっています。

平成23年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。なお、平成28年度調査とは選択肢が異なるため、参考にとどめます。



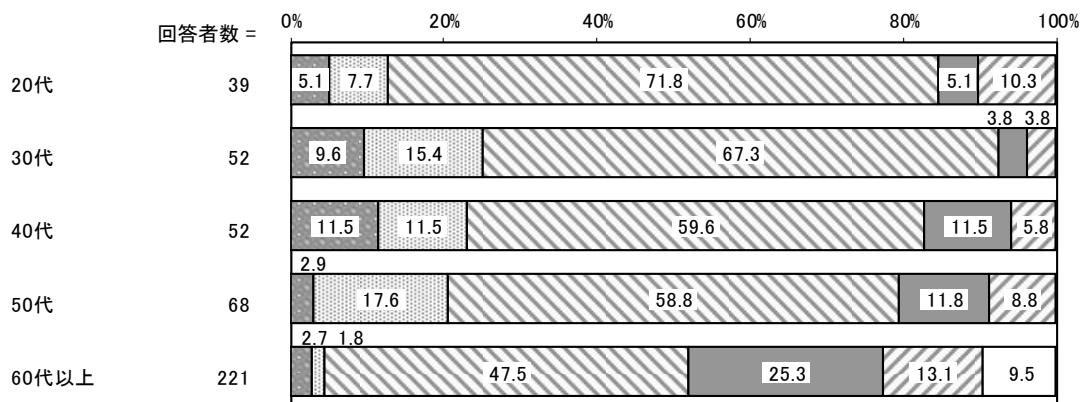
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「一般的な知識として知っている」の割合が高くなっています。



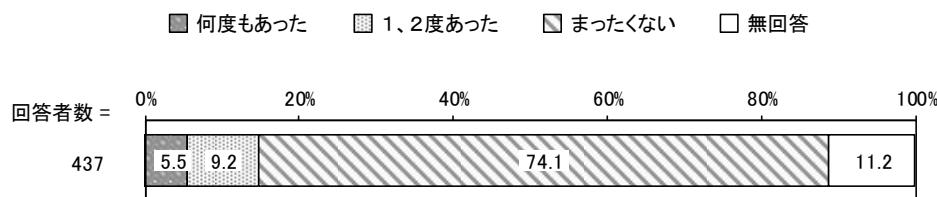
【年代別】

年代別でみると、他に比べ、60代以上で「言葉を聞いたことがある」の割合が高くなっています。また、年齢が低くなるにつれて「一般的な知識として知っている」の割合が高くなる傾向がみられます。



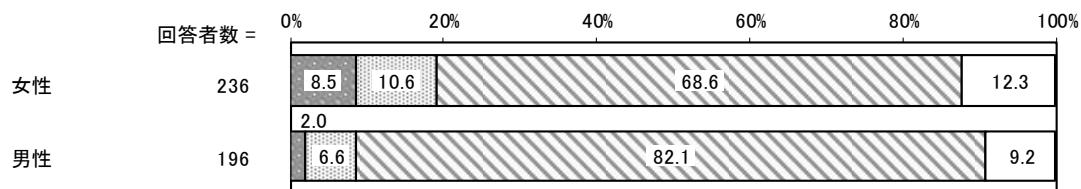
問47 これまでに配偶者やパートナー、恋人から「身体的暴力」、「心理的攻撃」、「性的強要」などのDV被害をいずれか1つでも受けたことがありますか。
(あてはまるもの1つに○)

「まったくない」の割合が74.1%と最も高くなっています。



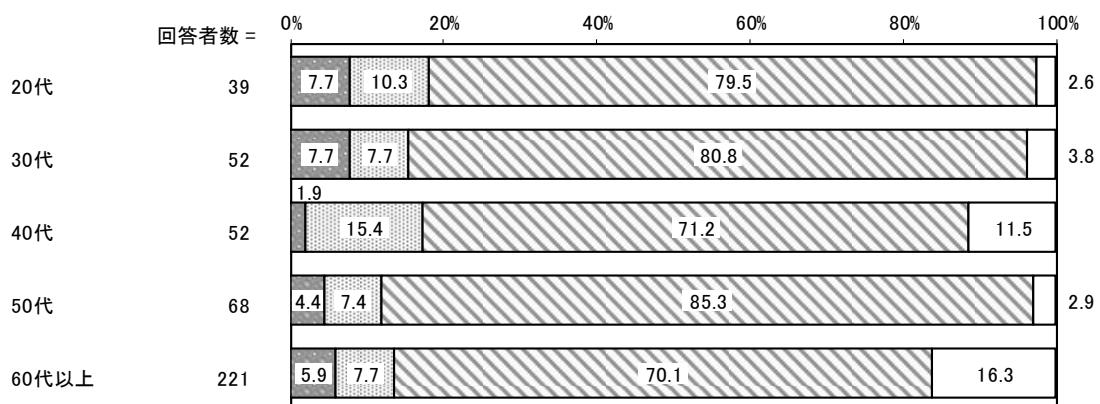
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「何度もあった」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「まったくない」の割合が高くなっています。



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、40代で「1、2度あった」の割合が高くなっています。

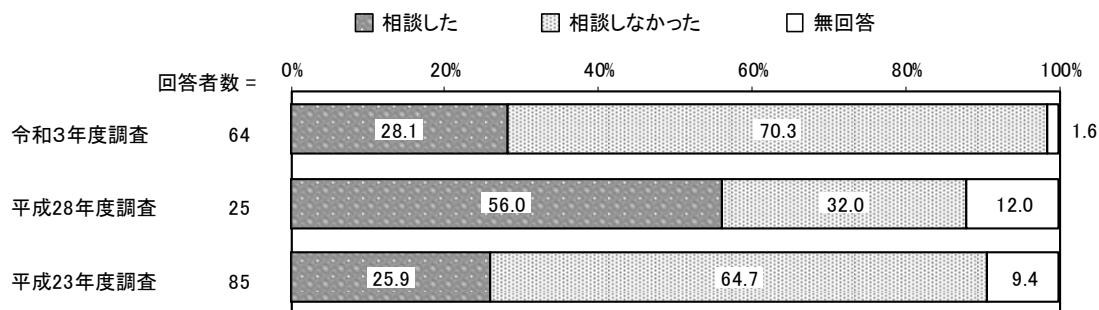


《問47で、該当のある方にお聞きします》

問48 DV被害にあったとき、誰かに相談をしましたか。

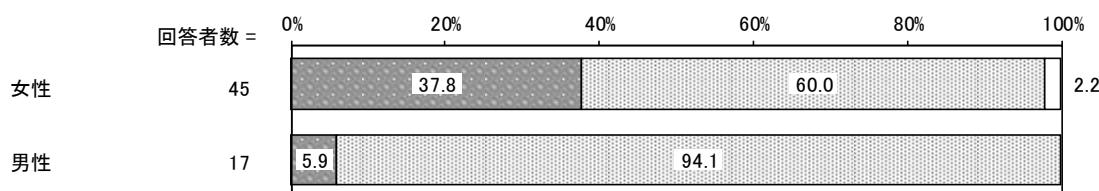
「相談した」の割合が28.1%、「相談しなかった」の割合が70.3%となっています。

平成28年度調査と比較すると、「相談しなかった」の割合が増加しています。一方、「相談した」の割合が減少しています。



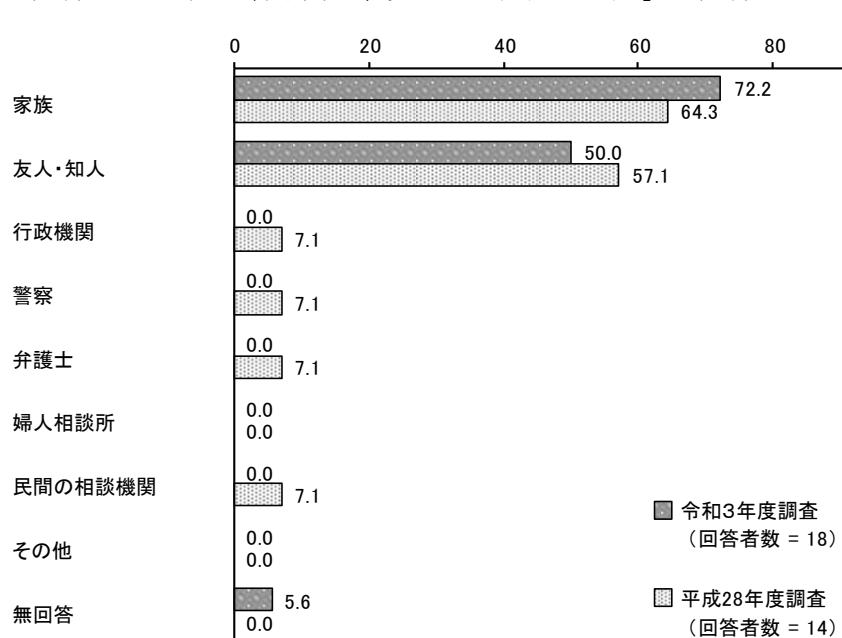
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「相談した」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「相談しなかった」の割合が高くなっています。



【相談相手】

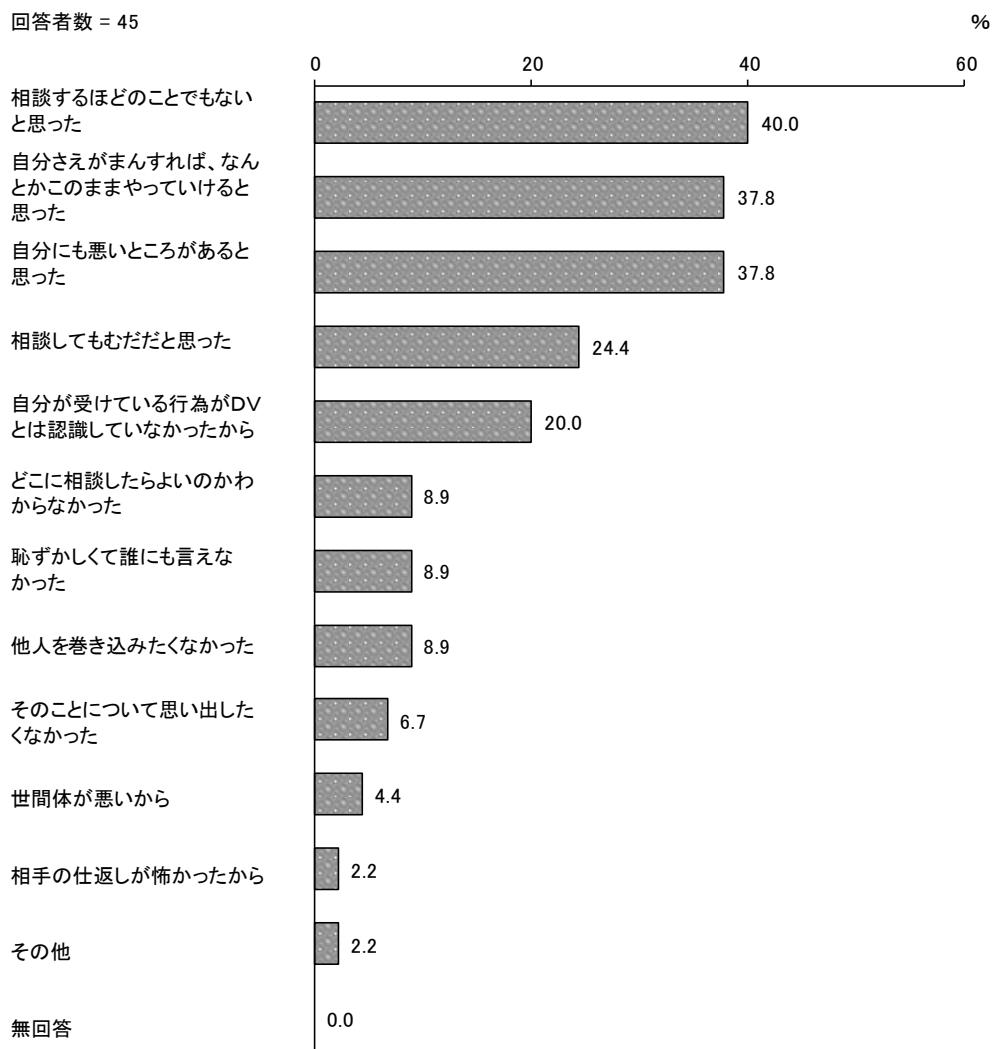
「家族」の割合が72.2%と最も高く、次いで「友人・知人」の割合が50.0%となっています。



※平成23年度調査では本設問はありませんでした。

【相談しなかった理由】

「相談するほどのことでもないと思った」の割合が40.0%と最も高く、次いで「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやつていけると思った」、「自分にも悪いところがあると思った」の割合が37.8%となっています。



※平成23年度調査では本設問はありませんでした。

【性 別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやつていけると思った」、「そのことについて思い出したくなかった」、「自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「恥ずかしくて誰にも言えなかった」、「自分にも悪いところがあると思った」、「世間体が悪いから」、「相手の仕返しが怖かったから」の割合が高くなっています。

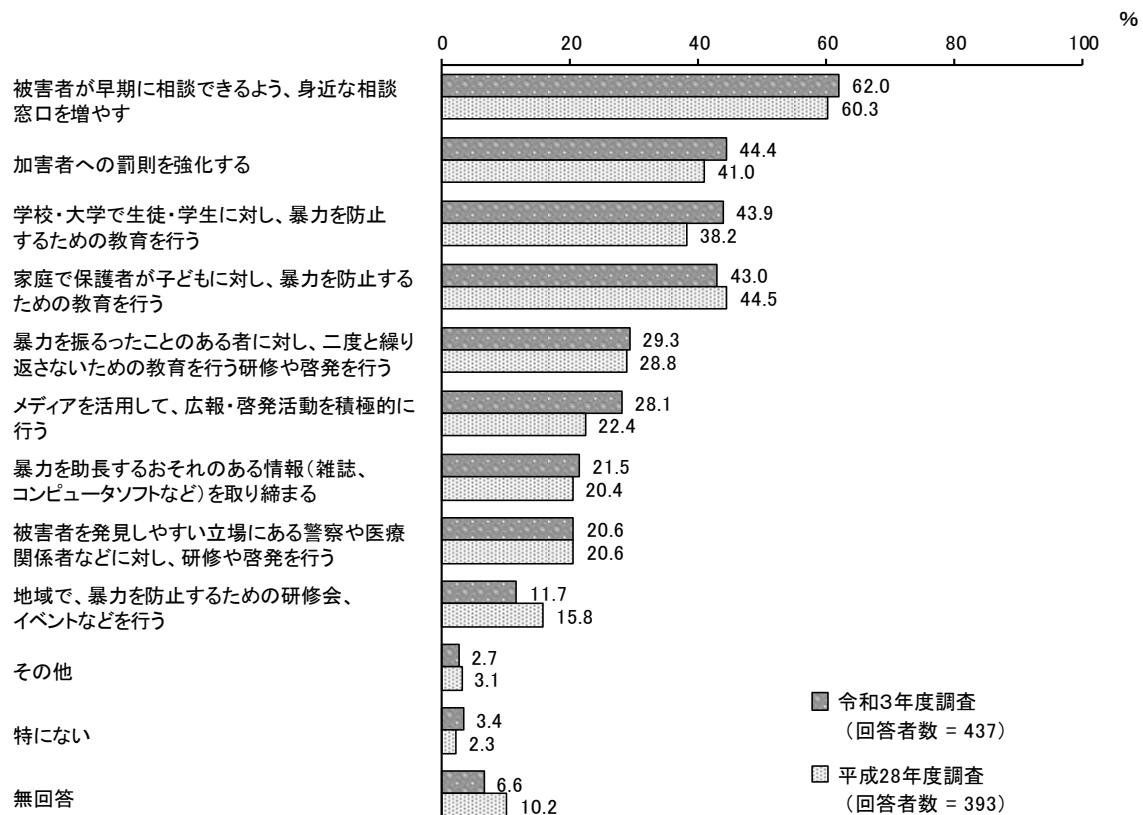
単位：%

区分	回答者数 (件)	どこに相談したらよいのかわか らなかつた	恥ずかしくて誰にも言えなかつ た	相談してもむだだと思つた	自分さえがまんすれば、なんとか このままやつていけると思つた	自分 つた	相談するほどのことでもないと 思つた	世間体が悪いから	他人を巻き込みたくないなかつた	そのことについて思い出したく なかつた	自分が受けている行為がDVと は認識していなかつたから	相手の仕返しが怖かったから	その他	無回答
女性	27	11.1	7.4	25.9	44.4	25.9	40.7	—	11.1	11.1	22.2	—	3.7	—
男性	16	6.3	12.5	25.0	31.3	62.5	37.5	12.5	6.3	—	6.3	6.3	—	—

問49 男女間の暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。
(あてはまると思うものすべてに○)

「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」の割合が 62.0% と最も高く、次いで「加害者への罰則を強化する」の割合が 44.4%、「学校・大学で生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」の割合が 43.9% となっています。

平成 28 年度調査と比較すると、「加害者への罰則を強化する」、「学校・大学で生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」、「メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う」の割合が増加し、「地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う」の割合が減少しています。



※平成 23 年度調査では本設問はありませんでした。

【性 別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどをを行う」、「メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う」、「被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う」、「暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う研修や啓発を行う」、「暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、コンピュータソフトなど）を取り締まる」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う	学校・大学で生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う	地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う	メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う
女性	236	43.2	44.9	8.9	25.4	63.1	18.2
男性	196	42.3	42.9	15.3	31.6	61.2	24.0

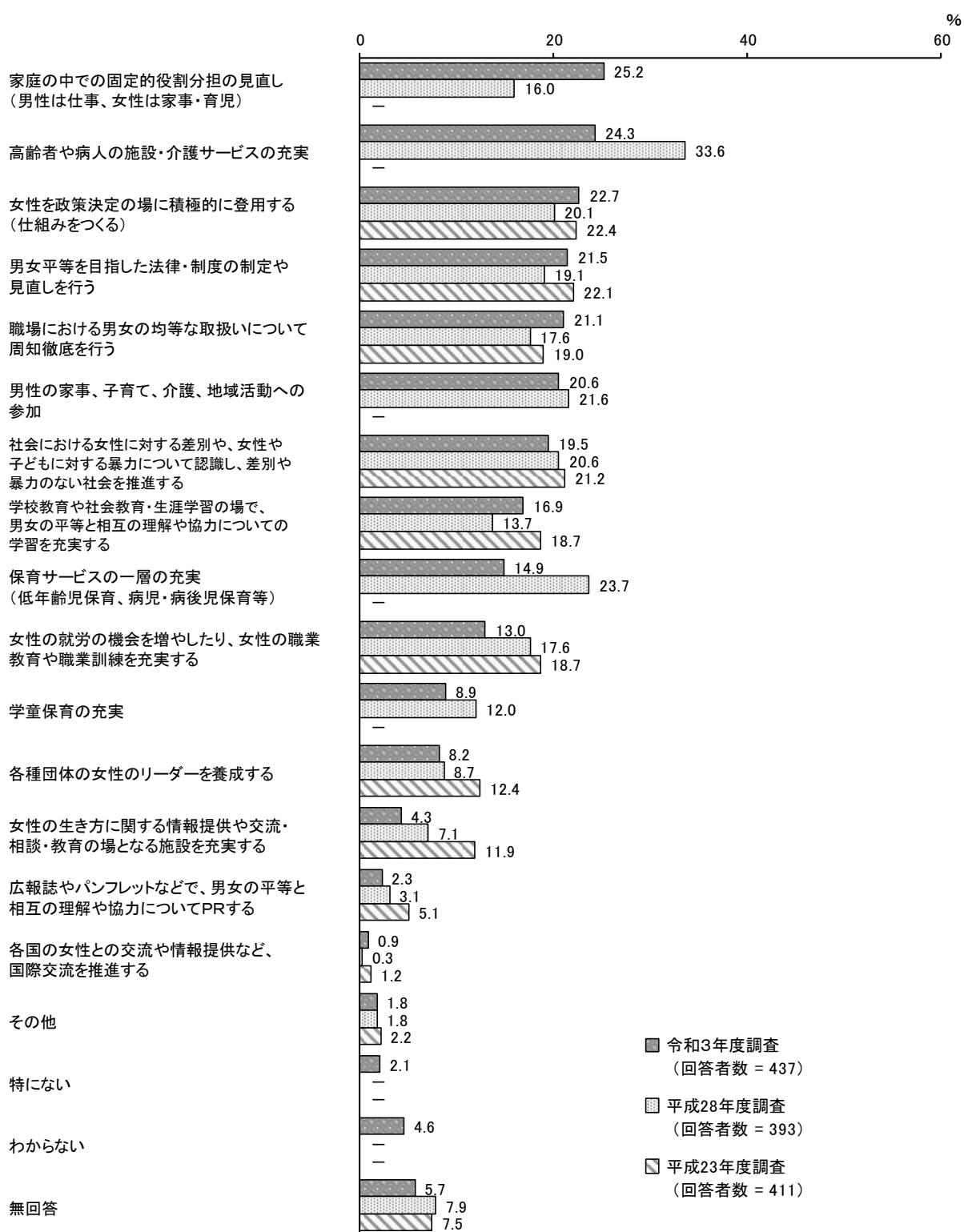
区分	暴力を振るったことのある者に對し、一度と繰り返さないための教育を行う研修や啓発を行う	加害者への罰則を強化する	暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、コンピュータソフトなど）を取り締まる	その他	特にない	無回答
女性	24.2	44.1	18.2	2.1	3.4	8.1
男性	36.2	45.9	26.0	3.6	3.6	4.1

9 男女共同参画の施策について

問 50 男女共同参画社会の推進のためには、どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(3つまで〇)

「家庭の中での固定的役割分担の見直し（男性は仕事、女性は家事・育児）」の割合が 25.2% と最も高く、次いで「高齢者や病人の施設・介護サービスの充実」の割合が 24.3%、「女性を政策決定の場に積極的に登用する（仕組みをつくる）」の割合が 22.7% となっています。

平成 23 年度調査、平成 28 年度調査と比較すると、「女性の生き方に関する情報提供や交流・相談・教育の場となる施設を充実する」の割合は減少傾向とみられます。また、平成 28 年度調査と比較すると、「家庭の中での固定的役割分担の見直し（男性は仕事、女性は家事・育児）」の割合が増加しています。一方、「高齢者や病人の施設・介護サービスの充実」、「保育サービスの一層の充実（低年齢児保育、病児・病後児保育等）」の割合が減少しています。



※平成 28 年度調査、平成 23 年度調査では「特ない」、「わからない」の選択肢はありませんでした。

また、平成 23 年度調査では「家庭の中での固定的役割分担の見直し（男性は仕事、女性は家事・育児）」、「高齢者や病人の施設・介護サービスの充実」、「男性の家事、子育て、介護、地域活動への参加」、「保育サービスの一層の充実（低年齢児保育、病児・病後児保育等）」、「学童保育の充実」の選択肢はありませんでした。

【性 別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「男性の家事、子育て、介護、地域活動への参加」、「学童保育の充実」、「高齢者や病人の施設・介護サービスの充実」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う」、「女性を政策決定の場に積極的に登用する（仕組みをつくる）」、「各種団体の女性のリーダーを養成する」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 件)	男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う	女性を政策決定の場に積極的に登用する（仕組みをつくる）	各種団体の女性のリーダーを養成する	職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底を行う	女性の就労の機会を増やしたり、女性の職業教育や職業訓練を充実する	家庭の中での固定的役割分担の見直し（性は仕事、女性は家事・育児）	男性の家事、子育て、介護、地域活動への参加	保育サービスの一層の充実（病児・病後児保育等）	学童保育の充実
女性	236	15.7	15.7	3.4	19.5	13.1	26.3	23.3	13.6	12.3
男性	196	29.1	31.1	13.8	23.0	12.8	23.5	17.3	16.8	5.1

区分	高齢者や病人の施設・介護サービスの充実	学校教育や社会教育・生涯学習の場での男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	女性の生き方に関する情報提供や交流・相談・教育の場となる施設を充実する	各国の女性との交流や情報提供など、国際交流を推進する	広報誌やパンフレットなどで、男女の平等と相互の理解や協力についてPRする	社会における女性に対する差別や、子どもに対する暴力について認識し、女性やや暴力のない社会を推進する	その他	特にない	わからない	無回答
女性	28.0	15.3	4.7	0.4	2.1	21.2	1.7	2.1	4.7	7.2
男性	19.9	19.4	4.1	1.5	2.6	17.3	2.0	2.0	4.1	3.6

【年代別】

年代別でみると、他に比べ、20代で「職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底を行う」、「家庭の中での固定的役割分担の見直し（男性は仕事、女性は家事・育児）」、「男性の家事、子育て、介護、地域活動への参加」の割合が、30代で「学童保育の充実」の割合が、40代で「男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う」の割合が高くなっています。また、60代以上で「高齢者や病人の施設・介護サービスの充実」の割合が高くなっています。

単位：%

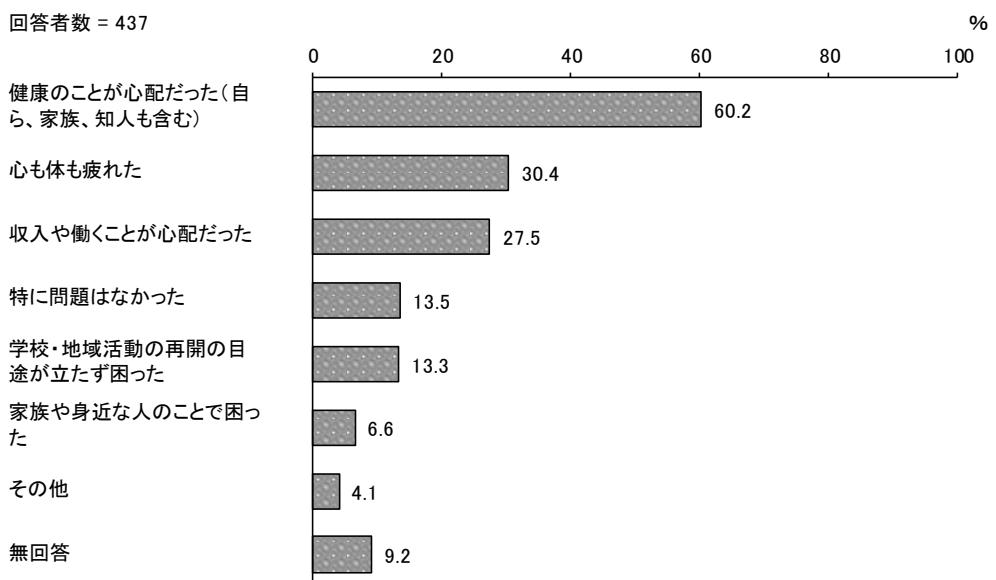
区分	回答者数 (件)	男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う	女性を政策決定の場に積極的に登用する (仕組みをつくる)	各種団体の女性のリーダーを養成する	職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底を行う	女性の就労の機会を増やしたり、女性の職業教育や職業訓練を充実する	家庭の中での固定的役割分担の見直し (男性は家事・育児)	男性の家事、子育て、介護、地域活動への参加	保育サービスの一層の充実 (病児・病後児保育等)	学童保育の充実 (低年齢児保育、
20代	39	20.5	17.9	—	51.3	15.4	35.9	33.3	23.1	7.7
30代	52	19.2	25.0	11.5	13.5	17.3	30.8	25.0	25.0	23.1
40代	52	32.7	17.3	9.6	17.3	17.3	23.1	19.2	13.5	7.7
50代	68	25.0	26.5	8.8	23.5	7.4	23.5	20.6	16.2	7.4
60代以上	221	18.6	23.5	8.1	18.1	12.7	22.6	17.6	11.3	6.8

区分	高齢者や病人の施設・介護サービスの充実	習を充実する	学校教育や社会教育・生涯学習の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習	女性の生き方に関する情報提供や交流・相談・教育の場となる施設を充実する	各国の女性との交流や情報提供など、国際交流を推進する	広報誌やパンフレットなどで、男女の平等と相互の理解や協力についてPRする	社会における女性に対する差別や、女性や子どもに対する暴力について認識し、差別や暴力のない社会を推進する	その他	特にない	わからない	無回答
20代	17.9	10.3	2.6	5.1	—	17.9	2.6	—	2.6	—	—
30代	19.2	13.5	1.9	—	3.8	15.4	—	1.9	7.7	—	—
40代	11.5	13.5	1.9	1.9	5.8	11.5	7.7	1.9	5.8	3.8	—
50代	22.1	20.6	5.9	1.5	1.5	17.6	1.5	1.5	4.4	1.5	—
60代以上	30.8	19.0	5.0	—	1.8	22.6	0.9	2.7	3.6	9.5	—

10 新型コロナウイルス感染症の影響について

問51 新型コロナウイルス感染症を経験して、あなたは特にどのようなことを感じましたか。（「特に問題はなかった」を選択した場合を除き、回答チェックは3つまで。）

「健康のことが心配だった（自ら、家族、知人も含む）」の割合が 60.2% と最も高く、次いで「心も体も疲れた」の割合が 30.4%、「収入や働くことが心配だった」の割合が 27.5% となって います。



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「健康のことが心配だった（自ら、家族、知人も含む）」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	心も体も疲れた	心配だつたり働くことが	収入や働くことが	健康のことが心配だった（自ら、家族、知人も含む）	家族や身近な人のことで困った	学校・地域活動の再開の目途が立たず困った	特に問題はなかった	その他	無回答
女性	236	30.9	25.8	64.4	6.4	12.3	11.0	4.7	8.1	
男性	196	30.6	29.6	55.1	6.6	14.8	16.8	3.6	9.7	

【年代別】

年代別でみると、他に比べ、30代で「心も体も疲れた」の割合が、40代で「学校・地域活動の再開の目途が立たず困った」の割合が高くなっています。また、60代以上で「特に問題はなかった」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	心も体も疲れた	収入や働くことが心配だった	健康のこと(が心配だつた)自ら家族、配知だつた(人も含む)	家族や身近な人のこと(で困つた)	学校・地域活動の再開の目途が立たず困つた	特に問題はなかった	その他	無回答
20代	39	43.6	38.5	61.5	7.7	12.8	10.3	—	—
30代	52	50.0	36.5	65.4	9.6	17.3	9.6	—	—
40代	52	34.6	28.8	59.6	7.7	28.8	11.5	5.8	3.8
50代	68	36.8	32.4	69.1	5.9	13.2	7.4	5.9	1.5
60代以上	221	20.8	21.3	56.6	5.4	9.0	17.2	5.0	15.8

【性・年代別】

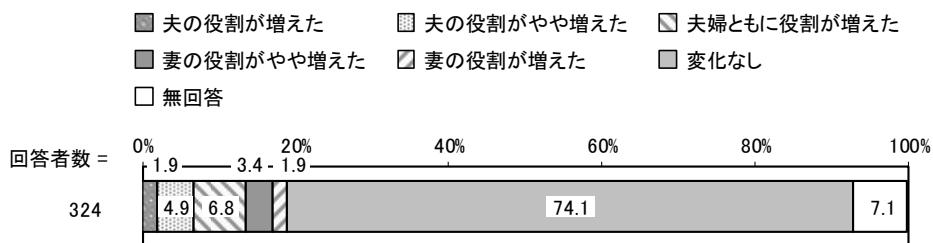
性・年代別でみると、他に比べ、女性の20代で「収入や働くことが心配だった」の割合が、女性の30代で「心も体も疲れた」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	心も体も疲れた	収入や働くことが心配だった	健康のこと(が心配だつた)自ら家族、配知だつた(人も含む)	家族や身近な人のこと(で困つた)	学校・地域活動の再開の目途が立たず困つた	特に問題はなかった	その他	無回答
女性 20代	23	47.8	47.8	69.6	8.7	8.7	—	—	—
30代	28	53.6	32.1	71.4	7.1	21.4	7.1	—	—
40代	30	33.3	23.3	66.7	6.7	30.0	10.0	3.3	3.3
50代	33	39.4	27.3	78.8	12.1	12.1	—	6.1	—
60代以上	118	19.5	20.3	58.5	4.2	6.8	16.9	6.8	13.6
男性 20代	15	40.0	26.7	46.7	6.7	20.0	26.7	—	—
30代	24	45.8	41.7	58.3	12.5	12.5	12.5	—	—
40代	22	36.4	36.4	50.0	9.1	27.3	13.6	9.1	4.5
50代	35	34.3	37.1	60.0	—	14.3	14.3	5.7	2.9
60代以上	100	23.0	23.0	55.0	7.0	12.0	18.0	3.0	17.0

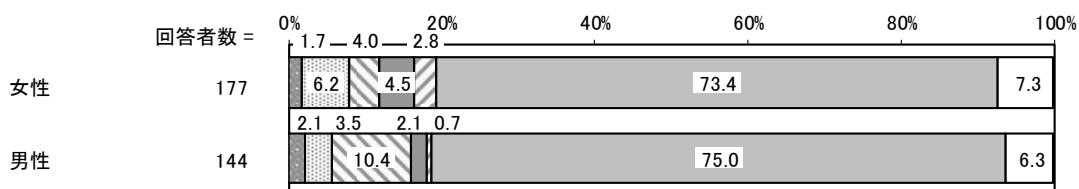
問52 新型コロナウイルス感染症拡大前と比べて、パートナー間の家事・育児・介護の役割分担に変化はありましたか。(回答チェックは1つだけ。)

「変化なし」の割合が74.1%と最も高くなっています。



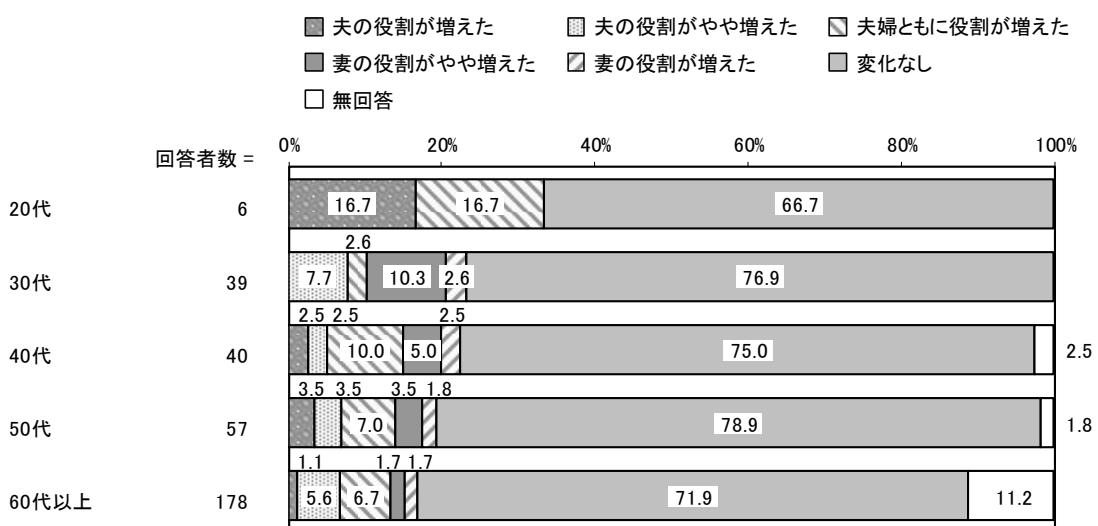
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「夫婦ともに役割が増えた」の割合が高くなっています。



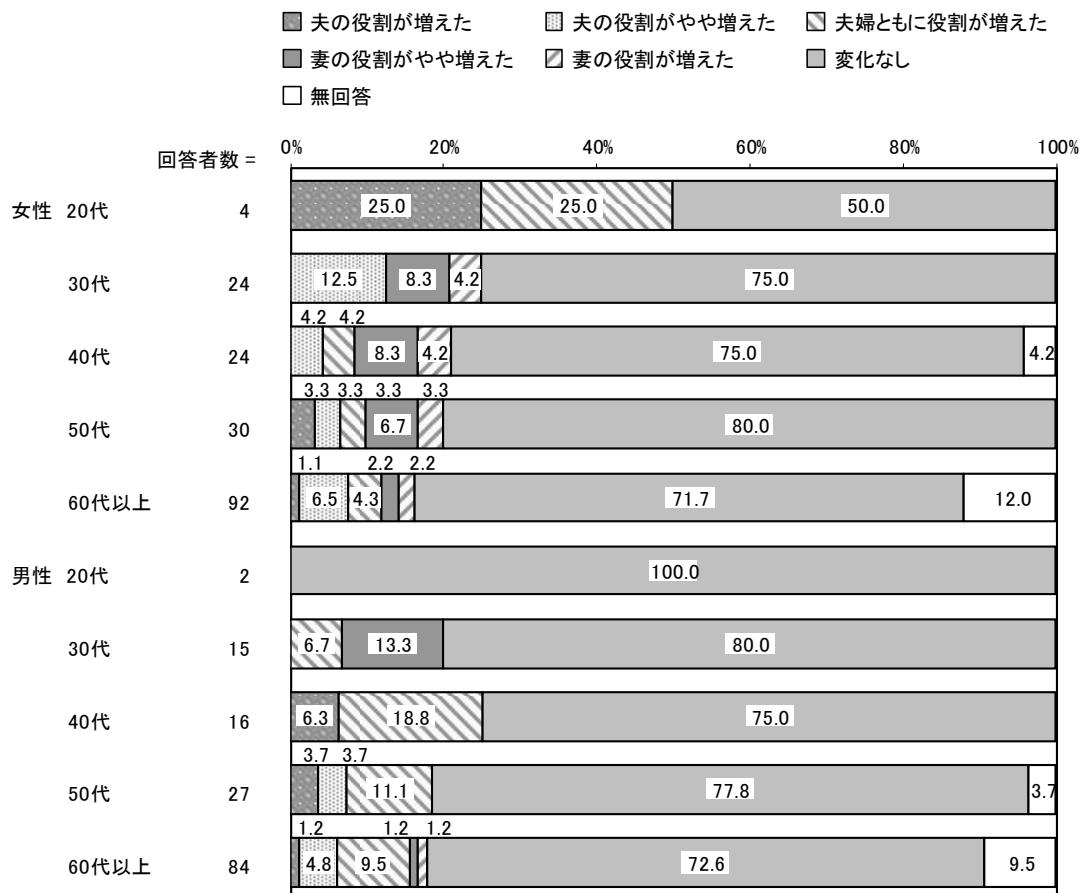
【年代別】

年代別でみると、回答数の少ない20代を除き、他に比べ、30代で「妻の役割がやや増えた」の割合が、30代、60代以上で「夫の役割がやや増えた」の割合が高くなっています。また、40代以上で「夫婦ともに役割が増えた」の割合が高くなっています。



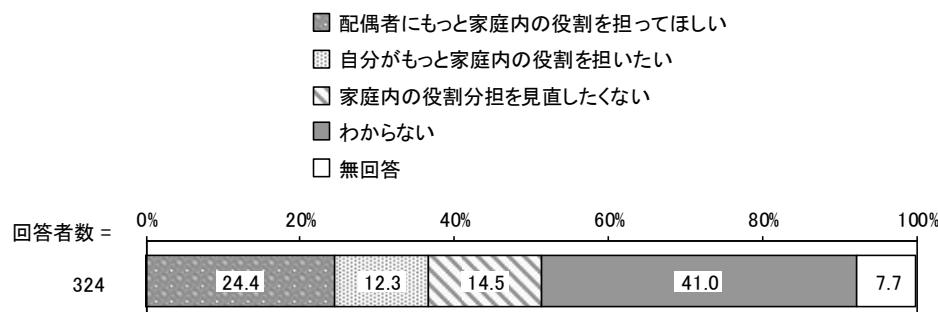
【性・年代別】

性・年代別でみると、回答数の少ない20代を除き、他に比べ、女性の30代で「夫の役割がやや増えた」の割合が高くなっています。また、男性の30代で「妻の役割がやや増えた」の割合が、男性の40代～60代以上で「夫婦ともに役割が増えた」の割合が高くなっています。



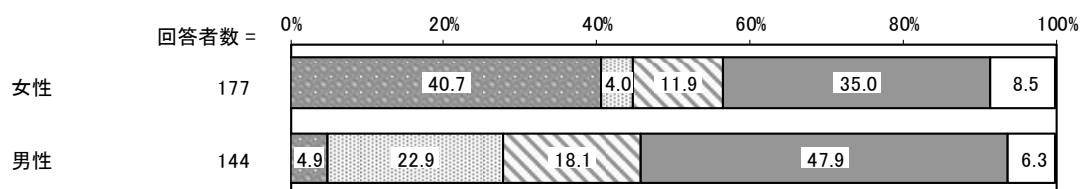
問53 新型コロナウイルス感染症拡大前と比べて家庭内の役割分担を今後、どうしていきたいですか。(回答チェックは1つだけ。)

「わからない」の割合が 41.0% と最も高く、次いで「配偶者にもっと家庭内の役割を担ってほしい」の割合が 24.4%、「家庭内の役割分担を見直したくない」の割合が 14.5% となっています。



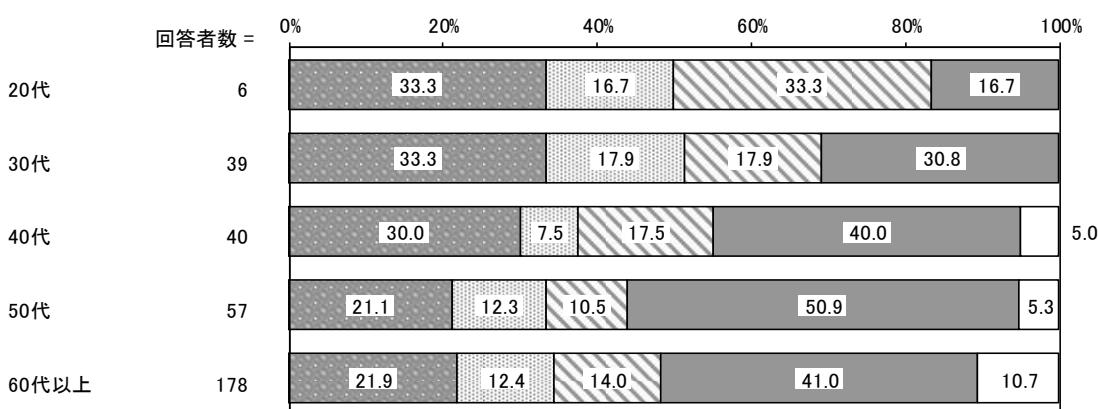
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「配偶者にもっと家庭内の役割を担ってほしい」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「自分がもっと家庭内の役割を担いたい」、「家庭内の役割分担を見直したくない」、「わからない」の割合が高くなっています。



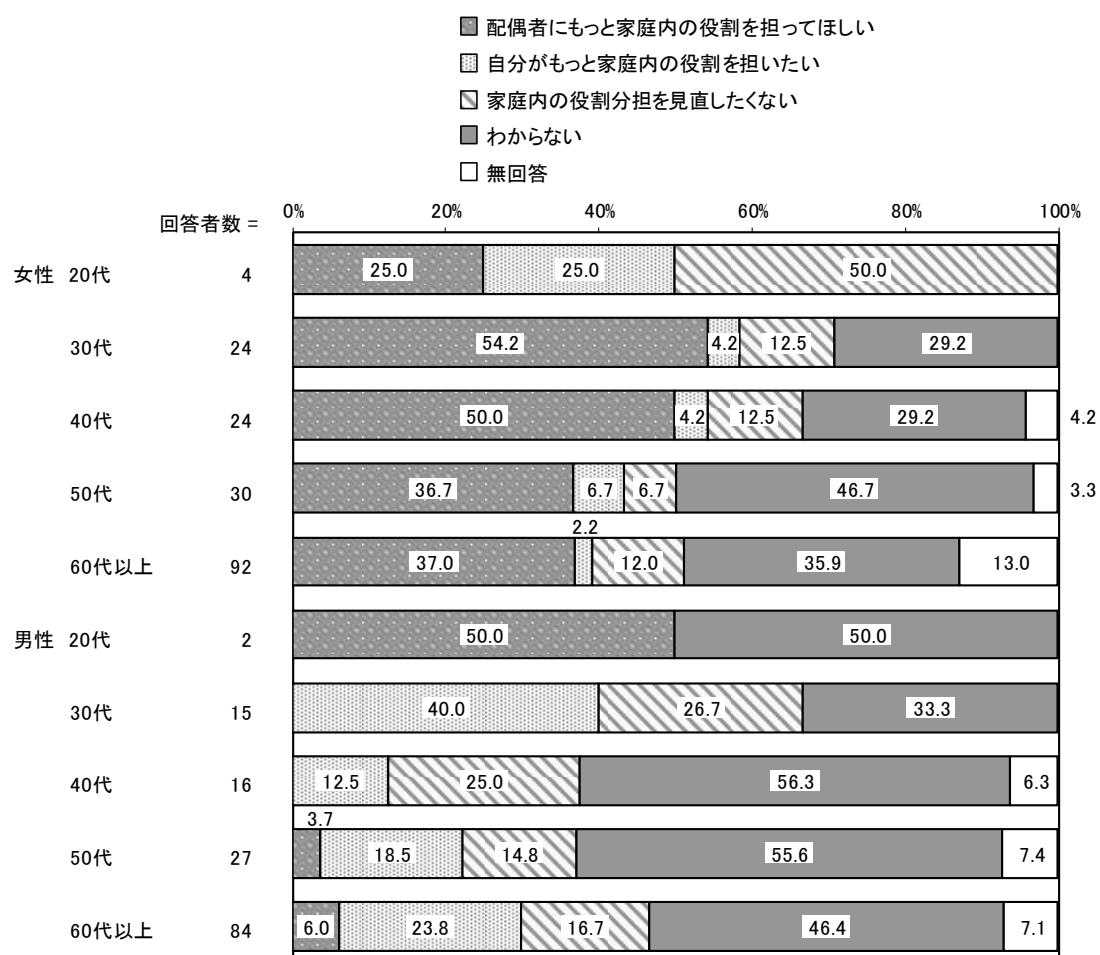
【年代別】

年代別でみると、回答数の少ない20代を除き、他に比べ、30代で「自分がもっと家庭内の役割を担いたい」の割合が高くなっています。また、30~40代で「配偶者にもっと家庭内の役割を担ってほしい」、「家庭内の役割分担を見直したくない」の割合が高くなっています。



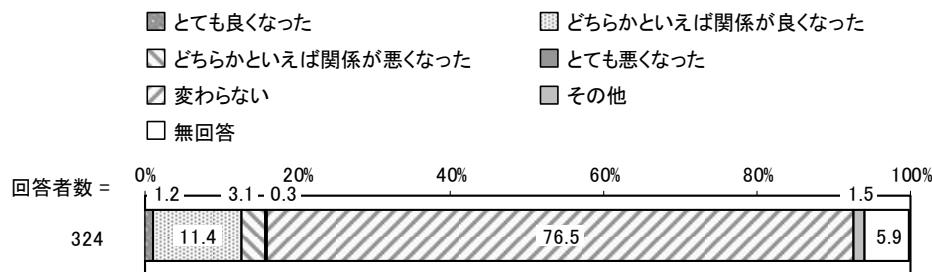
【性・年代別】

性・年代別でみると、回答数の少ない20代を除き、他に比べ、女性の30～40代で「配偶者にもっと家庭内の役割を担ってほしい」の割合が高くなっています。また、男性の30代で「自分がもっと家庭内の役割を担いたい」の割合が、男性の30～40代で「家庭内の役割分担を見直したくない」の割合が高くなっています。



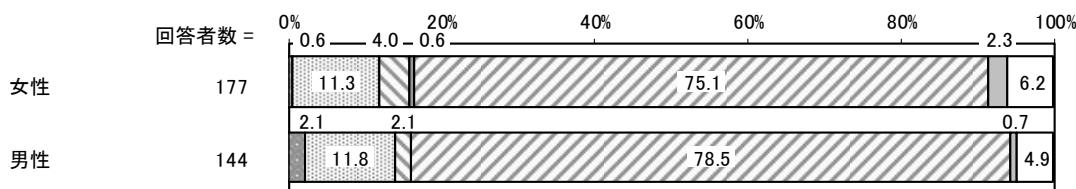
問54 新型コロナウイルス感染症拡大前と比べて、家族、配偶者、パートナーとの関係に変化はありましたか。(回答チェックは1つだけ。)

「変わらない」の割合が 76.5% と最も高く、次いで「どちらかといえば関係が良くなつた」の割合が 11.4% となっています。



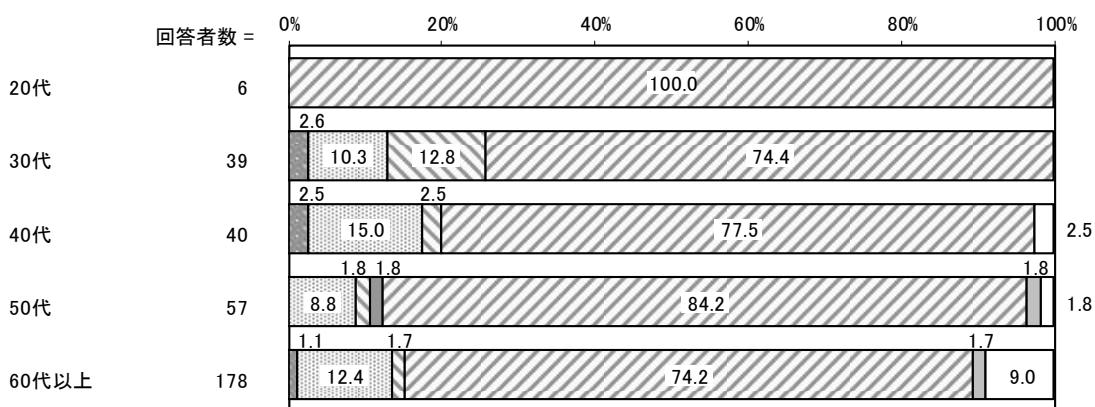
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



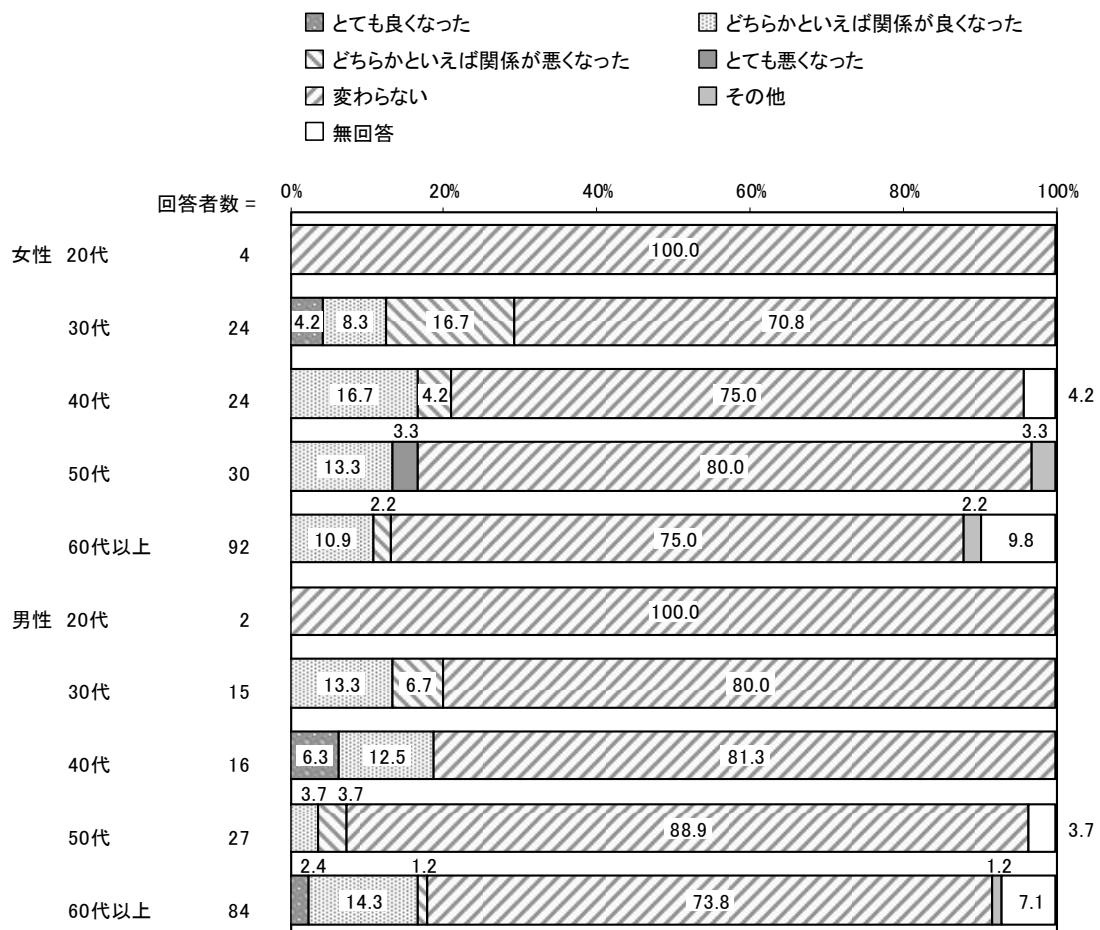
【年代別】

年代別でみると、回答数の少ない20代を除き、他に比べ、30代で「どちらかといえば関係が悪くなつた」の割合が、50代で「変わらない」の割合が高くなっています。



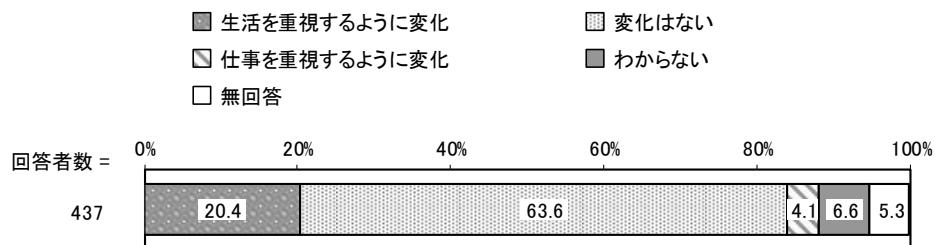
【性・年代別】

性・年代別でみると、回答数の少ない20代を除き、他に比べ、女性の30代で「どちらかといえば関係が悪くなった」の割合が高く、男性の50代で「変わらない」の割合が高くなっています。



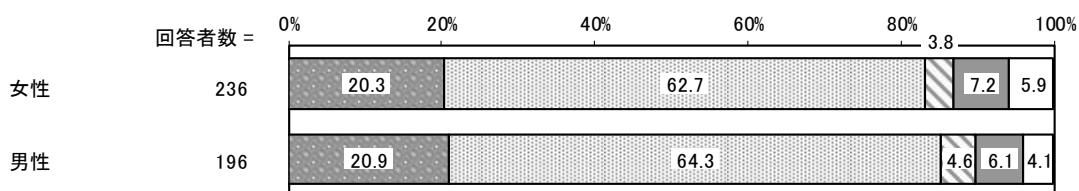
問55 新型コロナウイルス感染症拡大前に比べて、御自身の「仕事と生活のどちらを重視したいか」という意識に変化はありましたか。(回答チェックは1つだけ。)

「変化はない」の割合が 63.6% と最も高く、次いで「生活を重視するように変化」の割合が 20.4% となっています。



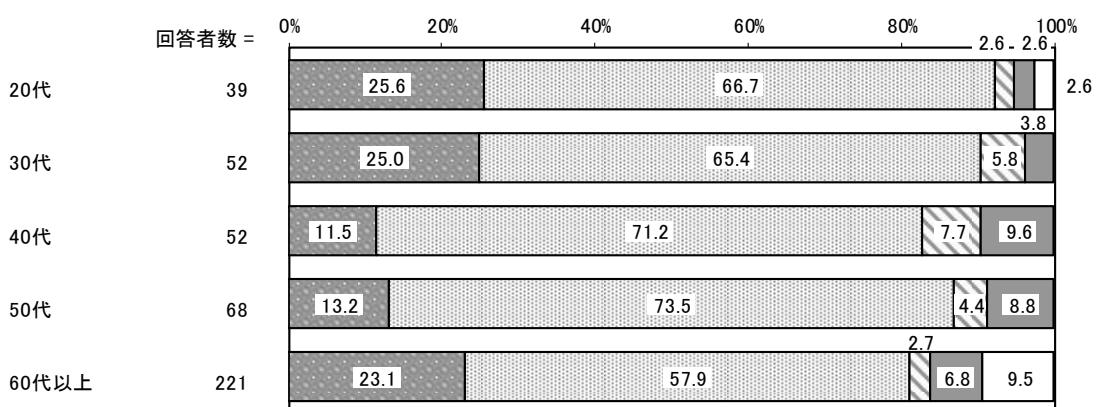
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



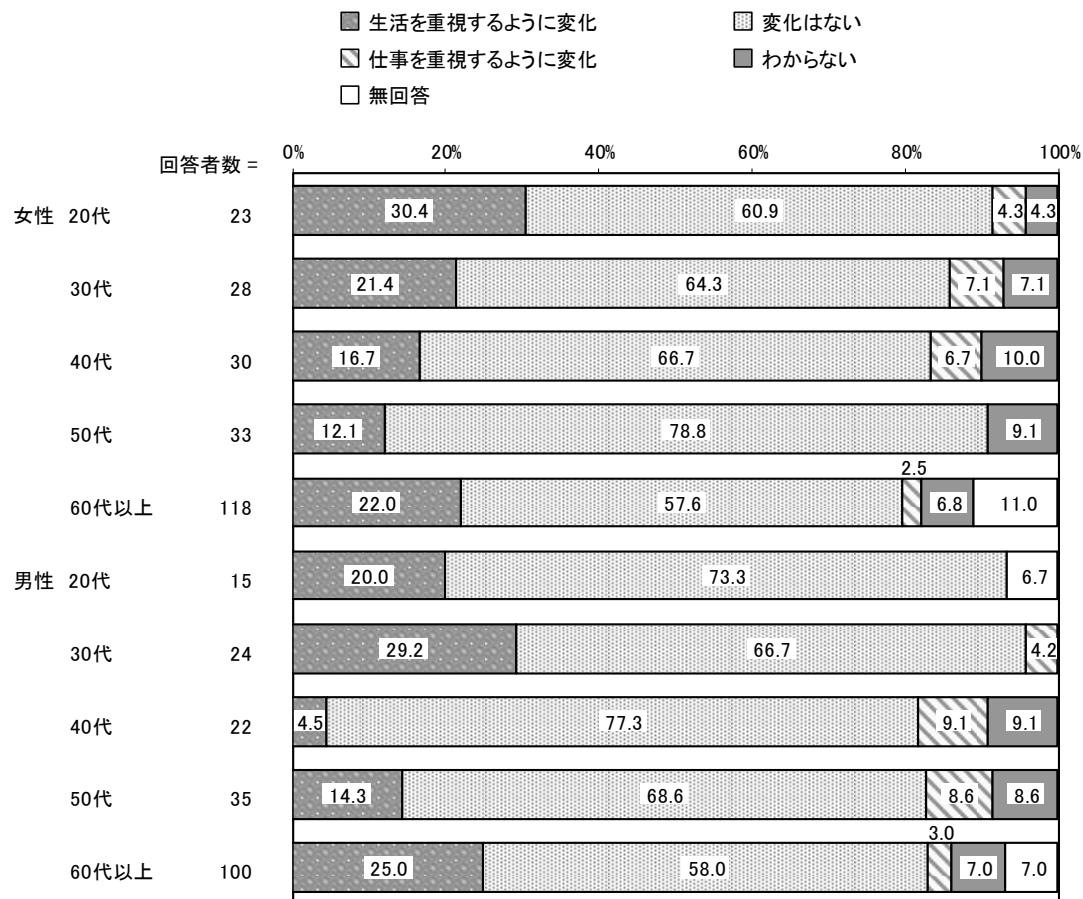
【年代別】

年代別でみると、他に比べ、20代、30代、60代以上で「生活を重視するように変化」の割合が高くなっています。また、40代、50代で「変化はない」の割合が高くなっています。



【性・年代別】

性・年代別でみると、他に比べ、女性の20代、男性の30代で「生活を重視するように変化」の割合が、女性の50代、男性の20代、40代で「変化はない」の割合が高くなっています。



11 自由回答

男女共同参画に関して自由意見を記入してもらったところ、次のとおり意見（自由意見欄記入、特に無し等除く）をいただきました。

○1. 男女共同参画関連の法律・制度上を再度見直し。2. その認識・理解のための教育研修・メディア活動。3. 各種地域社会の代表する立ち位置について、女性の枠組みを確保するため、市議会議員行政・団体の役員男女比率（構成）を予め設定する。例えば男6：女4など。その比率（男女）は先ず女性の特性を活かす分野から先行して実施し、全般的な到達年度計画を策定する。4. すべての分野で50（男）：50（女）を目指すと、女性が結婚し、子どもを産み育て、教育する過程、「結婚・産み・育てる」機会が限られてくる。つまり、少子化助長につながる5. IT社会への女性進出を見据えた施策を図る。

○田原市は年齢層が高いため昭和の考えが根強く残っています。特に、個人事業主の人は男女の差別がひどいです。勤めている会社でも、男性は黒い服、女性は赤、と昔のランドセルの考えです。過疎化している渥美辺りでは今の高齢者が引退されない限り男女共同参画は難しいと思います。田原中心部だけでも、今から少しづつ始めていったほうがよいです。

○男女平等と言うけれど、根本的には男の役割、女の役割があると思います。自分を見つめ直して行動してほしいです。

○男性がもっと家事を手伝えば女性はもっと生きやすくなり、男性に対して感謝の心が生まれると思います。

○男女共同参画社会づくりといつても、皆知っているだろうか。多分多くの人が知らないと思います。もっとPRするべき。私の方が知らないかも。

○オリンピックに、体が男性なのにジェンダーが女性で参加し、その後各大会で優勝している現実がありますが、そのようなおかしな共同参画はやめていただきたい。身体的に男女はもともと違うので違いを理解して、なんでも平等とするのは危険。

○男性だから、女性だから、健常者だから、障害者だから、老人だから、という言葉を使ってしまううちは、社会はなかなか変わらないと思います。個人を尊重すると言っても“一人では何もできない”。このアンケートの中に「どちらを重視しますか。」という質問がたくさん出てきますが、どちらかということは実際選べません。しかし、生きていく上ではどちらかを選ぶ決断をすることが多くあります。非常に難しい問題なので結論づけることはできませんが、いろいろな場所で問題を提示することで意識を変えていくことが大切だと思いました。お互いを思いやり、お互いが少しづつがまんできる、やさしい社会になるとよいです。

○海外では、女性の社会進出が多くなり日本も増加中。男尊女卑は先進国ではなくなりつつあり、よくなつた。男性が家庭や育児、介護に精を出す社会づくりをして、そのサポートを女性が職場でできるようにする。そちらの方が正しく世の中が流れていくと思います。互いに尊重し合い、思いやる心があれば男女がどうとか関係あるのか。貧困対策や未来の見える社会づくりが先か。

○女性が活躍する場があるということはとてもよいことだと思います。でも、自分がそうなつたときにはとても嫌で、やりたくないと思います。若いお嫁さんたちは私の時代とは違い、自由気までいいな、と思います。家族で助け合うという気持ちがないと思います。私の夫は怒鳴ってばかりでした。息子は何も言えません。結婚しない子が「友人が結婚しても嫁さんが強くて幸せそうではないから結婚しない」とのことです。男女共同参画というけど難しいです。

○男女どちらかが優遇されているという考え方自体に違和感を感じる。現実問題として就業上の課題があると思います。本来、ひとそれぞれのニーズがあり、それを受け入れられる環境が整うことが大切なのでしょう。配偶者のいる女性と母子家庭の女性等、また子育て中であるかないか等、おかれる立場によってもニーズは変わるでしょうし、私は“なりたい”がか

なう社会でありたいと思います。

○優遇するのではなく、平等であってほしい。

○年齢が上がるにつれて家事は女性という考えが多くなると思います。その考え方をみている30代くらいも自然と同じ考え方になりがちです。だから若い方に知ってもらいたい。

○男女平等が必ずしも女性の幸せにつながることはない。両性の思いやりのある社会が明るい豊かな社会に繋がる。欧米のやることがよいものだという誤解はただの洗脳である。何事にもリスクベネフィットはつきもの。労働力不足のための女性社会進出であれば少子化をまねき、かえって労働力不足になる。女性の社会進出がかえって女性を不幸にすることもあるのだということを理解するべきだと思う。能力のある人材が活躍できる環境を整えるのは必要だと思う。ただし、そこに性別は関係ない。比率も関係ない。

○子どもたちの制服、体操服、靴、かばんの自由化。公務員、教員の管理職の女性登用。

○男女共同参画とは一言では難しいです。①仕事の面では男性とか女性とか差は近年少なくなっていると感じています。②女性の社会参加は、強制的なものではなく参加したい人がやればよいのではないかでしょうか。参加したい方を見つけるのは行政の仕事ではないでしょうか。魅力あるPRをしたらよいと思います。③家庭内の質問がいろいろありましたが、家庭内の家事の分担には不満があります。女性の方が断然多いと思います。お互い年を取っていくのだから平等に負担をしてもらいたいと思っています。若いご夫婦を見ていると、男性も積極的に家事をする姿をみますが、幼い頃からの教育もあるでしょうか。それならば教育現場で教えていくことがよいのではないかでしょうか。

○田舎で旦那が自治会長をしていますが、仕事を犠牲にしています。子どもも継いでいるのですが、とても大変な役だと実感しています。外で仕事を持つ私にはとてもできません。家庭では家事は女の仕事という感じで、仕事で疲れきっているので家事もお願いできなく、そういうものだと思うしかありません。休みもないでの仕方ありません。

○子どもの教育同様に、一社会人として当たり前の思考ができるよう、学校・家庭での教育、特に家庭での教育・しつけ。

○男は偉い、というような昔ながらの考え方を変えてほしい。(60歳～75歳の夫婦に多い)娘たちが結婚したがりません。

○男女共同参画社会づくりについて、すべては教育だと思うので義務教育に取り入れて、すでに義務教育が終わっている方には各自治体で研修会を開催して周知すればよいと思う。

○施策も大切ですが、意識の改革が何よりかと思います。少しずつでも向上すればよい。

○女性にできること、男性にできることの差はありますが、相談し合ってお互いに認めることが必要になるのではないかでしょうか。

○家庭内での男女の役割分担はその家庭その家庭で様々でよい。男だからこれを多くやる、女だからこれを多くやるなどは、ない方がよい。その夫婦の生活に合ったものを、お互い納得できるよう話し合い、形にできたらよいと思う。私は介護士なのですが、前の職場で妊娠中思ひやりのない言葉や行動があり、心身ともに苦痛でした。でもそれは妊婦に関する知識や理解がないからだと思います。出産後は地域の同じような方たちの交流があり楽しかったですが、妊娠中で仕事をしていたときは孤独感がありました。妊婦さんへの理解、支えてくれる場所をたくさん増やしてほしいです。

○きれいな言葉に惑わされず真実を見極める教育が大切だと考える。男女共同の問題のみ取り上げず、根底にある物を明るみに出し、自分の考えを積極的に述べる環境をつくる。それにに対するヘイトスピーチを厳しく取り締まり、自由にものを言える社会をつくる。

○夫の職場が、官公庁であるにも関わらず、リモートでの仕事はできず、1日だけ自宅で仕事、あとは毎日通勤していました。リモートでも充分できる仕事のように思えるのですが（パソコン業務、打ち合わせ中心）、官公庁でもこのような状態では民間なんてもっと難しいだろうと感じました。結局、家事や育児が増えても私がやるしかないので、仕事を少しセーブせざ

るを得ません。仕事量はあるので、もっと時間を増やしたいです。夫の家にいる時間が増えれば、家事育児をもっと分担できるのですが、なぜ、こんなに難しいのかわかりません。

○夫の就業形態によっては、出産すると働き続けることが難しい。私もそのため退職したが、夫の夜勤、早朝勤務などあると、子どもが大きくなるまではフルタイムで働くのは難しいし、昼間だけ働きたくてもなかなか仕事がみつからないのでは、と考えている。(今は未就学児・未就園児) 一度仕事をやめても、自分の働く時間に働くような(家庭優先)家庭と仕事を両立できるシステムがあるとよい。介護・育児中の人に、希望に沿った時間で働くような仕事を紹介・あっせんしてほしい。

○私はある官公署で無線機器保守等の技術部門で働いています。職場に女性職員がいますが、技術部門にはいまだに1人もいません。このような部門に女性が進出するのが、共同参画の向上と思われます。

○私はパートで清掃をしております。4年目に入りますが、社員から受けたパワハラ、いじめ、暴言で悩まされてきました。もちろん何度も会社に何とかならないものか言って、いろいろ手を尽くしてきました。世の中ももっと苦しんでいる人たくさんいると言われたらそれまでですが、この話を聞いてくれるだけで私は救われます。もし一人一人が思いやりややさしさがあったならば、人に対してかける言葉も違ってくるはずです。この時代働く人を大切にできない会社もあること知りいただきたいです。

○フルタイムで子育て(8歳、4歳)をしています。長男のときは、ほぼ1人で子育て、家事をこなしました。次男が生まれてから、私が夜勤もあるため、主人が子育てに参加することが多くなりました。(参加しなくては2人を育てながら仕事を続けられなかった)母親の私は何年かたって子どものことで休みを取りやすい環境になりましたが、主人は子どものことでの有休等は言いにくいときがあるようです。まだ「子育て=母親」というのが社会にあって、両親2人で子どもは育てるものというのは広まっていないと時々感じます。

○結婚や出産で女性は苗字が変わったり、生活や仕事も大きく変化します。育児もとても大変で、身近に助けてくれる人がいないと、とてもやっていけません。一方で男性は変化が少なく、子育てもお手伝い程度の人が多いと思います。子どもが小さいときは働き盛りの年齢で仕方ない場合もありますし、昔と比べたら育児に関わる男性も増えています。もっともっと社会全体で育児をサポートしてもらえるサービス、母親が休めるような機会を増やしてもらえるとありがたいです。そして教育の場でも、男性が家事や育児にもっと関わるべきであることを教えていただきたいです。家事にも給料が出ればもっとがんばれます。やることが当たり前という風潮をなくしてほしいです。

○女性がもっと活躍できる社会を望む。夫婦が共に子育てに専念できる社会をつくる。

○女性がもっといろいろなことにチャレンジできる環境をつくっていただきたい。幅広い情報が必要である。市での広告やチラシより、相談窓口や施設を充実してほしい。生きた情報がほしい。

○アンケートに誠意回答したため、女性の社会進出に対する行動を積極的に行政の立場から進めてほしい。

○アンケートだけで終わらないよう行動を具体的に進め、報告して話し合ってほしい。

○議題がずれるが、少子化問題について強く思うことがある。国の政策が少子化を加速させる政策を推し進めているので、少子化になるのは当然のこと。なのに少子化が問題だというのはおかしい。子どもをたくさん産めば産むほど生活が豊かになる政策を行なうべきだと思う。日本にとって1番大きな問題だと思う。

※男女共同参画に関する意見を掲載しております。

III 資料（調査票）

1 あなたご自身のことについてお聞きします。

問1 あなたの性別についてお答えください。（1つに○）

1. 女性 2. 男性 3. その他

男女共同参画推進に関する市民アンケート調査

調査ご協力のお願い

市民の皆様には、日頃から住みよいまちづくりにご協力を賜り、お礼申し上げます。田原市では、「田原市男女共同参画推進プラン」（平成28年度策定）に基づき、市民すべてが男女共同参画の十分な理解と意識を持ち、性別に関する社会的な活動に意欲を持つて参加でき、男女がお互いに人権を尊重し、あらゆる社会的・経済的・文化的・環境的・地域的・組織的な事業・組織で、男女の権利を尊重し、自分らしく輝ける魅力的なまちとなることを目指し、様々な事業に取り組んでいます。つきましては、市民の皆様の考え方を調査し、効果的な事業推進のためにアンケートを実施することになりました。このアンケートは、無作為に抽出した市民1,000人に送付させていただきました。お忙しいところ誠に無記名でお手数ですが、調査にご協力いただきますようお願い申し上げます。なお、この調査は無記名でご回答いただき、調査結果は統計的に処理いたしますので、個別の回答等を公表してご迷惑をおかけすることはありません。

令和4年1月 田原市長 山下政良

◆ ご記入にあたってのお願い ◆

1. 当てはまる項目の番号を指定の数だけ○で囲んでください。
2. 質問によつては、回答していただく方が限られる場合がありますので、案内にそつてお答えください。
3. 記入後は、無記名のまま同封の返信用封筒に入れて、1月31日（月）までに郵便ポストへ投函して下さい（切手は不要です）。なお、調査票の集計は業者が行いますが、調査結果は行動計画に関する資料として使用し、他には転用いたしません。
4. このアンケートについてのお問合せは下記までお願いします。

田原市役所 企画部 企画課 TEL: 0531-23-3507
メール: kyoudou@city.tahara.aichi.jp

問2 あなたの年齢についてお答えください。（1つに○）

1. 20代 2. 30代 3. 40代 4. 50代 5. 60代以上

問3 職業についてお答えください。（1つに○）
(2つ以上仕事をお持ちの方は、主なもの1つお答えください。ここで働いている方は、週に1時間以上働いていることとします。出産休暇、育児休業中の人には働いているものとみなします。)

1. 自営業主（農林漁業、商工サービス業、自由業など）
2. 家族従業者（農林漁業、商工サービス業、自由業など）
3. 勤め人（管理職、専門技術職、事務職、労務職など）
※専門技術職 プログラマー、医師、教員、保育士など
4. 無職（事業主婦・主夫、学生、その他の無職など）

《問4は、問3で「3. 勤め人」と答えた方のみにお聞きします》

問4 その仕事は常勤（フルタイム）ですか、パートタイムですか。（1つに○）

1. 常勤（フルタイム）
2. パートタイム（パート、アルバイト、嘱託その他）
3. その他（ ）

問5 あなたは現在結婚していますか。（1つに○）

1. 結婚している、または結婚していないがパートナーと暮らしている
2. 結婚していない
3. 結婚していたが、離婚または死別した
4. その他（ ）

《問6、問7は、問5で「1・結婚している、または結婚していないがパートナーと暮らしている」と答えた方のみにお聞きします》

問6 あなたの配偶者またはパートナーの勤務形態についてお答えください。
(1つに○)

1. 自営業主 (農林漁業、商工サービス業、自由業)
2. 家族従業者 (農林漁業、商工サービス業、自由業)
3. 勤め人 (管理職、専門技術職、事務職、労務職)
※専門技術職 プログラマー、医師、教員、保育士など
4. 無職 (事業主婦・主夫、学生、その他の無職)

《問7は、問6で「3. 割め人」と答えた方のみお答えください》

問7 その仕事は常勤（フルタイム）ですか、パートタイムですか。
(1つに○)

1. 常勤（フルタイム）
2. パートタイム（パート、アルバイト、嘱託その他）
3. その他（ ）

問8 あなたの家族構成についてお答えください。
(1つに○)

1. 単身世帯（1人）
2. 夫婦のみ（1世代世帯）
3. 親と子（2世代世帯）
4. 親と子と孫（3世代世帯）
5. その他（ ）

問9 田原市に住んでから何年になりますか。
(1つに○)

1. 3年未満
2. 3～5年未満
3. 5～10年未満
4. 10～20年未満
5. 20年以上

2 男女平等についてお聞きします。

《全員の方にお聞きします》
問10 政府は、男女共同参画推進本部を設置し、男女共同参画社会※の実現を目指し、積極的に取組んでいることを以前から存知でしたか。
(1つに○)

1. 内容を含め詳しく知っていた
2. だいたい知っていた
3. 男女共同参画社会という言葉は聞いたことがあった
4. 知らなかった

※ **男女共同参画社会とは**
女性も男性も性別にとらわれることなく、社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、個性と能力を最大限発揮できる社会

《全員の方にお聞きします》
問11 あなたは、田原市において男女共同参画社会が必要な理由は何だと思いますか。
(2つまで○)

1. 男女の平等に基づく人権を確立するため
2. 政策・方針決定過程に、男女の意見を反映させ、民主主義の成熟を図るため
3. 男女とも、その能力と個性を十分に発揮し、多様な生き方を選択できるようになるため
4. 少子・高齢化の進展に伴い労働人口が減少する中で、多様な人材が求められ、女性の能力を十分に生かしていくことが必要になるため
5. 女性の地位と能力の向上のために、国連などが活動する世界的な取り組みに参画する必要があるため
6. その他（ ）
7. わからない
8. 必要でない

《全員の方にお聞きします》
問12 現在、田原市において、男女共同参画社会の実現が十分達成されていない主要因は何であるとお考えでしょうか。
(1つに○)

1. 家庭において家事・育児・介護などを女性の役割とする意識があること
2. 職場などにおいて、女性に不利な扱いがなされていること
3. 社会全般に男性優位の考え方や慣行が根強いこと
4. 家庭や地域社会より仕事を重視する意識が男性や女性にあること
5. 男女共同参画の考え方が市民に広く浸透していないこと
6. その他（ ）
7. わからない
8. 十分達成されている

《全員の方にお聞きします》
問13 社会全体で見た場合は、男女の地位は平等になつていると思ひますか。
(1つに○)

1. 男性の方が非常に優遇されている
2. どちらかといえば男性の方が優遇されている
3. 平等である
4. どちらかといえば女性の方が優遇されている
5. 女性の方が非常に優遇されている
6. わからない

《全員の方にお聞きします》
問14 次のような分野において、現在、男女は平等になつていると思ひますか。
(1から7までそれぞれ1つずつ○)

	①家庭生活の場で	②職場で	③地域活動の場で	④社会通念・慣習・しきたりなどで	⑤法律や制度上で	⑥政治の場で	⑦学校教育の場で
1. 男性の方が非常に優遇されている	1	2	3	4	5	6	
2. どちらかといえば女性の方が優遇されている		1	2	3	4	5	6
3. 平等である			1	2	3	4	5
4. どちらかといえば男性の方が優遇されている				1	2	3	4
5. 女性の方が非常に優遇されている					1	2	3
6. わからない						1	2

《全員の方にお聞きします》
問15 あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、どう思ひますか。
(1つに○)

1. 賛成
2. どちらかといえば賛成
3. どちらかといえば反対
4. 反対
5. わからない

問16 仕事と、家庭生活または地域活動について、人の生き方として、あなたが望ましいと思うのは、どのような生き方でしょうか。
(①男性の生き方②女性の生き方それぞれ1つに○)

①男性の生き方

1. 家庭生活または地域活動よりも、仕事に専念する
2. 家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる
3. 家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる
4. 仕事にも携わるが、家庭生活または、地域活動を優先させる
5. 仕事よりも、家庭生活または地域活動に専念する
6. わからない

②女性の生き方

1. 家庭生活または地域活動よりも、仕事に専念する
2. 家庭生活または地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる
3. 家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる
4. 仕事にも携わるが、家庭生活または、地域活動を優先させる
5. 仕事よりも、家庭生活または地域活動に専念する
6. わからない

《全員の方にお聞きします》
問17 あなたは、次にあげる男女共同参画社会に関する言葉を知っていますか。
(該当する項目すべてに○)

1. 男女共同参画社会基本法
2. 女子差別撤廃条約
3. ガジティブ・アクション（積極的改善措置）
4. ジェンダー（社会的性別）
5. 男女雇用機会均等法
6. 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律
7. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）
8. DV（配偶者からの暴力）
9. その他（具体的に： ）

3 結婚、家庭生活についてお聞きします。

《配偶者またはパートナーと暮らしている方にお聞きします》
問 18 あなたのご家庭での役割について、現状をお答えください。
(①から⑩でそれぞれ1つずつ○)

	すべて女性が担当	男女同じ程度	女性は手伝う程度	すべて男性が担当	女性は手伝う程度	男女同じ程度	すべて女性が担当	すべて男性が担当	女性は手伝う程度	すべて女性が担当	すべて男性が担当
①掃除	1	2	3	4	5	6					
②洗濯	1	2	3	4	5	6					
③食事のしくみ	1	2	3	4	5	6					
④食事の後片付け、食器洗い	1	2	3	4	5	6					
⑤ゴミ出し	1	2	3	4	5	6					
⑥近所づきあい	1	2	3	4	5	6					
⑦乳幼児の世話	1	2	3	4	5	6					
⑧子どもの教育	1	2	3	4	5	6					
⑨介護	1	2	3	4	5	6					
⑩家計の管理	1	2	3	4	5	6					

《全員の方にお聞きします》
問 19 あなたのご家庭での役割について、理想をお答えください。

(①から⑩でそれぞれ1つずつ○)

	すべて女性が担当	男女同じ程度	女性は手伝う程度	すべて男性が担当	女性は手伝う程度	男女同じ程度	すべて女性が担当	すべて男性が担当	女性は手伝う程度	すべて女性が担当	すべて男性が担当
①掃除	1	2	3	4	5	6					
②洗濯	1	2	3	4	5	6					
③食事のしくみ	1	2	3	4	5	6					
④食事の後片付け、食器洗い	1	2	3	4	5	6					
⑤ゴミ出し	1	2	3	4	5	6					
⑥近所づきあい	1	2	3	4	5	6					
⑦乳幼児の世話	1	2	3	4	5	6					
⑧子どもの教育	1	2	3	4	5	6					
⑨介護	1	2	3	4	5	6					
⑩家計の管理	1	2	3	4	5	6					

《全員の方にお聞きします》
問20 男性が家庭・育児・介護にたずさわるために、どのようにしたらよいと思いますか。
か。(2つまで○)

- 家庭で、家事・育児・介護の分担について十分話し合う
- 仕事と家庭の両立ができるように社会全体の仕組みを改める
- 勤務時間の短縮、労働時間の弾力化、育児・介護休暇の普及等を図る
- 家庭で子どもに、男女の区別なく家事・育児・介護にたずさわることの必要性を教える
- 学校で児童や生徒に、男女の区別なく家事・育児・介護にたずさわることの必要性を教える
- 男性への家事講座、情報提供、相談窓口など行政の支援施策を充実する
- その他（具体的に：
①から⑥でそれぞれ1つずつ○
⑦. その他（具体的に：
⑧. たずさわる必要はない、
⑨. たずさわる必要はある、
⑩. たずさわる必要はどちらともいえない、
⑪. たずさわる必要はどちらでもよい、
⑫. たずさわる必要はどちらでもよくない、
⑬. たずさわる必要はどちらでもよい、
⑭. たずさわる必要はどちらでもよい、
⑮. わからない）

《全員の方にお聞きします》

問21 結婚、家庭、離婚について、あなたの意見に最も近いものをお答え下さい。

(1)から(6)でそれぞれ1つずつ○

	賛成	いどちらばかと 反対	いどちらばかと 反対	反対
①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくともどちらでもよい	1	2	3	4 5
②女性の幸福は結婚にあるのだから、女性は結婚するほうがよい	1	2	3	4 5
③女性は結婚したら、自分自身のことよりもなど家族を中心と考えて生活した方がよい	1	2	3	4 5
④夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	1	2	3	4 5
⑤結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない	1	2	3	4 5
⑥結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい	1	2	3	4 5
⑦一般に、今社会では離婚すると女性の方が不利である	1	2	3	4 5

《全員の方にお聞きします》
問22 少子化が社会問題となっています。あなたが特に大きな要因と思うのはどれですか。
(3つまで○)

- 子育てや教育にかかる費用の経済的負担が大きいから
- 経済情勢のため安定した結婚生活を考えることができないから
- 子育てへの父親等の参加・協力が得られないから
- 仕事を持つ女性の仕事と子育ての両立が困難だから
- 育児などに対する職場の理解が得かたいから
- 育児に関する支援制度が充分でないから
- 結婚しない男女が増えたから
- 女性の結婚年齢が高くなつたから
- 出産や育児に耗し精神的・肉体的負担が大きいから
- 結婚や育児などに対する価値観が変わってきたから
- 少ない子どもに十分に手をかけて育てたいから
- 子育てが自分や夫婦の生き方の妨げとなるから
- 環境問題や社会保障など、将来に不安があるから
- その他（具体的に：
⑪. わからない）

4 子育て、子どもの教育についてお聞きします。

《全員の方にお聞きします》
問23 「男の子は男らしく、女の子は女らしく子どもを育てる」という考え方について、どのように思いますか。(1つに○)

- 男の子、女の子と区別せずに、同じように育てた方がよい、
2. 「男の子は男らしく、女の子は女らしく」育てた方がよい、
3. どちらともいえない

《子どもをお持ちの方にお聞きします》
問24 男女平等の意識を育てるために、学校教育ではどのように力を入れるべきだと思いますか。(3つまで○)

- 生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を活かせるように配慮する
- 教科書などの、固定化された男女の役割や特性についての記述をなくす
- 異性を思いやる気持ちの大切さを教える等の教育を充実させる
- 男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける
- 性に対する正しい知識や性的尊厳、母性保護の重要性についての学習を推進する
- 女性の権利や性的商品化について考える機会を設ける
- 教員や保護者に男女平等の研修を推進する
- 管理職（校長や教師）に女性を増やしていく
- 出産率の順番や持ち物の色など、男女を分ける慣習をなくす
- その他（
⑪. わからない）

5 働くことについてお聞きします。

《問25～27は女性の方にお聞きします》

問25 あなたの退職経験についてお答えください。（1つに○）

1. かつて働いていて退職の経験があり、現在は就業している ⇒問26、27へ
2. かつて働いていて退職し、現在無職 ⇒問26～28へ
3. 就業経験なし
4. 就業中で退職経験なし

《【問25】で「1. かつて働いていて退職の経験があり、現在は就業している」「2. かつて働いていて退職し、現在無職」と答えた方のみにお聞きします》

問26 かつて退職した理由をお聞かせください。（1つに○）

1. 結婚
2. 出産
3. 育児
4. 介護
5. それ以外の理由

問27 退職までの勤務年数をお聞かせください。（1つに○）

- | | | | |
|------------|------------|------------|-----------|
| 1. 1年以内 | 2. 2年～3年 | 3. 4年～5年 | 4. 6年～10年 |
| 5. 11年～15年 | 6. 16年～20年 | 7. 21年～25年 | 8. 26年以上 |

《【問25】で「2. かつて働いていて退職し、現在無職」「3. 就業経験なし」と答えた方のみにお聞きします》

問28 現在無職、または就業経験のない理由をお聞かせください。（1つに○）

- 働く意志はあるが、
1. 育児により働けない
2. 家事により働けない
3. 介護により働けない
4. 配偶者もしくはパートナー、家族が女性は家にいて家事をすることが良い
と思っているから
5. 働きたい職種での雇用がない
6. 職種を問わば雇用がない
7. それ以外の理由（ ）
働く意志がなく、その理由として
8. 女性は家にいて家事をすることが良いと思っている
9. それ以外の理由（ ）

《全員の方にお聞きします》

問29 女性が職業（農業・商業など家業を含む）をもつことについて、あなたはどうお考えですか。（1つに○）

1. 子どもができるても、ずっと職業を続ける方がよい、
2. 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい、
3. 子どもができるたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい、
4. 結婚するまでは職業をもつ方がよい、
5. 女性は職業をもたない方がよい、
6. その他（ ）
7. わからない（ ）

問30 同じ質問を、男性の場合についてもお伺いします。男性が職業（農業・商業など家業を含む）をもつことについて、あなたはどうお考えですか。（1つに○）

1. 子どもができるても、ずっと職業を続ける方がよい、
2. 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい、
3. 子どもができるたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい、
4. 結婚するまでは職業をもつ方がよい、
5. 女性は職業をもたない方がよい、
6. その他（ ）
7. わからない（ ）

《仕事をしている方全員にお聞きします》

問31 あなたが現在働いているのは、どのような理由からでしょうか。（主なもの1つに○）

1. 生計を立てるため
2. 家計の足しにするため
3. 自分で自由に使えるお金を得るために
4. 自分の能力・技能・資格を活かすため
5. その他（ ）
6. 特に理由はない
7. わからない（ ）

《仕事をしている方全員にお聞きします》

問32 あなたの今の職場では、仕事の内容や待遇面で、女性は男性に比べ不當に差別されていると思いますか。別にそのようなことはないと思いませんか。（1つに○）

1. 不當に差別されていると思う ⇒問33へ
2. そのようなことはないと思う ⇒問34へ
3. わからない ⇒問34へ

《問32で「1. 不当に差別されていると思う」と答えた方にお聞きします》

問33 それは具体的にどのようなことですか。（1つに○）

1. 賃金に差別がある
2. 異進、昇格に差別がある
3. 能力が本当に評価されない
4. 補助的な仕事しかやらせてもられない
5. 女性を幹部職員に登用しない
6. 結婚したり子どもが生まれたりすると勤め続けにくい雰囲気がある
7. 女性は定年まで勤め続けにくい雰囲気がある
8. 教育・訓練を受ける機会が少ない
9. その他（ ）
10. わからない、

《仕事をしている方にお聞きします》

問36 生活の中で仕事、家庭生活、地域・個人の生活で何を優先しますか。
(あなたの現在の状況に該当するもの1つに○)

1. 「仕事」を優先している
2. 「家庭生活」を優先している
3. 「地域・個人の生活」を優先している
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしている
8. わからない、

《全員の方にお聞きします》

問34 女性が安心して働ける環境をつくるために、どのようなことが必要だと思いますか。
(3つまで○)

1. 給料や仕事内容、昇進などの男女差を解消する
2. 職業（仕事）と家庭の両立に職場が理解し協力する
3. 夫や家族が理解し協力する
4. 育児・介護休業制度を定着させる
5. 夫の育児・介護休業を取りやすくする
6. 産前・産後・生理休暇などを取りやすくする
7. 育児・保育に対する支援や施設、サービスを充実させる
8. 介護・看護に対する支援や施設、サービスを充実させる
9. 女性労働者に対する相談窓口などを設置する
10. その他（ ）

《仕事をしている方にお聞きします》

問35 生活の中で仕事、家庭生活、地域・個人の生活で何を優先しますか。
(あなたの希望に該当するもの1つに○)

1. 「仕事」を優先したい、
2. 「家庭生活」を優先したい、
3. 「地域・個人の生活」を優先したい、
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい、
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい、
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい、
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の三つとも大切にしたい、
8. わからない、

《全員の方にお聞きします》

問37 あなたは、どのような地域活動に参加していますか。また、今後参加したいと思う
地域活動は何ですか。（それぞれ該当する項目すべてに○）

	る活動	現	活動	今	思
①自治会・町内会活動	1	2	3	思 い、特 に参 加し たいと 思 わな い	思 い、特 に参 加し したいと 思 わな い
②女性団体活動	1	2	3		
③PTA活動	1	2	3		
④子ども会・青少年活動	1	2	3		
⑤ボランティア活動などの社会貢献活動	1	2	3		
⑥その他					

《問 37で「特に参加していない、参加したいと思わない」をひとつでも選んだ方に
お聞きします》

問 38 地域活動に参加していない主な理由は何ですか。（3つまで○）

1. 子どもの世話や老人の介護
2. 仕事が忙しい
3. 家事が忙しい
4. 経済的に余裕がない
5. 配偶者や家族の理解がない
6. 必要な能力がない
7. 近所の人の目がある
8. 自分の性格に合わない
9. 活動する仲間がない
10. 活動する施設がない
11. 役員や世話人にさせられそだから
12. その他（ ）

《全員の方にお聞きします》

問 41 田原市では、法令・条例設置委員への女性の登用率が約25%と低いですが、それは
どのような理由からだと思しますか。（2つまで○）

1. 女性自身が社会進出に消極的だから
2. 女性の社会進出をよく思わない社会通念があるから
3. 女性の社会進出を支える条件整備が不十分だから
4. 家庭があるため女性は社会進出できない
5. 指導力など女性の能力が男性ほど高くないから
6. その他（ ）

《配問者またはパートナーと暮らしている方にお聞きします》

問 39 地域活動の中で、あなたのご家庭での男女の役割割分について、現状をお答えく
ださい。（①から⑥でそれぞれ1つず○）

			手当	主担当	相手担当	相手担当	主担当	手当	男女同じ程度	手当して男性は相手伝う程度	手当して女性は相手伝う程度	手当して女性が相手	手当して男性が相手	
①自治会・町内会活動	1	2	3	4	5	6								
②女性団体活動	1	2	3	4	5	6								
③PTA活動	1	2	3	4	5	6								
④子ども会・青少年活動	1	2	3	4	5	6								
⑤ボランティア活動などの 社会貢献活動	1	2	3	4	5	6								
⑥その他	1	2	3	4	5	6								

《全員の方にお聞きします》

問 40 女性が地域社会を代表する立場として、施策づくりに参画する場合、その割合についてどう思いますか。（地域社会を代表する立場の例としては、市議会議員、行政の委員、地域団体の代表者・役員等です。）（1つに○）

1. 半分は女性の代表者が占めるべきだと思う
2. 今よりも少し女性の代表者が増えると良い
3. 現状のままで良い
4. 女性の代表者は必要ない
5. わからない

《全員の方にお聞きします》

問 42 あなたのご家族には、介護を要する方がいますか。若しくはいましたか。

1. 以前はいた
2. いない
3. いない

《問 42で「1. いる」、「2. 以前はいた」と答えた方にお聞きします》

問 43 介護は主にどのような形で行っていますか。（1つに○）

1. 配偶者が世話をしている
2. 娘や娘などの家族の女性が世話をしている
3. 息子が世話をしている
4. 家族全員で世話をしている
5. 介護保険制度などのサービスを利用している
6. 介護保険施設（特別養護老人ホームなど）を利用している
7. その他（ ）
8. 該当する人がいない

《全員の方にお聞きします》

問 44 あなたは、将来、要介護者などの身のまわりの世話は、どのような形をとるのが最も望ましいと考えますか。（1つに○）

1. 配偶者が世話をする
2. 威や娘などの家族の女性が世話をする
3. 息子が世話をする
4. 家族全員で世話をする
5. 介護保険制度などのサービスを利用する
6. 介護保険施設（特別養護老人ホームなど）を利用する
7. その他（ ）

8 人権についてお聞きします。

《全員の方にお聞きします》

問 45 あなたは、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）」を知っていますか。（あではまるもの1つに○）

（この法律は、配偶者や恋人からの暴力（DV：ドメスティック・バイオレンス）に関する相談などの体制を整備することにより、配偶者等からの暴力を防止し、被害者の保護を図ることのものです。）

1. 法律があることでもその内容も知っている

2. 法律があることは知っているが、内容はよく知らない

3. 法律があることでもその内容も知らないかった

問 46 セクシュアル・ハラスメント※やドメスティック・バイオレンス※について、自分が経験したり、そのような話を聞いたことがありますか。（それぞれ1つずつ○）

セクシャル・ハラスメント	1	2	3	4	5
ドメスティック・バイオレンス	1	2	3	4	5

※ セクシュアル・ハラスメントとは

相手の意に反した性的な性質の言動で、身体への不必要な接触、性的関係の強要、性的なわざを流す、大衆の目に触れる場所へのわいせつな写真の掲示など、様々な態様のものが含まれます。

※ ドメスティック・バイオレンスとは

配偶者や恋人など親密な関係にある、又はあった者から振るわれる身体的・心理的暴力をさします。

問 47 これまでに配偶者やパートナー、恋人から「身体的暴力」「心理的攻撃」「性的強要」などどのび被害をいわゆる1つでも受けたことがありますか。

（あではまるもの1つに○）

◆ 身体的暴力…殴る、蹴る、髪を引つ張る、物を投げつける、凶器を身体に押し付ける等

◆ 心理的攻撃…大声で怒鳴る、無視する、生活費を渡さない、「能なし」などと言う、外出や交友関係を規制する等

◆ 性的強要…性行為を強要する、選好に協力しない、見たくないのにボルノ雑誌などを見せる等

1. 何度もあった

⇒問 48へ

2. 1、2度あった

⇒問 48へ

3. まったくない

⇒問 49へ

《前の質問で、該当のある方にお聞きします》

問 48 DV被害にあったとき、誰かに相談をしましたか。（あではまるものすべてに○）

1. 相談した →誰に相談しましたか。
〔 家族 友人・知人 行政機関 婦人相談所 民間の相談機関 その他（ ） 〕

2. 相談しなかった →相談しなかった理由はなぜですか。

- ①どこに相談したらよいのかわからなかつた
②恥ずかしくて誰にも言えなかつた
③相談してもむだだと思った
④自分さえがまんすれば、なんとかこのままやつていけると思った
⑤自分にも悪いところがあると思った
⑥相談するほどのことでもないと思った
⑦世間体が悪いから
⑧他人を巻き込みたくないから
⑨そのことについて思い出したくなかった
⑩自分が受けている行為がDVとは認識していないから
⑪相手の仕返しが怖かったから
⑫その他（ ）

問 49 男女間の暴力を防止するためにには、どのようなことが必要だと考えますか。（あではまるものすべてに○）

1. 家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う
2. 学校・大学で生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う
3. 地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う
4. メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う
5. 被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす
6. 被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係などに対し、研修や啓発を行なう
7. 暴力を振るつたことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う研修や啓発を行う
8. 加害者への罰則を強化する
9. 暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、コンピュータソフトなど）を取り締まる
10. その他（具体的に：
11. 特にない
）

9 男女共同参画の施策についてお聞きします。

《全員に方にお聞きします》

問 50 男女共同参画社会の推進のためには、どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（3つまで○）

1. 男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う
2. 女性を政策決定の場に積極的に登用する（仕組みをつくる）
3. 各種団体の女性のリーダーを養成する
4. 職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底を行う
5. 女性の就労の機会を増やしたり、女性の職業教育や職業訓練を充実する
6. 家庭の中での固定的役割分担の見直し（男性は仕事、女性は家事・育児）
7. 男性の家事、子育て、介護、地域活動への参加
8. 保育サービスの一層の充実（低年齢児保育、病児・病後児保育等）
9. 学童保育の充実
10. 高齢者や病人の施設・介護サービスの充実
11. 学校教育や社会教育・生涯学習の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する
12. 女性の生き方にに関する情報提供や交流・相談・教育の場となる施設を充実する
13. 各国の女性との交流や情報提供など、国際交流を推進する
14. 広報誌やパンフレットなどで、男女の平等と相互の理解や協力についてPRする
15. 社会における女性に対する差別や、女性や子どもに対する暴力について認識し、差別や暴力のない社会を推進する
16. その他（
17. 特にない、
18. わからない、

10 新型コロナウイルス感染症の影響についてお聞きします。

《全員に方にお聞きします》

問 51 新型コロナウイルス感染症を経験して、あなたは特にどのようなことを感じましたか。（6. 特に問題はなかった」を選択した場合を除き、回答チェックは3つまで。）

1. 心も体も疲れた
2. 収入や働くことが心配だった
3. 健康のことが心配だった（自ら、家族、知人も含む）
4. 家族や身近な人のことで困った
5. 学校・地域活動の再開の前途が立たず困った
6. 特に問題はなかった
7. その他

《配偶者またはパートナーと暮らしている方にお聞きします》

問 52 新型コロナウイルス感染症拡大前と比べて、パートナー間の家事・育児・介護の役割分担に変化はありましたか。（回答チェックは1つだけ。）

1. 夫の役割が増えた
2. 夫の役割がやや増えた
3. 夫婦ともに役割が増えた
4. 妻の役割がやや増えた
5. 妻の役割が増えた
6. 変化なし

《配偶者またはパートナーと暮らしている方にお聞きします》

問 53 新型コロナウイルス感染症拡大前と比べて家庭内の役割分担を今後、どうしていきたいですか。（回答チェックは1つだけ。）

1. 配偶者にもっと家庭内の役割を担ってほしい
2. 自分がもっと家庭内の役割を担いたい
3. 家庭内の役割分担を見直したくない
4. わからない

《配偶者またはパートナーと暮らしている方にお聞きします》

問 54 新型コロナウイルス感染症拡大前と比べて、家族、配偶者、パートナーとの関係に変化はありましたか。（回答チェックは1つだけ。）

1. とても良くなつた
2. どちらかといえば関係が良くなつた
3. どちらかといえば関係が悪くなつた
4. とても悪くなつた
5. 変わらない
6. その他

《全員にお聞きします》

問 55 新型コロナウィルス感染症拡大前に比べて、御自身の「仕事と生活のどちらを重視したいか」という意識に変化はありましたか。（回答チェックは1つだけ。）

1. 生活を重視するようになります
2. 変化はない
3. 仕事と重視するようになります
4. わからぬ

男女共同参画社会づくりについてのご意見、ご要望がございましたらご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。